

き こ ない ちよう
木古内町

へび ない い せき
蛇内2遺跡

— 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

き こ ない ちよう
木古内町

へび ない い せき
蛇内2遺跡

— 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺構調査



H-2



H-3 (右手前)・H-5 (左奥)



P-23



P-33



縄文時代前期・中期の土器



縄文時代後期の土器

例 言

1. 本書は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構による北海道新幹線建設事業工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成21・22年度に委託を受けて実施した、木古内町蛇内2遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 報告内容は、蛇内2遺跡の平成21年度調査範囲（10,430㎡）および平成22年度調査範囲（850㎡）、計11,280㎡の遺構と遺物である。
3. 調査は第1調査部第3調査課が担当した。
4. 本書は、立川トマス、菊池慈人、新家水奈、芝田直人、酒井秀治、佐藤和雄が執筆し、文末に執筆者を示した。編集は芝田が担当した。
5. 遺物の整理は土器を芝田、石器等を酒井が担当した。
6. 現地調査での写真撮影は各担当者が、室内での写真撮影・整理は菊池が担当した。
7. 放射性炭素年代測定については、株式会社加速器分析研究所に依頼した。
8. 調査報告終了後の出土遺物は、木古内町教育委員会で保管される予定である。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会、知内町郷土資料館、市立函館博物館、七飯町歴史館、大沼忠春、木元 豊、佐藤智雄、高橋和樹、高橋豊彦、時田太郎、西脇対名夫、福田裕二、森 靖裕、山田 央、横山英介（五十音順）

記号等の説明

1. 遺構の表記には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付けた。

H：住居跡 HF：住居にともなう焼土 HP：住居にともなう土坑・柱穴

P：土坑 SP：小土坑、F：焼土 S：集石 FC：剥片集中

2. 遺構図等の方位は真北を示す。遺構平面図の「+」は調査区または小調査区ラインの交点で、傍らの名称記号は右下の調査区を表す。また、「・」小数字とセクションレベルは標高（単位m）である。

3. 掲載した遺構・遺物の図は基本的に以下の縮尺に統一した。ただし、遺構位置図、地形図、遺物出土状況図などは任意の縮尺であるため、各図にはスケールを付けてある。

遺 構 1：40 復元土器 1：3 拓本土器 1：3 剥片石器 1：2

磨製石器 1：2 礫石器 1：3 土製品 1：2 石製品 1：2

4. 遺構の規模は、遺構に外接する直方体を設定して求めた（単位m）。

5. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字（I、II、III・・・）、遺構内の層序についてはアラビア数字（1、2、3・・・）を使用した。

6. 土層の色調は『新版標準土色帖29版』（小山・竹原2007）に準じた。

7. 火山灰は『北海道の火山灰』（北海道火山命名委員会1982）に準じ、以下の略号を用いた。

駒ヶ岳火山灰d層：K o - d 白頭山-苫小牧火山灰：B - T m

8. 遺物図右下の太ゴチックアラビア数字は掲載番号であり、これに後続する小文字アルファベット（a、b、c・・・）は同一個体を示す。

9. 復元土器の「⊕」は上面観を模式的に表したもので、十字の垂直線は下端が前面側-上端が裏面側を、十字の水平線は左端が左面側-右端が右面側を示す。「⊕」の直下の図は「⊕」に太線で示した弧の範囲の文様・器面調整を図化表現している。太線は転写範囲を表し、「⊕」の外側に太線がある場合は外面の情報、「⊕」の内側に太線がある場合は内面の情報を表現している。

10. 復元土器の断面図上方に「▼」「▽」が付されている場合、正面図に「▼」「▽」が付されている部位の断面を転写している。

11. 石器・土製品・石製品の大きさは、最大長・最大幅・最大厚（単位cm）で示した。破損しているものについては現存最大値を（ ）、不明なものは「-」で示した。

12. 石器の実測図中でたたき痕は「V-V」、すり痕は「└─┘」で範囲を示した。また、被熱部分およびアスファルト付着部分をドットのスクリーントーンで示した。

13. 文中において「北埋調報」としているものは、財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書の略である。

目 次

口 絵	
例 言	
記号等の説明	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
図版目次	

I 調査の概要

1 調査要項	1
2 調査にいたる経緯	1
3 調査の経過	3
4 本書の内容	3

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と環境	5
2 周辺の遺跡	5

III 調査の方法

1 調査範囲	7
2 土工	7
3 測量と記録	7
4 整理の方法	9
5 保管	14
6 遺跡の土層	15
7 遺物の分類	15

IV 遺構と遺構出土の遺物

1 概要	17
2 住居跡	17
3 土坑	56
4 焼土	121
5 集石	126
6 剥片集中	126
7 一括土器	130

V 包含層出土の遺物

1 土器	135
2 石器等	161

VI 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果	179
2 放射性炭素年代測定結果について	186

一覧表	
写真図版	
引用参考文献	
報告書抄録	

挿 図 目 次

I 調査の概要	
図 I - 1 遺跡周辺の地形と調査区	2
II 遺跡の位置と環境	
図 II - 1 遺跡の位置と周辺の遺跡	6
III 調査の方法	
図 III - 1 年度別調査範囲	8
図 III - 2 基本土層模式図	10
図 III - 3 土層柱状図	11
図 III - 4 低地部礫出土状況図	13
図 III - 5 低地部土層断面図	14
IV 遺構と遺構出土の遺物	
図 IV - 1 遺構位置図 (1) Q~X・17~23区	18
図 IV - 2 遺構位置図 (2)	19
図 IV - 3 H - 1 と出土遺物	21
図 IV - 4 H - 2 (1)	23
図 IV - 5 H - 2 (2)	24
図 IV - 6 H - 2 の出土遺物 (1)	26
図 IV - 7 H - 2 の出土遺物 (2)	27
図 IV - 8 H - 3 (1)	29
図 IV - 9 H - 3 (2)	30
図 IV - 10 H - 3 の出土遺物 (1)	31
図 IV - 11 H - 3 の出土遺物 (2)	32
図 IV - 12 H - 4 と出土遺物	34
図 IV - 13 H - 5 (1)	35
図 IV - 14 H - 5 (2) と出土遺物	36
図 IV - 15 H - 6 と出土遺物	38
図 IV - 16 H - 7 と出土遺物	39
図 IV - 17 H - 8	41
図 IV - 18 H - 9 (1)	42
図 IV - 19 H - 9 (2) と出土遺物	43
図 IV - 20 H - 10 と出土遺物	45
図 IV - 21 H - 11 (1)	46
図 IV - 22 H - 11 (2)	47
図 IV - 23 H - 11 の出土遺物 (1)	48
図 IV - 24 H - 11 の出土遺物 (2)	49
図 IV - 25 H - 12 と出土遺物	51
図 IV - 26 H - 13 と出土遺物	52
図 IV - 27 H - 14	54
図 IV - 28 H - 15 と出土遺物	55
図 IV - 29 P - 1 ~ 3 と出土遺物	57
図 IV - 30 P - 4 ~ 7 と出土遺物	58
図 IV - 31 P - 8 ・ 9 と出土遺物	60
図 IV - 32 P - 10~12 と出土遺物	61
図 IV - 33 P - 13~16 と出土遺物	63
図 IV - 34 P - 17~19 ・ 31 と出土遺物	64
図 IV - 35 P - 20~22	66
図 IV - 36 P - 23	67
図 IV - 37 P - 23 の出土遺物 (1)	69
図 IV - 38 P - 23 の出土遺物 (2)	70
図 IV - 39 P - 23 の出土遺物 (3)	71
図 IV - 40 P - 24 ・ 25 と出土遺物	73
図 IV - 41 P - 26 ・ 27 と出土遺物	74
図 IV - 42 P - 27 の出土遺物	75
図 IV - 43 P - 28~30 ・ 32 と出土遺物	77
図 IV - 44 P - 33 (1)	78
図 IV - 45 P - 33 (2) と出土遺物 (1)	79
図 IV - 46 P - 33 の出土遺物 (2)	80
図 IV - 47 P - 34~37	82
図 IV - 48 P - 38	83
図 IV - 49 P - 38 の出土遺物	84
図 IV - 50 P - 39 ・ 40 と出土遺物	86
図 IV - 51 P - 41 と出土遺物	87
図 IV - 52 P - 42~45	88
図 IV - 53 P - 46 と出土遺物	90
図 IV - 54 P - 47~49 と出土遺物	92
図 IV - 55 P - 50 と出土遺物	93
図 IV - 56 P - 51~54 と出土遺物	95
図 IV - 57 P - 55~60	97
図 IV - 58 P - 61~65	98
図 IV - 59 P - 66~70	99
図 IV - 60 P - 71	101
図 IV - 61 P - 71 の出土遺物	102
図 IV - 62 P - 72~74 と出土遺物	104
図 IV - 63 P - 75~77 ・ 80	105
図 IV - 64 P - 78 ・ 82 と出土遺物	107
図 IV - 65 P - 79 ・ 81 と出土遺物	108
図 IV - 66 P - 83~86 と出土遺物	110
図 IV - 67 P - 87~90 と出土遺物	111
図 IV - 68 P - 91 ・ 92 と出土遺物	113
図 IV - 69 P - 93 と出土遺物	114

図Ⅳ-70	P-94	116
図Ⅳ-71	P-94の出土遺物(1)	117
図Ⅳ-72	P-94の出土遺物(2)	118
図Ⅳ-73	P-95・96と出土遺物	120
図Ⅳ-74	F-1~3	121
図Ⅳ-75	F-7~11	122
図Ⅳ-76	F-12~17	125
図Ⅳ-77	S-2・FC-1~3と出土遺物	127
図Ⅳ-78	FC-4~7・9・10と出土遺物	129
図Ⅳ-79	一括土器1・2	131
図Ⅳ-80	一括土器3・5・6	132
図Ⅳ-81	一括土器5・6の出土遺物	133
V 包含層出土の遺物		
図Ⅴ-1-1	包含層出土のⅠ群b-3類土器	136
図Ⅴ-1-2	包含層出土のⅠ群b-4類土器	137
図Ⅴ-1-3	包含層出土のⅡ群a類土器(1)	139
図Ⅴ-1-4	包含層出土のⅡ群a類土器(2)	140
図Ⅴ-1-5	包含層出土のⅡ群b類土器(1)	142
図Ⅴ-1-6	包含層出土のⅡ群b類土器(2)	143
図Ⅴ-1-7	包含層出土のⅡ群b類土器(3)	144
図Ⅴ-1-8	包含層出土のⅢ群a類・ Ⅲ群b-3類土器	146
図Ⅴ-1-9	包含層出土のⅣ群a類土器(1)	150
図Ⅴ-1-10	包含層出土のⅣ群a類土器(2)	151
図Ⅴ-1-11	包含層出土のⅣ群a類土器(3)	152
図Ⅴ-1-12	包含層出土のⅣ群a類土器(4)	153
図Ⅴ-1-13	包含層出土のⅣ群a類土器(5)	154
図Ⅴ-1-14	包含層出土のⅣ群a類土器(6)	155
図Ⅴ-1-15	包含層出土のⅣ群a類土器(7)	156
図Ⅴ-1-16	包含層出土のⅤ群c類土器	157
図Ⅴ-1-17	包含層出土土器の分布(1)	158
図Ⅴ-1-18	包含層出土土器の分布(2)	159
図Ⅴ-1-19	包含層出土土器の分布(3)	160
図Ⅴ-2-1	包含層出土の石器(1)	162
図Ⅴ-2-2	包含層出土の石器(2)	163
図Ⅴ-2-3	包含層出土の石器(3)	165
図Ⅴ-2-4	包含層出土の石器(4)	167
図Ⅴ-2-5	包含層出土の石器(5)	168
図Ⅴ-2-6	包含層出土の石器(6)	169
図Ⅴ-2-7	包含層出土の土製品・石製品	171
図Ⅴ-2-8	包含層出土石器等の分布(1)	172
図Ⅴ-2-9	包含層出土石器等の分布(2)	173

図Ⅴ-2-10	包含層出土石器等の分布(3)	174
図Ⅴ-2-11	包含層出土石器等の分布(4)	175
図Ⅴ-2-12	包含層出土石器等の分布(5)	176
図Ⅴ-2-13	包含層出土石器等の分布(6)	177
図Ⅴ-2-14	包含層出土石器等の分布(7)	178

表 目 次

I 調査の概要

表Ⅰ-1	年度別検出遺構数一覧	4
表Ⅰ-2	出土土器点数一覧	4
表Ⅰ-3	出土石器等点数一覧	4

II 遺跡の位置と環境

表Ⅱ-1	周辺の遺跡一覧	5
------	---------	---

VI 自然科学的分析

表Ⅵ-1	放射性炭素年代測定試料一覧	179
------	---------------	-----

一覧表

表1	検出遺構規模一覧	187
表2	遺構出土遺物一覧	190
表3	遺構出土土器一覧	197
表4	遺構出土石器等一覧	198
表5	遺構出土掲載土器一覧	200
表6	遺構出土掲載石器等一覧	203
表7-1	包含層出土掲載土器一覧 Ⅰ群b-3類	205
表7-2	包含層出土掲載土器一覧 Ⅰ群b-4類	205
表7-3	包含層出土掲載土器一覧 Ⅱ群a類	206
表7-4	包含層出土掲載土器一覧 Ⅱ群b類	207
表7-5	包含層出土掲載土器一覧 Ⅲ群a類	207
表7-6	包含層出土掲載土器一覧 Ⅲ群b-3類	208
表7-7	包含層出土掲載土器一覧 Ⅳ群a類	208
表7-8	包含層出土掲載土器一覧 Ⅴ群c類	210
表8	包含層出土掲載石器等一覧	211
表9	土壌フローテーション成果一覧	212

図 版 目 次

- | | | | |
|------|------------------------------|------|----------------|
| 図版 1 | 調査状況 (1) | 図版37 | 遺構の拓本土器 (5) |
| 図版 2 | 調査状況 (2) | 図版38 | 遺構の拓本土器 (6) |
| 図版 3 | 住居跡 (1) | 図版39 | 遺構の拓本土器 (7) |
| 図版 4 | 住居跡 (2) | 図版40 | 遺構の拓本土器 (8) |
| 図版 5 | 住居跡 (3) | 図版41 | 遺構の拓本土器 (9) |
| 図版 6 | 住居跡 (4) | 図版42 | 遺構の拓本土器 (10) |
| 図版 7 | 住居跡 (5) | 図版43 | 包含層の拓本土器 (1) |
| 図版 8 | 住居跡 (6) | 図版44 | 包含層の拓本土器 (2) |
| 図版 9 | 住居跡 (7) | 図版45 | 包含層の拓本土器 (3) |
| 図版10 | 住居跡 (8) | 図版46 | 包含層の拓本土器 (4) |
| 図版11 | 住居跡 (9) | 図版47 | 包含層の拓本土器 (5) |
| 図版12 | 住居跡 (10) | 図版48 | 包含層の拓本土器 (6) |
| 図版13 | 住居跡 (11) | 図版49 | 包含層の拓本土器 (7) |
| 図版14 | 住居跡 (12) | 図版50 | 包含層の拓本土器 (8) |
| 図版15 | 住居跡 (13) | 図版51 | 包含層の拓本土器 (9) |
| 図版16 | 土坑 (1) | 図版52 | 包含層の拓本土器 (10) |
| 図版17 | 土坑 (2) | 図版53 | 包含層の拓本土器 (11) |
| 図版18 | 土坑 (3) | 図版54 | 包含層の拓本土器 (12) |
| 図版19 | 土坑 (4) | 図版55 | 包含層の拓本土器 (13) |
| 図版20 | 土坑 (5) | 図版56 | 遺構の石器 (1) |
| 図版21 | 土坑 (6) | 図版57 | 遺構の石器 (2) |
| 図版22 | その他の遺構 (1) | 図版58 | 遺構の石器 (3) |
| 図版23 | その他の遺構 (2) | 図版59 | 遺構の石器 (4) |
| 図版24 | 包含層遺物出土状況 | 図版60 | 遺構の石器 (5) |
| 図版25 | 遺構の復元土器 (1) | 図版61 | 包含層の石器 (1) |
| 図版26 | 遺構の復元土器 (2) | 図版62 | 包含層の石器 (2) |
| 図版27 | 遺構の復元土器 (3) | 図版63 | 包含層の石器 (3) |
| 図版28 | 遺構の復元土器 (4) | 図版64 | 包含層の土製品・石製品 |
| 図版29 | 遺構の復元土器 (5)・包含層の復元土器 (1) | | |
| 図版30 | 包含層の復元土器 (2) | | |
| 図版31 | 包含層の復元土器 (3) | | |
| 図版32 | 包含層の復元土器 (4) | | |
| 図版33 | 包含層の復元土器 (5)・遺構の拓本土器 (1) | | |
| 図版34 | 遺構の拓本土器 (2) | | |
| 図版35 | 遺構の拓本土器 (3) | | |
| 図版36 | 遺構の拓本土器 (4) | | |

I 調査の概要

1 調査要項

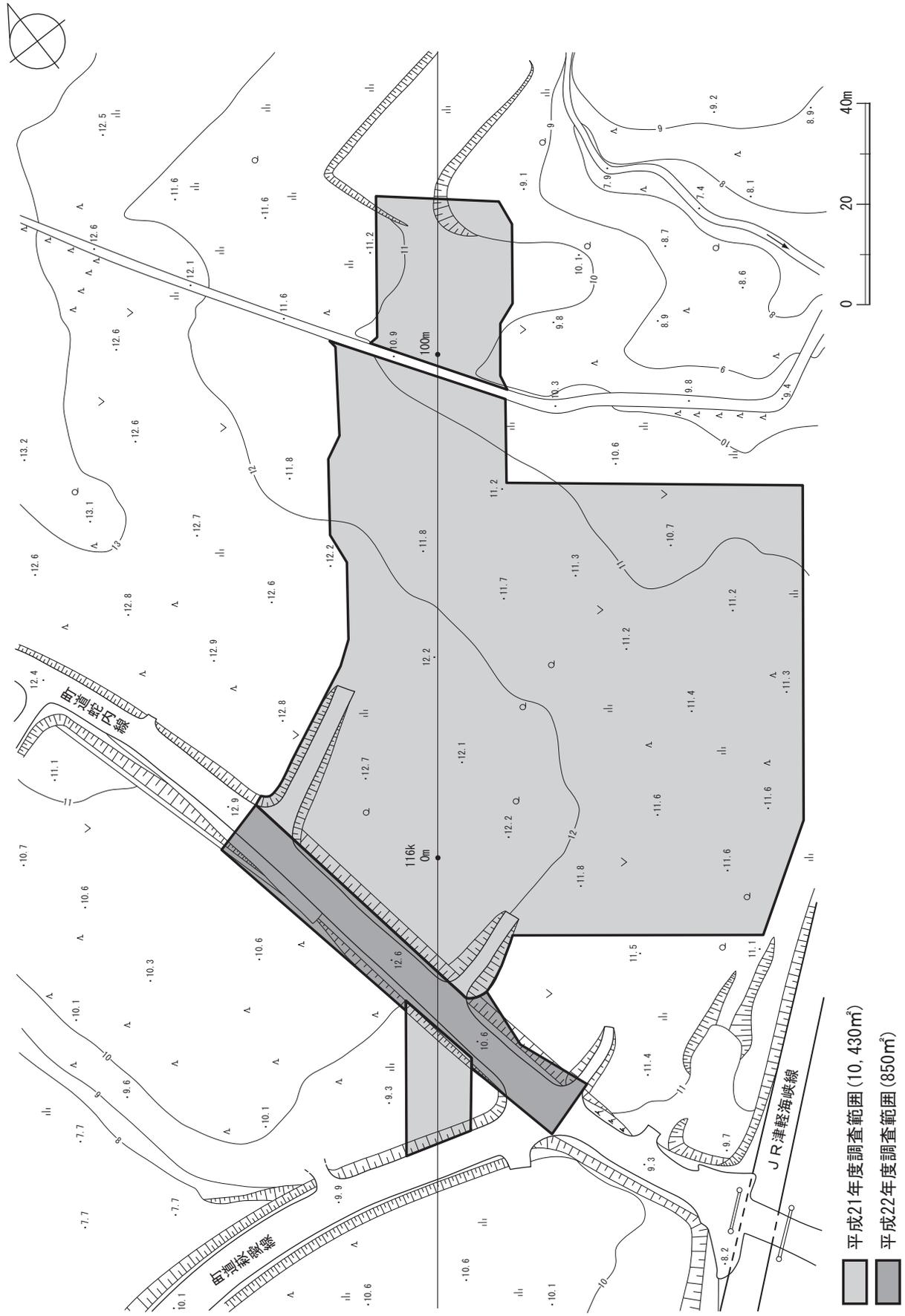
- 事業名 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査
- 事業委託者 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- 事業受託者 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
- 遺跡名 蛇内 2 遺跡（北海道教育委員会登録番号：B-05-19）
- 所在地 平成21年度：上磯郡木古内町字札苅508～511・520～526・530
平成22年度：上磯郡木古内町字札苅509・510・513・518・521
- 調査期間 平成21年 4 月 1 日～平成22年 3 月31日（発掘期間：平成21年 5 月 7 日～10月31日）
平成22年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日（発掘期間：平成22年 5 月 6 日～7 月 2 日）
- 調査面積 平成21年度：10,430㎡
平成22年度：850㎡
- 調査整理体制 （平成21年度）
- 第 1 調査部 部長 越田賢一郎
 - 第 1 調査部第 3 調査課 課長 鈴木 信
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主査 立川トマス（発掘担当者）
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主査 菊池慈人
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主査 新家水奈
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主任 芝田直人
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主任 酒井秀治
- （平成22年度）
- 第 1 調査部 部長 千葉英一
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主査 芝田直人（発掘担当者）
 - 第 1 調査部第 3 調査課 主任 佐藤和雄

2 調査にいたる経緯

「北海道新幹線」事業は、全国新幹線鉄道整備法（昭和45年法律第71号）に基づき、整備計画が定められている。平成10年 1 月には、政府・与党整備新幹線検討委員会において、新規着工区間として 3 線 3 区間の着工が認められ、平成12年12月の同委員会では、すでに着工している区間と新たに着工する区間とを併せて、平成13年から 3 線 6 区間として整備を推進することとなった。平成17年 4 月27 日、北海道新幹線・新青森－新函館間の工事実施計画認可が国土交通省から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備機構（以下、「鉄建機構」という）へ交付された。

鉄建機構は、北海道教育委員会（以下、「道教委」という）に北海道新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。それを受けて道教委は路線内および付帯施設建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施し、木古内町内では蛇内 2 ほか 5 遺跡について、工事計画の変更が不可能な場合は発掘調査が必要とされた。

以上の経緯から、平成21年 2 月に財団法人北海道埋蔵文化財センター（以下、「センター」という）に道教委から蛇内 2 遺跡の発掘調査の指示があった。同年 3 月にセンターは調査計画を立案し、平成



図I-1 遺跡周辺の地形と調査区

21年度に発掘調査・整理作業を行った。また、平成22年3月には、センターに道教委から新幹線本線と交差する町道蛇内線の改良工事に関わる部分の調査の指示があり、平成22年度に発掘調査・整理作業を行った。

3 調査の経過

(1) 発掘経過

(平成21年度)

5月7日～15日：重機による表土除去、基準杭・方格杭打設

5月15日：遺構・遺物の濃淡を把握するため、調査範囲全体に対して25%調査を開始

5月22日：25%調査の結果を基に、調査を開始

10月29日：調査終了。時代時期は縄文時代早期後半、同前期前半・後半、同中期前半・後半、同後期前葉、同晩期後葉に属する。遺構は、住居跡8軒、土坑90基、焼土14か所、集石1か所、一括土器5か所、剥片集中9か所が検出された。遺物は、土器23,863点、石器等90,659点が出土した。

(平成22年度)

5月6日～11日：重機による町道のアスファルト剥ぎ、U字溝・土管等の撤去、表土除去

5月14日：基準杭・方格杭打設

5月17日：調査を開始

7月2日：調査終了。時代時期は、縄文時代早期後半、同前期後半、同後期前葉に属する。遺構は、住居跡7軒、土坑6基が検出された。遺物は、土器9,025点、石器等2,625点が出土した。

(2) 整理経過

平成21年度：11月4日から整理作業開始。遺物注記、破片接合、遺構素図作成、写真整理、放射性炭素年代測定依頼。

平成22年度：4月1日から実測・墨入れ、写真撮影、図版作成、放射性炭素年代測定依頼。

4 本書の内容

本書では、木古内町蛇内2遺跡の平成21・22年度調査範囲の報告を行う。I章では、調査に至る経緯とこれまでの調査の経過について説明する。II章では、遺跡の位置と環境について触れる。III章では、調査の工程、調査方法と遺物や図面・写真などの記録類の取扱いについて説明する。IV章では遺構と遺構出土の遺物を、V章では包含層出土の遺物の報告を行う。VI章では、自然科学的分析の報告を掲載する。写真図版では、現地調査状況や土層・各遺構の状況、出土遺物を掲載する。(立川)

表 I - 1 年度別検出遺構数一覧

調査年度	調査面積 (㎡)	遺 構					
		住居跡 (H)	土坑 (P)	焼土 (F)	集石 (S)	剥片集中 (FC)	一括土器
平成21年度	10,430	8	90	14	1	9	5
平成22年度	850	7	6				
計	11,280	15	96	14	1	9	5

表 I - 2 出土土器点数一覧

	I群b-3類	I群b-4類	II群a類	II群b類	III群a類	III群b-3類	IV群a類	V群c類	計
遺構	62	4	488	1,968		281	1,700		4,503
包含層	513	1,468	5,013	6,534	28	1,297	13,457	75	28,385
計	575	1,472	5,501	8,502	28	1,578	15,157	75	32,888

表 I - 3 出土石器等点数一覧

	分 類																				総 計					
	石 鏃	石 錐	石 槍・ナイフ	つまみ付きナイフ	篋状石器	両面調整石器	スクレイパー	石 核	R 剥片	U 剥片	剥 片	石 斧	石のみ	擦り切り残片	たたき石	台 石	扁平打製石器	石 鋸	砥 石	すり石		石皿	石 錘	加工痕ある礫	礫・礫片	土製品・石製品
遺 構	13	3	11	8	6	0	55	7	15	22	5,713	26	1	0	36	17	1	0	54	11	3	1	1	1,318	3	7,325
包含層	121	47	131	295	43	45	472	104	227	630	34,001	50	2	1	240	15	21	5	75	71	4	23	27	49,294	15	85,959
計	134	50	142	303	49	45	527	111	242	652	39,714	76	3	1	276	32	22	5	129	82	7	24	28	50,612	18	93,284

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と環境

蛇内 2 遺跡のある木古内町は、渡島半島の南西部に位置し、北斗市・上ノ国町・知内町・厚沢部町と町界を接している。面積の大部分が森林地帯である。

遺跡は J R 木古内駅から北東約 2.8km に所在する。蛇内川左岸の標高 10～12m の河岸段丘上に立地する。蛇内 2 遺跡は『埋蔵文化財包蔵一覧（全道編）』北海道教育委員会（昭和 53 年 3 月発行）・『全国遺跡地図 北海道Ⅲ』文化庁（昭和 54 年 3 月発行）に掲載されており、昭和 54 年には北海道教育委員会が一般分布調査を行っている。

2 周辺の遺跡

木古内町の遺跡は海岸線に沿った段丘上に集中することが知られている。現在、木古内町内で周知されている遺跡は 50 か所である。

蛇内 2 遺跡周辺では南側に蛇内遺跡、木古内遺跡、木古内 2 遺跡、大平遺跡、大平 2～4 遺跡、北側に蛇内 3 遺跡、札苺遺跡、札苺 2～6 遺跡が分布している。（佐藤）

表Ⅱ－1 周辺の遺跡一覧

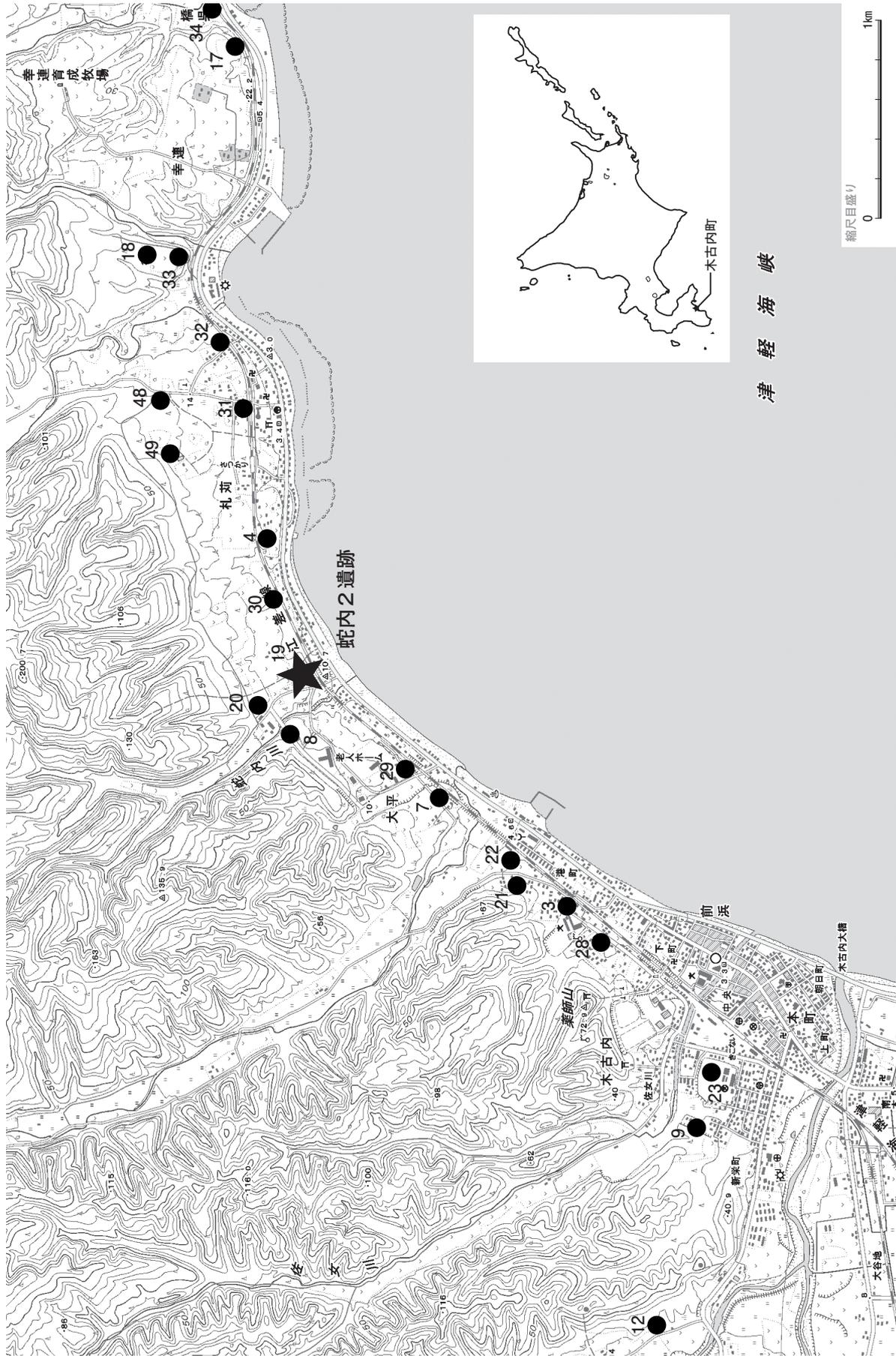
掲載番号	遺跡名	種別	時期	調査歴	文献
B-05-03	木古内遺跡	集落跡	縄文(前期・中期)・擦文	2010・2011 道埋文	
B-05-04	札苺遺跡	集落跡・墳墓	縄文(早期～晩期)	1971～1973 記念館 1973 町教委 1983 道埋文	1・3・4
B-05-07	大平遺跡	集落跡・盛土	縄文(前期・中期・晩期)・擦文	2009～2011 道埋文	6
B-05-08	蛇内遺跡	集落跡	縄文(前期～後期)	2000 町教委	2
B-05-09	新栄町遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-12	中野A遺跡	遺物包含地	縄文		
B-05-17	橋呉遺跡	遺物包含地	縄文・続縄文(前半期)		
B-05-18	幸連遺跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)		
B-05-19	蛇内2遺跡	集落跡・土坑	縄文(早期～晩期)	2009・2010 道埋文	本書
B-05-20	蛇内3遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-21	大平2遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-22	大平3遺跡	遺物包含地	縄文(中期)		
B-05-23	高校高台遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)		
B-05-28	木古内2遺跡	遺物包含地	縄文(前期)	2010・2011 道埋文	5
B-05-29	大平4遺跡	集落跡・墳墓	縄文(早期・前期・晩期)	2009・2010 道埋文	6
B-05-30	札苺2遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-31	札苺3遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-32	札苺4遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-33	幸連2遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-34	橋呉2遺跡	遺物包含地	不明		
B-05-48	札苺5遺跡	遺物包含地	縄文(早期・後期)	2011 道埋文	
B-05-49	札苺6遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	2011 道埋文	

※掲載番号末尾の数字は図Ⅱ－1の数字と一致する(北海道教育委員会掲載番号)。

※調査歴の「町教委」は木古内町教育委員会、「記念館」は北海道開拓記念館、「道埋文」は(財)北海道埋蔵文化財センターの略称である。

※文献番号は以下の報告書に対応する。

- 1 木古内町教育委員会 1974 『札苺遺跡』
- 2 木古内町教育委員会 2004 『蛇内遺跡』
- 3 北海道開拓記念館 1976 『札苺』
- 4 (財)北海道埋蔵文化財センター 1986 『木古内町札苺遺跡』 北埋調報34
- 5 (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町木古内2遺跡』 北埋調報278
- 6 (財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町大平遺跡・大平4遺跡』 北埋調報280



図II-1 遺跡の位置と周辺の遺跡

国土地理院刊行の数値地図25000(地図画像)
 『木古内』を加工して使用(平成18年発行)

Ⅲ 調査の方法

1 調査範囲

(1) 調査区の設定と座標値

調査区設定の際には、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局の「北海道新幹線用地実測図原図（新青森起点115k200m～116k100m付近）500分の1図」を使用している。

まず、計画路線の中央線上の115k900m～116k100mが直線区間であることから、この2点を結んだ線を基軸のJラインとした。さらに、調査範囲全体が入るように基軸に対して平行・直交する方格を組み、方格設定の原点として116k000m（調査方格名称J20）・116k100m（調査方格名称J40）を選定した（図Ⅲ-1）。

方格の間隔は5mとした。方格を区画する線には、アルファベット（北東-南西方向）とアラビア数字（北西-南東方向）を与え、調査区（グリッド）の呼称は、方格の西角で交差する2つの線名を合わせて読む（例：Q25、S30）。さらに、5m方格を2.5m四方に分割して、反時計回りに西角からa・b・c・dと呼ぶ小調査区（小グリッド）を設置し、調査の便宜を図った。

この方眼の平面直角座標は第X I系で、以下のとおりである。

116k000m（調査方格名称J20） X = -255,803.029 Y = 17,041.653

116k100m（調査方格名称J40） X = -255,726.255 Y = 17,105.729

この平面直角座標は「世界測地系」に基いた「測地成果2000」の座標である。 （芝田）

2 土工

(1) 掘削

掘削作業には主に移植ゴテ、ねじり鎌を使用した。遺構・遺物の検出状況に応じて、竹べら・竹串を使用して遺構・遺物を傷つけないように配慮して掘削した。精査・清掃の際には炉箒、ブラシ、エアブラシ等を併用した。移植ゴテでは掘ることが困難な場所や、遺構・遺物の見られない範囲、攪乱等ではスコップを併用した。

遺構は降雨による流水や乾燥により崩壊しやすいため、ジョウロや噴霧器で適度に散水し、コンパネやブルーシートをかけるなどして、乾燥や降雨対策をとり調査を進めた。また、黒色腐植土は水分を含むと滑りやすくなるため、排土場に至る道や通路に歩み板や麻袋を敷いて転倒防止に努めた。

(2) 埋め戻し

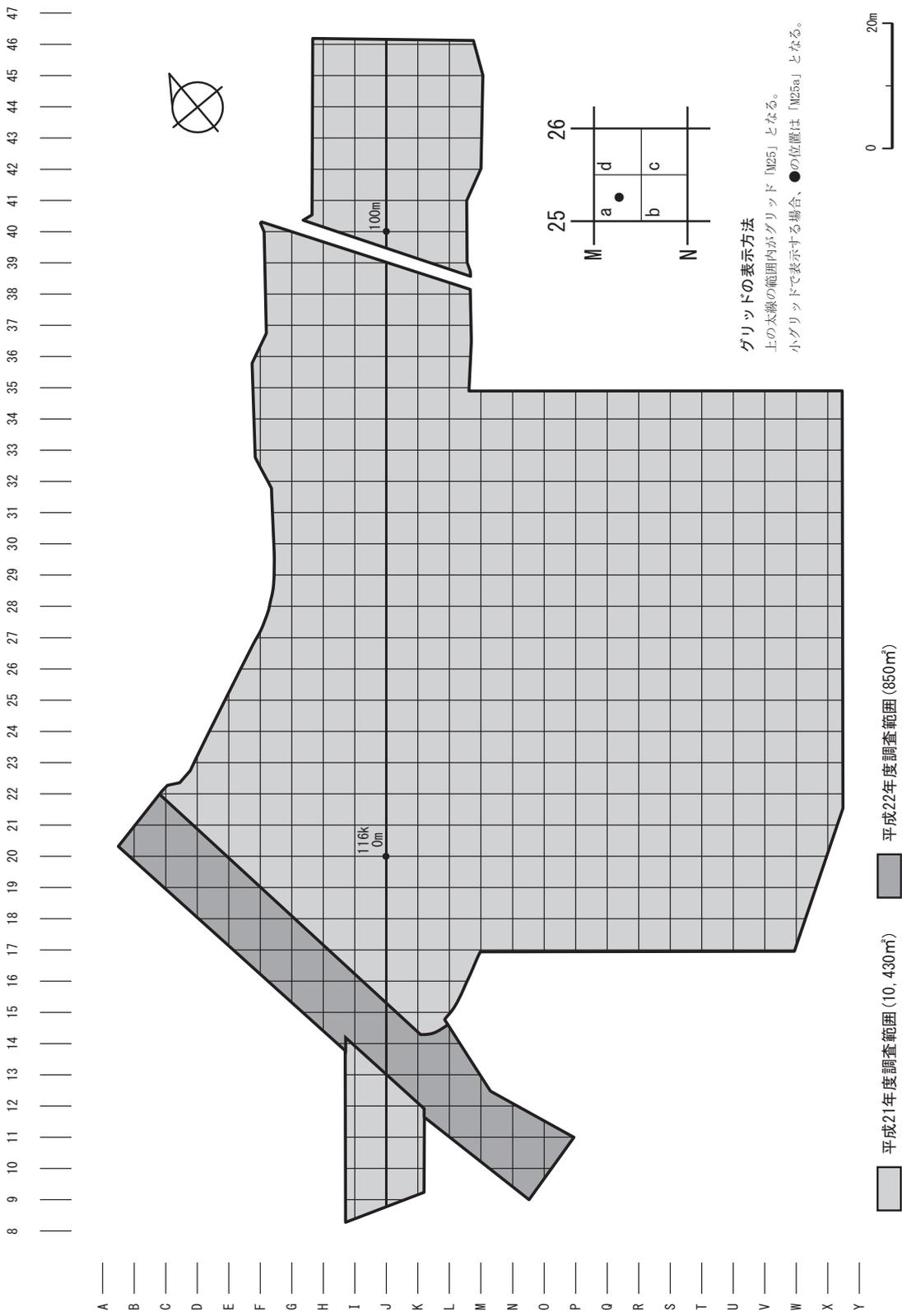
平成21年度、平成22年度ともに調査終了後、重機により埋め戻しを行った。

3 測量と記録

(1) 測量・図化

5m×5m方眼の交点に打設した方格杭を平面測量の基準とした。20mごとに打設した基準杭にはそれぞれの杭に打たれた釘の標高を記入し、この標高を水準測量の基準とした。水準測量には、オートレベルと1mm目盛のアルミ製スタッフを用いて、基準杭の標高と測量対象の比高を直接観察した。平面測量は、測量杭を基準として手測りによって行った。

遺構・遺物の出土状況等の実測図はB3版セクションフィルムに、基本的には1/20縮尺で記録し



図Ⅲ-1 年度別調査範囲

た。大型の竪穴住居跡は1/40縮尺、遺物出土状況等の詳細図については1/10の縮尺を用い、図版にはそれぞれスケールを付した。(立川)

(2) 現場での撮影

a 撮影方法

発掘現場での撮影は主として6×7判カメラを使用し、補助として35mm判カメラを使用した。また、被写体によっては4×5判カメラでの撮影も行った。写真整理用にデジタルカメラを使用した。基本的にモノクロ、カラーリバーサルとも2コマを同露出で撮影し、1セットとした。撮影の際は撮影方向、出土位置など出来るだけ多くの情報を入れることに留意した。

b 撮影機材

撮影機材・フィルムは下記を使用した。

カメラ：ニコンF3、Mamiya RZ67PRO II、WISTA45

フィルム：コダックT-Max100、フジフィルムネオパン100ACROS、フジフィルムPROVIA100F、クイックロード(4×5判カメラ)

c 撮影データ

発掘現場での撮影データ(カットNo、撮影日、被写体、出土位置・層位、撮影方向、フィルム種類)を野帳に記入し、デジタルカメラの画像と照合して写真台帳を作成した。(菊池)

4 整理の方法

(1) 一次整理作業

遺跡内より出土した土器・石器等は、野外作業と並行して現地で水洗・乾燥・分類・遺物カードの添付・遺物台帳の作成・注記作業を行った。水洗はボンドブラシや歯ブラシなどを使用して、遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は新聞紙等を敷いた乾燥かごに遺物を入れて、遺物乾燥専用の室内で行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。水洗・乾燥の終了した遺物は、収集の単位ごとに分類して遺物名と点数を決定し、それぞれに遺物番号を与えた後に、遺物台帳に登録した。

遺物台帳は、土器・土製品と石器等とに分けて作成している。B5判の様式を印刷して手作業で記入し、遺構・グリッド別に全遺物を登録した台帳を作成した。台帳には出土遺構またはグリッド名のほか、遺物番号・取上日・層位・遺物名・分類・材質(石器等の場合)・点数その他を記入した。台帳登録の終わった遺物は、台帳と同一の内容を記入した遺物カードとともに遺物番号ごとにチャック付ポリ袋に納めた。遺物カードは土器等と石器等で色を分け、土器は「灰色」、石器等は「黄色」とした。

注記は手書きによって行った。注記対象は、土器片が微細なものを除く大多数、石器等が自然礫を除く狭義の石器である。注記できなかった遺物は、遺物番号ごとに「未注記」と記入したポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。注記は、遺跡名の略号「へ2」、遺構番号またはグリッド名、遺物番号、出土層位の順に記した。包含層の場合は、遺物の大部分がⅡ層より出土しているため、出土層位を省略した。

注記例 遺 構：へ2. H-2. 3. 床面

包含層：へ2. M16. 5

なお、遺物台帳は、手作業で紙へ記入したものを基にパーソナル・コンピューターへ入力し、管理している。整理作業の進捗により、遺物の分類等に変更があった場合は、手書きの台帳とマイクロソフトエクセルの台帳両方のデータを同時に修正した。

一次整理作業の終了した遺物は、現地調査終了後に埋蔵文化財センターへ搬送した。

(2) 二次整理作業

図面等

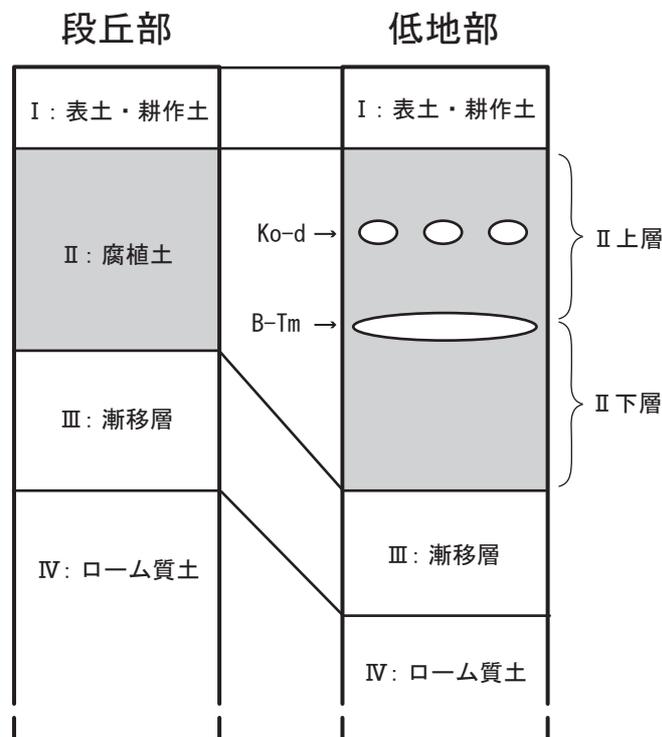
遺構や遺物出土状況の原図は訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合はその箇所を確認できるように原図に書き込んでいる。その後、原図から 1 mm 方眼の方眼紙に鉛筆で素図を作成した。素図をスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト (Adobe Illustrator CS 2) により補正・加工して版下を作成した。 (立川)

土器の整理

土器については、分類の見直しと細分類を行いながら、接合作業を中心に整理を進めた。作業にあたっては、遺構と包含層間の接合、同一個体の破片を把握することに努めた。接合作業の結果は、分類・出土地点・遺物番号・点数・同一個体破片の有無などを接合台帳へ記入した。接合関係が認められた個体は、接合の程度により A～D の 4 段階に分類した。A は完形もしくは口縁～底部が全体の 1 / 3 以上残存するもの、B は口縁～胴部または胴～底部が全体の 1 / 3 以上残存するもの、C は口縁～胴部または胴～底部が全体の 1 / 3 未満残存するもの、D は縄文または無文のみの胴部が接合したものである。概ね A・B は立体復元、C は土器拓本、D は未掲載としたが、B と C は個体ごとに適宜判断し図化した。未接合の破片資料のうち、文様構成・器形のわかる口縁部・胴部・底部については、土器拓本を作成した。立体復元は、遺物台帳と破片の照合→再接合→破片接着→樹脂充填の手順を取った。立体復元と拓本断面については人手による原寸実測を行い、2 / 3 縮尺素図をもとに墨入れした。接合・復元作業と並行して、集計表・分布図を作成した。 (芝田)

石器の整理

石器については、分類の見直しを行いながら、破損品の接合作業を行った。遺構、包含層ごとに完形品を中心に人手による原寸実測を行い、剥片石器・磨製石器・石製品は原寸で、礫石器は 2 / 3 縮尺素図をもとに墨入れを行った。これらの作業と並行して集計表・分布図の作成を行った。



図Ⅲ-2 基本土層模式図

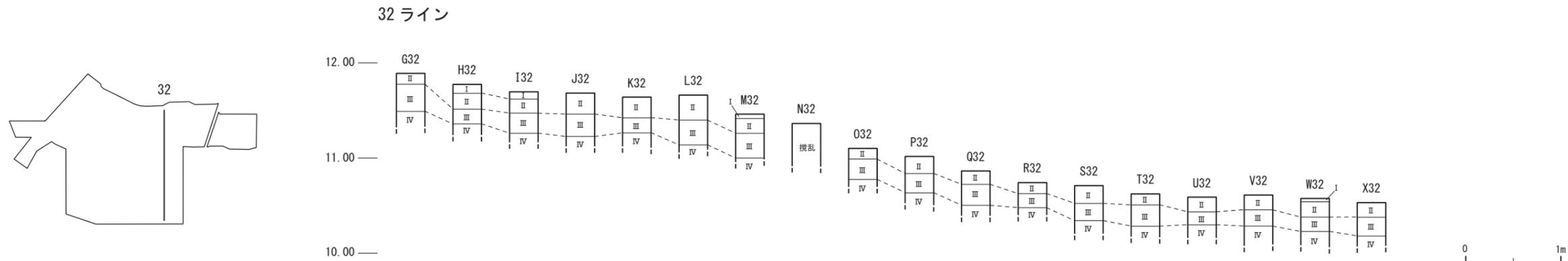
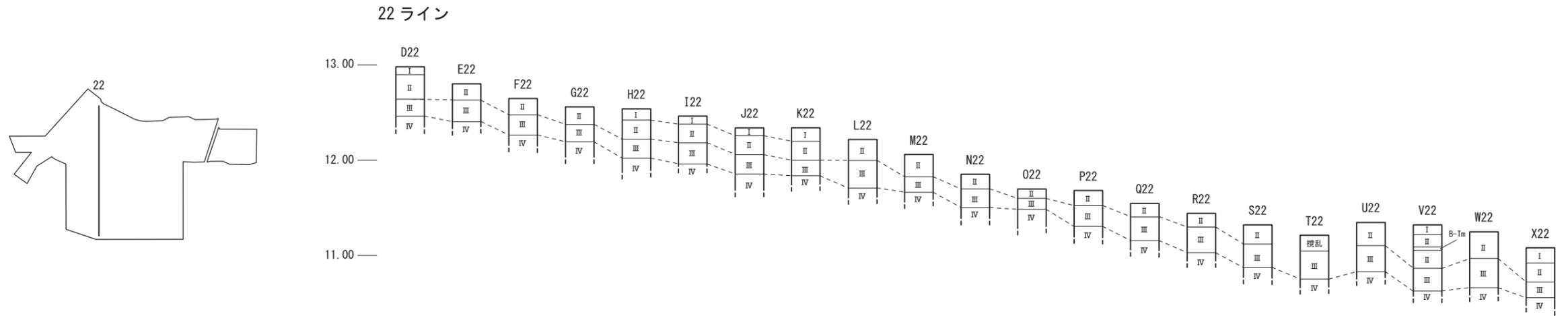
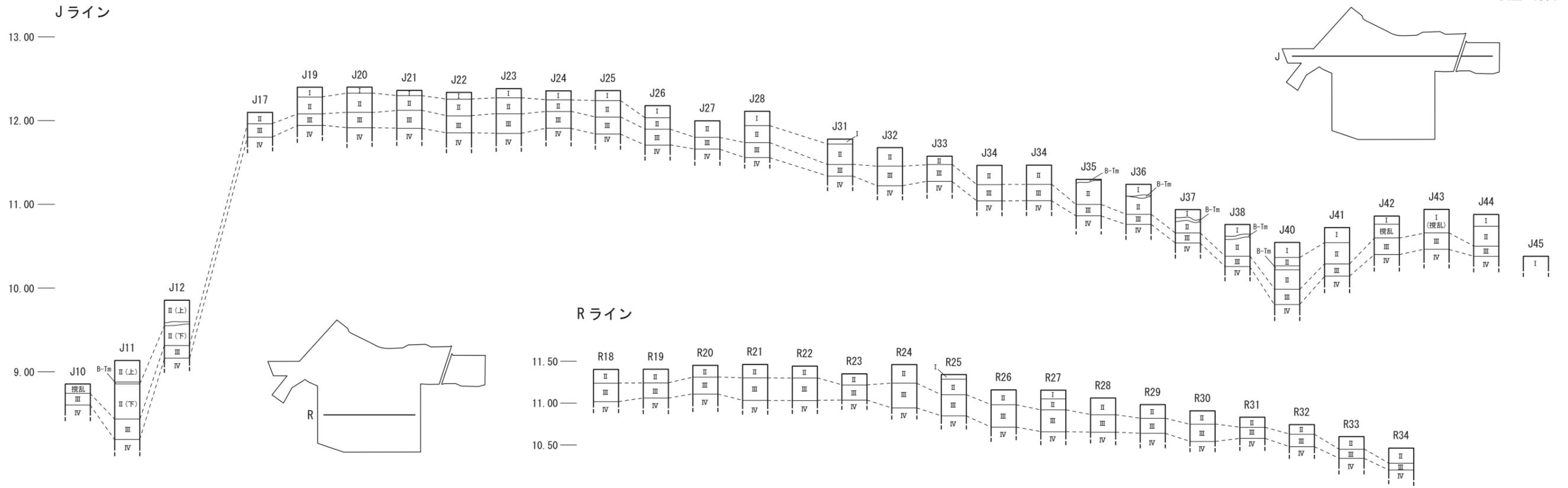
微細遺物の整理

微細遺物については、現場においてフローテーション装置によって浮遊選別処理を行った。浮遊物は 2.000mm・0.425mm、残渣は 1.410mm 目篩により回収した。回収した遺物は適宜ルーペ等により遺物・炭化物等に選別し、数量を表 9 に掲載した。 (酒井)

写真

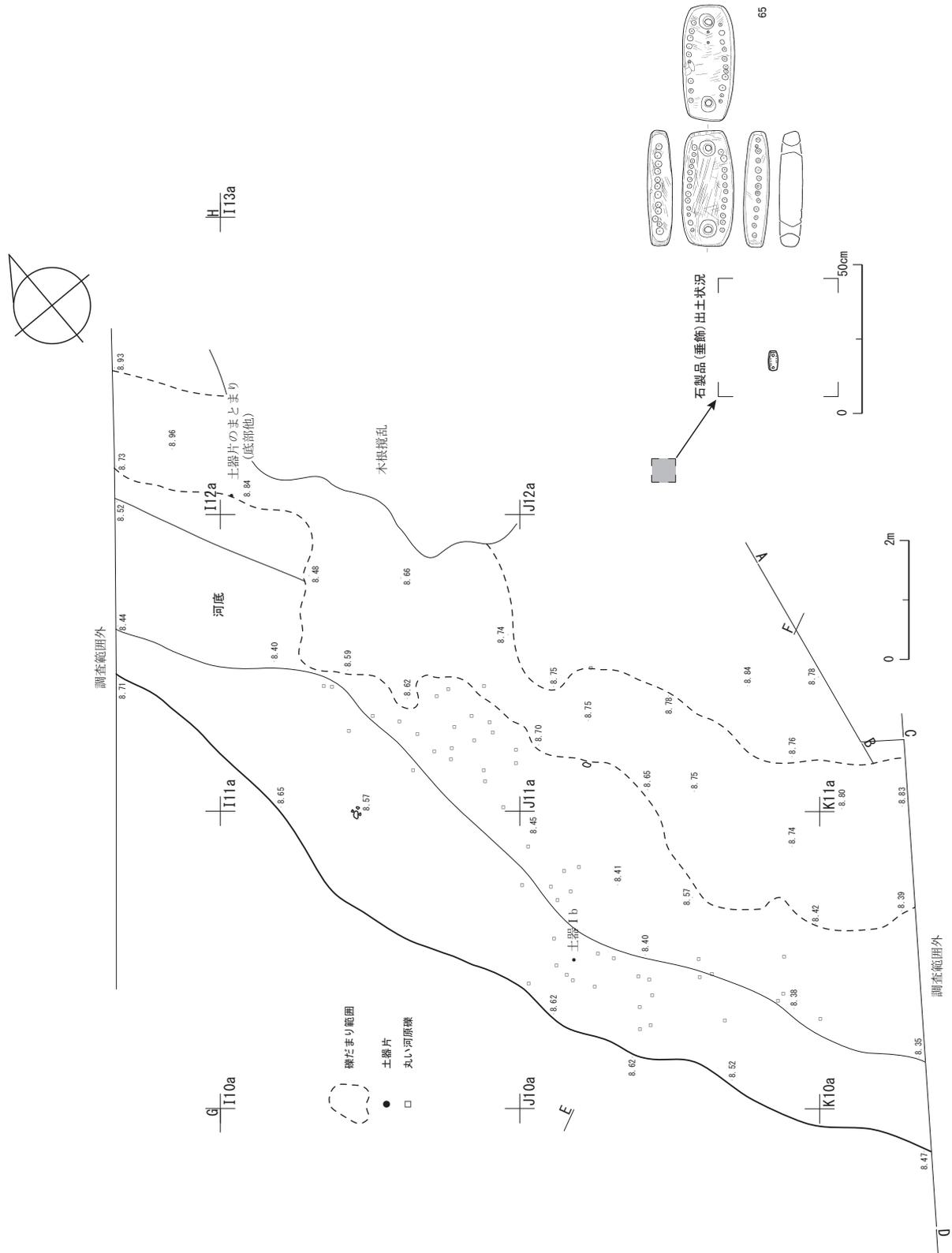
a スタジオ撮影

撮影方法: 光源は大光量、色再現の安定性からストロボを使用している。土器片や石器などの俯瞰撮影はトヨ無影撮影台を使用して撮影した。遺物は発砲スチロールや脱脂粘土などで傾きや高さを調整した。復元土器は蛍光剤が少ないスーパーホワイトの背景紙を撮影台に垂らして立面撮影を行った。モノクロ、カラーリバーサルとも同露出で 2 コマ撮影し、1 セットとした。



0 1m

図Ⅲ-3 土層柱状図



図III-4 低地部礫出土状況図

撮影機材：電源部はコメットCB-2400 aを2～3台、発光部はCL-25H・CLX-25miniHを2～4灯、スタンドはトヨウエイトスタンドを使用した。カメラはMamiya RZ67PRO II及びトヨビュー45GX、フィルムはT-M a x100、フジフィルムPROVIA100Fを使用した。

b 現像

フィルム現像：モノクロフィルムは自動現像機（ILFORD ILFOLAB FP40）を使用して、自家処理を行っている。

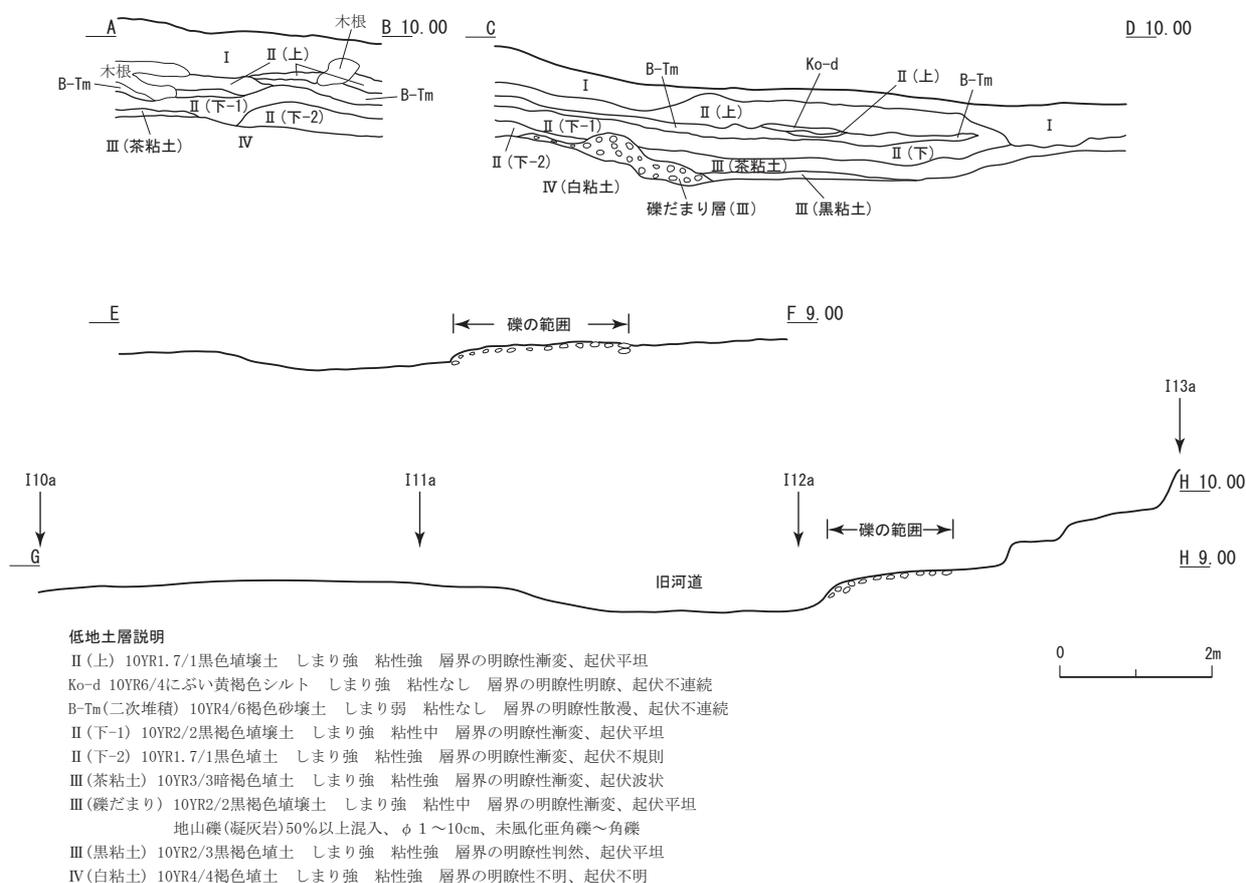
ペーパー現像：モノクロ写真の焼付けはフジプロバリグレードWPを使用し、写真図版を作成した。

c 保管・管理

フィルムは1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。フィルムに触れる時は手袋を着用し、油分からの変化・劣化・カビの発生を防いでいる。同露出で撮影した2コマのうち1コマはオリジナルフィルムとして使用していない。使用頻度や貸し出し依頼の多い写真は、デュープフィルムの作成やスキニングによるデータ化で対応している。写真アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、常温・定湿の特別収蔵庫に保管される。（菊池）

5 保管

今回の報告に関する出土遺物については、調査年度・遺跡名・遺物名・分類・収納番号等を記したラベルを貼ったコンテナに収納し、収納台帳を作成した。遺物は収納台帳と共に木古内町へ返却される予定である。図面等は全てA2版図面ファイルに調査年度・遺跡名を付け収納している。図面等や写真フィルム等は埋蔵文化財センターにて保管される。（立川）



図Ⅲ-5 低地部土層断面図

6 遺跡の土層

(1) 基本層序

基本土層模式図(図Ⅲ-2)のとおりである。土層の観察にあたっては、『土壤調査ハンドブック改訂版』(日本ペドロロジー学会1997)の基準に従った。遺構、特にフラスコ状土坑内の覆土、および低地部のⅡ層中には、段丘部の包含層に見られない火山灰が入るなど特徴がある。火山灰の名称等は『北海道の火山灰』(北海道火山灰命名委員会1982)に拠った。

I 層 : 表土・耕作土など

II 層 : 腐植土層

土性は埴壤土(CL)。色調は黒色(10YR1.7/1)。粘着性は強。堅密度は堅。Ⅲ層との層界は漸変。層界の起伏は波状。層厚30~40cm。近世~縄文時代早期の遺構・遺物を包含する。地形・場所により、Ⅱ層中に以下の2つの火山灰層が確認されることがある。火山灰層によりⅡ層が上下に分かれている場合は、火山灰層より上層を「Ⅱ上層」、下層を「Ⅱ下層」と呼称した。

駒ヶ岳火山灰d層(Ko-d) : 噴出年代は1640年。土性は砂土(S)。色調はにぶい黄褐色(10YR 6/4)。粘着性なし。堅密度は堅。Ⅱ層との層界は散漫。層界の起伏は不連続。低地形のⅡ層中に点在する。

褐色土層 : 白頭山-苫小牧降下火山灰(B-Tm・噴出年代10世紀)の2次堆積テフラと腐植土が混在する層。土性は壤土(L)。色調は褐色(10YR 4/4)。粘着性弱。堅密度は軟。Ⅱ層との層界は散漫。層界の起伏は不連続。層厚10~15cm。低地形のⅡ層中や風倒木痕に散在する。

Ⅲ 層 : 漸移層

土性は埴土(C)。色調は黒褐色(10YR 2/3)。粘着性は強。堅密度は堅。Ⅳ層との層界は漸変。層界の起伏は不規則。層厚は20~30cm。

Ⅳ 層 : ローム質土層

土性は埴土(C)。色調は褐色(10YR 4/6)。粘着性は強。堅密度は堅。地山を成す。

(2) 低地部(旧河道跡)の調査

調査範囲のうち、町道蛇内線より南西側は、北側の段丘部と比べて標高が2~3m低く、調査によって蛇内川の旧河道跡であることがわかった。層位は現代の埋め土である表土I層の下に、台地上のⅡ層に対応すると思われる黒~黒褐色土層が、複数互層になり堆積している。層間にはKo-d層やB-Tm火山灰の二次堆積層が見られる。その下のⅢ層も数枚の互層になり、それぞれ色や土質が異なる(図Ⅲ-5)。Ⅱ層中に遺構はなく、傾斜変換面のⅢ層に河原礫と思われる円礫や地山の礫と思われる凝灰岩の礫片が無数にたまっているのを検出した。遺物は縄文時代早~晩期の土器片、剥片石器、礫石器類が出土している(図Ⅲ-4)。

遺物取り上げの際、判断できる範囲で、B-Tm層よりも上のⅡ層を「Ⅱ上層」、下のⅡ層を「Ⅱ下層」と呼称した。ほとんどの遺物はⅡ下層から出土している。また、特徴的な石製品が2点出土した。1つは蛇紋岩製の垂飾(図V-2-7-64)、1つは凝灰岩製の三角柱形石製品(図V-2-7-76)である。(新家)

7 遺物の分類

(1) 土器

土器は縄文時代早期に属するものをI群とし、以下前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群とした。続縄文時代のものはVI群、擦文時代のものはVII群である。また、a・b類に二分したも

のは a 類が前半、b 類が後半を意味する。同様に a・b・c 類に三分したものは a 類が前葉、b 類が中葉、c 類が後葉である。さらに細分を要する場合は、アラビア数字の枝番号を付した。なお、今回の調査ではⅥ群、Ⅶ群は出土していない。

I 群 縄文時代早期に属する土器群

- a 類 貝殻・沈線文系土器群および条痕文系平底土器群。
- b 類 縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの付された縄文系平底土器群。
 - b-1 類 東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅲ式に相当するもの。
 - b-2 類 コッタロ式に相当するもの。
 - b-3 類 中茶路式に相当するもの。
 - b-4 類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

- a 類 縄文の施された丸底・尖底の土器群。
- b 類 円筒土器下層式土器群。

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

- a 類 円筒土器上層 a 式・b 式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの。
- b 類 円筒土器上層式に後続する土器群。
 - b-1 類 榎林式に相当するもの。
 - b-2 類 大安在 B 式に相当するもの。
 - b-3 類 ノダップⅡ式、煉瓦台式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

- a 類 天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂 3 式に相当するもの。
- b 類 ウサクマイ C 式、手稲式、ホッケマ式に相当するもの。
- c 類 堂林式、三ツ谷式、湯の里 3 式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群

- a 類 大洞 B 式、大洞 B-C 式とこれに並行する在地の土器群。
- b 類 大洞 C₁ 式、大洞 C₂ 式とこれに並行する在地の土器群。
- c 類 大洞 A 式、大洞 A' 式とこれに並行する在地の土器群。

(芝田)

(2) 石器

石器は下記の分類を使用した。

剥片石器群：石鏃、石槍、ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、筥状石器、スクレイパー、両面調整石器、石核、R 剥片、U 剥片、剥片

磨製石器群：石斧、石のみ

礫石器群：たたき石、台石、すり石、石皿、扁平打製石器、石鋸、砥石、矢柄研磨器、石錘、擦り切り残片、加工痕のある礫、礫・礫片

上記に含まれない石製の遺物を石製品とした。

石製品：垂飾、異形石器、三角形石製品、三角柱形石製品

(酒井)

IV 遺構と遺構出土の遺物

1 概要

検出された遺構は、住居跡15軒、土坑96基、焼土14か所、集石1か所、剥片集中9か所、一括土器5か所である。これらの遺構の大部分は調査範囲の南～西側に分布する。

住居跡の時期は、縄文時代早期後半2軒、前期後半1軒、中期後半1軒、後期前葉10軒、不明1軒である。早期後半の住居跡は、中茶路式期（H-1）と東釧路IV式期（H-6）のものがあり、互いに離れて位置する。前期後半の住居跡H-11は、蛇内川の旧河道を臨む段丘の縁辺に位置し、他の時期と比較して掘り込みが深い。中期後半の住居跡H-2は掘り込みのある石囲炉を伴っており、床面よりノダップⅡ式土器の一括資料が出土している。後期前葉の住居跡H-3・5・7～10・12～15は、調査範囲の西側にまとまって分布している。H-3・5からは、出入口と見られる溝状の掘り込みが、いずれも南向きで2条平行して検出された。H-7からは頁岩製の剥片石器類が多く出土した。H-9の床面からは石囲炉が検出された。町道蛇内線下部分および周辺では、道路路盤や側溝による攪乱が著しく、H-8・10・12～14は炉跡と柱穴のみが残存していた。

土坑は、時期が不明なものを除くと、縄文時代前期前半のものが最も多い。これらは平面形が円形を呈し、坑口部の直径が0.5～0.8mほどの小型のものが大部分で、調査範囲の南側に集中する。P-25・27・50・79からは、春日町式土器が出土している。フラスコ状土坑は、前期前半1基（P-25）、前期後半5基（P-18・71・78・93・95）、後期前葉3基（P-22・33・94）の計9基が検出された。前期後半のものは標高12.0m前後で、後期前葉のもの（標高11.5m以下）よりもやや高い地点に位置する。P-18・95はやや小型のもので、上部は他の遺構との切り合いにより削平されている。P-22・33・94は、近隣で確認された当該期の住居跡H-3・5・10・12との関連が想定される。P-94は廃棄後に時間を経てから、周辺の遺構の掘り上げ土により埋め戻されていた。

焼土は時期が不明なものが多い。現地での調査においては、周辺の住居跡・土坑や包含層出土の遺物などから、これらを縄文時代の所産と判断した。しかし、F-1から採取した炭化材を用いて放射性炭素年代（AMS）測定を行なったところ、 $140 \pm 20\text{yrBP}$ という数値が得られた（Ⅵ章参照）。これは近世以降の年代に相当することから、比較的新しい時期のものが含まれる可能性がある。F-4～6は、調査の進捗により住居跡H-8の地床炉である可能性があったため、欠番とした。

集石は時期・性格ともに不明である。S-1は自然営力による小礫のまとまりであったため欠番とした。剥片集中は石器製作に関連するものと考えられる。一括土器は、同一個体土器の破片集中であり、複数個体を同時期に廃棄したような土器集中ではないが、周辺の住居跡や土坑との関連が疑われることから、遺構に準じて取り上げた。一括土器4は、調査の進捗により土坑P-81の覆土中のものであることが判明したため欠番とした。

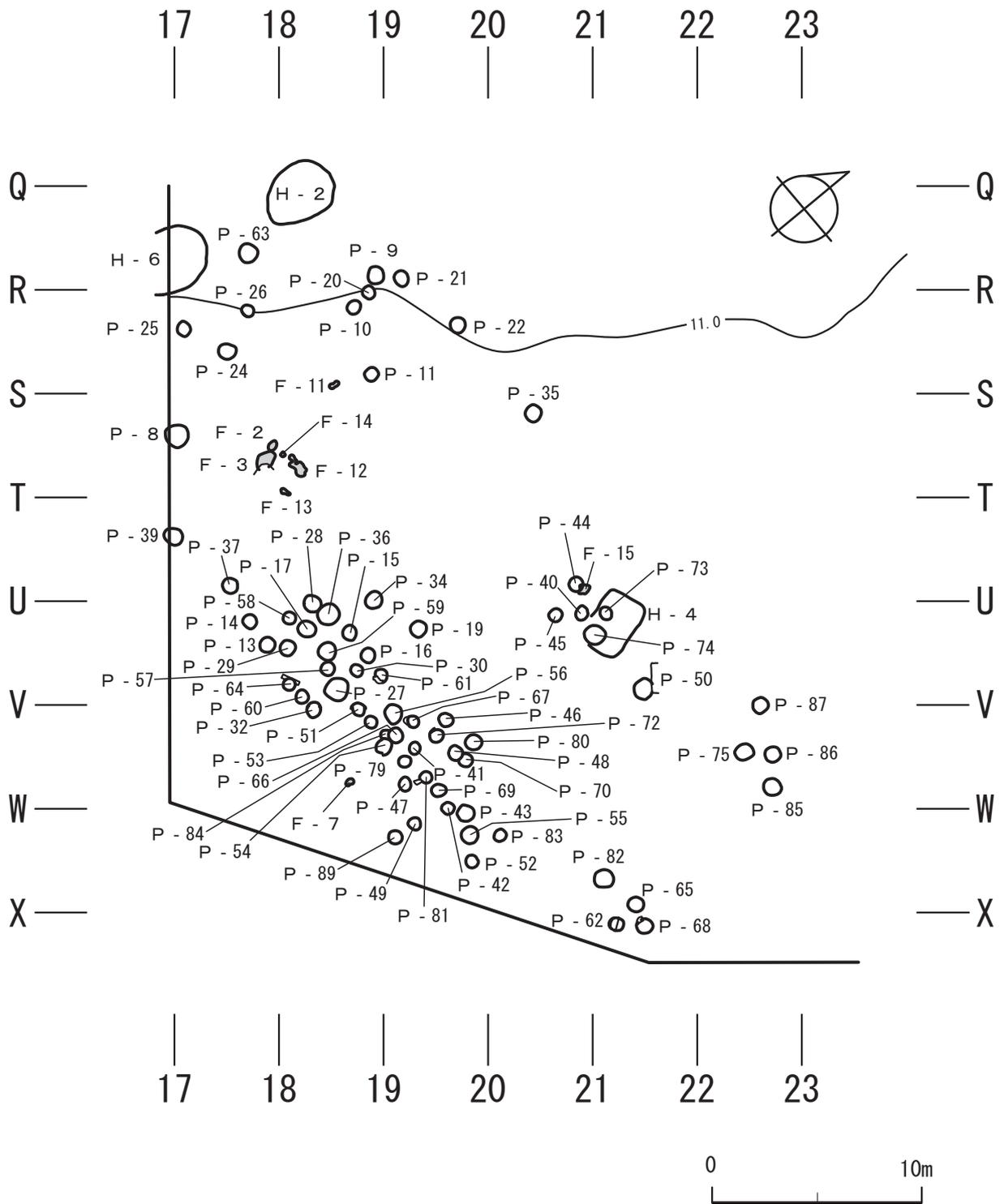
（芝田）

2 住居跡

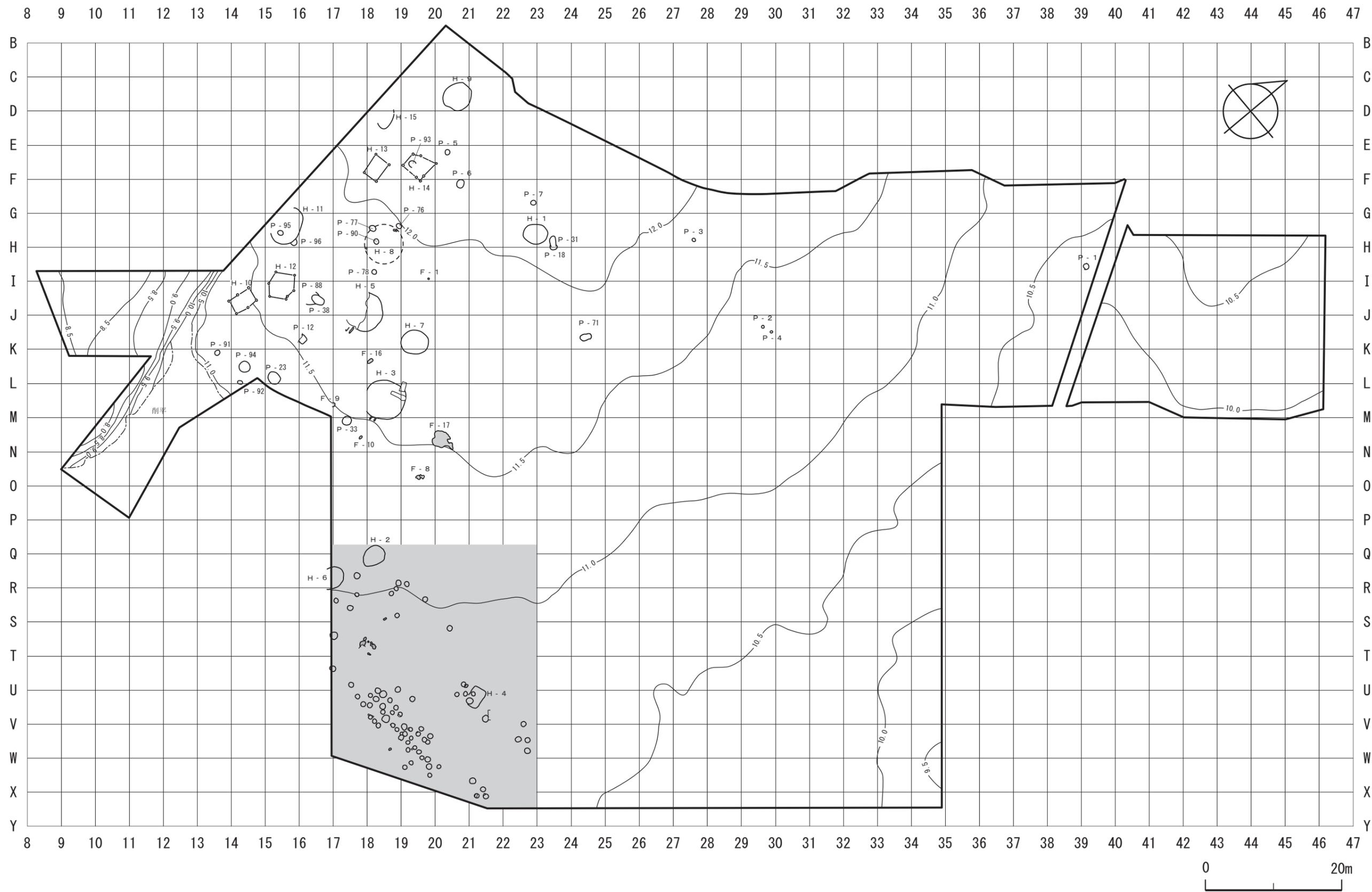
H-1（図Ⅳ-2・3／表1～6／図版3）

確認・調査 標高12.0～12.4mの平坦面に立地する。包含層調査中、Ⅲ層上面で、長径3m弱の楕円形の落ち込みを確認した。竪穴住居跡を想定して落ち込みを掘り進めたところ、壁の立ち上がり、平坦に堅く締まった床面を確認した。

覆土 4層に分層した。3・4層は壁際に堆積したローム質土層。2～4層は非常に堅くしまる。

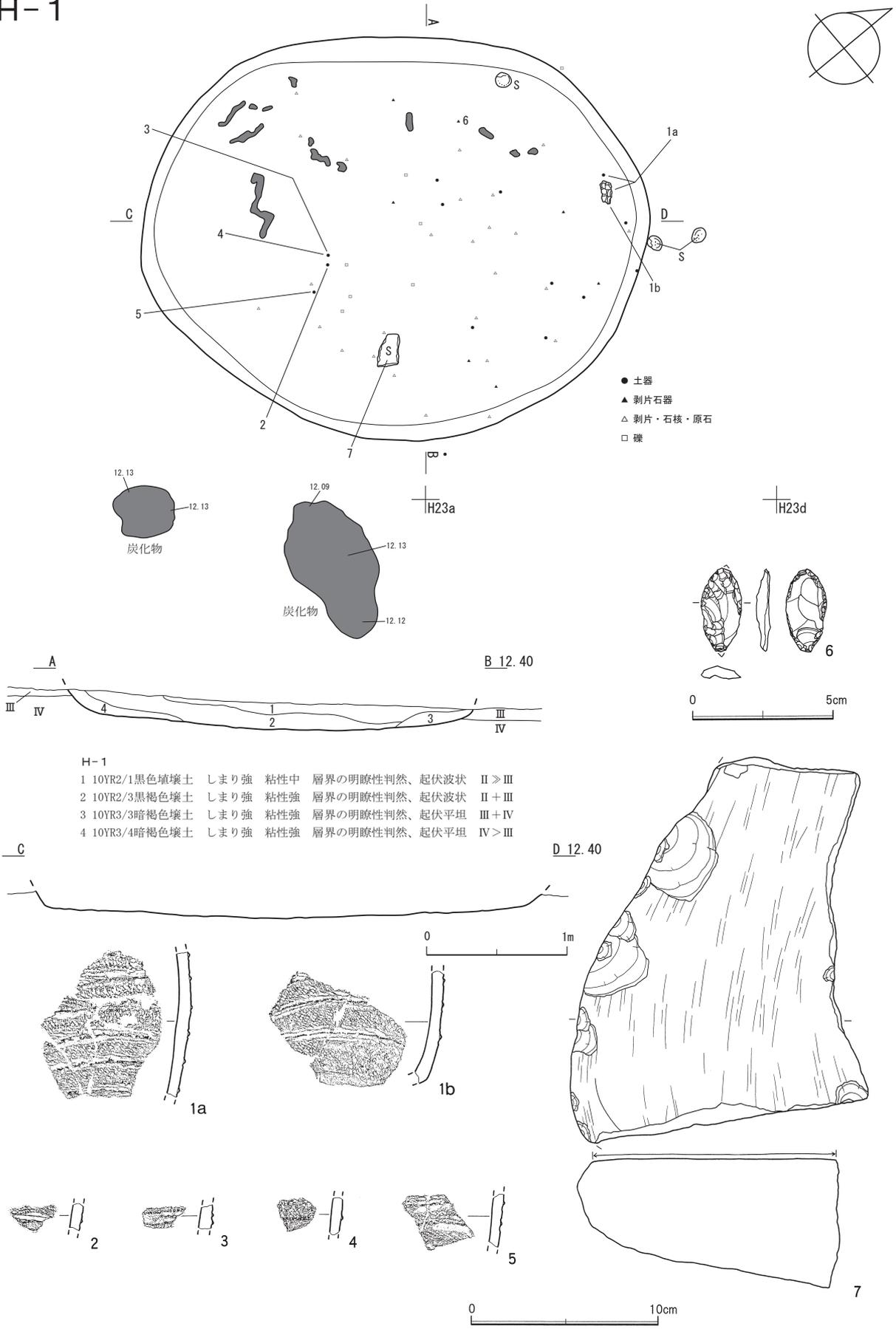


图IV-1 遺構位置図(1) Q~X・17~23区



図IV-2 遺構位置図 (2)

H-1



図IV-3 H-1と出土遺物

形態 平面形は楕円形を呈する。掘り込みは浅いが壁の立ち上がりは明瞭で、床面は平坦である。

付属遺構 焼土や柱穴は確認できなかった。

遺物出土状況 覆土中に I 群 b - 3 類の土器片、頁岩製の剥片石器、凝灰岩の礫片等が散在し、炭化物も内外に見られた。

時期 覆土や床面から出土した土器片から、縄文時代早期後半のものと思われる。 (新家)

遺物 土器：1～5 は I 群 b - 3 類。いずれも胴部片である。器面に斜走縄文を施した後、細貼付帯をほぼ平行に巡らしている。粘土紐を貼り付ける際の、爪による調整痕が貼付帯に沿って見られる。 (芝田)

石器：6 は有茎の石鏃。粗い加工で未成品とみられる。基部が被熱により変色している。7 は石皿片。平坦な使用面がある。 (酒井)

H - 2 (図 IV - 4 ~ 7 / 表 1 ~ 6 · 9 / 図版 4 · 5)

確認・調査 調査範囲南側の緩斜面上に掘り込まれた竪穴住居跡。III 層上面で、II 層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。長軸に土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、平坦な床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面は II 層中と推測される。

覆土 1～3 層は II 層を起源とする腐植土。4・5 層は腐植土とロームの混合で、掘り上げ土の流入もしくは屋根葺き土の可能性がある。6 層は床面直上の腐植土で炭化材が多く混入する。7 層はいわゆる三角堆積した壁際の腐植土。8 層は II ~ IV 層を起源とする壁面からの崩落土。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は南端がやや尖った楕円形。壁面は明瞭で、垂直ぎみに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、中央部と南側がわずかに低い。床面から焼土 2 か所 (HF - 1 · 2)、土坑 2 基 (HP - 1 · 2)、小土坑 6 基 (HP - 3 ~ 8) が検出された。掘り込みの外側に付属遺構は確認されなかった。

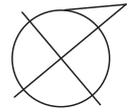
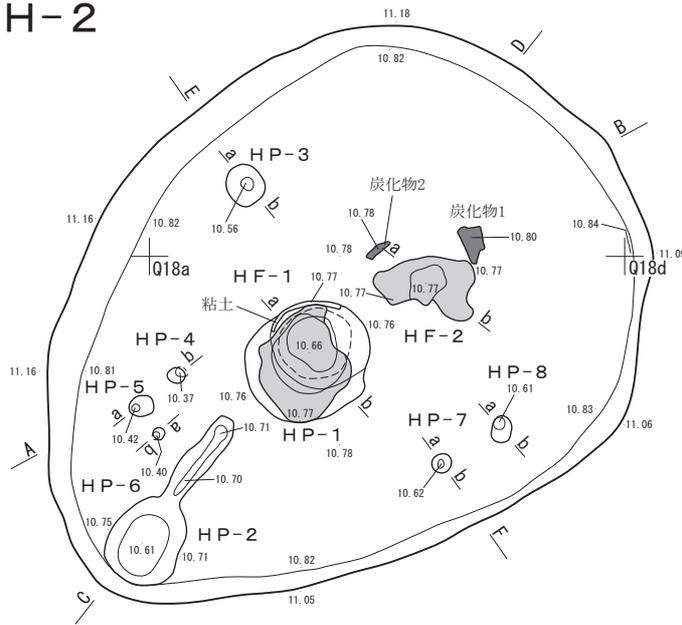
付属遺構 HF - 1 · HP - 1：HF - 1 は床面中央に設けられた炉で、下部に土坑 HP - 1 を伴う。HP - 1 は床面を約 60cm の深さで円形に掘り込まれている。壁面および坑底面は硬くしめる。坑底部は外側へ広がり、オーバーハングする。HP - 1 は内部の約 3 / 4 を埋め戻されている。HF - 1 は、この浅いくぼみ (HP - 1 の坑口部) の底面が焼けたものである。HF - 1 の上部からは一部が被熱した礫が折り重なって出土しており、これらは本来くぼみの周縁に配置されて石囲炉を構成していたと推測される。くぼみの周縁には粘土が貼り付けられた部分が見られることから、礫の外側を埋めるようにして、石囲炉の形状を修正した可能性がある。たたき石 (16)、すり石 (17) が炉材に転用されている。

HF - 2：HF - 1 より北側へ約 45cm 離れた床面に設けられた、小規模な炉である。礫などを伴っておらず、焼土も薄いことから副次的な用途が推測される。HF - 2 周縁の床面から大きめの炭化材が 2 点出土している (炭化材 1 · 炭化材 2)。これらを試料として放射性炭素年代 (AMS) 測定を行ったところ、炭化物 1 (HEBI 2 - 1) が $4,060 \pm 30$ yrBP、炭化物 2 (HEBI 2 - 2) が $4,170 \pm 30$ yrBP という数値が得られた。詳細は VI 章第 1 節を参照されたい。これらの測定値には若干の年代差が認められるが、出土土器から推測される縄文時代中期後葉という時期に概ね合致するものといえよう。

HP - 2：床面南端の、最も標高の低い部分で検出された皿形の土坑である。平面形は楕円形で、長軸方向は住居のものとはほぼ一致する。床面中央の HF - 1 の方向へ伸びる浅い溝を伴う。覆土は住居跡の 7 層を主体とするが、溝部分の一部は 5 層が堆積する。

HP - 3 ~ 8：これらは床面の周縁部に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形は円形もしくは楕円形を呈する。掘り込みは垂直もしくは断面がわずかに湾曲し

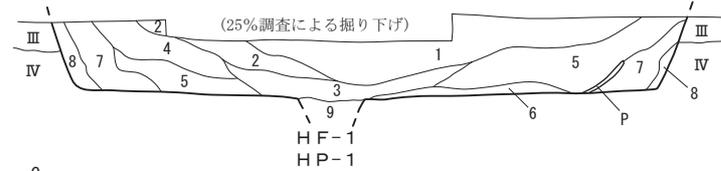
H-2



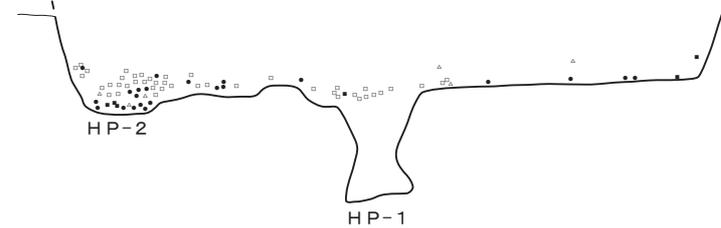
H-2

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 II層起源の腐植土(自然堆積) 木根などの攪乱を受ける
- 2 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 ローム微量混じる
- 3 10YR3/2暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ローム少量混じる 炭化材(φ20mm以下)少量混じる
- 4 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性強 ロームと腐植土の混合
- 5 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ローム多量に混じる
- 6 10YR2/3黒褐色土 しまり弱 粘性強 5と同質だが炭化材(φ20mm以下)多量混じる
- 7 10YR3/1黒褐色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 ローム微量混じる
- 8 10YR4/6褐色土~2/1黒色土 しまり強 粘性強 ロームに黒色土が斑状に混じる
- 9 2.5Y3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土とロームの混合 3層よりも炭化材、焼土粒が多い HF-1の直上の覆土

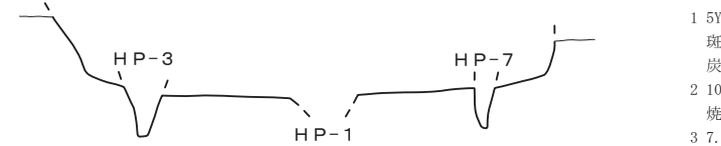
A B 11.30



C D 11.30



E F 11.30

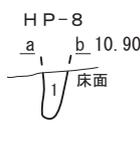
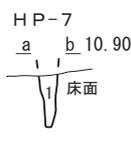
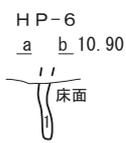
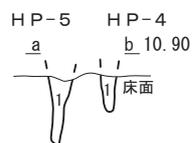
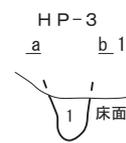
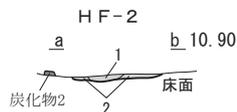
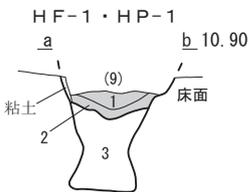


HF-1・HP-1

- 1 5YR5/8赤褐色焼土~7.5YR3/1黒褐色焼土 しまり強 粘性弱 斑状であるが周縁部が強く橙色に焼けている 炭化材(φ5mm以下)多量混じる
- 2 10YR4/4褐色土~7.5YR3/1黒褐色土 しまり強 粘性中 焼土の周縁部で被熱は弱い 炭化材(φ5mm以下)微量混じる
- 3 7.5YR3/4暗褐色土 しまり弱 粘性中 ロームと黒色土の混合(埋め戻し) ロームブロック(φ10cm以下)あり 炭化材(φ10mm以下)少量混じる HP-1

HF-2

- 1 2.5YR5/8明赤褐色焼土 しまり強 粘性弱 非常に強く焼けている
- 2 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 焼土粒(φ5mm以下)と炭化材(φ10mm以下)が疎らに分布する 覆土6層とほぼ同じ



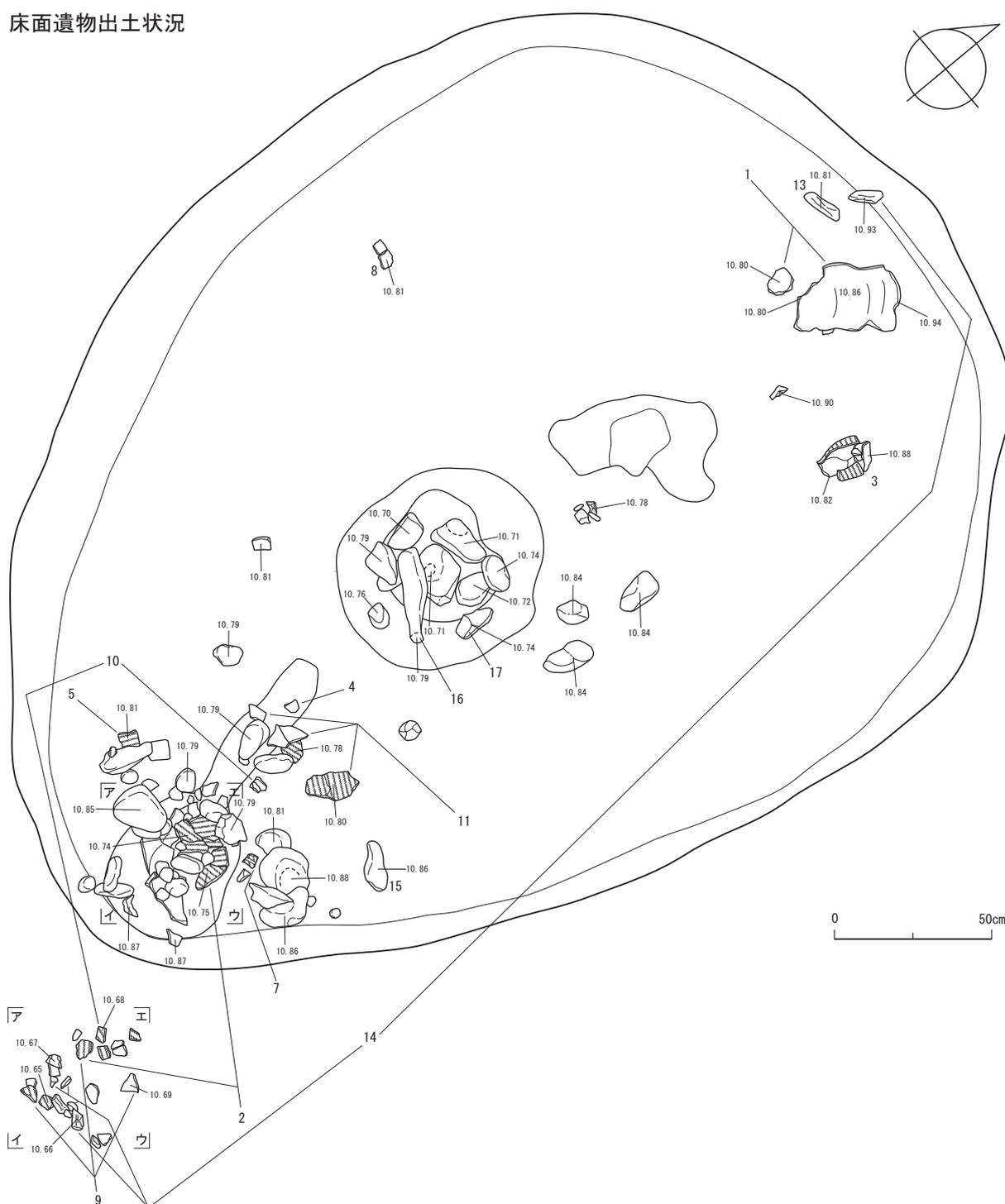
HP-3~8

- 1 10YR2/3黒褐色土~3/4暗褐色土 しまり弱 粘性強 黒色土とロームの混合 腐植土ブロック(φ50mm以下)あり



図IV-4 H-2 (1)

床面遺物出土状況



図IV-5 H-2 (2)

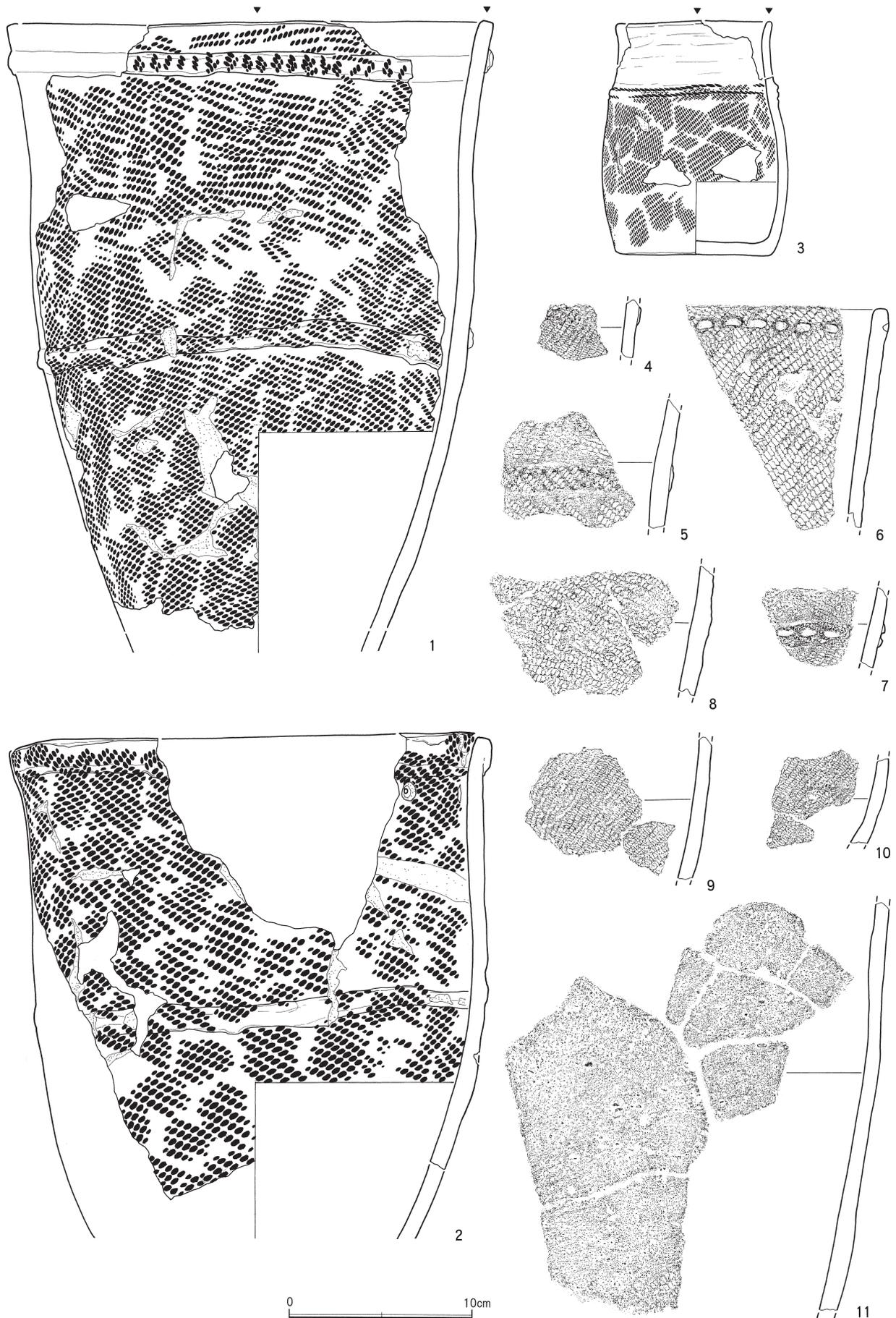
ており、住居跡の中心に向かって強く内傾するものは見られない。深さは床面より25～35cmである。

遺物出土状況 遺物は、HF-2～HF-1～HP-2を結んだ長軸上の床面中央部より多く出土しており、床面西側および東側からは非常に少ない。土器はⅢ群b-3類が出土している。北側の壁際より深鉢1個体が出土した(1)。1は内面を上に向け、斜めに流れ込んだ状態で出土しており、層位も覆土7層上面であることから、H-2の時期よりも若干新しいものと考えられる。1より約40cm離れた南東の床面からは小型の深鉢1個体が出土した(3)。3は床面の直上に横倒しの状態で出土しており、H-2の時期に伴うものと考えられる。HP-2の坑底部からは深鉢1個体が扇形に潰れた状態で出土した(2)。2の上部および周辺からは礫が折り重なって出土している。2は床面出土のものと同様にH-2の時期に伴うと考えられる。石器等は、石斧(13・14)、たたき石(15)、剥片、礫などが床面より出土している。

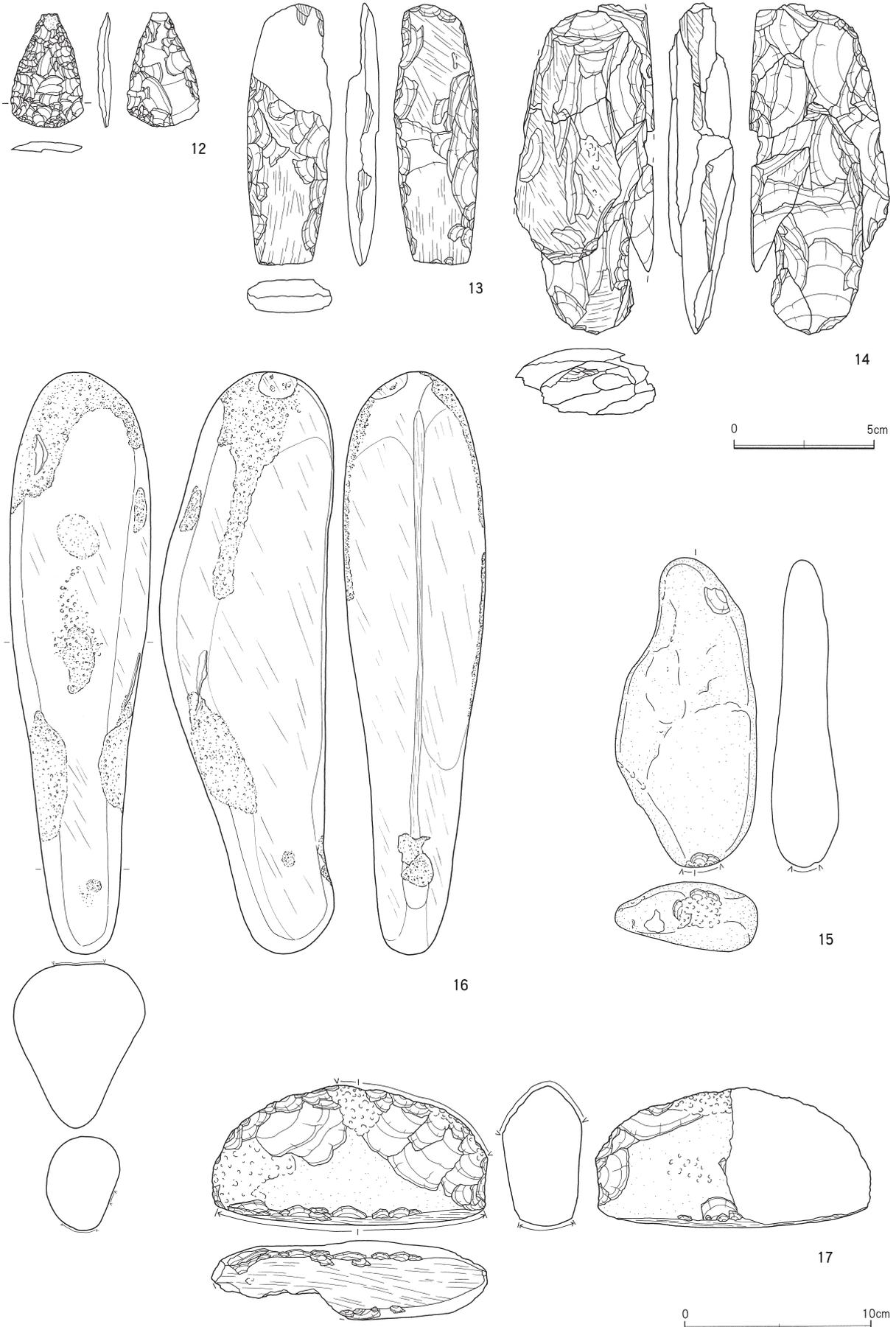
時期 床面出土の遺物から、縄文時代中期後半である。

遺物 土器：1～11はⅢ群b-3類。1・2は口縁～胴部が復元された深鉢。いずれも底部を欠失する。1は口縁部がやや外反し、胴部が若干膨らむ器形。全体の約1/3が残存しており、推定口径は26.4cmを測る。口縁は平縁と考えられる。口唇断面は角型で、端面は若干外傾する。胴部に1条の貼付帯を巡らした後、器面にLR斜走縄文をやや横走ぎみに施している。さらに口縁部にも1条の貼付帯を巡らし、縄端による圧痕を連続して施している。貼付帯は緩い波状で、幅0.8～1.1cm、剥落した部分も見られる。胴部のものは地文に押し潰されて、形状が歪んでいる。内面はナデられて平滑になっている。色調は外面が褐色～暗褐色、内面が黄褐色～褐色を呈する。口縁部の外面、胴下部の内面には炭化物が付着する。胎土は砂礫が多く混入しており、粒径の大きなものが器面に浮き出す。焼成はよい。胴下部の外面は被熱により色調が赤褐色となり、剥落が著しい。2は口縁部が直線的に立ち上がり、胴部が若干膨らむ器形。全体の約1/2が残存しており、推定口径は26.3cmを測る。口縁は平縁と考えられる。口唇断面は角型で、端面は若干外傾する。口唇直下に折り返しにより幅約1.6cmの肥厚帯を設け、胴部にも1条の貼付帯を巡らしている。貼付帯は緩い波状で、地文に押し潰されて、ほとんど厚みのない部分も見られる。器面には全体的にLR斜走縄文を施しているが、口唇直下の肥厚帯のみは回転方向を変えて羽状となっている。縄文はナデられて不鮮明である。口縁部に補修孔が1か所確認される。外面には指頭圧痕による凹凸がある。内面は丁寧にナデ調整され、口唇とその直下には光沢がある。色調は外面が褐色～暗褐色、内面が黄褐色～暗褐色を呈する。口縁部の内外面には黒斑が見られる。胎土は細砂礫に富み、焼成はよい。3は口縁～底部が復元された小型の深鉢。全体の2/3が残存しており、口径8.5cm(推定)、底径8.5cm、胴部の最大径10.1cm、高さ12.8cmを測る。器厚は0.2～0.3cmと薄い。口縁部が窄まり、胴～底部が膨らむ器形。口縁は平縁と考えられる。口唇断面は丸い。底部は平底。口縁部は幅広の無文帯で、胴～底部には非常に細い原体によるLR斜走縄文を施している。無文帯の直下には2条のR縄側面圧痕が平行に巡る。内外面ともに丁寧に磨かれているが、底内面には指頭による調整痕が残る。色調は内外面ともに暗褐色～黒褐色を呈する。胎土は精製されており、海綿骨針に富む。焼成は良好で、硬くしまっている。3は他のⅢ群b-3類土器とは器形や胎土、施文などが著しく異なっており、広口壺に近い器形や口縁部の無文帯などの特徴から、東北北部の最花式(中の平3式)の影響が強いと考えられる。4・5は胴部片で、貼付帯が加えられている。6は口縁部、7は胴部の貼付帯に半截竹管による横向きの押し引き文が巡る。8～11は胴部片。いずれもLR斜走縄文が施される。11は摩滅が著しい。(芝田)

石器：12は篋状石器。撥形のもの。両面に加工を施している。13・14は短冊形の石斧。13は粗く打ち欠いて整形した後、全面を研磨している。刃部は両刃の直刃。14は住居床面や覆土、付近の包含層か



図IV-6 H-2の出土遺物 (1)



図IV-7 H-2の出土遺物 (2)

ら破片の状態出土し、12点が接合した。全面を研磨している。刃部の形状は不明。15～16はたたき石。15は扁平な棒状礫の両端部と腹背部に敲打痕がある。一部被熱により赤色をしている。16は棍棒形をした断面三角形の棒状礫の端部や稜の部分に敲打痕がある。17はすり石。扁平な礫を半円状に打ち欠き敲打によって整形した後、弦を擦っている。長軸両端部に打ち欠きによる挟りがみられる。一部被熱により変色している。(酒井)

H-3 (図IV-8～11/表1～6/図版6)

確認・調査 標高11.7mの平坦面に立地する。L17調査区をIV層まで下げたところ、L18調査区との境界線(18ライン)に暗褐色の落ち込みの断面を検出した。L18調査区を中心に周囲を精査し、散漫だが大きな円形の輪郭を確認した。ベルトを設定し、落ち込みの部分掘り下げた。壁・床面検出後、住居内外を精査中に入り口と思われる掘り込みも検出した。

覆土 上部を削平してしまったため、床面に近い1層のみである。堅くしまる。

形態 平面形は、概ね円形を呈する。壁は削平のため残りは浅いが、立ち上がり確認できる。床面は平坦である。構築時の掘り込み面はII層中であつたと思われる。入り口施設を伴う。

付属遺構 HF-1・2:住居床面の中央から若干南寄りに焼土2か所を検出した。

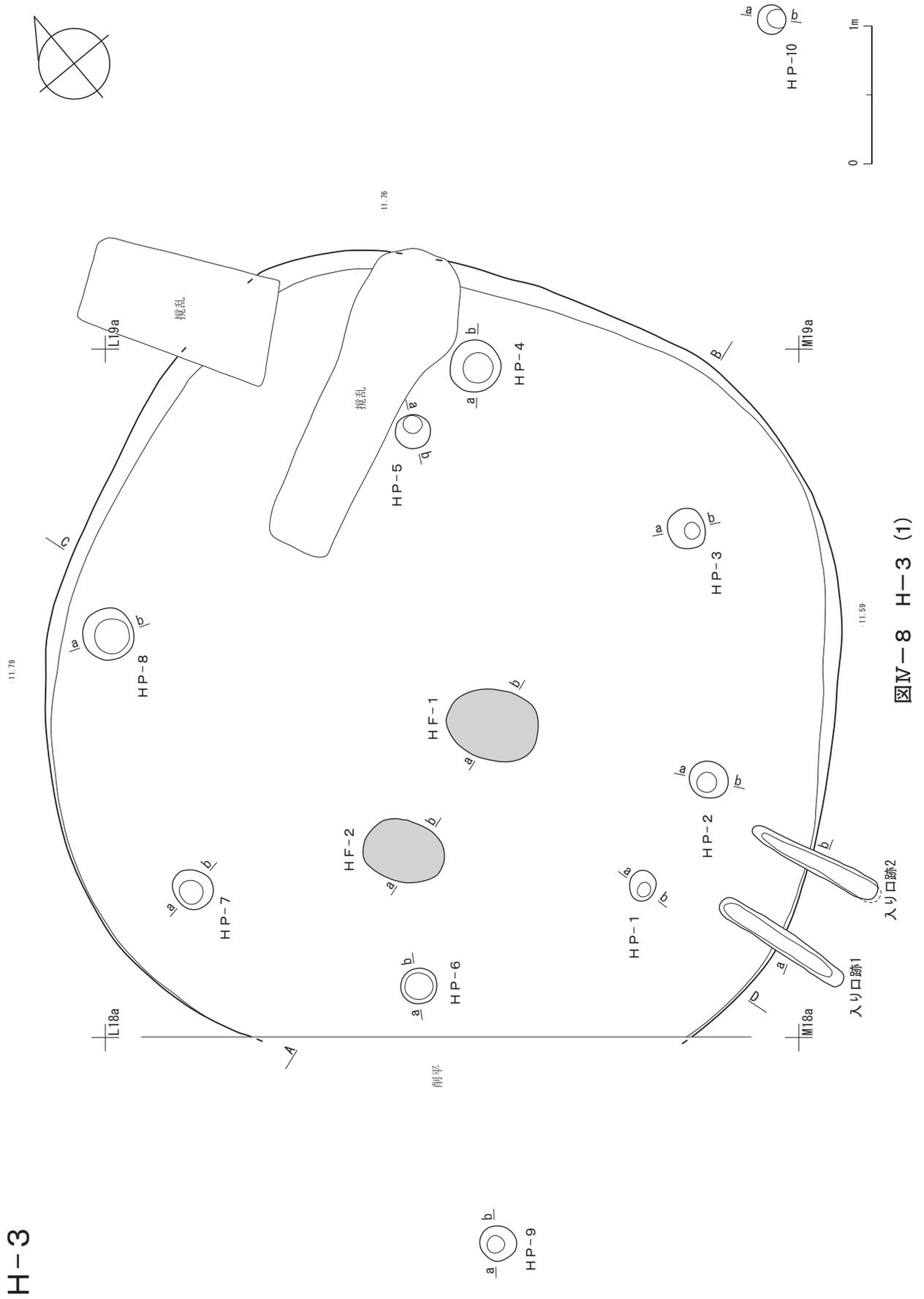
HP-1～10:柱穴は、住居内に8基、住居の外に2基確認した。

入り口跡 1・2:住居東側の外郭に直交して、長さ約1mの溝状遺構が2条確認された。これらは40cm強の間隔を空けて、平行して設けられており、入り口用の施設と思われる。

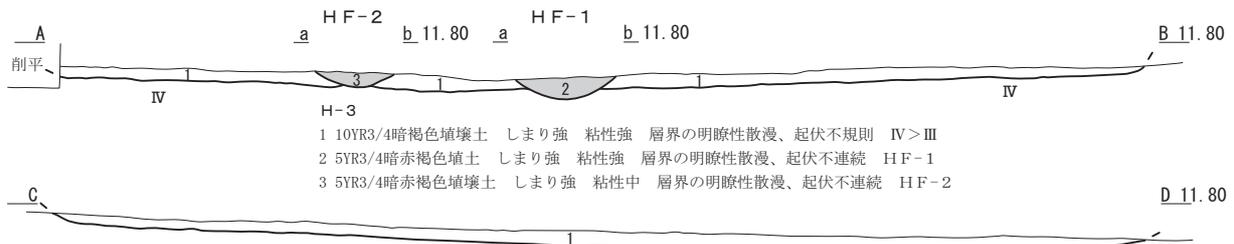
遺物出土状況 覆土中から縄文時代後期前葉の土器片360点のほか、石鏃、剥片、すり石、砥石片、礫片等が出土している。

時期 出土土器や住居跡の構造から、縄文時代後期前葉と思われる。周辺の住居跡H-5やフラスコ状土坑P-33と同時期である。(新家)

遺物土器: 1～23はIV群a類。1～6は無文地に沈線で文様が描かれるもの。1は口縁～胴上部が復元された深鉢。全体の約1/4が残存し、推定口径18.7cmを測る。口縁部が外反し、胴上部が膨らむ器形。波状口縁で4か所の波頂部を有していたと推測され、このうち2か所が残存する。口唇断面は角型で、端面は外傾する。波頂部の内外面に細い粘土紐を貼り付け、連続する弧状の文様を描いている。胴上部は櫛歯状施文具により方形あるいは円形の渦巻文を描き、竹管状施文具による細い沈線で縁取る。内外面ともに丁寧にナデ調整され、平滑になっている。色調は内外面ともに暗褐色～黄褐色を呈する。胎土は緻密で、細砂礫に富む。2は深鉢の口縁部(a・b)と胴部(c)。口縁部が外反し、胴上部が膨らむ器形と推測される。平縁で口唇断面は丸い。口唇直下は無文帯で、平行沈線で区画された頸部～胴上部の文様帯には、幅広の沈線により上から斜位方形文、V字状方形文、「カニのハサミ」状文が描かれる。器外面および口唇～口縁内面はよく磨かれている。内外面ともに炭化物が付着する。3は小型の深鉢の口縁部(a)と胴部(b)。口縁部は緩やかな波状を呈する。細い沈線により格子状の文様が描かれる。4は口縁部で、よく磨かれた外面に平行および波状の沈線が見られるが、全体の文様構成は不明。5は胴部(a・b)と底部(c)。aは三叉状の沈線が見られるが、全体の文様構成は不明。b・cは胴下～底部で平行沈線より下位は無文である。6は胴部(a・b)。細い平行沈線のみが確認される。ヘラ状工具による斜めあるいは横方向の調整痕が残る。7～13は縄文地に沈線で文様が描かれるもの。7は深鉢の口縁部(a・b)と胴部(c)。口縁部が外反し、胴部が膨らむ器形と推測される。aは山形突起を有しており、頂部は指頭により圧痕される。突起以外の口唇は回転縄文が施される。主に平行沈線と蛇行沈線による文様が描かれる。8は深鉢の口縁～胴部(a)と胴部(b)。口縁部が外反し、胴上部が膨らむ器形と推測される。aは山形突起を有しており、頂部は



H-3



- H-3
- 1 10YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性散漫、起伏不規則 IV>III
 - 2 5YR3/4暗赤褐色埴土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性散漫、起伏不連続 HF-1
 - 3 5YR3/4暗赤褐色埴壤土 しまり強 粘性中 層界の明瞭性散漫、起伏不連続 HF-2

HF-1 a b 11.80



HF-1
1 5YR3/4暗赤褐色埴土
しまり強 粘性強

HF-2 a b 11.80



HF-2
1 5YR3/4暗赤褐色埴壤土
しまり強 粘性中

HP-1 a b 11.60



HP-2 a b 11.60



HP-3 a b 11.80



HP-4 a b 11.80



HP-5 a b 11.80



HP-6 a b 11.80



HP-7 a b 11.80



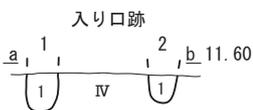
HP-8 a b 11.80



HP-9 a b 11.80



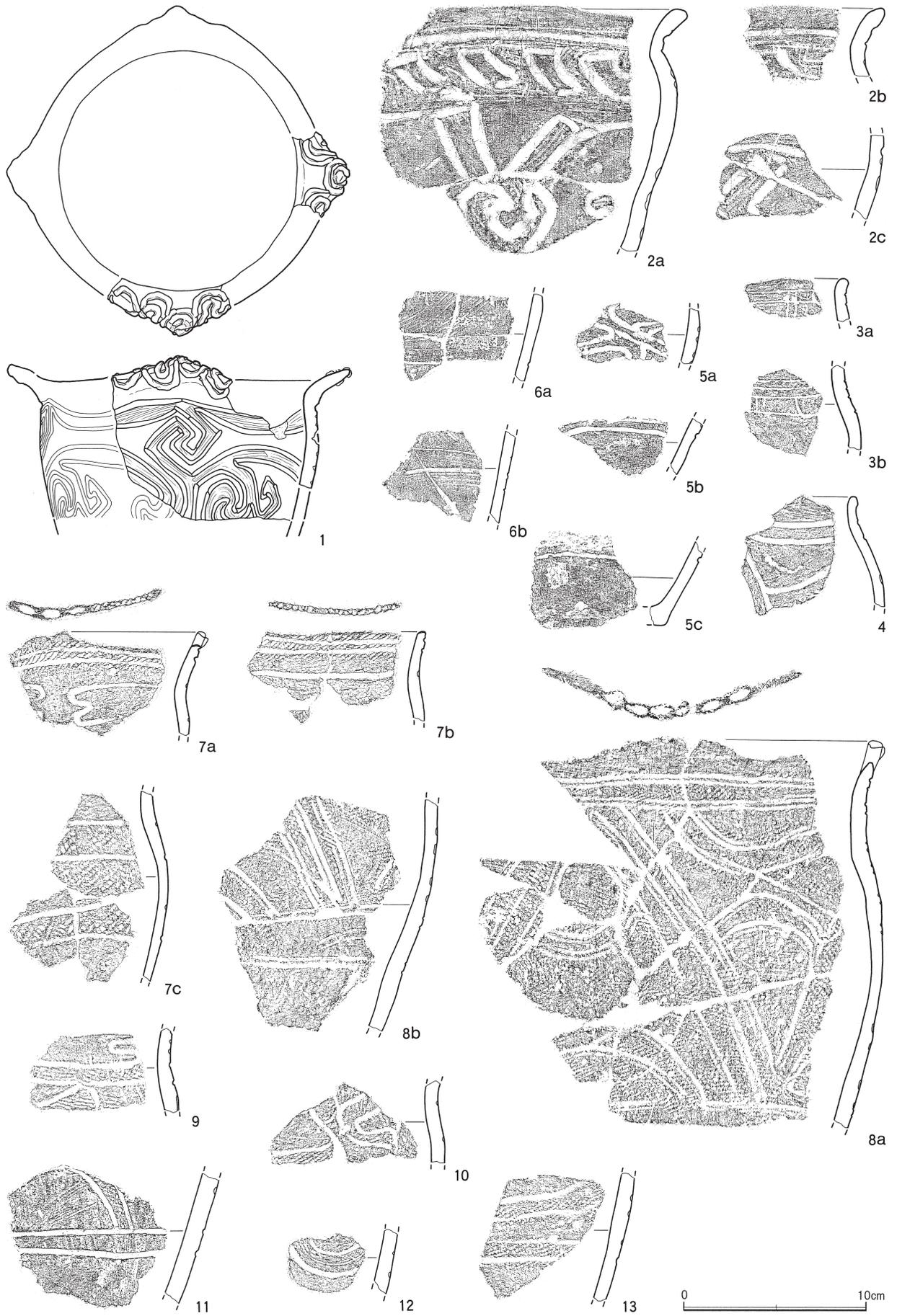
HP-10 a b 11.60



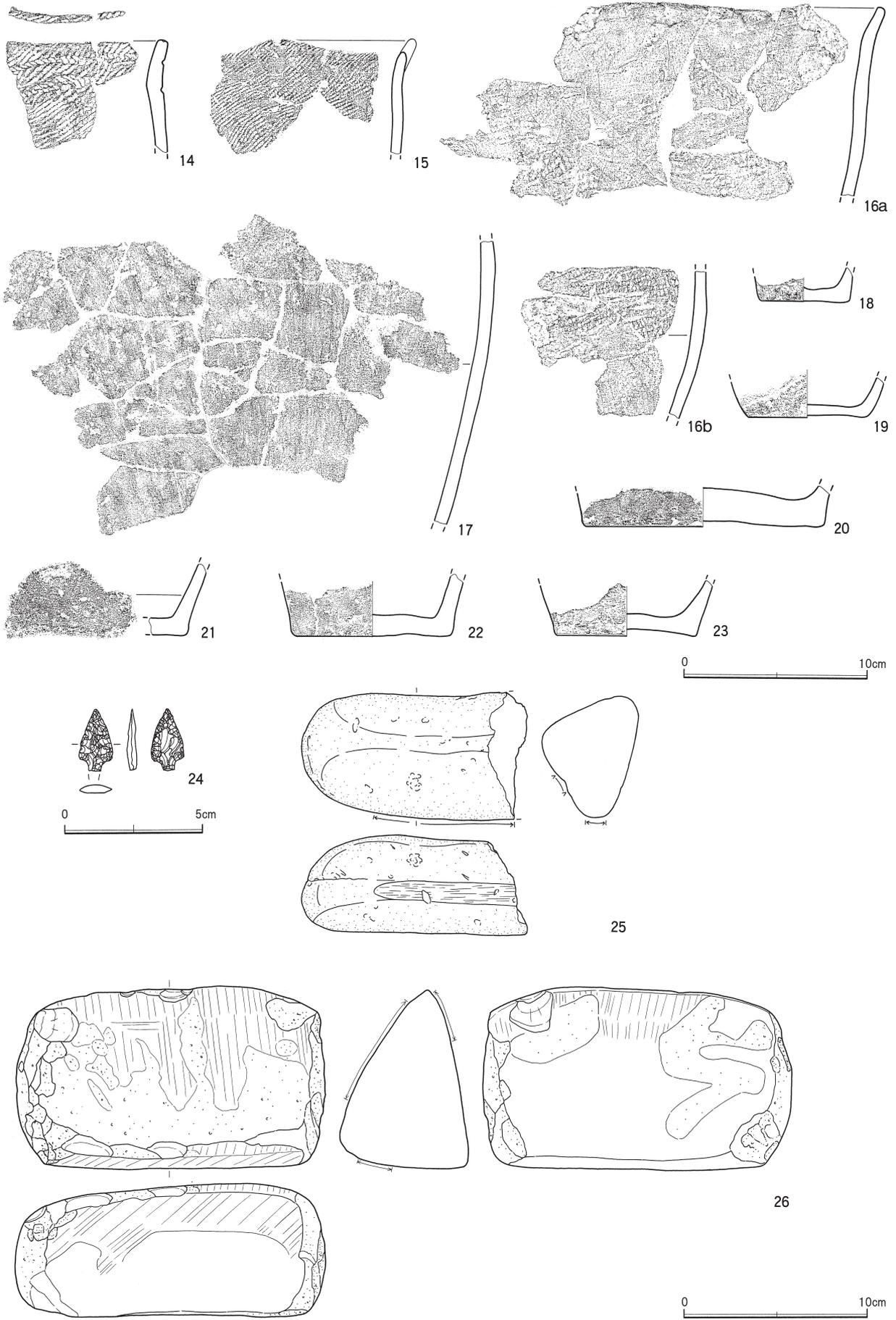
- HP-1
1 10YR1.7/1黒色埴土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 II
- HP-2
1 10YR2/2黒色埴土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 II>III
- HP-3
1 10YR2/3黒褐色埴壤土 しまり弱 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III
- HP-4
1 10YR3/3暗褐色埴土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>IV
- HP-5
1 10YR3/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>IV
- HP-6
1 10YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>IV
- HP-7
1 10YR3/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>IV
- HP-8
1 10YR2/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>IV
- HP-9
1 10YR2/3黒褐色埴壤土 しまり強 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III
- HP-10
1 10YR2/3黒褐色埴壤土 しまり弱 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>II
- 入り口跡
1 10YR3/2黒褐色埴壤土 しまり弱 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏波状 III>II

図IV-9 H-3 (2)





図IV-10 H-3の出土遺物 (1)



図IV-11 H-3の出土遺物 (2)

指頭により圧痕される。2条1組の沈線により口縁～胴上部に文様帯が区画されている。内部にはやはり2条1組の沈線により鋸歯状文と上下に対向する弧状文が組み合わさる。9～13は胴部で、いずれも全体の文様構成は不明である。14は口縁部で、地文はL R斜走縄文。波状の縄線が2条押圧される。口唇にも回転縄文が施される。15・16は縄文のみのもの。いずれも山形突起を有する口縁～胴部。地文は15がL R斜走縄文、16がL R横走縄文。16は口縁部の縄文がナデ消されている。17は無文の胴部で、ヘラ状工具による縦方向の調整痕が残る。18～23は底部。いずれも平底である。(芝田)

石器：24は有茎の石鏃。茎部は明瞭である。25はすり石。断面三角形の礫の稜を擦っている。26は三角柱形石製品。断面三角形の礫の両端部を敲打、おもて面を敲打のち研磨、下面上部を研磨している。図V-2-7-76と類似した調整をしており、同種の石製品と考えられる。(酒井)

H-4 (図IV-12/表1～6/図版7)

確認・調査 III層中位で、長軸約3.0mの黒褐色土の広がりを確認した。長軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。このため、周辺の遺構と比較して大型のため住居跡と判断し、調査を行った。遺構南西側の形状が不明であるが、これは包含層調査時の削平による消失と考えられ、全体の形状から隅丸の方形を呈するものと思われる。

覆土 2層に分層した。いずれもII層主体の自然堆積である。2層にはローム粒が混じる。

形態 平面形は、隅丸の長方形を呈する。壁は、緩く立ち上がり消失部分を除き全周で明瞭に確認できる。床面はIV層を浅く掘り込んでおり、遺構中央部でわずかに起伏が見られるがほぼ平坦である。

付属遺構 炉跡、柱穴等の付属遺構は検出されなかった。

遺物出土状況 覆土と床面から出土している。覆土からは、縄文時代前期前半の土器片2点、スクレイパー1点、剥片9点、礫2点の合計14点が出土している。床面からは、たたき石1点、剥片2点、礫2点の合計5点である。

時期 特定にはいたらなかった。(立川)

遺物 土器：1・2はII群a類。いずれも胴部片である。1は羽状縄文、2は斜走縄文を施している。いずれも摩滅により器面が不鮮明である。胎土は繊維、細砂礫に富む。(芝田)

石器：3はたたき石。扁平礫の両端部に敲打痕がある。(酒井)

H-5 (図IV-13/表1～5/図版7・8)

確認・調査 調査範囲南西側の緩斜面上に立地する。南西側の約1/2が風倒木による攪乱のため壊されている。III層の調査において入り口施設である溝2条を確認し、竪穴住居跡の存在を想定して調査を行い、焼土(HF-1)の検出により床面を確認した。

覆土 風倒木による攪乱により包含層調査の際に検出が遅れたために、残存部分の覆土も削平してしましたが、包含層調査からII層を起源とする腐植土と推定される。

形態 南西側の約1/2が壊されているが、残存する北東側から推定すると平面形はほぼ円形、床面は平坦であり掘りこみは浅い。

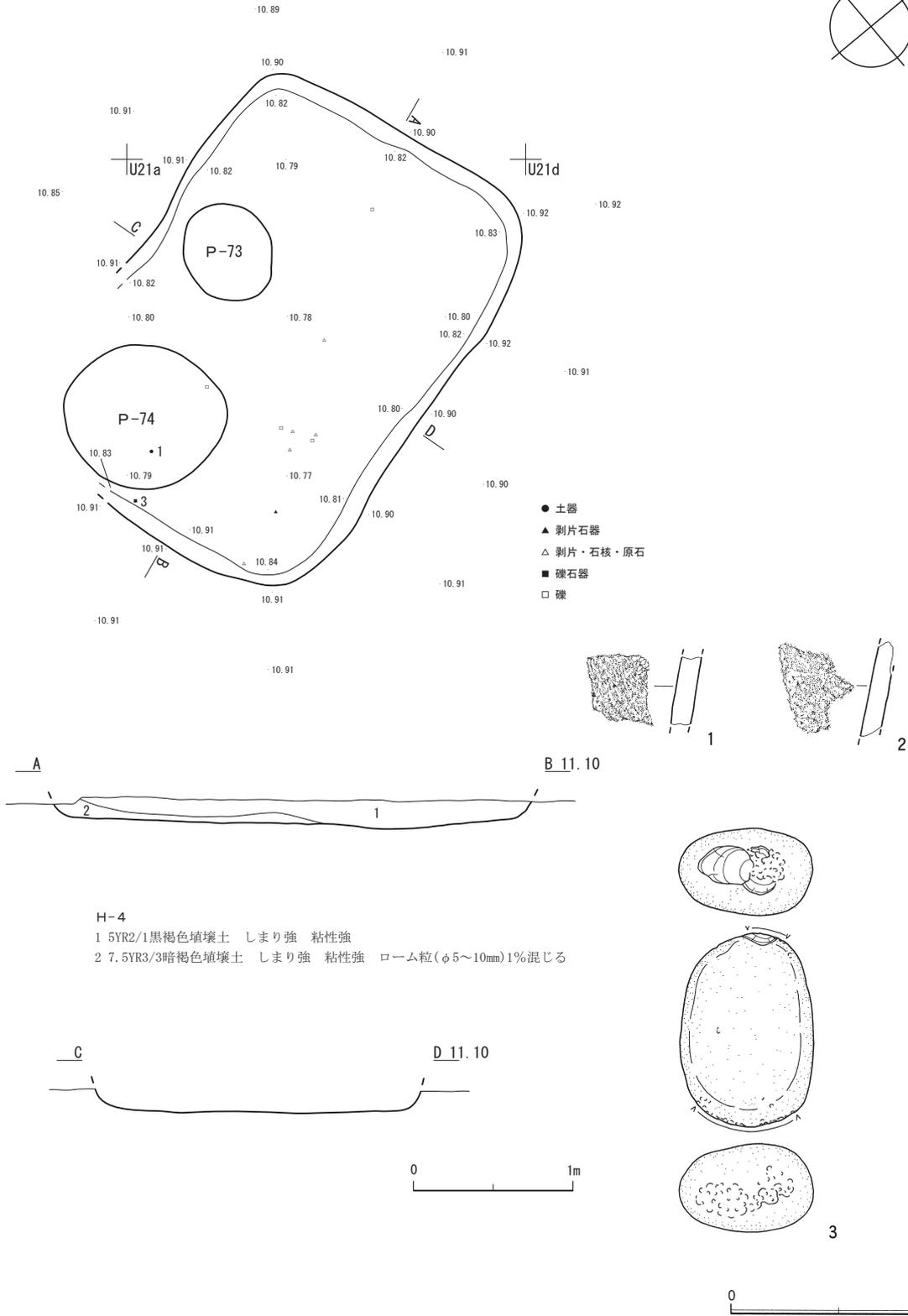
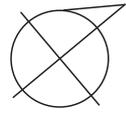
付属遺構 HF-1：推定される床面中心よりやや北側に位置し、攪乱により半分以上が失われている。被熱は弱く、若干赤褐色に変化している程度であり、厚さも数ミリである。

HP-1～11：柱穴は壁際を回って位置する。平面は円形で深さは50cm前後、ほぼ垂直である。南西側は攪乱のため、検出したのはHP-3・4・10のみであった。

入り口跡 1・2：竪穴の南側に長さ約1.2m、幅約0.2m、深さ約0.4mの溝が2条平行して位置する。

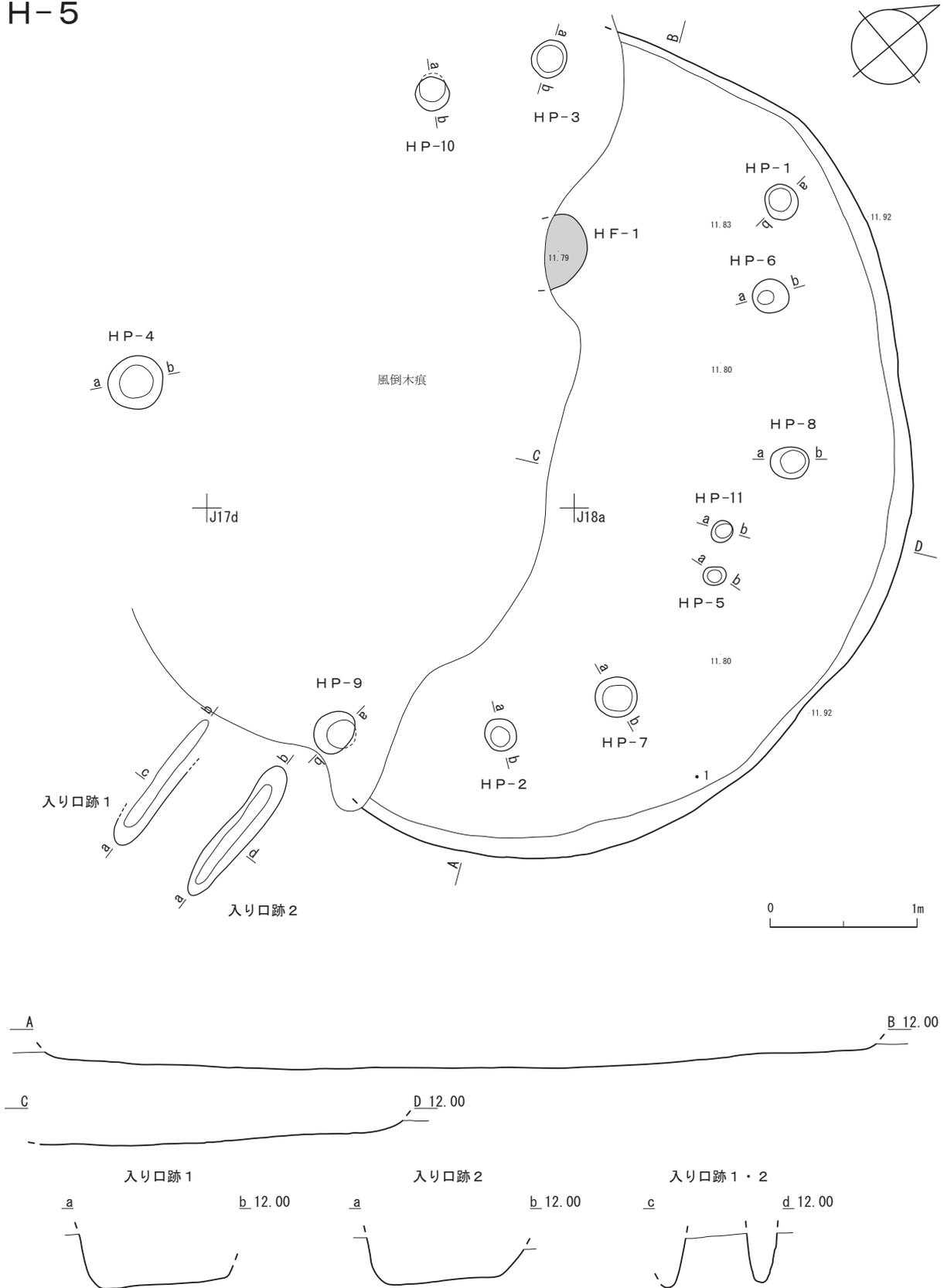
遺物出土状況：土器は床面、HP-3・6・9、覆土よりIV群a類(1～5)が出土している。石器はスクレイパー、扁平打製石器、R剥片、剥片、礫が出土している。

H-4

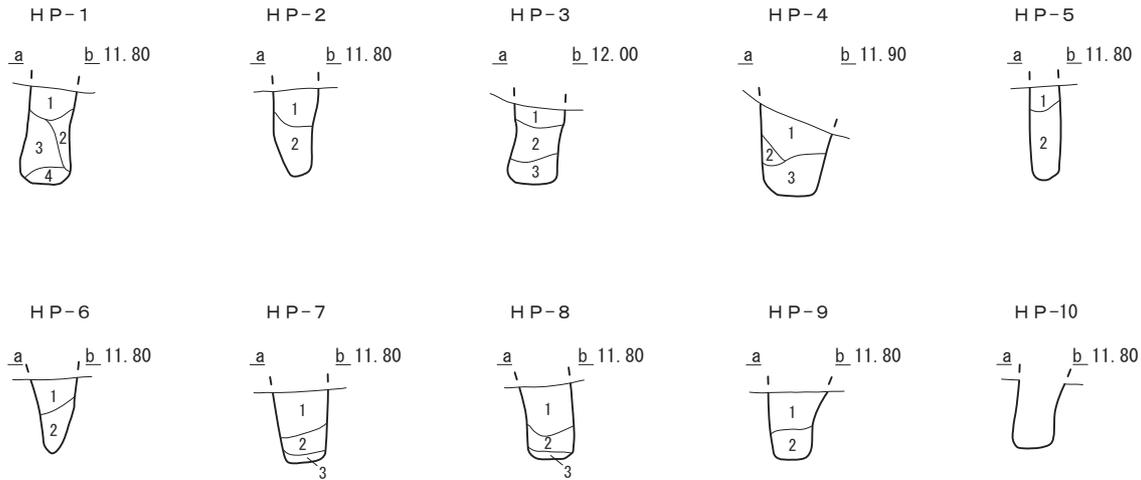


図IV-12 H-4と出土遺物

H-5

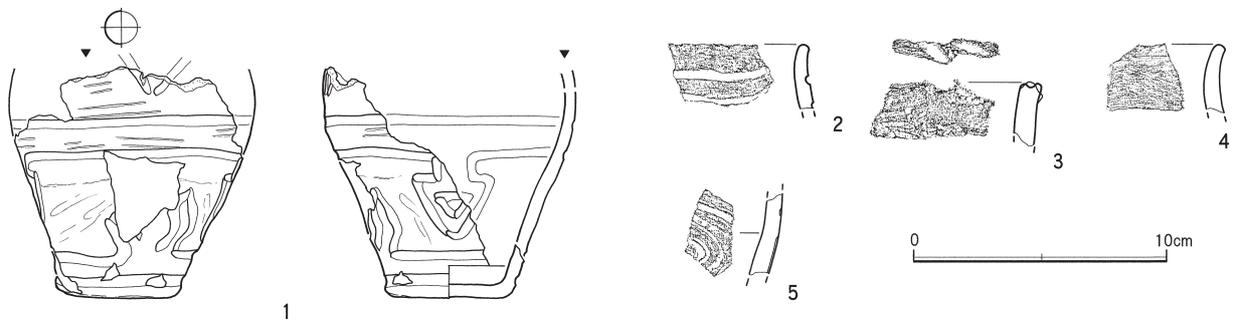
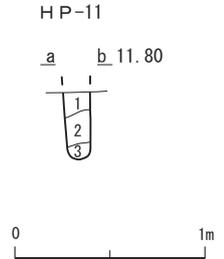


図IV-13 H-5 (1)



- HP-1**
 1 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 赤褐色ローム粒(φ5mm以下)少量含む
 2 10YR4/4褐色土 しまり弱 粘性中
 3 10YR4/2灰黄褐色土 しまり弱 粘性中
 4 10YR5/6黄褐色土 しまり中 粘性中
- HP-2**
 1 10YR4/4にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量含む
 2 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量、ロームブロック多量含む
- HP-3**
 1 10YR5/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 2 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量、赤褐色ローム粒(φ5mm以下)含む
 3 10YR5/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量含む
- HP-4**
 1 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 赤褐色ローム粒少量含む
 2 10YR4/2灰黄褐色土 しまり弱 粘性中
 3 10YR5/3にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
- HP-5**
 1 10YR4/2灰黄褐色土 しまり弱 粘性中
 炭化物少量含む
 2 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 ローム粒(φ10mm以下)多量含む

- HP-6**
 1 10YR4/2灰黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量含む
 2 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
 ローム粒(φ10mm以下)多量に含む
- HP-7**
 1 10YR4/2灰黄褐色土 しまり弱 粘性中
 炭化物少量含む
 2 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
 3 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
 炭化物少量含む
- HP-8**
 1 10YR6/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 ローム主体
 2 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
 黒色土少量含む
 3 10YR5/3にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
- HP-9**
 1 10YR5/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量含む
 2 10YR4/2灰黄褐色土 しまり弱 粘性中
 炭化材少量含む
- HP-11**
 1 10YR5/2灰黄褐色土 しまり中 粘性中
 炭化物少量含む
 2 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
 3 10YR5/4にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中



図IV-14 H-5 (2) と出土遺物

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。 (菊池)

遺物 土器：1～5はIV群a類。いずれも無文地に沈線で文様が描かれるもの。1は胴中～底部が復元された小型の深鉢。全体の約2/3が残存し、底径4.5cm、胴部の最大径9.9cmを測る。胴部が膨らみ、口縁部が内傾もしくは括れる器形と推測される。底部は平底。上下の平行沈線から配される矢印状の文様と花卉状の文様が竹管状施文具により交互に描かれる。外面は丁寧に磨かれるが、内面は指頭による調整痕が残る。色調は外面が暗褐色～黒褐色、内面が褐色～暗褐色を呈する。内面の一部に炭化物が付着する。胎土に白色岩片が混入する。焼成は良好で、硬くしまる。2～4は口縁部。2は2条の平行沈線が見られる。3・4は無文。3は口唇が棒状施文具により斜めに刻まれる。4は内外面ともによく磨かれている。5は胴部。櫛歯状施文具により同心円状の曲線文が描かれる。 (芝田)

H-6 (図IV-15/表1・2・4・6/図版8・9)

確認・調査 調査範囲南側の緩斜面上に掘り込まれた竪穴住居跡。Ⅲ層上面で、Ⅱ層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、しまりのある床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はⅡ層中と推測される。全体の約1/3は調査範囲外である。R16・17調査区にかかる部分は、包含層調査の際に検出が遅れたために削平してしまった。

覆土 1層はⅡ層を起源とする腐植土。2層は腐植土とロームの混合で、掘り上げ土の流入もしくは屋根葺き土の可能性がある。いずれも自然堆積である。

形態 平面形は楕円形と推測される。壁面は明瞭で、緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。床面から土坑3基(HP-1～3)が検出された。掘り込みの外側に柱穴は確認されなかった。

付属遺構 **HP-1～3**：HP-1は床面のほぼ中央、HP-2・3は北東側の壁際に位置している。いずれも深さが10～20cmほどの浅い土坑で、平面形が円形または楕円形を呈する。

遺物出土状況 土器は出土していない。石器等は石鏃(1)、へら状石器、たたき石(2)、台石(3)、U剥片、剥片、礫などが出土している。

時期 遺構の内部より時期が特定できる遺物は出土しなかった。周辺の遺物包含層よりI群b-4類土器が多く出土していることから、縄文時代早期後半の可能性はある。 (芝田)

石器：1は石錐。剥片を両面加工して刺突部を作出している。2はたたき石。扁平礫の両端部・左側縁・腹背部に敲打痕がある。3は石皿片。平坦な使用面がある。 (酒井)

H-7 (図IV-16/表1～5/図版9)

確認・調査 標高11.8mの平坦面に立地する。IV層まで下げたところ、頁岩の剥片が散在する黒褐色の落ち込みを検出した。竪穴住居跡を想定し、ベルトを設定して掘り下げた。

覆土 上部を削平してしまったため、わずかに覆土が残る。3層に分層した。1層は床面に広く堆積し、非常に堅くしまった層である。

形態 平面形は、ほぼ楕円形である。床面は平坦。壁は緩やかに立ち上がる

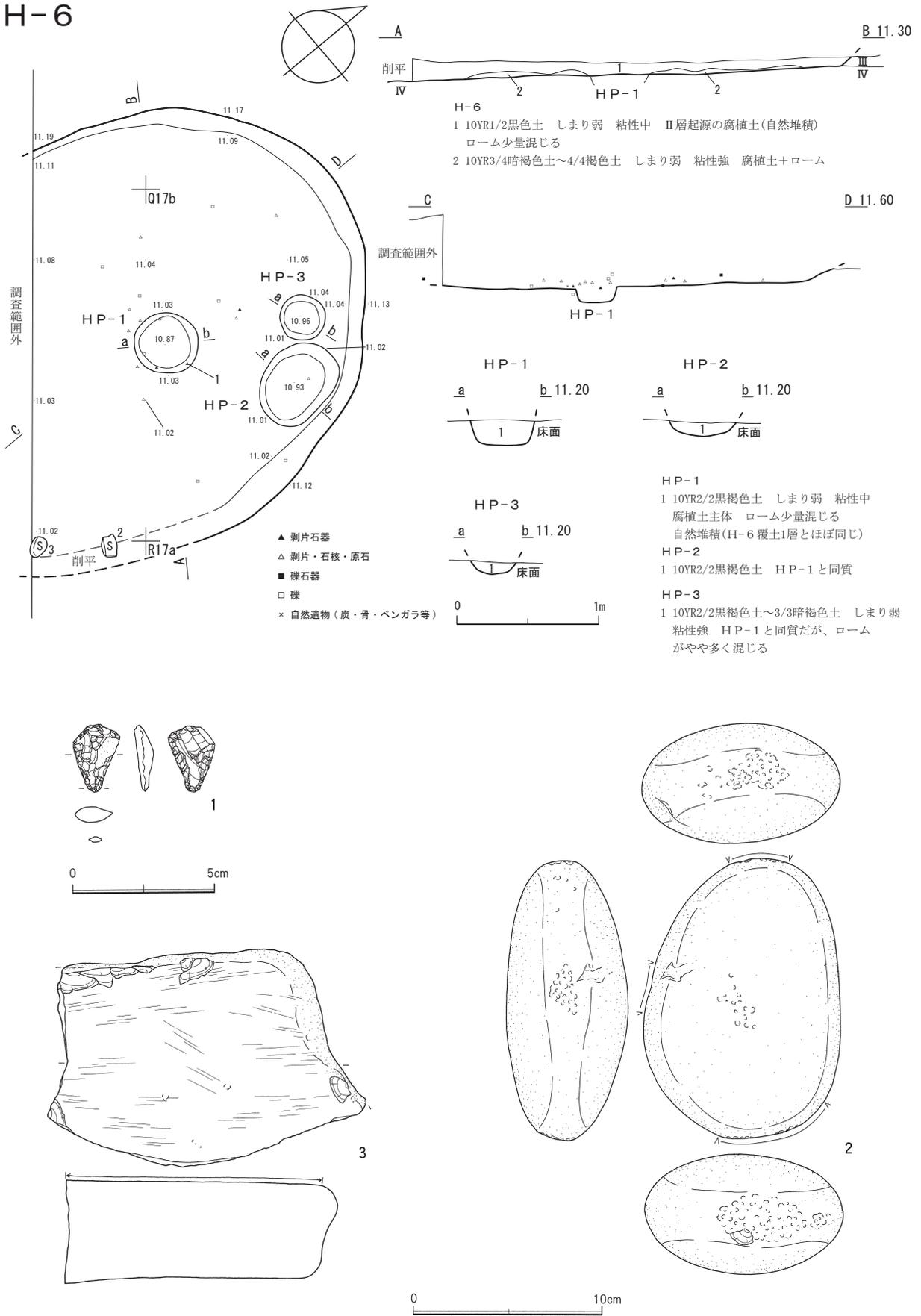
付属遺構 焼土や柱穴はなかった。

遺物出土状況 床面からIV群a類土器、スクレイパー、R剥片、U剥片、剥片、礫・礫片が出土している。

時期 床面出土の遺物から縄文時代後期前葉と思われる。 (新家)

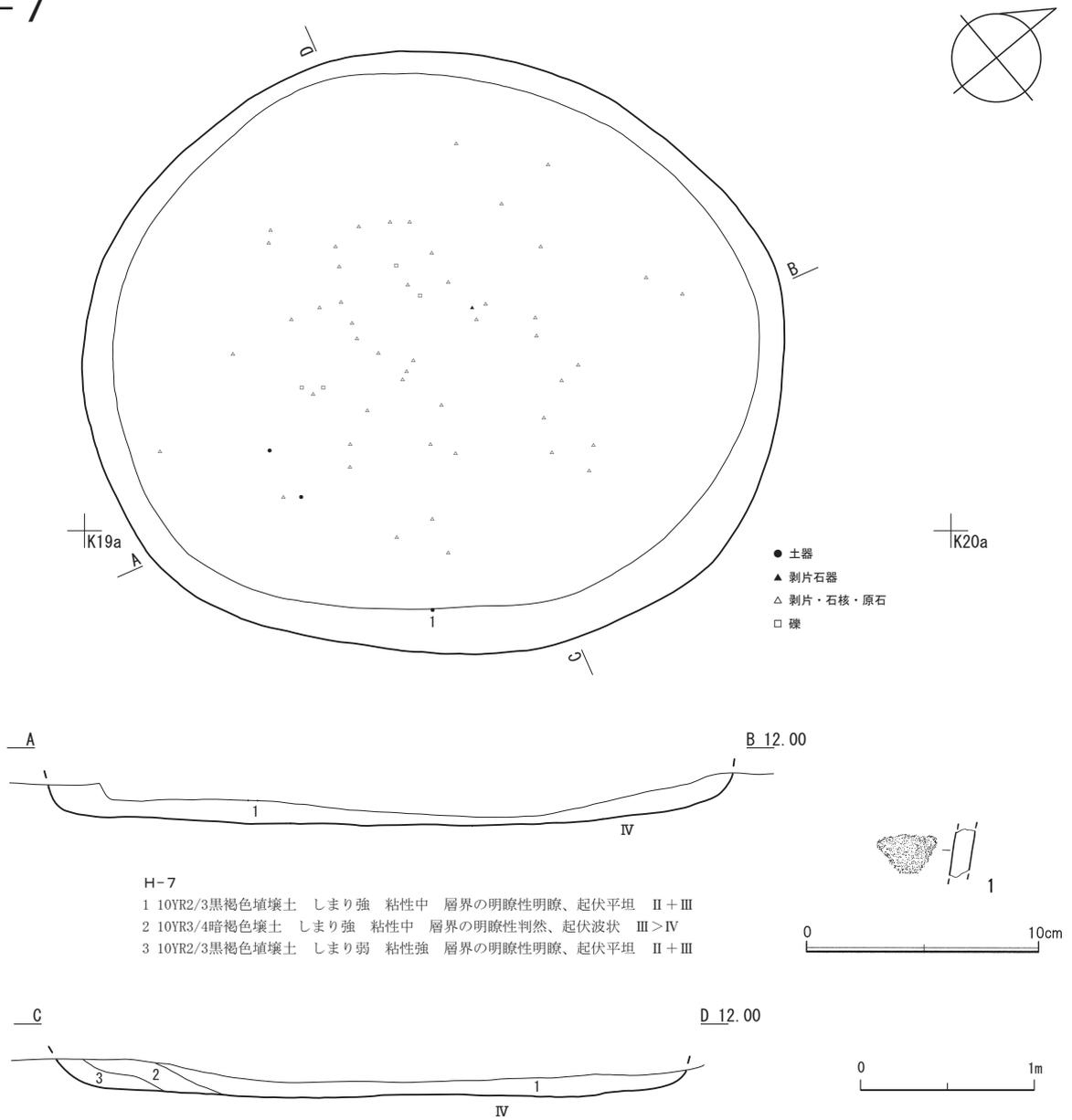
遺物 土器：1はIV群a類。無文の胴部片である。 (芝田)

H-6



図IV-15 H-6と出土遺物

H-7



図IV-16 H-7と出土遺物

H-8 (図IV-17/表1/図版9)

確認・調査 標高12.0mの平坦面に立地する。Ⅲ層下位で散漫に広がる焼土3か所(HF-1~3)を確認。さらに周辺を精査し、柱穴と思われる小土坑3基(HP-1~3)を検出した。これらの柱穴と焼土の位置関係から、ここに平地式住居、あるいは掘り込みの浅い住居が存在したと考えた。周辺は道路側溝や木根等の攪乱が激しく、住居跡の輪郭等は確認できなかった。

覆土 検出していない。

形態 調査中に明瞭な覆土の輪郭は確認できなかったため、平面形は不明。床面と考えられる部分も木根等の攪乱が激しく、平坦な面を検出できなかった。

付属遺構 HF-1~3 :いずれも焼けは弱く、色も層厚も薄い。また木根等の攪乱を受けており、本来の形を残していないと思われる。周囲にまとまった焼土は検出されていないので、住居に伴う焼土と判断した。

HP-1~3 : HF-1~3の周囲より検出した。HP-1は深さ30cm以上、HP-2・3は深さ50cm以上あり、ほぼ垂直に掘り込まれている。覆土はⅢ層起源でしまりがある。

遺物出土状況 住居の範囲と重なるH17・18調査区の包含層からは、Ⅳ群a類の土器片が508点出土しており、この住居跡に伴う可能性がある。

時期 周辺の包含層より出土した遺物から、縄文時代後期前葉と考えられる。(新家)

H-9 (図IV-18・19/表1~6/図版10)

確認・調査 調査範囲北西側の緩斜面上に立地する。町道蛇内線下の遺物包含層を確認するためアスファルト舗装および砂利路盤を除去したところ、礫の集中を伴う焼土(HF-1)を検出した。周辺を精査した結果、攪乱によりⅡ層の大半が失われており、Ⅲ~Ⅳ層中に黒色土が疎らに落ち込んでいることが判明した。土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、しまりのある床面を確認した。掘り込み面はⅡ層中と推測される。

覆土 攪乱により覆土の下部のみが残存する。1層はⅡ層を起源とする腐植土。2層は腐植土とロームの混合で、掘り上げ土の流入もしくは屋根葺き土の可能性がある。いずれも自然堆積である。上部に道路があったため、非常に硬くしまっている。

形態 平面形は北端が尖った不整な円形。床面はほぼ平坦であるが、中央部がわずかに低い。壁面は南側で立ち上がり下部が残存するが、北側は一部を除き壊されている。床面西~南側から焼土1か所(HF-1)、小土坑2基(HP-1・2)が検出された。床面の東側および外側に付属遺構は確認されなかった。

付属遺構 HF-1 :床面中央よりやや南側に設けられた石囲炉。礫は概ね焼土の周縁に弧状に配されているが、礫をはめ込んでいたと推測される小さなくぼみと出土位置が一致せず、全周もしていないことから、道路工事などの影響により原位置を動いている可能性が高い。礫の大半は被熱している。たたき石1点(4)が炉材に転用されている。

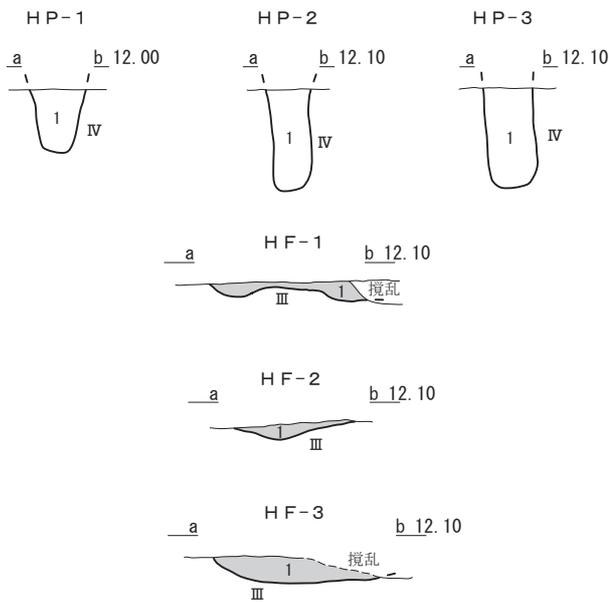
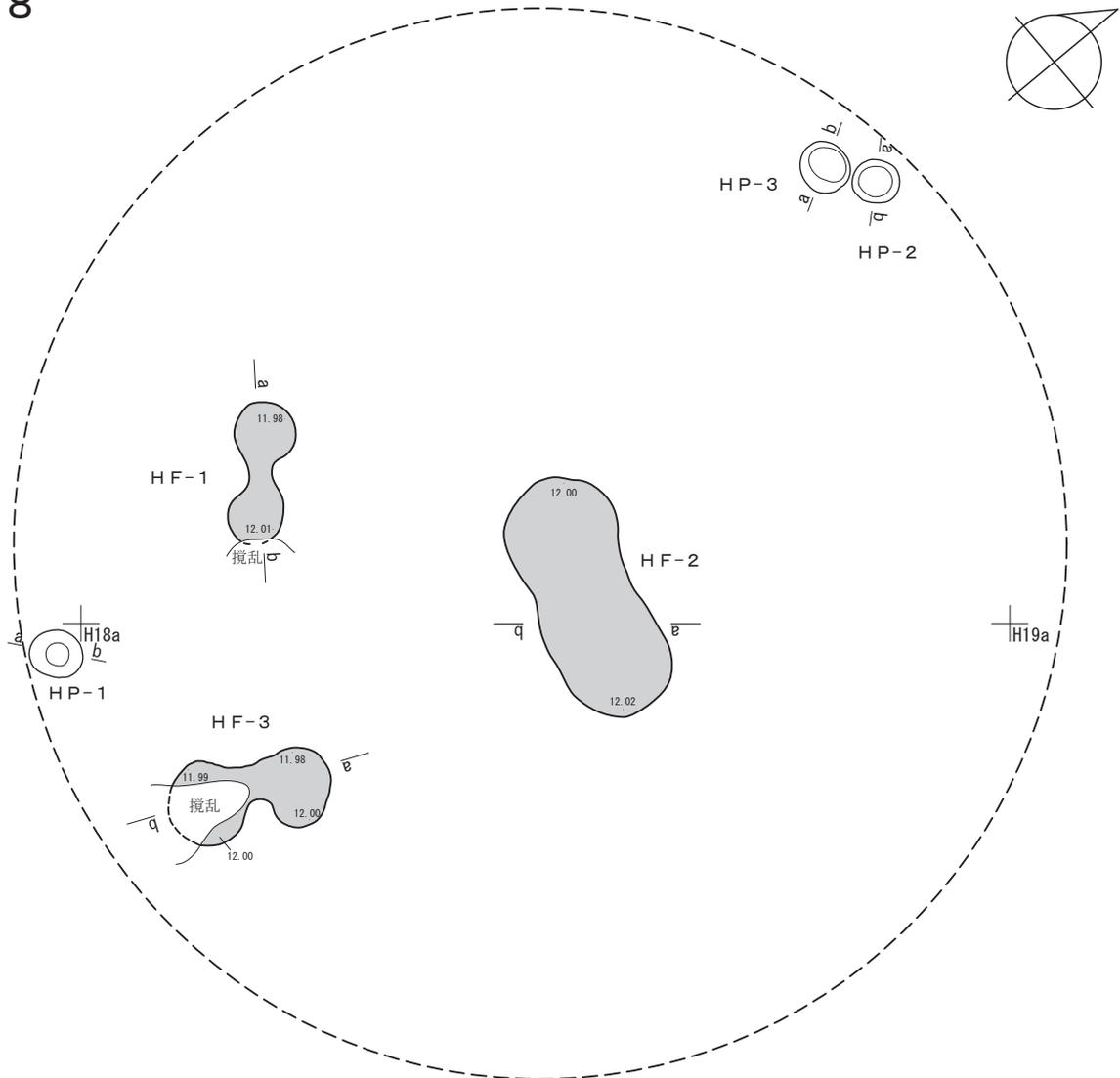
HP-1・2 :これらは床面北西側に間隔を空けて設けられており、柱穴としての用途が想定される。坑口部の平面形はいずれも円形を呈する。HP-1は掘り込みがやや内傾し、深さは床面より18cmである。HP-2は掘り込みが垂直で、深さは床面より35cmである。

遺物出土状況 床面の遺物は南側に集中しており、北側では出土していない。土器はⅣ群a類(1)が出土している。石器等はスクレイパー(2)、石斧(3)、R剥片、剥片、礫などが出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉である。

遺物 土器 :1はⅣ群a類。RL縄文を施した後、屈曲する沈線で区画し、内部を磨り消している。(芝田)

H-8



HP-1
1 10YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
層界の明瞭性判然、起伏波状 III

HP-2
1 10YR3/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性中
層界の明瞭性判然、起伏波状 III

HP-3
1 10YR3/4暗褐色壤土 しまり強 粘性中
層界の明瞭性判然、起伏波状 III

HF-1
1 7.5YR3/4暗褐色埴壤焼土 しまり強 粘性強
層界の明瞭性判然、起伏不規則 IIIの焼土

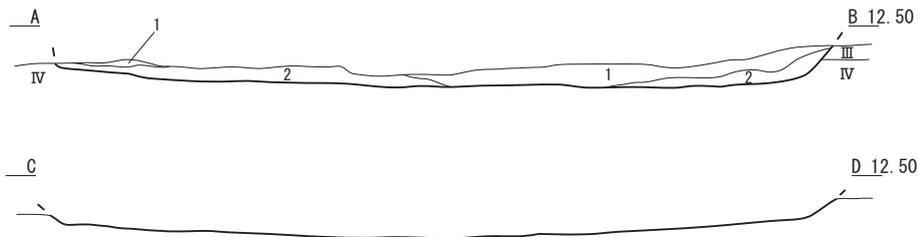
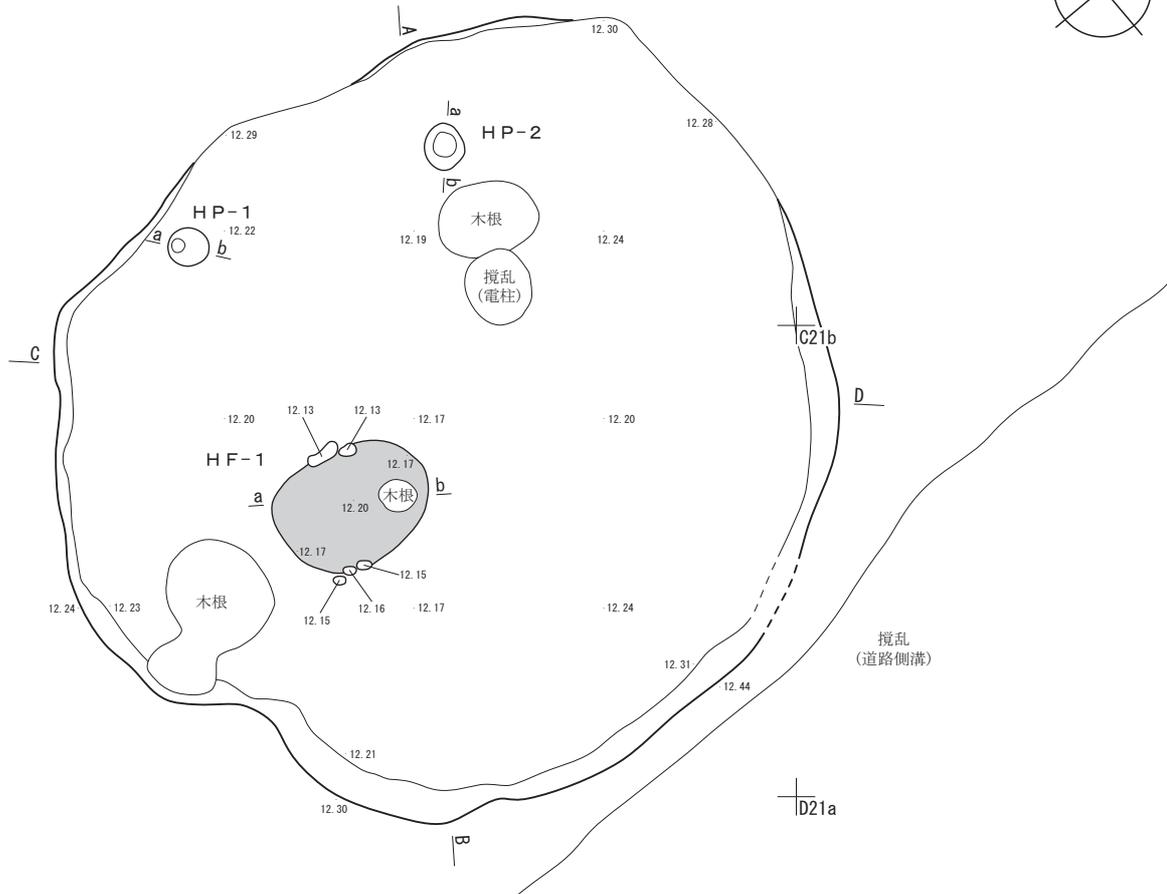
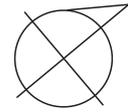
HF-2
1 7.5YR3/4暗褐色埴壤焼土 しまり強 粘性強
層界の明瞭性判然、起伏不規則 IIIの焼土

HF-3
1 5YR4/8赤褐色埴壤焼土 しまり強 粘性強
層界の明瞭性漸変、起伏不規則 IIIの焼土



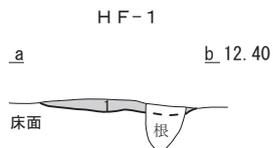
図IV-17 H-8

H-9



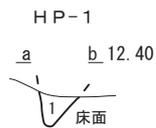
H-9

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中 腐植土主体 ローム、炭化材 (φ10mm以下)少量混じる 路盤による攪乱を受け、固くしまっている
- 2 10YR4/4褐色土~4/3暗褐色土 しまり強 粘性強 ローム主体 腐植土 がまばらに混在する 路盤による攪乱を受け、固くしまっている



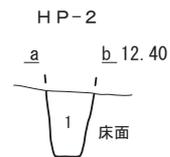
HF-1

- 1 10YR3/1黒褐色土~5YR5/8明赤褐色土 しまり強 粘性弱 H-9の覆土1層にオレンジ色の焼土粒が斑状に混じる 層界不明瞭(漸退)



HP-1

- 1 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中 腐植土とロームの混合 炭化材(φ5mm以下)少量混じる



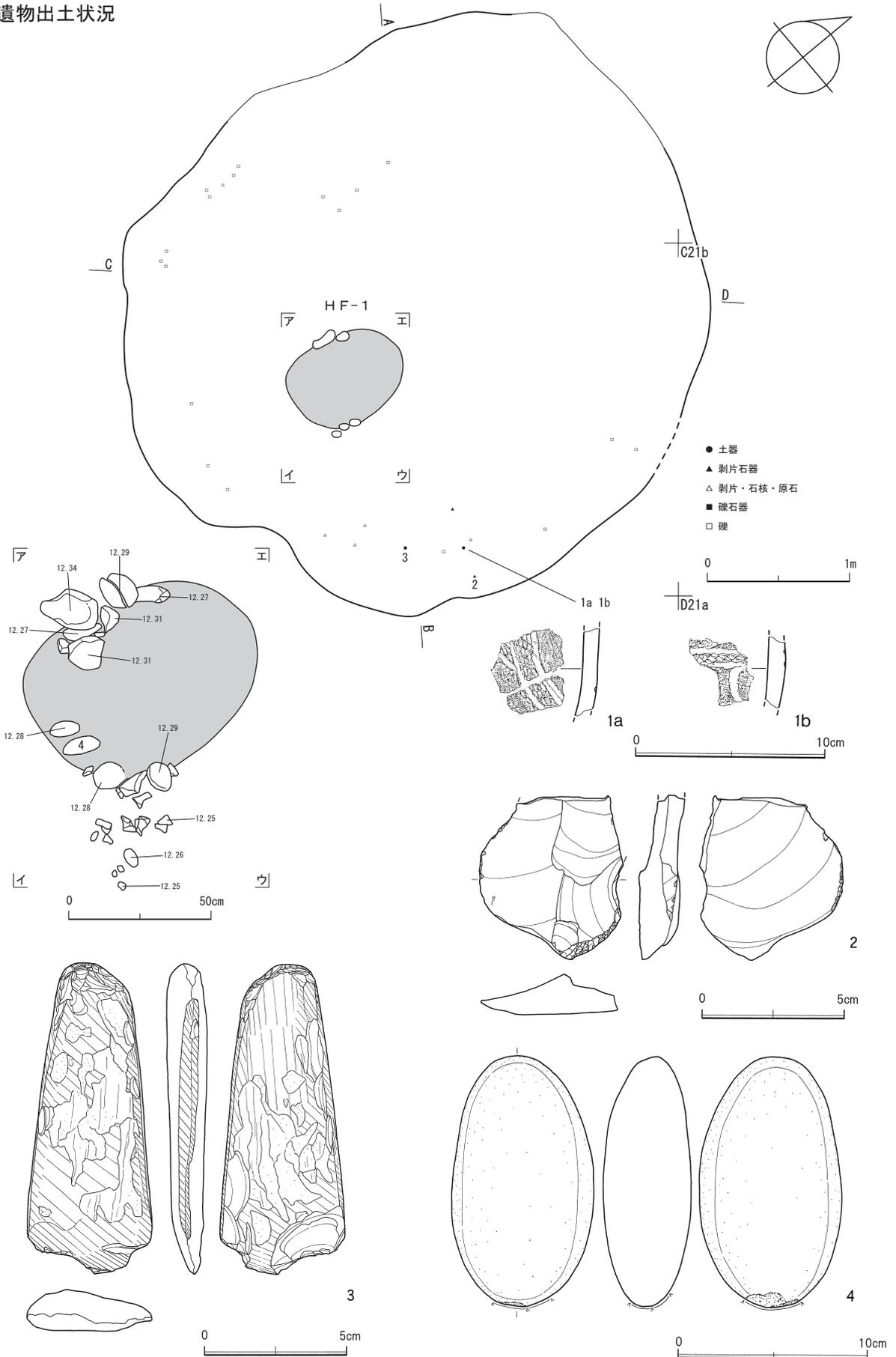
HP-2

- 1 HP-1と同様



図IV-18 H-9 (1)

床面遺物出土状況



図IV-19 H-9 (2) と出土遺物

石器：2はスクレイパー。剥片の周縁に刃部を作出している。3は短冊形の石斧。両刃で円刃。打ち欠きによって整形した後に全面を研磨で整えている。4はたたき石。扁平な棒状礫の下端部に敲打痕がある。(酒井)

H-10 (図IV-20/表1~5/図版11)

確認・調査 調査範囲南西側の緩斜面上に立地する。町道蛇内線下で疎らに残存していたⅡ層中で、弱い焼土(HF-1)を検出した。これを住居の中心と仮定してトレンチ調査を行なったが、明瞭な床面や壁は確認されなかった。周辺をさらに掘り下げて精査したところ、Ⅳ層上面で柱穴と考えられる小土坑6基(HP-1~6)を検出した。これらの位置関係から、住居跡が存在した可能性が高いと判断した。

覆土 HF-1とHP-1~6の周辺からは、住居跡の覆土と断定できる堆積土は確認されなかった。町道蛇内線下は砂利路盤による攪乱が著しいことから、覆土の大部分は失われたと考えられる。

形態 床面と壁が確認されていないため、全体の形状は不明である。HP-1~6を床面に設けられた柱穴と見なすと、平面形はこれらを内包する楕円形であった可能性がある。HF-1の検出面がⅡ層下位で、実際に使用されていた火床はもっと上位と考えられることから、床面はⅡ層中であろう。すなわち、周辺で検出されたH-3・5・8のような掘り込みのごく浅い住居跡、もしくは掘り込みをもたない掘立柱建物であったと推測される。

付属遺構 HF-1：HP-1~6から推測される床面の中心よりやや北側に位置する。上部の灰層などは攪乱により失われており、下部のⅡ層が被熱により赤褐色に変化した焼土のみが残存する。

HP-1~6：3基ずつが並列し、2.2m×3.6mの長方形を構成する。それぞれの平面は円形もしくは楕円形で、掘り込みは垂直である。坑底面は平坦で、尖っていない。深さは検出面より15~30cmである。

遺物出土状況 HP-1~6より、Ⅳ群a類(1~3)、剥片、礫が出土している。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉である。

遺物 土器：1~3はⅣ群a類。1・2は口縁部で、無文地に沈線で文様が描かれるもの。いずれも平行沈線から垂下する曲線文が配されている。3は大部分が無文の胴部片。上部に不鮮明ではあるがLR斜走縄文が見られる。H-12の1と同一個体の可能性がある。(芝田)

H-11 (図IV-21~24/表1~6・9/図版12)

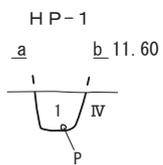
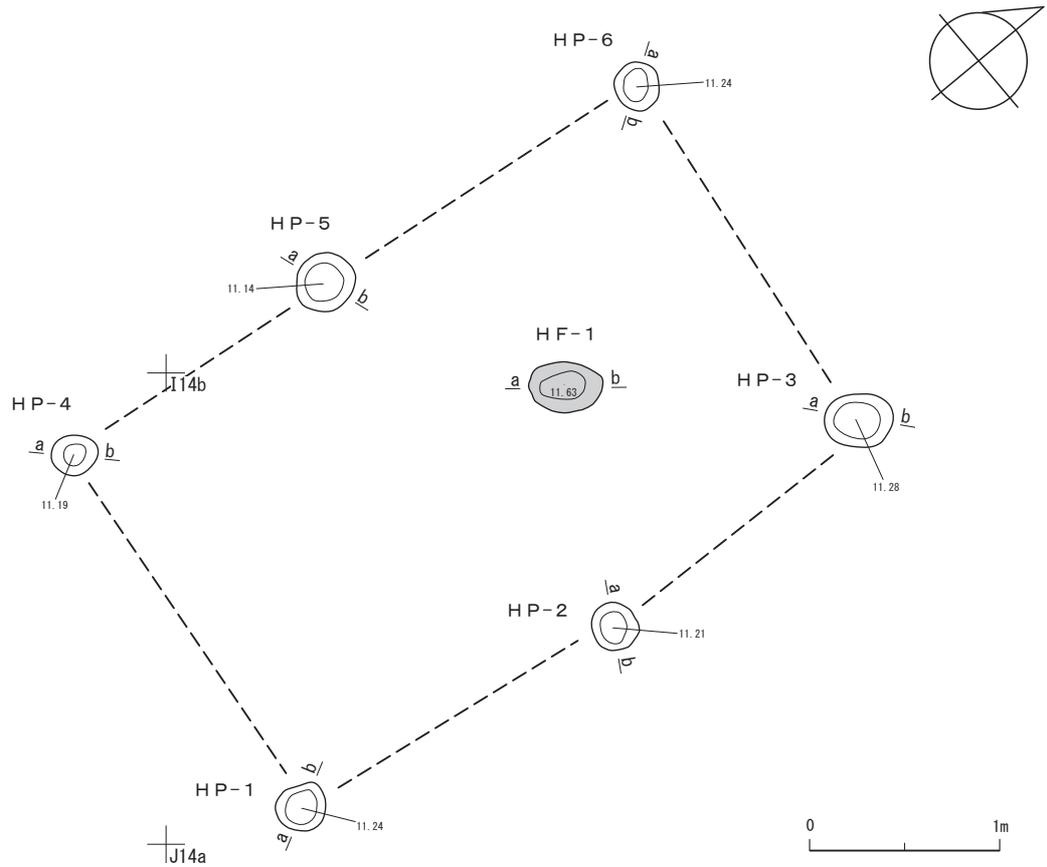
確認・調査 Ⅱ層を除去した段階で、黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みの中心から直交する土層観察用のセクションベルトを設定した。トレンチ調査を行い、床と壁の立ち上がりを確認した。床面の土壌を採取してフローテーション作業を行った。

覆土 上位(1層)は自然堆積層で、下位(2層)は多量のロームや炭化物を含む層が床面まで堆積している。

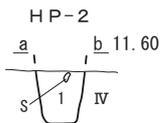
形態 平面形は長円形を呈する。床はやや凹凸がある。壁は急角度で立ち上がる。東側の床・壁の一部は側溝構築時に壊されている。

付属遺構 炉は床面中央より東側で検出された(HF-1)。浅い掘り込みをもち、炭化物を含む。HF-1より採取した炭化物2点を試料として放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ、 $4,560 \pm 30\text{yrBP}$ (HEBI 2-3)、 $4,620 \pm 30\text{yrBP}$ (HEBI 2-4)という数値が得られた(Ⅵ章第1節参照)。柱穴は5基検出された(HP-2~6)。このうち主柱穴と思われるものが4基ある(HP-2~5)。HP-6は位置関係からみてHP-4の補助的な性格のものと思われる。中央の床面で浅い柱状の小ピットが検出された(HP-1)。性格は不明である。

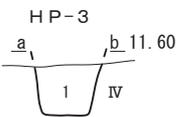
H-10



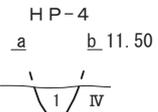
HP-1
1 10YR1.7/1黒色腐植土 しまり弱 粘性強
炭化材(φ10mm以下)少量混じる



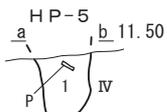
HP-2
1 HP-1と同様



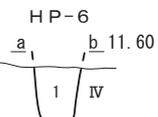
HP-3
1 HP-1と同様



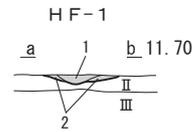
HP-4
1 10YR2/3黒褐色腐植土主体 しまり弱 粘性強
ローム少量混じる



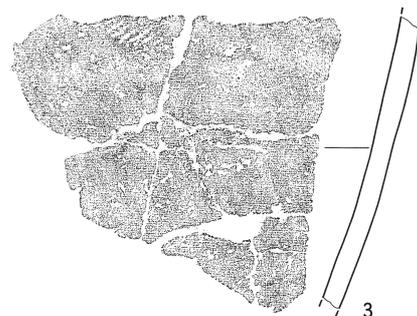
HP-5
1 HP-1と同様



HP-6
1 HP-1と同様



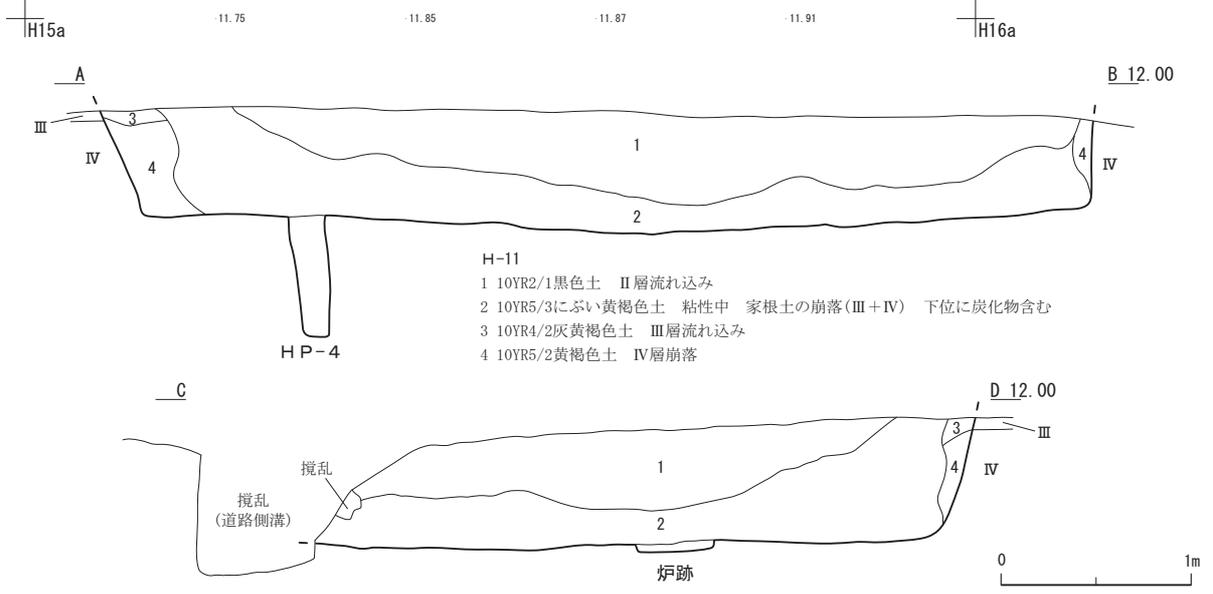
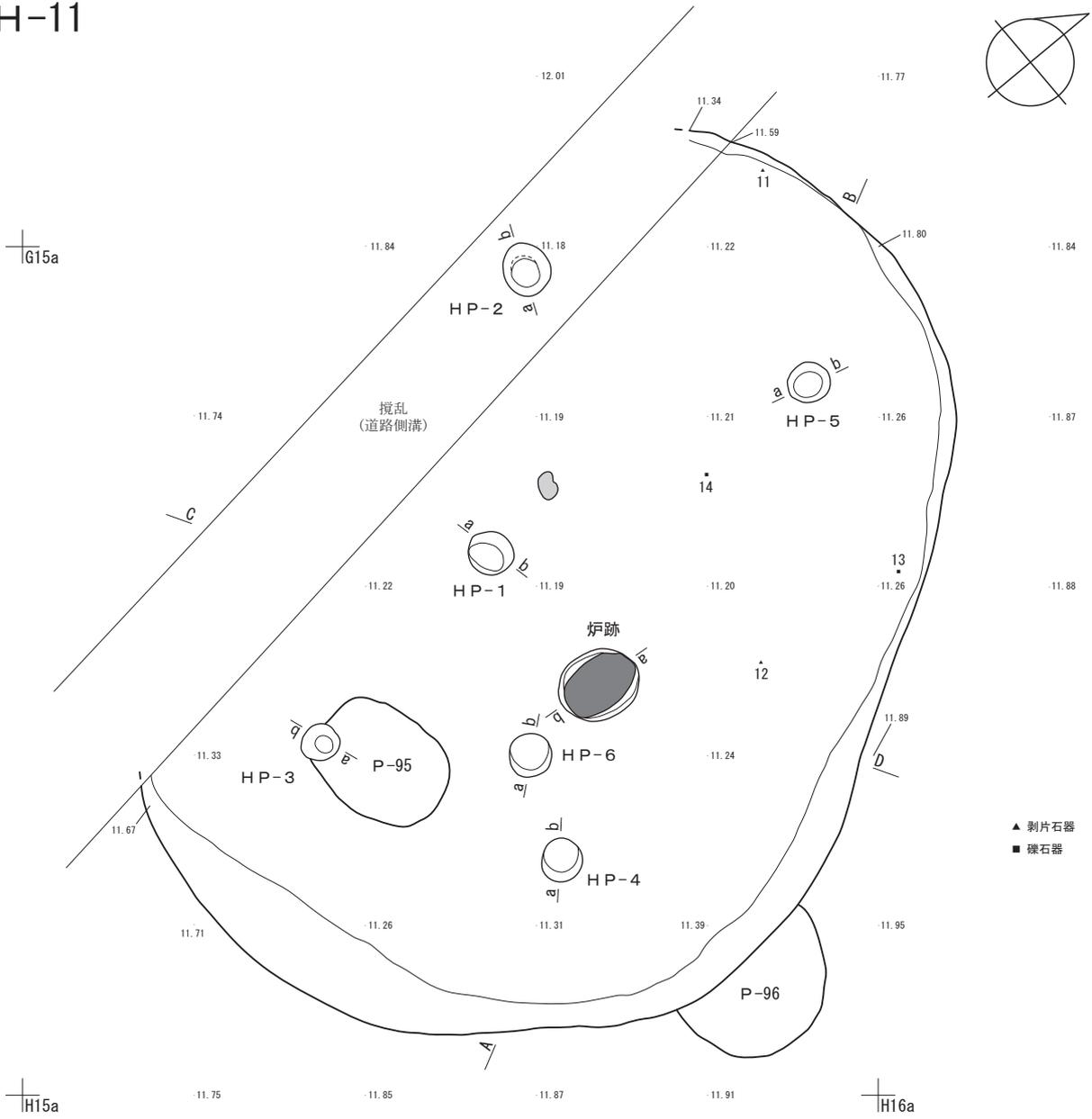
HF-1
1 5YR4/8赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
炭化材(φ5mm以下)微量に混じる
弱く焼けている
2 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性中
II層土に焼土粒(φ5mm以下)、炭化材
(φ3mm以下)少量混じる



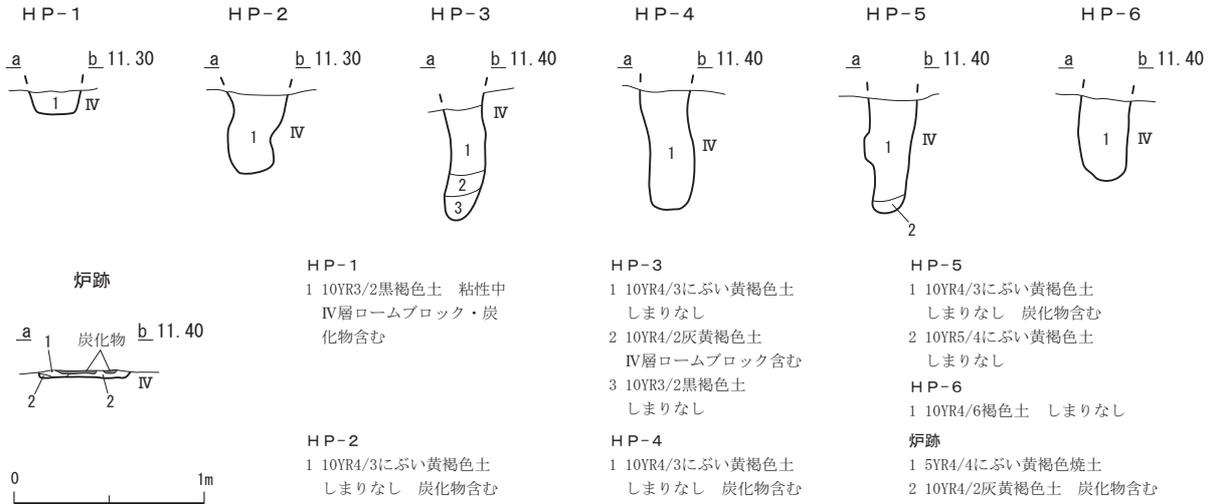
0 10cm

図IV-20 H-10と出土遺物

H-11



図IV-21 H-11 (1)



図IV-22 H-11 (2)

遺物出土状況 北西側の覆土1層からII群b類土器がまとまって出土した。

時期 出土したII群b類土器からみて、縄文時代前期後半と考えられる。(佐藤)

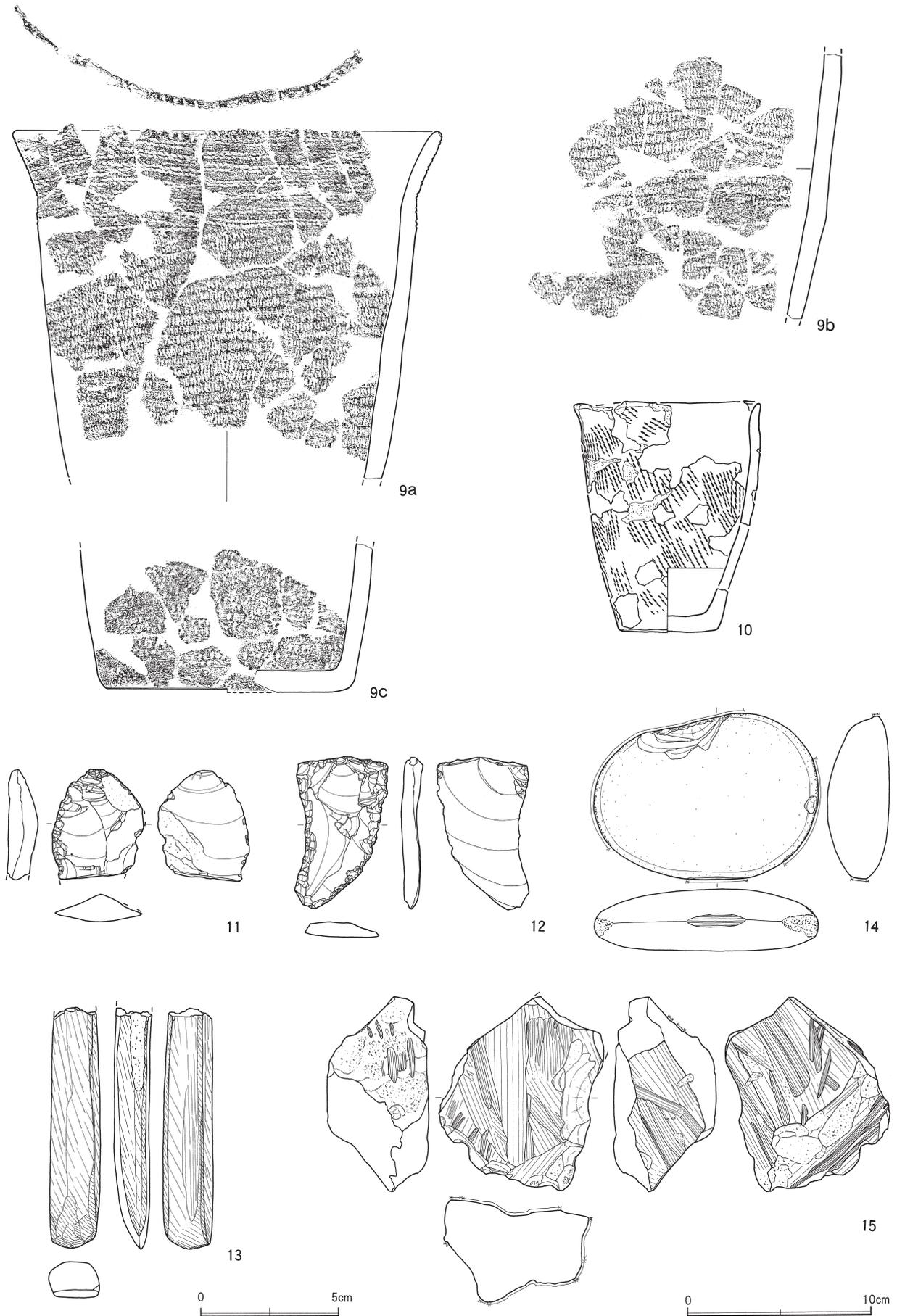
遺物土器：1～10はII群b類。いずれも口縁部が外傾し、胴部前半が少し膨らむ器形である。内面は丁寧に研磨されている。1～7は胴部に単軸絡条体の回転文が縦走するもの。口縁部には2条1組の撚糸文が横走する。1～4は口縁部と胴部は結束第1種の羽状縄文により区画されている。8・9は胴部に多軸絡条体の回転文が施されるもの。口縁部には撚糸文が多段に施され、口唇が縄文原体により刻まれる。8は口縁部に上下2段の半截竹管による横向きの刺突列が加えられる。9は平底。10は口縁～底部が復元された小型の深鉢。口径10.1cm、底径5.4cm、器高12.6cmを測る。器厚は0.4～0.5cmと薄い。口縁部がわずかに外反する器形で、平底。口縁部は緩い小波状を呈する。口唇断面は丸い。文様帯が見られず、単節Lの撚糸文が縦位あるいは斜位に施される。内外面には指頭による凹凸が見られる。色調は内外面ともに褐色～暗褐色を呈する。胎土は繊維、細砂礫が多く混入する。

(芝田)

石器：11・12はスクレイパー。11は剥片の周縁に刃部を作出している。12は剥片の側縁に円弧状の刃部を作出している。13は石のみ。全体を研磨によって整形している。片刃で円刃。14はすり石。扁平礫の側縁の一部に擦り痕がある。周縁に敲打痕がみられることからたたき石としても利用したとみられる。15は砥石。研磨面に溝がある。矢柄研磨器としても利用された可能性がある。また、凹状の敲打痕がありたたき石としても利用されたとみられる。(酒井)



図IV-23 H-11の出土遺物 (1)



図IV-24 H-11の出土遺物 (2)

H-12 (図IV-25/表1~5/図版13)

確認・調査 調査範囲南西側の緩斜面上に立地する。町道蛇内線下のⅢ~Ⅳ層上位で焼土(HF-1)を検出した。これを住居の中心と仮定してトレンチ調査を行なったが、明瞭な床面や壁は確認されなかった。周辺をさらに精査したところ、Ⅳ層上位で柱穴と考えられる小土坑7基(HP-1~7)を検出した。これらの位置関係から、住居跡が存在した可能性が高いと判断した。

覆土 HF-1とHP-1~7の周辺からは、住居跡の覆土と断定できる堆積土は確認されなかった。町道蛇内線下は砂利路盤による攪乱が著しいことから、覆土の大半は失われたと考えられる。HF-1上部の、炭化材や焼土粒を含む腐植土は、覆土の最下層(床面直上)の一部であろう。

形態 全体の形状は不明であるが、HP-1~7を床面の壁際を巡る柱穴と見なすと、平面形はこれらを内包する円形または楕円形であった可能性がある。HF-1の検出面がⅢ~Ⅳ層上位で、床面もほぼ同じ層位かやや上位に設けられていたと推測される。

付属遺構 HF-1: HP-1~7から推測される床面の中心よりやや南側に位置する。平面形は楕円形。上部には、炭化材・焼土粒を多量に含む腐植土とロームが同心円状に分布する。下部はⅣ層が被熱により赤褐色に変化した焼土で、断面はレンズ状である。

HP-1~7: HP-1~4・6・7は、HF-1の周囲を1.8m~2.8mほどの間隔で巡っている。HP-5のみが、HP-6に隣接してやや内側に位置する。平面は円形もしくは楕円形で、掘り込みは、HP-1~4が垂直、HP-5~7は内傾する。検出面からの深さは北側のHP-1~5が20~35cmであるのに対して、南側のHP-6・7は45cm前後とやや深い。

遺物出土状況 HP-5~7より、Ⅳ群a類(1・2)、剥片が出土している。また、図V-1-13-77のⅣ群a類の深鉢は、包含層出土のものとしたが、出土地点がHP-1~4より内側で、出土層位もHF-1の検出面とほぼ同じであることから、この住居跡に伴っていた可能性がある。

時期 出土遺物から、縄文時代後期前葉である。

遺物 土器: 1・2はⅣ群a類。1は山形突起をもつ口縁部片。無文地に櫛歯状施文具により平行沈線が数条描かれる。2は無文の胴部片。(芝田)

H-13 (図IV-26/表1~5/図版13・14)

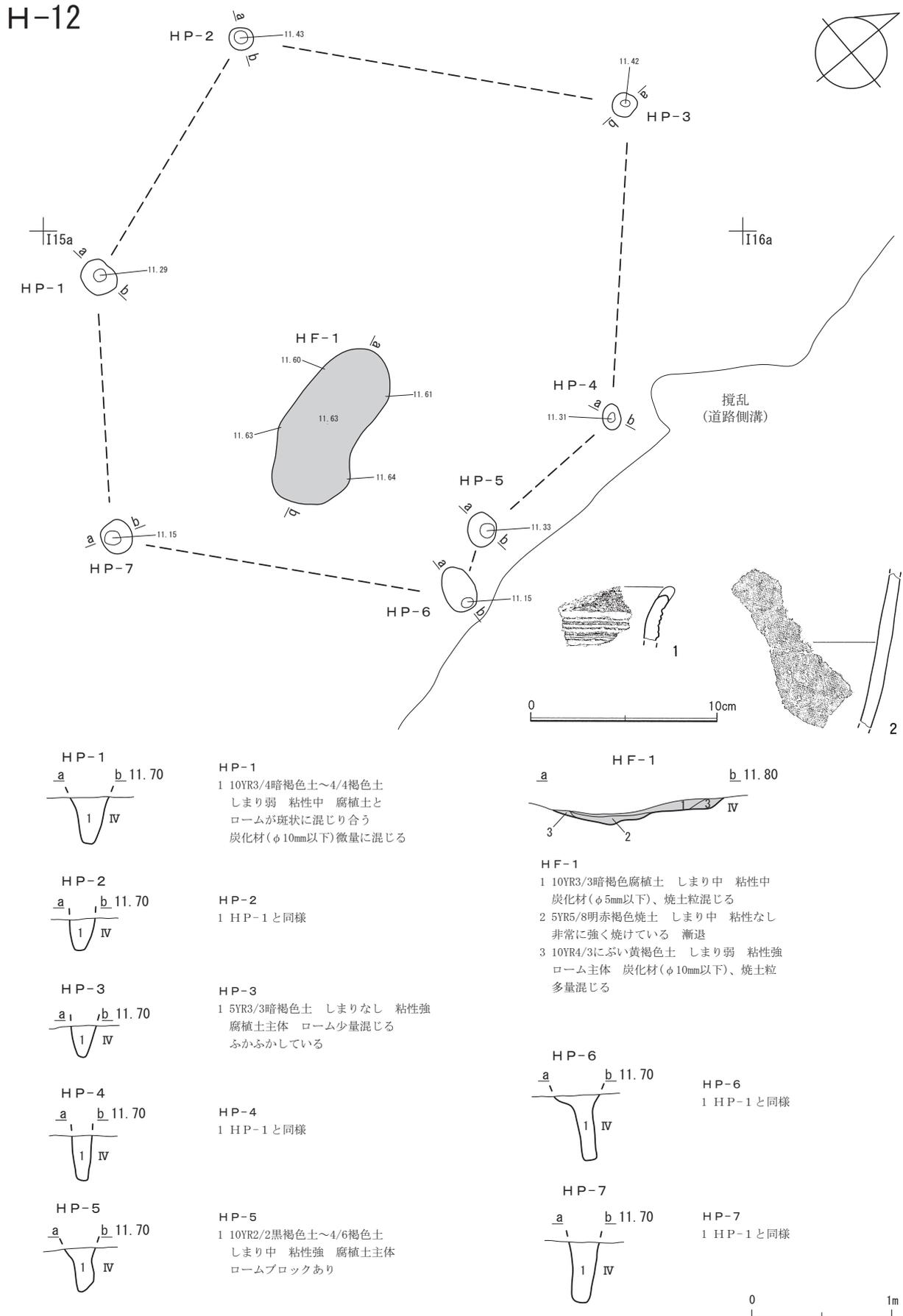
確認・調査 調査範囲南西側の緩斜面上に立地する。町道蛇内線下のⅡ層下位で焼土(HF-1)を検出した。これを住居の中心と仮定してトレンチ調査を行なったが、明瞭な床面や壁は確認されなかった。周辺をさらに精査したところ、Ⅳ層上位で柱穴と考えられる小土坑4基(HP-1~4)を検出した。これらの位置関係から、住居跡が存在した可能性が高いと判断した。

覆土 HF-1とHP-1~4の周辺からは、住居跡の覆土と断定できる堆積土は確認されなかった。町道蛇内線下は砂利路盤による攪乱が著しいことから、覆土の大半は失われたと考えられる。

形態 床面と壁が確認されていないため、全体の形状は不明であるが、平面形はHP-1~4を内包する楕円形であった可能性がある。HF-1の検出面がⅡ層下位で、実際に使用されていた火床はもっと上位と考えられることから、床面はⅡ層中であろう。すなわち、周辺で検出されたH-3・5・8のような掘り込みのごく浅い住居跡、もしくは掘り込みをもたない掘立柱建物であったと推測される。

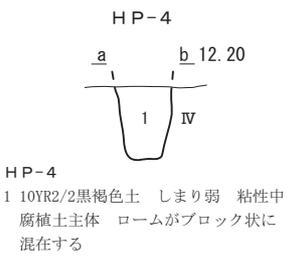
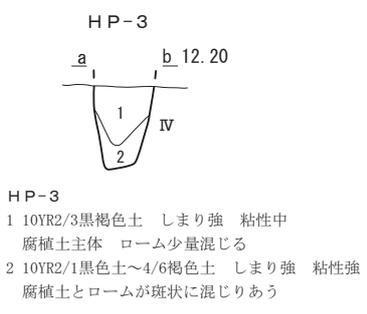
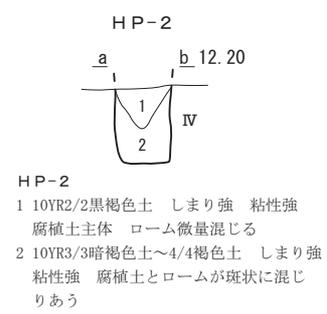
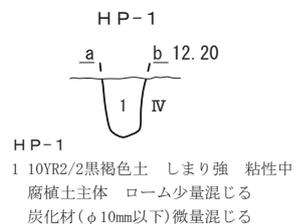
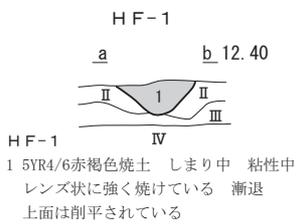
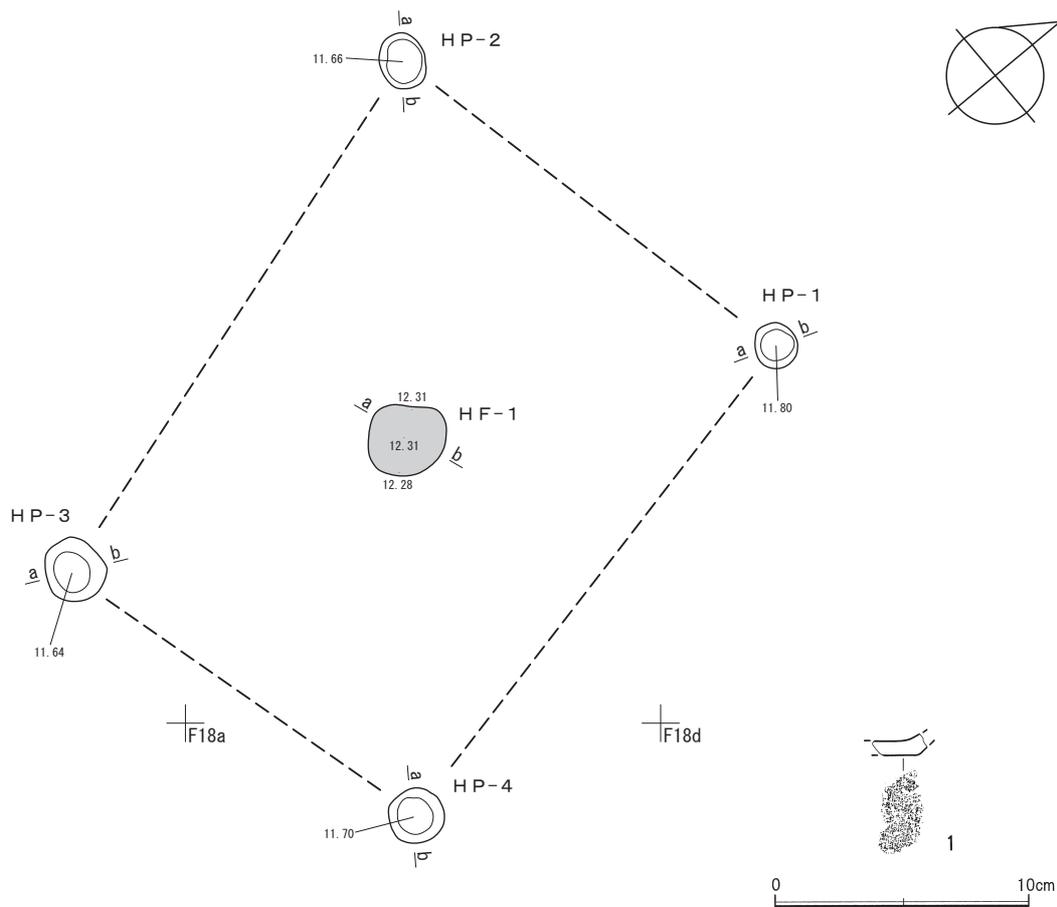
付属遺構 HF-1: HP-1~4から推測される床面の中心に位置する。上部の灰層などは攪乱により失われており、下部のⅡ層が被熱により赤褐色に変化した焼土のみが残存する。

HP-1~4: 2.2m×3.2mの長方形を構成する。それぞれの平面は円形もしくは楕円形で、掘り込みは垂直である。坑底面は平坦で、尖っていない。深さは検出面より40~50cmである。



図IV-25 H-12と出土遺物

H-13



図IV-26 H-13と出土遺物

遺物出土状況 HP-1より、II群b類(1)、剥片が出土した。いずれも流れ込みと考えられる。

時期 周辺の類似した遺構の時期、包含層出土の遺物から、縄文時代後期前葉と推測される。

遺物 土器：1はII群b類。底部で、内面が磨かれている。(芝田)

H-14 (図IV-27/表1・2・4/図版14)

確認・調査 調査範囲南西側の緩斜面上に立地する。町道蛇内線の道路側溝部分にあたるコンクリート製U字溝および埋設土を除去したところ、側溝の壁に焼土(HF-1)の断面を検出した。この焼土の上面は工事の際の掘削により攪乱されていたが、ほぼ楕円形と推測される焼成面が確認された。これを住居の中心と仮定してトレンチ調査を行なったが、明瞭な床面や壁は確認されなかった。周辺をさらに精査したところ、IV層上面で柱穴と考えられる小土坑7基(HP-1~7)を検出した。これらの位置関係から、住居跡が存在した可能性が高いと判断した。

覆土 HF-1とHP-1~7の周辺からは、住居跡の覆土と断定できる堆積土は確認されなかった。町道蛇内線下と側溝の周辺は攪乱が著しいことから、覆土の大半は失われたと考えられる。

形態 床面と壁が確認されていないため、全体の形状は不明である。平面形はHP-1~7の配列から推測すると、これらを内包する、やや先端の尖った楕円形であった可能性がある。HF-1の形成面から床面はII層下位~III層上位であろう。縄文時代前期後半のフラスコ状土坑であるP-93と切り合っており、H-14が新しい。中央部分は幅1.2mほどの道路側溝による攪乱で壊されている。

付属遺構 HF-1：HP-1~7から推測される床面の中心よりも北東側に位置する。西側の約1/3は道路側溝による攪乱で壊されている。形成面はIII層上位である。上部は焼土や炭化材が斑に混在する腐植土、下部はIII~IV層が被熱により赤褐色に変化した焼土である。

HP-1~7：上底2.2m×下底3.6mの台形を構成する。それぞれの平面は円形もしくは楕円形で、掘り込みは垂直である。坑底面は平坦で、尖っていない。深さは検出面より15~25cmである。

遺物出土状況 HF-1上面より、剥片、たたき石、礫が出土している。

時期 周辺の類似した遺構の時期、包含層出土の遺物から、縄文時代後期前葉と推測される。(芝田)

H-15 (図IV-28/表1・2・4・6/図版15)

確認・調査 調査範囲南西側の緩斜面上に立地する。町道蛇内線下のIII層上面で、II層起源の黒色土の落ち込みとして検出した。土層観察用の土手を残して黒色土を掘り下げたところ、しまりのある床面と明瞭に立ち上がる壁を確認した。掘り込み面はII層中と推測される。全体の約1/2は植林による掘削で壊されている。また、北側と南端の一部は木根による攪乱を受けている。

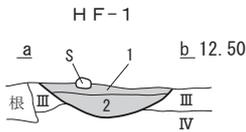
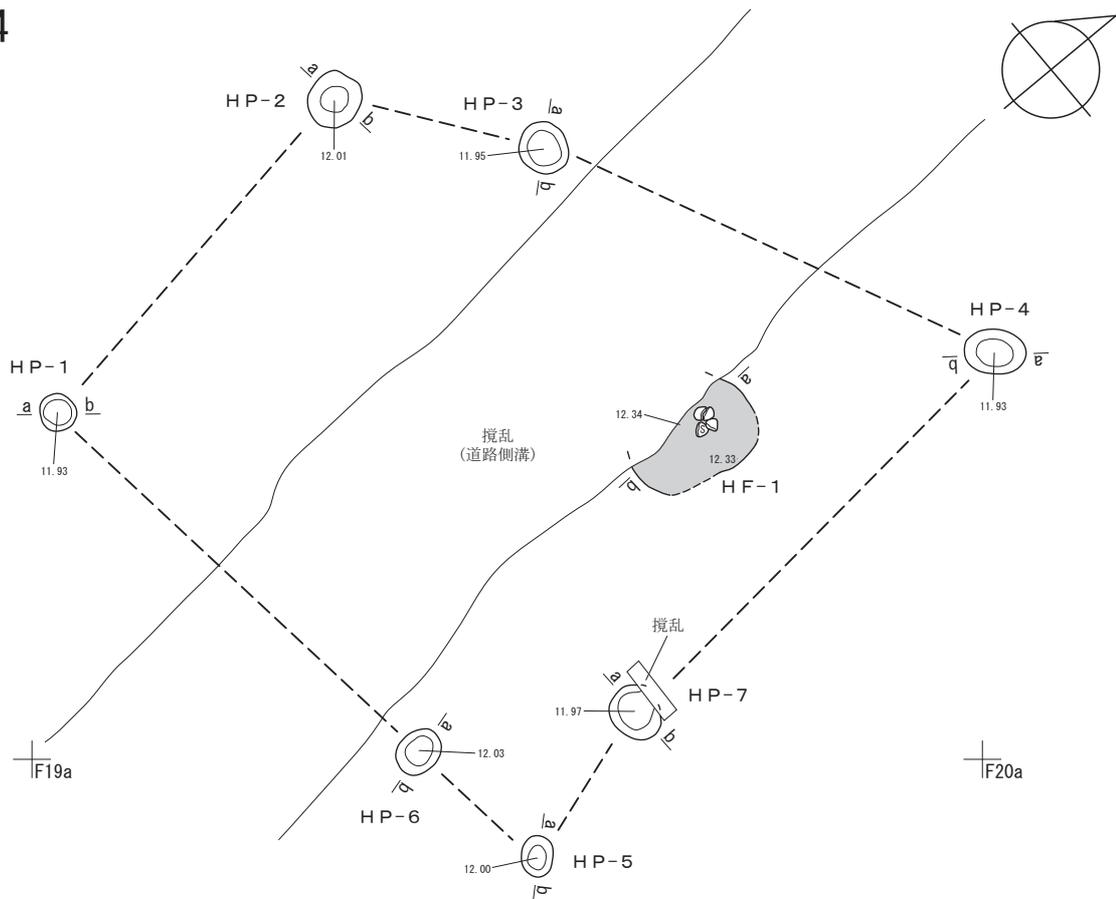
覆土 1層はII層を起源とする腐植土。2・3層は腐植土とロームの混合で、壁際の崩落土や掘り上げ土の流入と考えられる。いずれも自然堆積である。上部に道路があったため、非常に硬くしまっている。

形態 西側の約1/2が失われているため、全体の形状は不明であるが、平面形は円形もしくは楕円形と推測される。壁面は明瞭で、やや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、中央部が若干低い。柱穴と考えられる小土坑が、床面の壁際から2基(HP-3・4)、掘り込みの外側に3基(HP-1・2・5)が検出された。炉跡は、床面の残存部分からは確認されなかった。

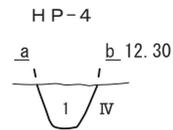
付属遺構 HP-1~5：HP-3・4は床面南側の壁際で検出された。いずれも床面中央へ向かって内傾する。床面での坑口部は径10cm前後と、外部の柱穴よりも小さい。HP-1・2・5は、住居の東側外部で検出された。検出面はIII~IV層中である。いずれも掘り込みは垂直である。検出面での坑口部は径25cm前後である。坑底面は平坦で、尖っていない。深さは検出面より15~25cmである。

遺物出土状況 床面よりたたき石(1)、剥片、礫が出土している。土器は出土していない。

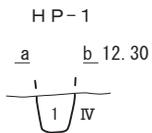
H-14



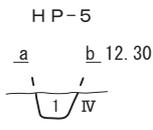
HF-1
 1 10YR3/2黒褐色土～5YR4/6赤褐色土 しまり中 粘性弱 腐植土に焼土が斑状に混在する 炭化材(φ5mm以下)少量混じる
 2 5YR4/8赤褐色焼土 しまり中 粘性強 強く焼けている 漸退



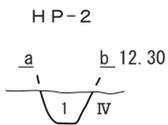
HP-4
 1 HP-3と同様



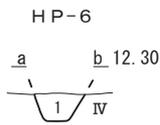
HP-1
 1 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中 腐植土とロームの混合



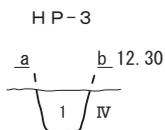
HP-5
 1 HP-3と同様



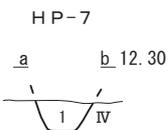
HP-2
 1 HP-1と同様



HP-6
 1 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ローム少量混じる



HP-3
 1 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 ロームブロックあり

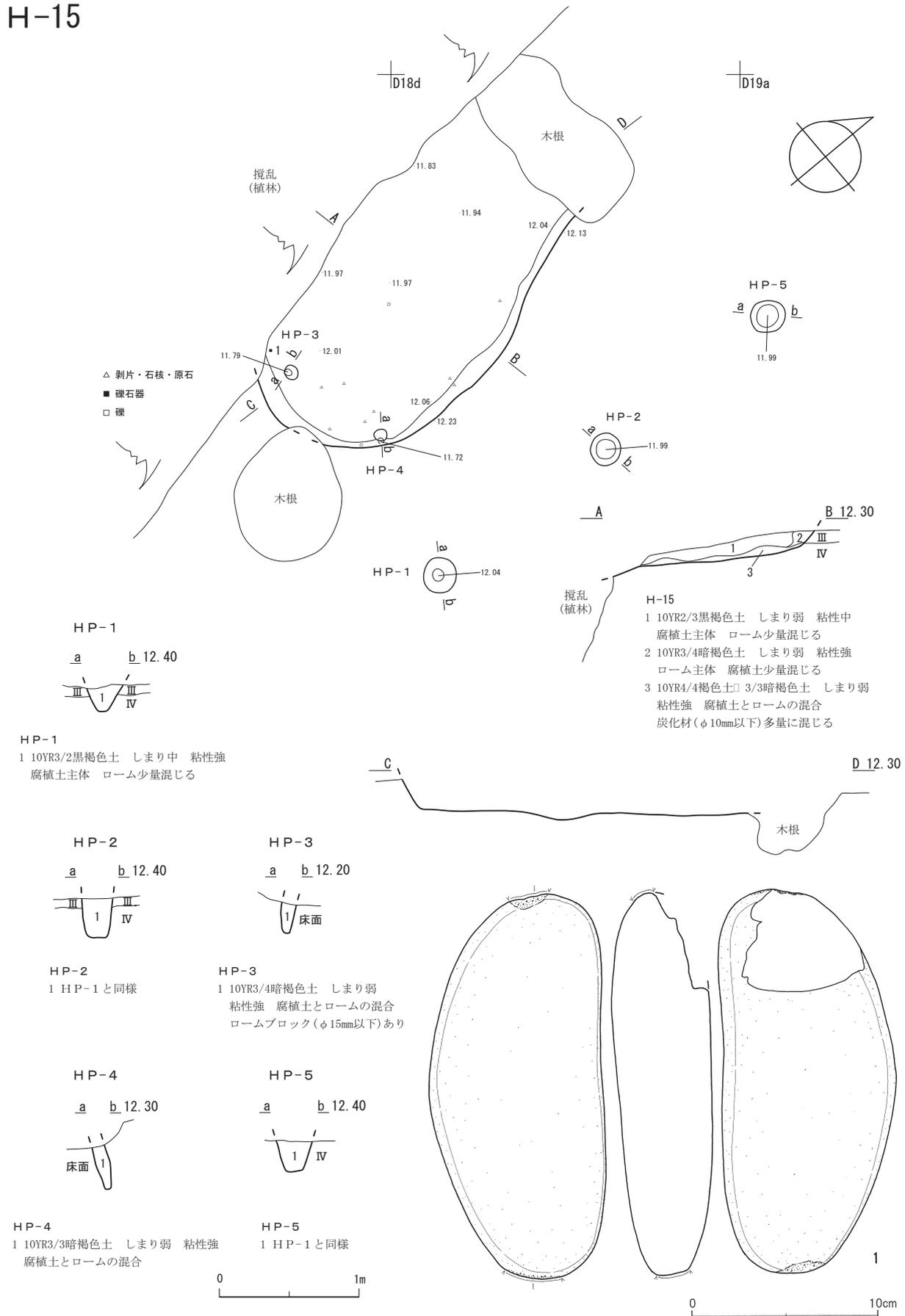


HP-7
 1 HP-3と同様



図IV-27 H-14

H-15



図IV-28 H-15と出土遺物

時 期 遺構の内部より時期が特定できる遺物は出土しなかった。しかし、周辺の遺構、包含層出土の遺物から、縄文時代後期前葉と推測される。(芝田)

遺 物 石器：1 はたたき石。扁平な棒状礫の両端部に敲打痕がある。(酒井)

3 土坑

P-1 (図IV-29/表1・2・4)

特 徴 農道際を調査中にIV層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。農道際の断面からII層下位で構築されたことを確認した。覆土はII層が主体である。遺物は覆土から礫が1点出土している。平面形はほぼ円形、坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

時 期 時期の特定できる遺物が出土していないことから、不明である。(酒井)

P-2 (図IV-29/表1・2・4)

特 徴 標高11.4mの平坦面に立地する。III層上面で円形の黒い落ち込みに礫がまとまっているのを検出した。半截し、壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形を呈する。土坑内部からたたき石、礫が出土している。

時 期 土器が出土していないため不明である。(新家)

P-3 (図IV-29/表1～5)

特 徴 標高11.8mの平坦面に立地する。III層上面でII群b類の土器片とこぶし大の礫がまとまっているのを確認した。周囲は黒く落ち込んでいた。半截したところ、さらに数片の土器が出土した。平面形は楕円形を呈する。

時 期 出土した土器片から縄文時代前期後半と判断できる。(新家)

遺 物 土器：1 はII群b類。胴部片で、単軸絡条体の回転文が縦走する。内面が磨かれている。

(芝田)

P-4 (図IV-30/表1・2・4・6/図版16)

特 徴 標高11.4mの平坦面に立地する。III層上面で円形の黒い落ち込みに円礫がまとまっているのを検出した。半截し、壁の立ち上がりで礫数点を確認した。1mほど離れてP-2があり、ほぼ同時に検出した。平面形は楕円形を呈する。

時 期 土器が出土していないため不明である。検出状況や規模が似ているP-2と同時期と考えられる。(新家)

遺 物 石器：1 はたたき石。扁平な棒状礫の両端部側縁に敲打痕がある。(酒井)

P-5 (図IV-30/表1～4)

特 徴 標高12.4mの平坦面に立地する。III層調査中、円形の黒い落ち込みを検出した。半截し、壁の立ち上がりを確認した。覆土はII層が主体で、掘り込みはII層中と考えられる。平面形は楕円形を呈する。覆土からIV群類土器、礫片が出土した。

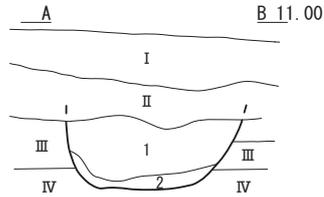
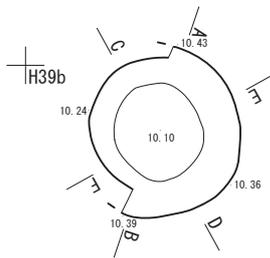
時 期 覆土から縄文時代後期前葉の土器が出土しているが、この土坑に伴うものかは不明である。従って時期は不明である。(新家)

P-6 (図IV-30/表1・2・4・6)

特 徴 標高12.30mの平坦面に立地する。III層調査中、直径1mほどの黒褐色の落ち込みを検出した。半截し、壁の立ち上がりで平坦な底面を確認した。平面形は楕円形を呈する。覆土はII層が主体で、掘り込みはII層中と考えられる。覆土からスクレイパー、礫片が出土した。

時 期 土器が出土していないため不明である。(新家)

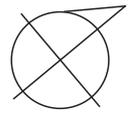
P-1



P-1
 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
 2 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
 にぶい黄褐色粘土(10YR6/4)塊20%含む

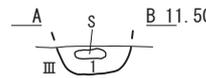
P-2

J29d



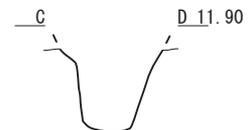
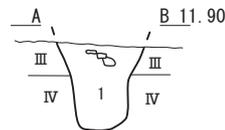
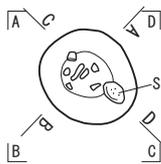
J29c

I39a



P-2
 1 10YR2/1黒色埴壤土 しまり強
 粘性強 層界の明瞭性判然、
 起伏平坦 II > III

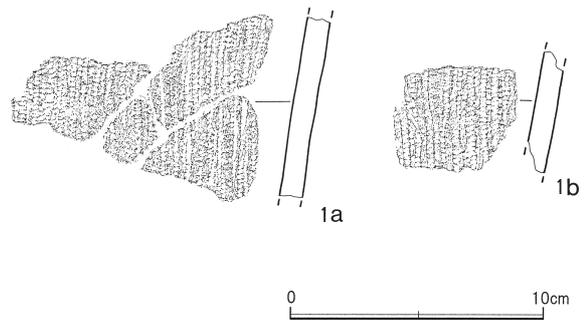
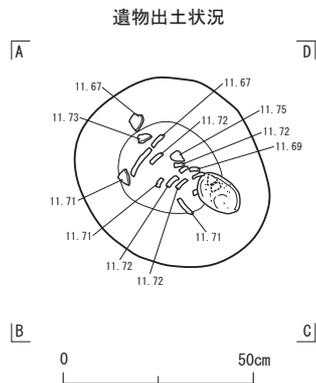
P-3



P-3
 1 10YR3/3暗褐色壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 III > II

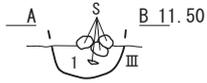
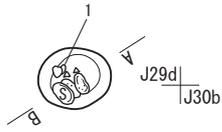
H27d

H28a



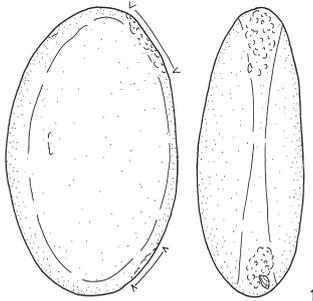
図IV-29 P-1~3と出土遺物

P-4

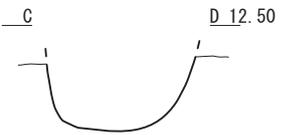
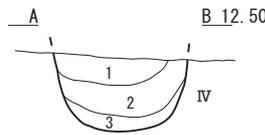
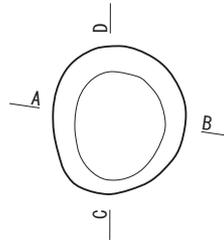
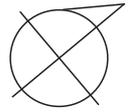


P-4

1 10YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏平坦 II+III



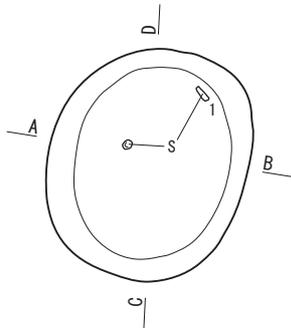
P-5



P-5

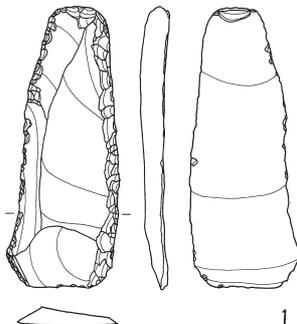
1 10YR2/3黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏平坦 II > III
 2 10YR1.7/1黒色壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏平坦 II
 3 10YR2/2黒褐色砂壤土 しまり弱 粘性なし 層界の明瞭性明瞭、起伏平坦 II > III

P-6



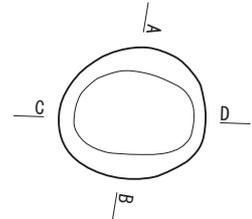
P-6

1 10YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 II > III



P-7

1 10YR2/3黒褐色壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏不規則 II > III
 2 10YR2/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏波状 II



図IV-30 P-4~7と出土遺物

遺物 石器：1はスクレイパー。縦長剥片の側縁に直線状の刃部を作出している。（酒井）

P-7（図IV-30／表1～3）

特徴 標高12.3mの平坦面に立地する。Ⅲ層調査中に黒褐色の落ち込みを検出した。半截し、壁の立ち上がりとは平坦な底面を確認した。平面形は楕円形を呈する。覆土はⅡ層が主体で、掘り込みはⅡ層中と考えられる。覆土中からⅠ群b-3類土器が出土した。

時期 覆土から縄文時代早期後半の土器が出土しているが、この土坑に伴うものかは不明である。従って時期は不明である。（新家）

P-8（図IV-31／表1～5／図版16）

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は2層に分層した。いずれもⅡ層を主体とした自然堆積層である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。2層上面で土坑北側から中央部に向けて流れ込むような形で炭化物が検出された。遺物は合計109点出土している。すべて覆土中からの出土である。縄文時代前期前半の土器片8点、中期後半の土器片4点、たたき石1点、石錘1点、剥片86点、礫9点が出土した。剥片の中に被熱したものが1点ある。この他に縄文時代前期前半の土器片を使用した再生土製円盤が1点ある。

時期 検出された層位と遺構周辺から出土する遺物から縄文時代前期後半ないし同中期後半と考えられる。（立川）

遺物 土器：1はⅢ群b-3類。口縁部片でLR斜走縄文が施される。（芝田）

P-9（図IV-31／表1）

特徴 Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅢ・Ⅳ層主体の流れ込み。遺物は出土していない。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半・中期後半の可能性はある。（酒井）

P-10（図IV-32／表1～4・6）

特徴 Ⅲ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。遺物は覆土1層中から縄文前期前葉の土器や石鏃・スクレイパー・砥石・剥片・礫出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 覆土から出土する遺物から、縄文時代前期前半の可能性はある。

遺物 石器：1は三角形の石鏃。平基。粗い加工で未成品に近い。（酒井）

P-11（図IV-32／表1・2・4）

特徴 Ⅲ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。覆土1層から剥片・礫が出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半・中期後半の可能性はある。（酒井）

P-12（図IV-32／表1・2・4）

特徴 標高11.6mの平坦面に立地する。Ⅲ層で黒褐色の落ち込みを検出した。半截したところ、南側約1/4に攪乱を受けた、隅丸方形の土坑であることがわかった。攪乱を免れた部分では、明瞭な壁の立ち上がりとは平坦な底面が確認できた。坑底から土器片2点、礫片2点が出土した。

時期 覆土から出土した土器片は縄文時代後期前葉のものであるが、この土坑に伴うものかは不明である。従って時期は不明である。（新家）

P-13（図IV-33／表1）

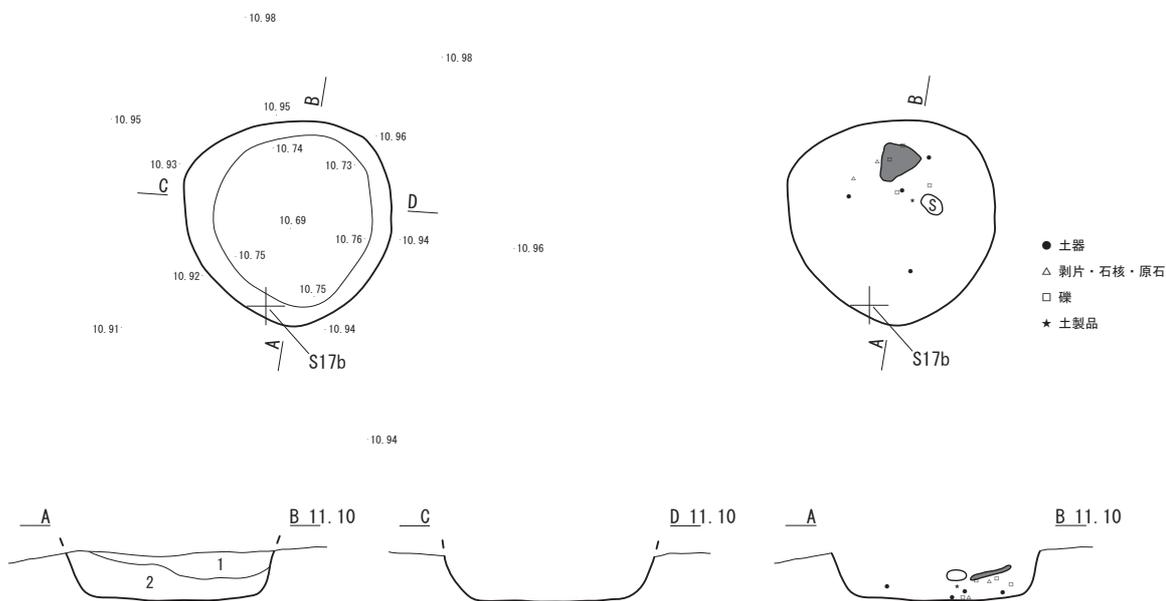
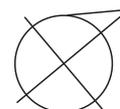
特徴 Ⅲ層上面で黒褐色～暗褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅢ層主体の埋め戻し。遺物

P-8

S17a

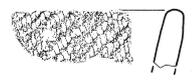
遺物出土状況

S17a



P-8

- 1 7.5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり中 粘性強
- 2 7.5YR2/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ5mm以下)2%混じる



0 10cm

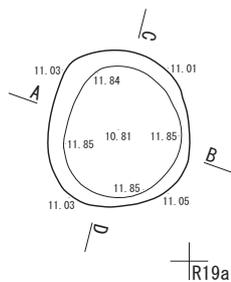
P-9

Q19b



P-9

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中 炭化材含む
- 2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/6)塊含む
- 3 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
- 4 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中



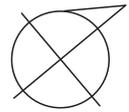
R19a



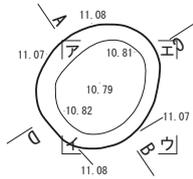
0 1m

図IV-31 P-8・9と出土遺物

P-10

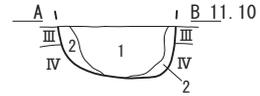


R18d



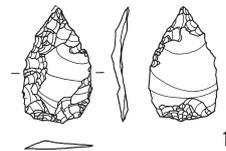
R19a

遺物出土状況



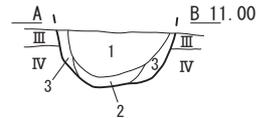
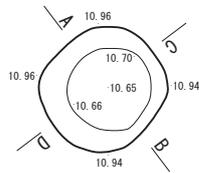
P-10

- 1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/6)塊1%含む 炭化材(φ5mm以下)1%含む
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中



P-11

R19b



P-11

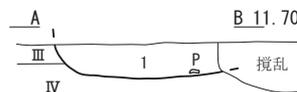
- 1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/6)粒1%含む
- 2 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/6)粒30%含む
- 3 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中



S19a

P-12

J16b



P-12

- 1 10YR2/3黒褐色埴壤土 しまり強 粘性中 層界の明瞭性判然、起伏平坦 II+III

K16a



図IV-32 P-10~12と出土遺物

は出土していない。平面形は円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-14 (図IV-33/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。遺物は出土していない。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-15 (図IV-33/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅢ・Ⅳ層主体の流れ込み。覆土1層から石槍・ナイフが出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-16 (図IV-33/表1・2・4・6)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。覆土1層から石鏃・剥片・礫が出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。

遺物 石器：1は三角形の石鏃。平基。粗い加工で未成品に近い。(酒井)

P-17 (図IV-34/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻し。遺物は出土していない。平面形は楕円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-18 (図IV-34/表1~4)

特徴 標高12.2m付近の平坦面に立地する。Ⅲ層調査中に黒い落ち込みを確認した。形状がいびつであったので、木根による攪乱と誤認し、深く掘り下げたところ、覆土中からI群b-3類土器とII群b類土器、坑底に近いレベルから頁岩製の剥片が出土した。底面は平坦で、壁がオーバーハングしており、小型のフラスコ状土坑であることがわかった。平面形は不整形円形である。また、西側に細長い楕円形の黒い落ち込みが延びており、別の遺構(P-31)と切り合っていた。覆土や土坑の形状、遺物の出土状況から、P-18がP-31に切られていると考えられる。

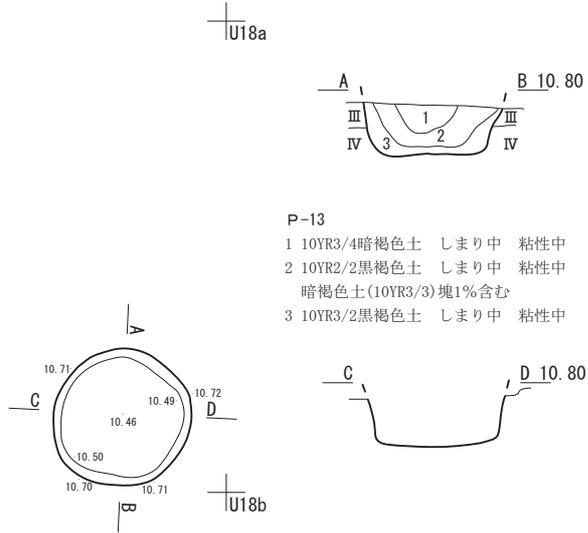
時期 覆土中より出土した遺物は流れ込みによるものだが、P-95と形状がよく類似することから、縄文時代前期後半の可能性はある。(新家)

P-19 (図IV-34/表1~4・9)

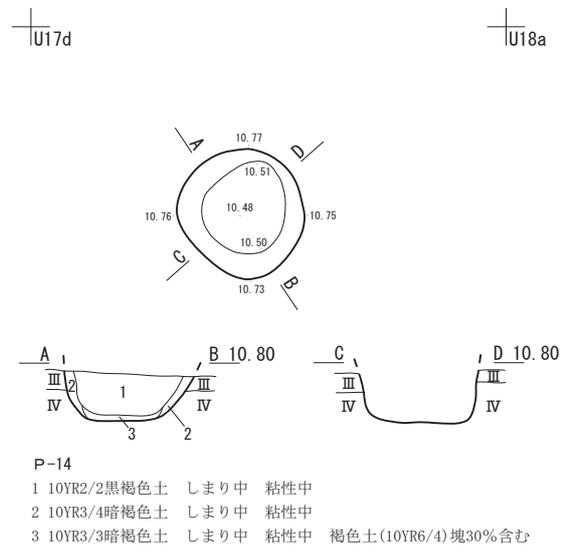
特徴 Ⅲ層中位で焼土を円形に取り囲むような黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土1層は赤褐色を呈する焼土である。中心部は赤味が強く2層との層界に向かうにしたがって淡い色調を呈する。しまりは軟いが赤褐色を呈する単一層であることから、坑口で火が焚かれたものと考えられる。覆土2層の下位部分から多量の炭化物が検出された。この炭化物は、覆土1層の焼土に由来するものではないと考えられる。2層・3層はⅣ層ロームが混じる土である。炭化物を試料として放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ(HEBI2-5)、 $5,600 \pm 30$ yrBPという数値が得られた。詳細はⅥ章第1節を参照されたい。遺物は、土器12点、剥片210点の合計222点が出土している。焼土と覆土からの出土で、坑底からは出土していない。土器はいずれも縄文時代前期前半のものである。

時期 検出された層位と遺構周辺から出土する遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

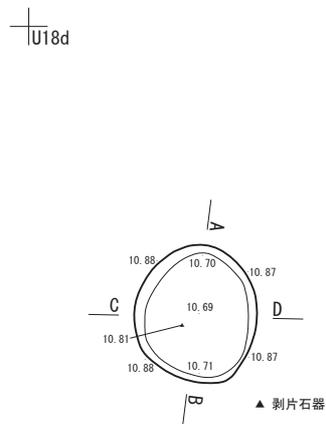
P-13



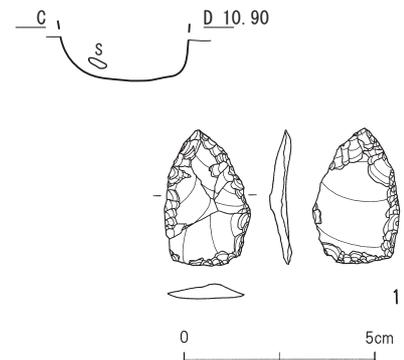
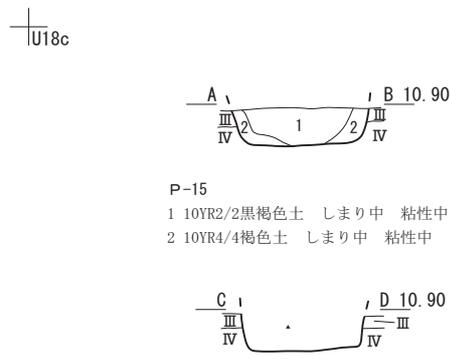
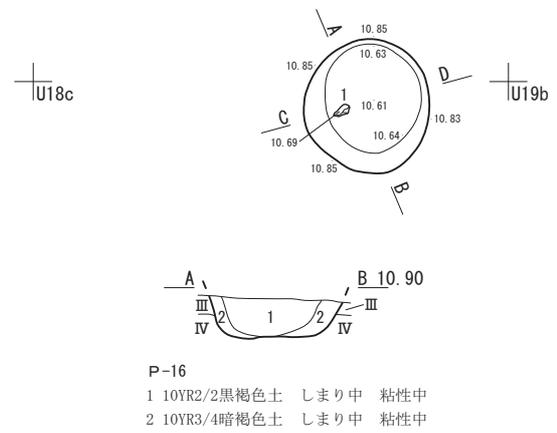
P-14



P-15



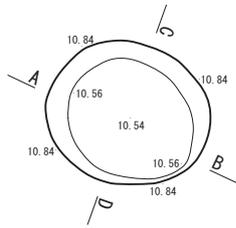
P-16



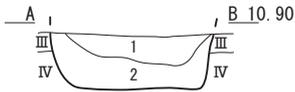
図IV-33 P-13~16と出土遺物

P-17

U18a



U18b



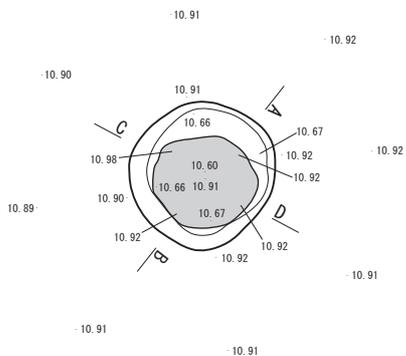
P-17

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 炭化材1%含む
- 2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/6)・黒褐色土(10YR2/2)塊含む 炭化物1%含む

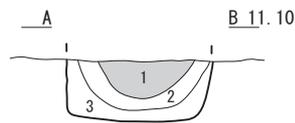


P-19

U19d



U19c



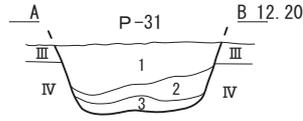
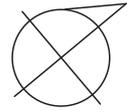
P-19

- 1 2.5YR4/6赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱 炭化物(φ1~5mm)1%未満混入 上部中心部が赤みが強く、周囲・下部にいくにしたがい色調が淡くなる 火が焚かれた可能性が高い
- 2 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強 II > ローム
- 3 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強 II + ローム

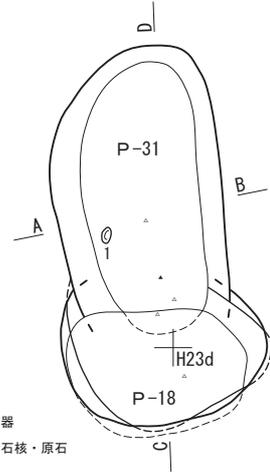
0 5cm

0 1m

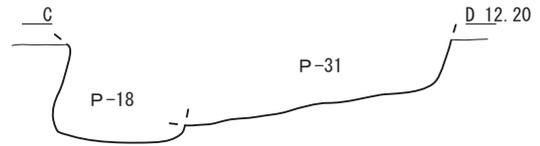
P-18・31



H23a

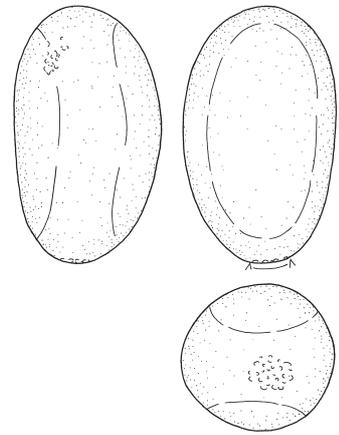


- ▲ 剥片石器
- △ 剥片・石核・原石



P-18・31

- 1 10YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性漸変、起伏波状 II + III
- 2 10YR2/1黒色埴土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性漸変、起伏波状 II > III
- 3 10YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性明瞭、起伏平坦 IV > III



図IV-34 P-17~19・31と出土遺物

P-20 (図IV-35/表1)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物は出土していない。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-21 (図IV-35/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上位で楕円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は東西に長軸方向を持つ楕円形、坑底は平坦、壁は全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物、覆土下位から礫4点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-22 (図IV-35/表1~4)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦である。壁は北側で急角度に立ち上がるが、他は比較的緩く立ち上がっているが全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代早期後半の土器片1点、たたき石1点、礫2点の合計4点が出土した。

時期 出土した土器片から縄文時代早期後半と考えられるが、特定にはいたらなかった。(立川)

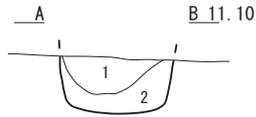
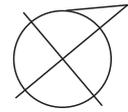
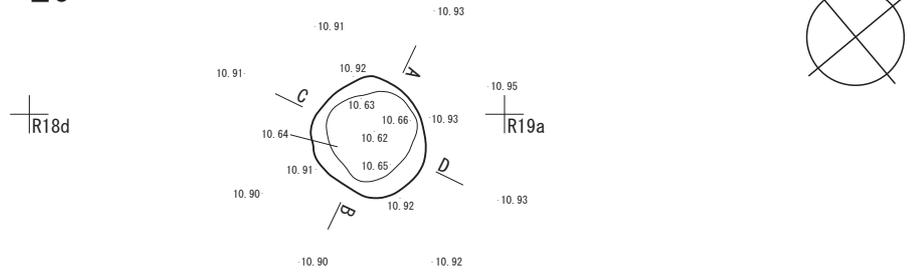
P-23 (図IV-36~39/表1~6・9/図版16)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれたフラスコ状土坑。Ⅲ層上面でB-Tm降下火山灰と黒色土が同心円状に落ち込んでいるのを検出した。掘り込み面はⅡ層中と推測される。平面形は楕円形で、坑口の東側が大きく広がり、坑底面とほぼ重なっている。断面は坑口部から掘り込みの中位までは窄まり、坑底部は大きくオーバーハングする。坑底面は中央部が少し低く、小土坑(SP-1)が検出された。覆土は自然堆積で、上部が主にⅡ層を起源とする落ち込み、下部が主にⅢ・Ⅳ層を起源とする崩落土と腐植土の互層となっている。坑底部からは、Ⅳ群a類土器(1~22)、スクレイパー(23)、石斧(24)、石製品(27)、R剥片、剥片が出土した。覆土中からは、Ⅰ群b-4類土器、たたき石(25)、石錘(26)、U剥片が出土した。覆土中および坑底部より礫・礫片が多く出土しているが、これらは主にⅣ層中よりの崩落にともなう流れ込みである。坑底部から出土した炭化材を試料として放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ(HEBI2-6)、 $3,620 \pm 30\text{yrBP}$ という数値が得られた。詳細はⅥ章第1節を参照されたい。

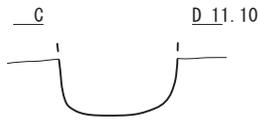
時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。

遺物 土器：1~23はⅣ群a類。1~11は無文地に沈線で文様が描かれるもの。1は口縁~底部が復元された小型の深鉢。全体の2/3が残存しており、口径13.9cm(推定)、底径7.5cm、胴部の最大径14.5cm、高さ16.9cmを測る。口縁部がやや外反し、胴部が膨らむ器形。底部は平底。平縁で4か所の山形突起を有していたと推測され、このうち1か所が残存する。口唇断面は角型で、端面は若干外傾する。山形突起の頂部は棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。頸部と胴下部を2条の平行沈線で区画し、内部に3条1組の沈線によるカギの手状文を連続して描いている。内外面ともに丁寧に磨かれており、胴下部にはヘラ状工具による横方向の調整痕が残る。色調は外面が褐色~暗褐色、内面が黒褐色を呈する。胎土は砂礫が多く混入しており、器面に浮き出ている。2は胴部が復元された深鉢。

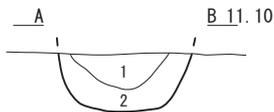
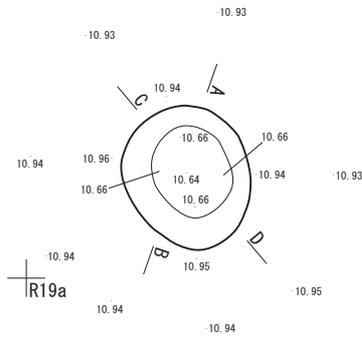
P-20



P-20
 1 5YR1.7/1黒色埴壌土 しまり強 粘性強
 II層相当
 2 5YR2/2黒褐色埴壌土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ5~10mm)2%混じる II+ローム



P-21

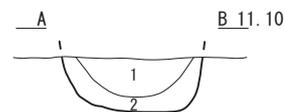
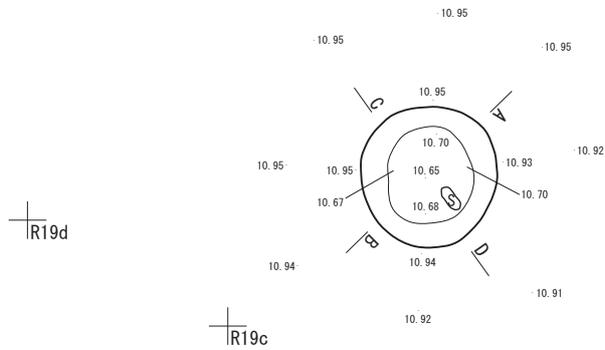


P-21
 1 5YR1.7/1黒色埴壌土 しまり強 粘性強
 II層相当
 2 5YR2/2黒褐色埴壌土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ5~10mm)2%混じる II+ローム



P-22

R20a

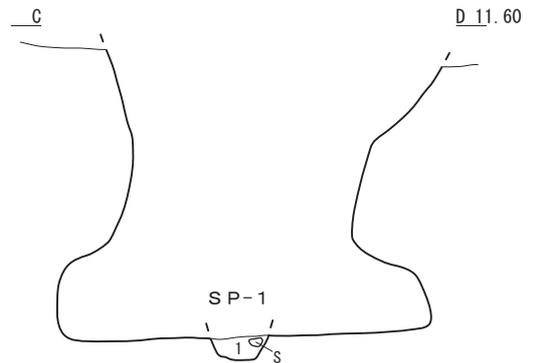
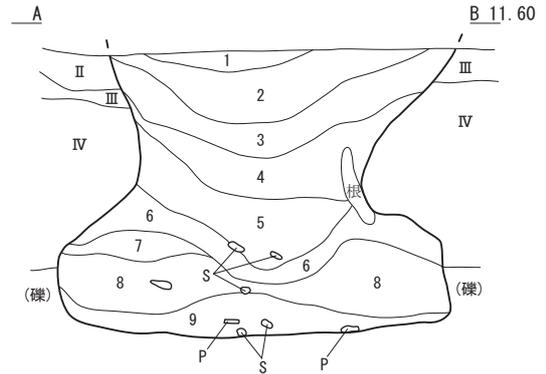
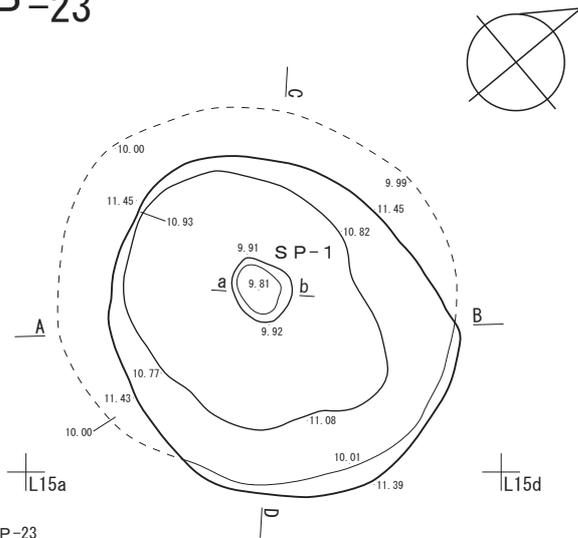


P-22
 1 5YR1.7/1黒色埴壌土 しまり強 粘性強
 II層相当
 2 7.5YR3/4暗褐色埴壌土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ10mm以下)30%混じる II+ローム



図IV-35 P-20~22

P-23



P-23

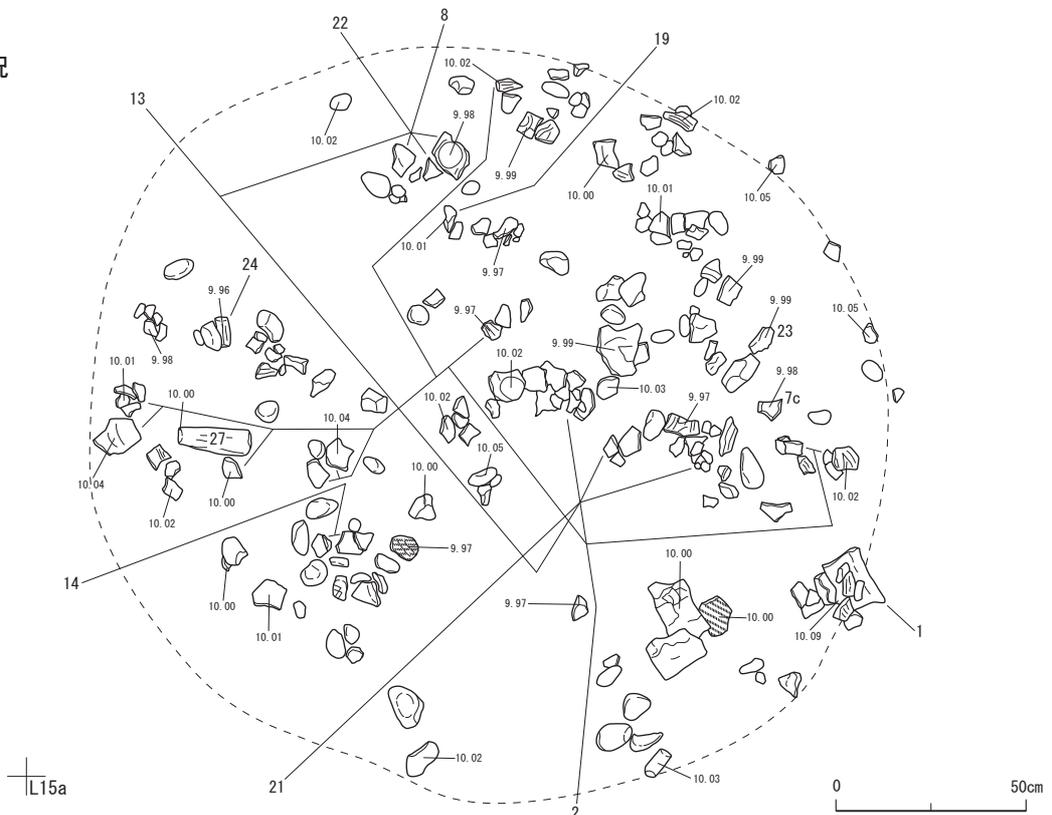
- 1 10YR7/8黄褐色土 しまり弱 粘性弱 B-Tm火山灰 遺跡内の遺構、風倒木などの凹みに疎らに分布する
- 2 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 II層起源の腐植土(自然堆積) ローム微量に混じる
- 3 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体 ローム少量混じる 炭化材(φ10mm以下)微量混じる
- 4 10YR3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ローム多量に混じる 炭化材ブロック状(φ5mm以下)少量混じる
- 5 10YR2/2黒褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ローム少量混じる 炭化材(φ50mm以下)混じる 円礫・楕円礫が多く出土する
- 6 10YR2/3黒褐色土~3/3暗褐色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームが斑状に混じる 炭化材(φ10mm以下)混じる
- 7 10YR5/6黄褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体 黒色土が斑状に混じる ねっとりしている
- 8 10YR5/8黄褐色土~2/1黒色土 しまり弱 粘性強 ロームと腐植土がラミナ状に堆積する やわらかい
- 9 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土 ロームブロック(φ20mm以下)あり ねっとりしている

SP-1

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強 腐植土主体 ロームブロック(φ50mm以下)あり



遺物出土状況



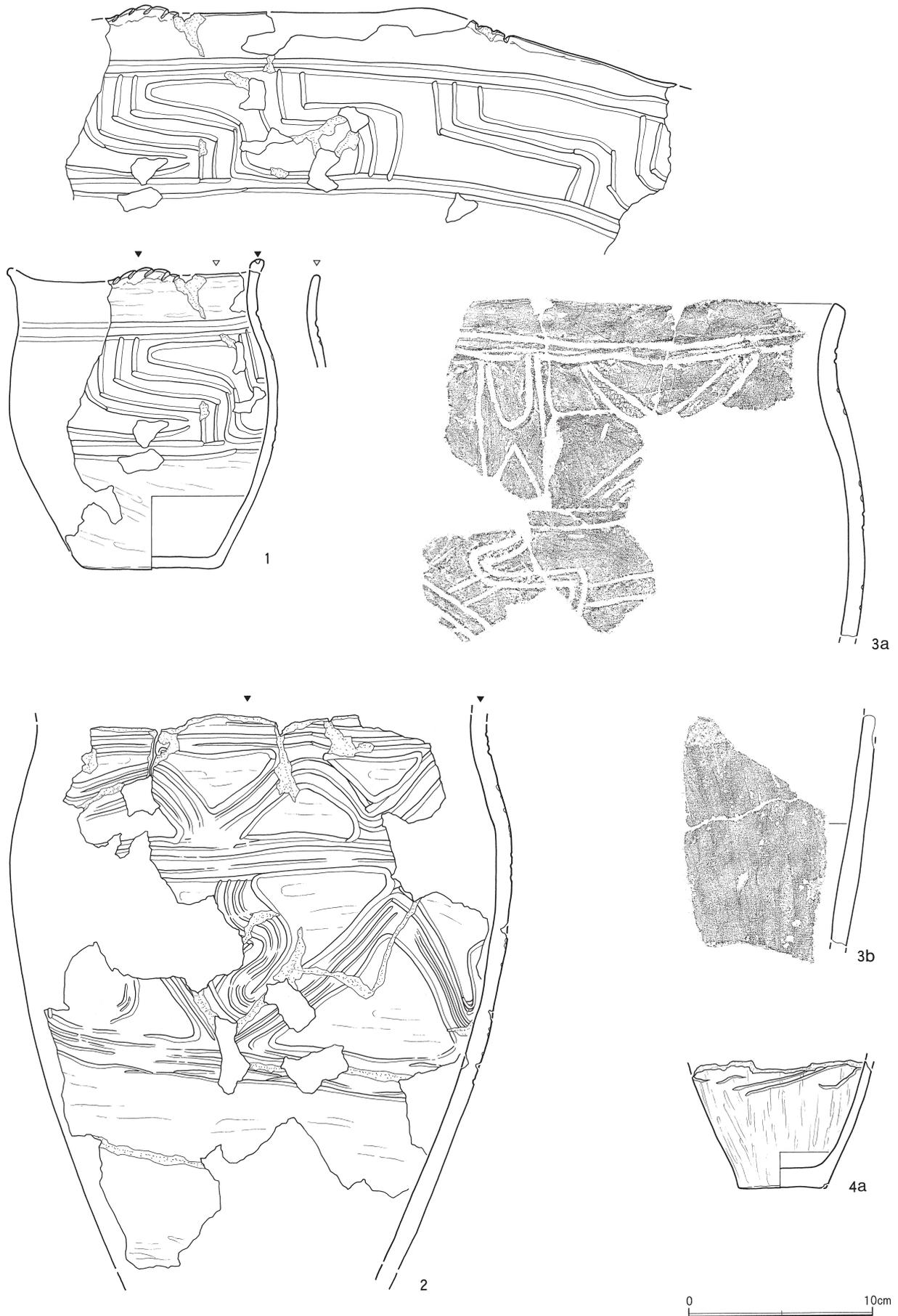
図IV-36 P-23

口縁部と底部を欠く。全体の約 1/3 が残存しており、胴部の最大径は27.1cmを測る（推定）。頸部と胴上部をそれぞれ櫛歯状施文具による平行線を太い沈線で縁取ることで区画し、その内部に同様の手法で連続する鋸歯状文や垂下する蛇行文を描いている。色調は外面が黄褐色～暗褐色、内面が褐色～黄褐色を呈する。外面に炭化物が付着する。胎土は1によく類似する。3は深鉢の口縁～胴上部（a）と胴下部（b）。口縁部が直線的に立ち上がり、胴上部がわずかに膨らむ器形と推測される。aは2条1組の沈線により、X字文、S字文などが描かれているが、全体の文様構成は不明である。一部に磨り消し忘れかと考えられる縄文が残存している。口唇断面は角形で、端面は若干外傾する。bはヘラ状工具による縦方向の調整痕が残る。外面に炭化物が付着する。4は小型の深鉢の口縁部（b）と底部（a）。bは波状口縁の波頂部で、口唇が指頭により圧痕される。櫛歯状施文具により文様を描き、太い沈線で縁取る。aは平底で、底径4.8cmを測る。上部に浅い沈線が確認される。内面に炭化物が多量に付着する。5は口縁部。斜走縄文をナデ消した後に、浅く幅広な沈線により文様を描く。全体の文様構成は不明であるが、「カニのハサミ」状文の一部の可能性はある。6は深鉢の口縁部（a）と胴部（b）。aは山形突起を有し、口唇外縁が肥厚する。突起の頂部は指頭により圧痕される。器外面には沈線により斜位の蛇行線文が描かれる。bは3条1組の沈線により上下の平行沈線を連絡するS字文が描かれる。外面に炭化物が付着する。a・bともに沈線の内部には縄文が疎らに施される。7は深鉢の口縁部（a）・胴部（b）・底部（c）。aは低い山形突起を有する。突起の頂部は指頭（爪先）により圧痕される。櫛歯状施文具を横引きし、太い沈線で縁取っている。bは細い沈線により平行もしくは垂下する蛇行線の一部が描かれている。cは平底で外縁部がわずかに張り出す。8～10は胴部。いずれも櫛歯状施文具により描かれた条痕文を太い沈線で縁取るもの。11は胴部。縄文地に2条1組の沈線で直線的な文様を描き、外部を粗く磨り消している。外面には炭化物が付着する。12～16は縄文のみのもの。12・13は平縁の口縁部。いずれも横走する無節縄文が施される。13は剥落が著しい。14・15は山形突起を有する口縁部。14は頂部が棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。横走ぎみのLR斜走縄文はナデにより不鮮明である。15は口唇直下に無文帯があり、頸部より下位にLR斜走縄文が施される。16は胴部。LR縄文が横走ぎみに施されるが、下部は無文である。17～19は無文のもの。17は小型の深鉢の口縁部（a）と胴～底部（b）。口縁部が直線的に立ち上がり、胴上部がわずかに膨らむ器形。aは平縁で、口唇断面は丸い。bは平底で、底内面の中央が盛り上がっている。18は胴～底部が復元された小型の深鉢もしくは壺。全体の約1/2が残存しており、底径4.6cm、胴部の最大径8.6cm（推定）を測る。胴部が若干膨らむ器形で、平底。色調は外面が暗褐色、内面が黒褐色を呈する。内外面に炭化物が多量に付着する。19は底部付近の胴下部。ヘラ状工具による縦あるいは斜め方向の調整痕が残る。外面には黒斑が見られる。20～22は底部。いずれも平底。20はミニチュアと考えられる。（芝田）

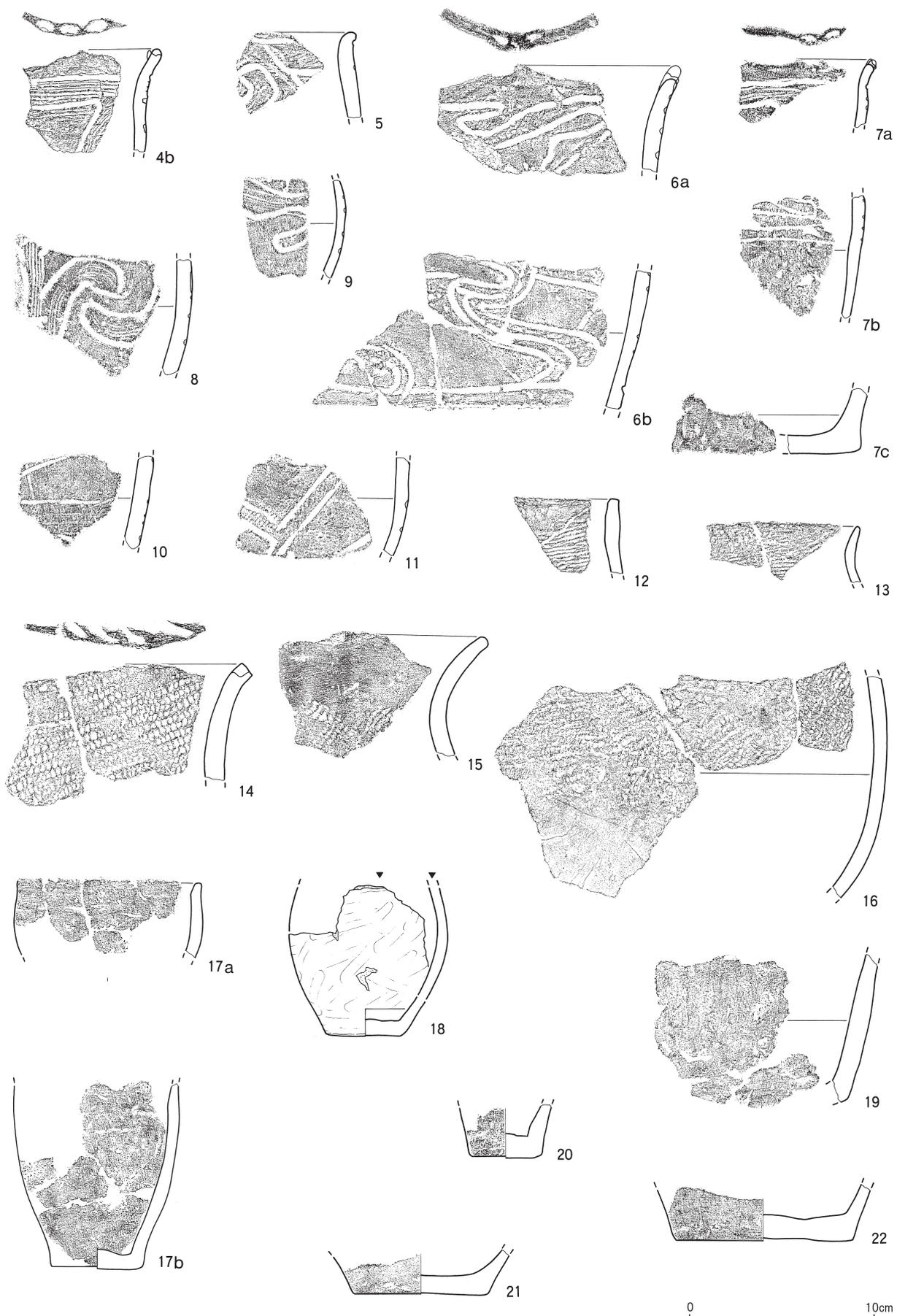
石器：23はスクレイパー。剥片の側縁に直線状の刃部を作出している。24は短冊形の石斧。敲打による整形の後、全体を研磨している。両刃で曲刃。25はたたき石。棒状角礫の腹背部と側面に敲打痕がある。26は石錘片。扁平礫の長軸の両端部に打ち欠きがある。被熱している。27は石製品。下半部が欠損している。扁平な棒状礫の上端部と体部全体を研磨し、腹背部と側縁に敲打痕がある。（酒井）

P-24（図IV-40／表1～4・6）

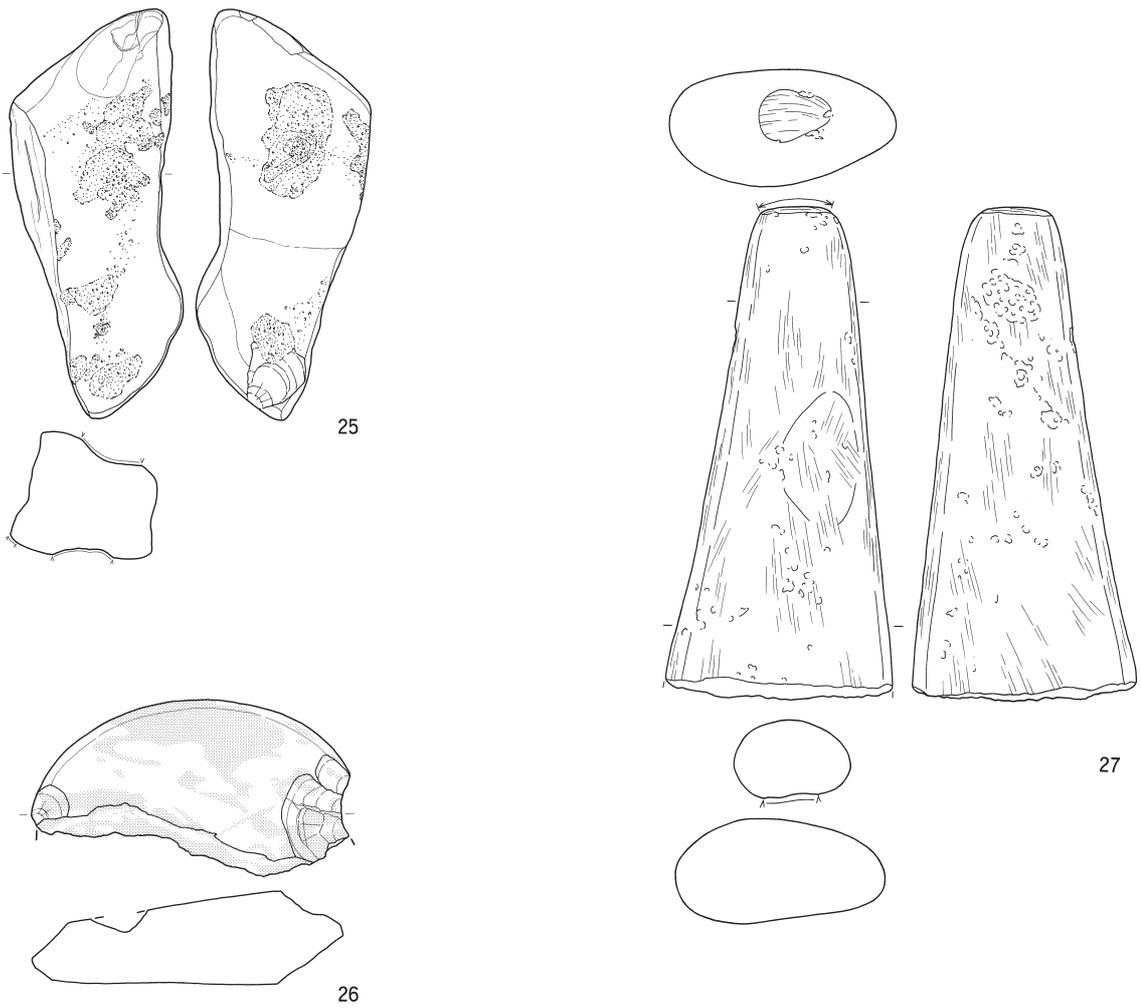
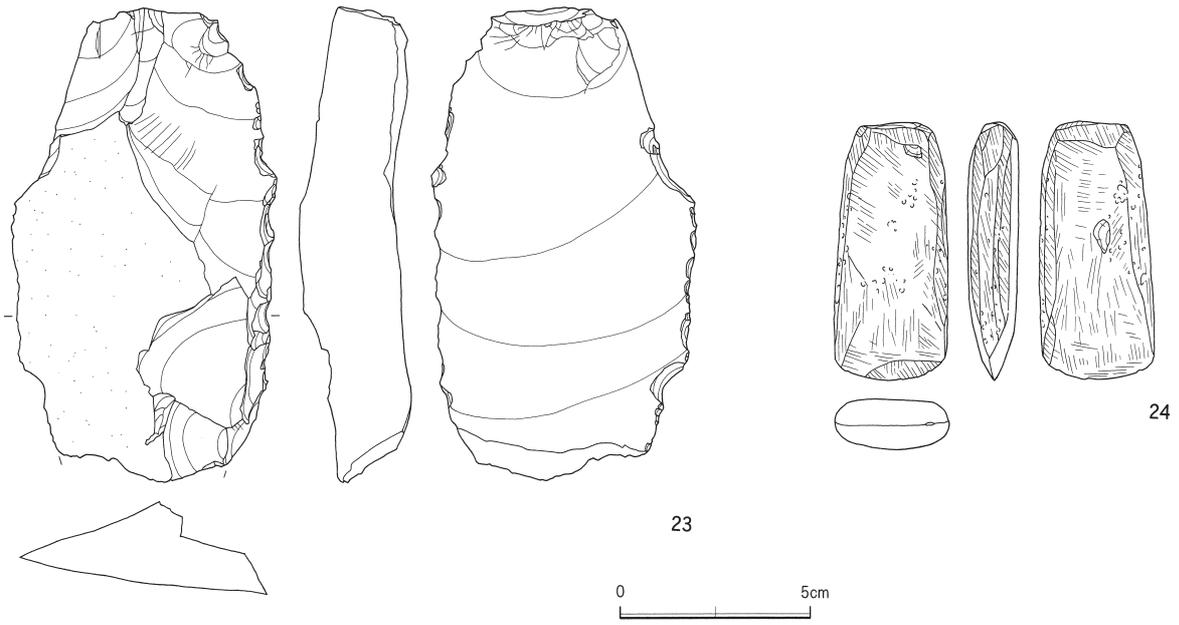
特徴 III層下位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、II層を主体とする自然堆積である。2層はIV層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土中からで、縄文時代早期後半の土器片1点、同前期前半の土器片2点、石鏃1点、つまみ付きナイフ1



図IV-37 P-23の出土遺物 (1)



図IV-38 P-23の出土遺物 (2)



図IV-39 P-23の出土遺物 (3)

点、剥片 3 点、礫 4 点の合計12点が出土した。ほかに、炭化したクルミの外殻が検出された。

時期 出土した土器片から縄文時代早期後半から同前期前半と考えられるが、特定にはいたらなかった。(立川)

遺物 石器：1 は三角形の石鏃。凹基。2 はつまみ付きナイフ。二次加工が片面全体に施され、下端部が両面加工によって刃部を作出されている。(酒井)

P-25 (図IV-40/表1~6/図版16)

特徴 Ⅲ層下位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形はほぼ楕円形、坑底は平坦である。壁は全周で明瞭である。土層断面から、小型のフラスコ状土坑と考えられる。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片54点、石鏃 1 点、剥片 16点、礫 2 点の合計73点が出土している。土器片は、大部分が覆土Ⅰ層の上部から出土しており、1 個体の土器がつぶれた状態で出土した。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 土器：1 はⅡ群 a 類。尖底土器の底部で、底端を欠く。器形は鉢または深鉢と推測される。全体の約 1/2 が残存する。半截竹管状施文具による横向き刺突列が多段に施される。色調は外面が褐色、内面が暗褐色を呈する。胎土は繊維・砂礫が多く混入している。外面は剥落が著しい。(芝田)

石器：2 は三角形の石鏃。凹基。基部の抉りが深い。先端部は再加工により丸みを帯びる。(酒井)

P-26 (図IV-41/表1~4・6)

特徴 Ⅲ層下位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。土坑南西側を木根によると思われる攪乱が見られる。平面形は円形と推定される。坑底はわずかに南側に傾斜している。壁は急角度に立ち上がっており、ほぼ全周で明瞭である。土坑は攪乱以降に構築されたものである。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層・3層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、断面三角形すり石 1 点、R剥片 1 点、剥片 1 点の 3 点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

遺物 石器：1 はすり石片。断面が隅丸三角形の礫の稜を擦っている。(酒井)

P-27 (図IV-41・42/表1~5/図版17)

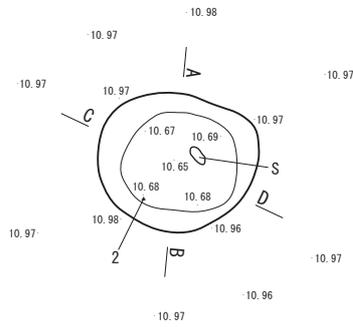
特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻し。検出面付近の覆土Ⅰ層中からは縄文前期前半の土器がまとまって出土しているほか、スクレイパーや剥片が出土している。平面形は不整円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

時期 出土した遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1・2 はⅡ群 a 類。1 は口縁～底部が復元された深鉢。底部を欠く。口径28.7cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は角型。端面は若干外傾し、棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。口縁～胴部には、撚りの異なる原体を交互に横位回転することにより、羽状縄文を多段に施している。上下の 2 段で原体を並行して入れ替えており、胴下部では段がずれている。内面は丁寧に磨かれ、平滑である。2 孔 1 対の補修孔が口縁部と胴部にそれぞれ 1 か所確認される。補修孔の内面側は穿孔時の破損により、周囲が不整な円形に剥落している。色調は外面が赤褐色～褐色、内面が黄褐色～暗褐色を呈する。口縁部の内外面には黒斑が見られる。胎土は砂礫に富み、繊維は少量である。焼成は良好で、硬くしまる。2 は口縁部片で、1 と同様に羽状縄文が施されるが、口唇は無文である。

(芝田)

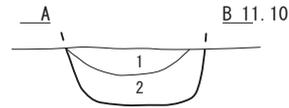
P-24



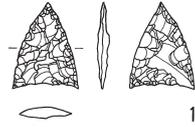
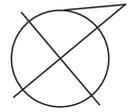
17d

P-24

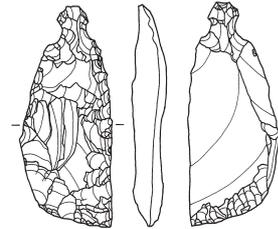
- 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
II層相当
- 2 5YR2/2黒色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム粒(φ5~10mm)2%混じる II>ローム



18a



1

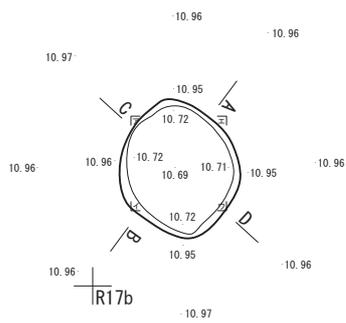


2

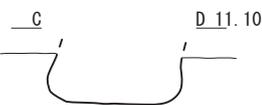
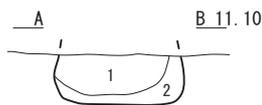


P-25

17a



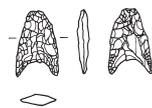
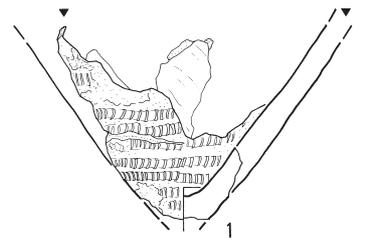
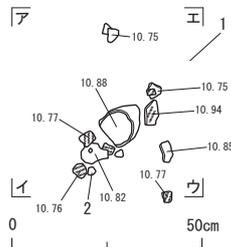
17b



P-25

- 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
II層相当
- 2 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム(φ5~10mm)2%混じる II>ローム

遺物出土状況



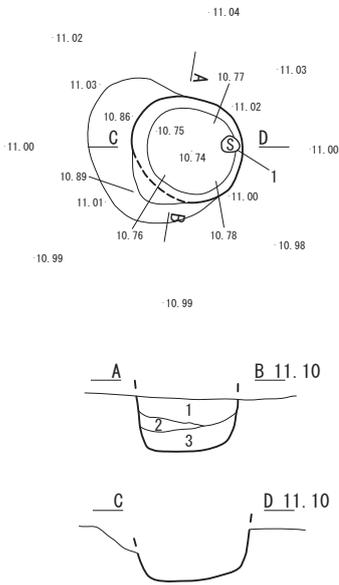
2



図IV-40 P-24・25と出土遺物

P-26

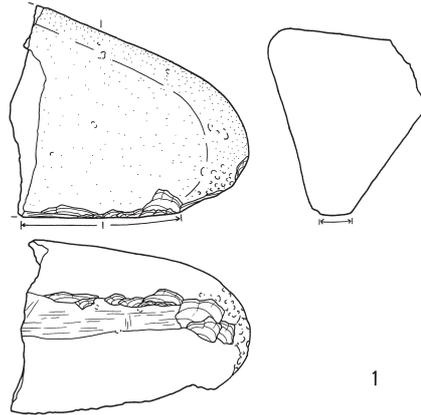
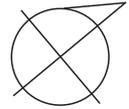
R17d



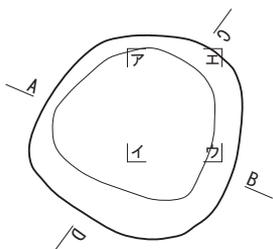
R18a

P-26

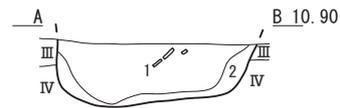
- 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
II層相当
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
II+ローム
- 3 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム粒(φ5~10mm)2%混じる II>ローム



P-27



V18d



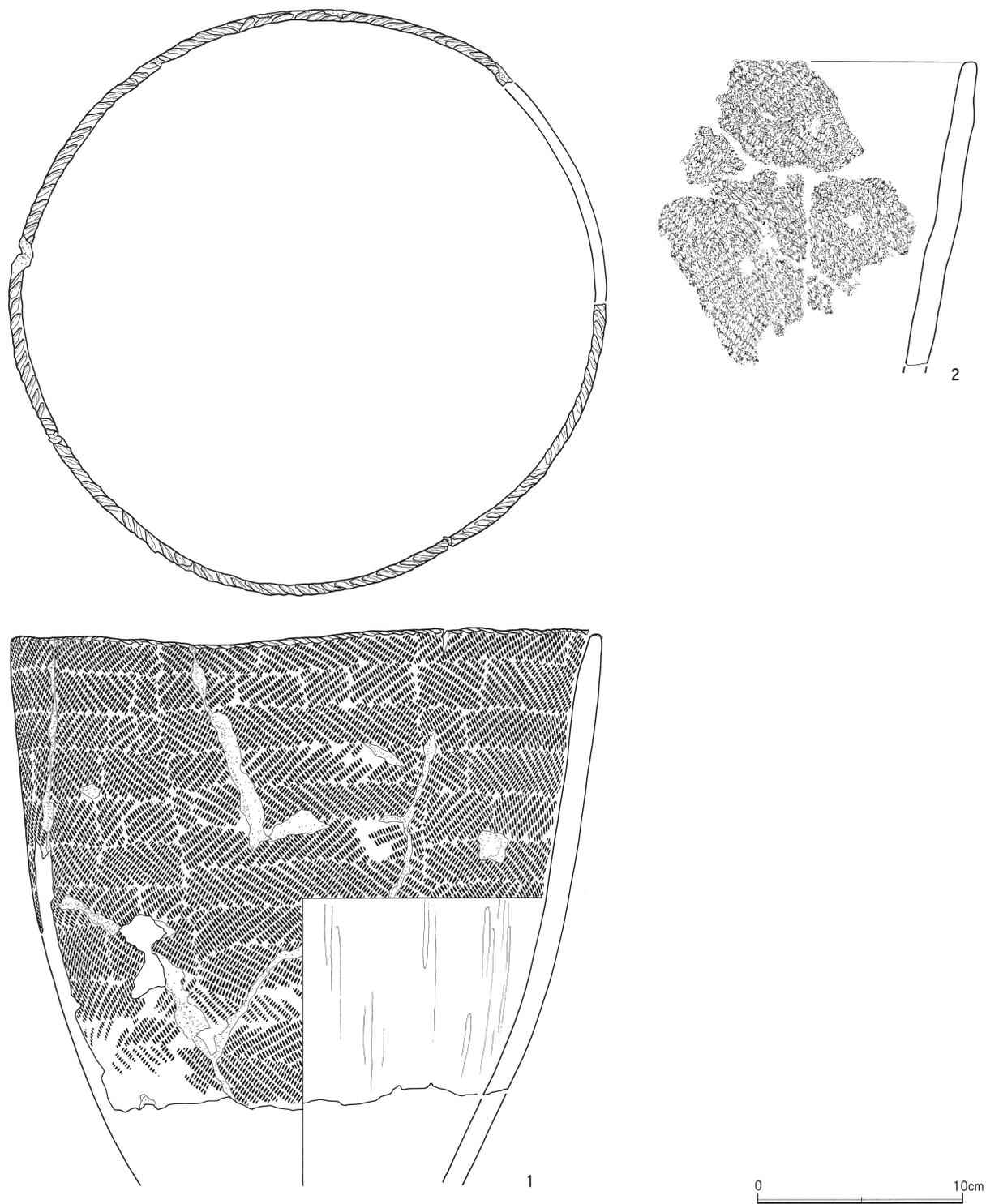
P-27

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 炭化材1%含む
土器片(桔梗野式)含む
- 2 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中

V19a



図IV-41 P-26・27と出土遺物



図IV-42 P-27の出土遺物

P-28 (図IV-43/表1~4)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。坑底直上の覆土1層からは、縄文前期前半の土器や安山岩製の扁平礫の稜を擦ったすり石・剥片が出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で、壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-29 (図IV-43/表1~5)

特徴 Ⅲ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。覆土1層はⅡ層と考えられる。覆土1層からは、縄文前期前半の土器や剥片・礫が出土している。平面形は楕円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 出土遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

遺物 土器：1はⅡ群a類。胴部片で結節回転文が多段に施される。(芝田)

P-30 (図IV-43/表1/図版17)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻し。遺物は出土していない。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-31 (図IV-34/表1・2・4・6)

特徴 標高12.2m付近の平坦面に立地する。Ⅲ層上面で黒い落ち込みを検出した。木根攪乱と誤認し、P-18をほとんど削平してしまった後、切り合う遺構があるとわかり、半截した。平面形は長楕円形。壁は明瞭に立ち上がる。坑底は平坦であるが傾斜している。覆土から数点の石器が出土した。P-18のものとして取り上げた石器も、P-31の遺物が流れ込んだ可能性がある。

時期 不明である。P-18を切って構築されているため、これよりも新しい時期である。(新家)

遺物 石器：1はたたき石。垂円礫の下端部と側面に敲打痕がある。(酒井)

P-32 (図IV-43/表1)

特徴 V18区のⅣ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。V18区側で落ち込みを確認したことからU18区側を精査したところⅢ層上面で確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の埋め戻し。遺物は出土していない。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

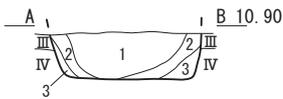
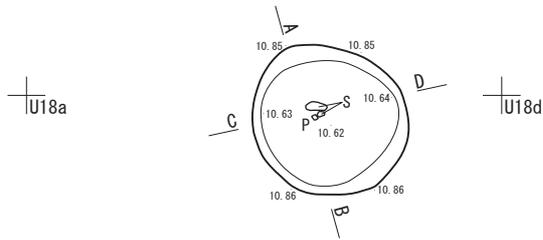
時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-33 (図IV-44~46/表1~6/図版17)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれたフラスコ状土坑。Ⅳ層上面で黒色土が円形に落ち込んでいるのを検出した。掘り込み面はⅡ層中と推測される。坑口部から掘り込みの中位までは窄まり、坑底部は大きくオーバーハングする。オーバーハング部分より上位のⅣ層は非常にもろく、放射状の亀裂が掘り込みの壁面から坑底部へ向かって生じている。これらの亀裂の内部に暗褐色土が入り込んでいる。坑底面は中央部が少し低い。覆土は自然堆積で、上部が主にⅡ層を起源とする落ち込み、下部が主にⅢ・Ⅳ層を起源とする崩落土と腐植土の互層となっている。周辺より小土坑4基(SP-1~4)が検出された。これらはP-33との位置関係から何らかの付属施設の一部と考えられるが、隣接するH-3の柱穴である可能性もある。坑底部からは、Ⅳ群a類土器(1~22)、石槍・ナイフ(23)、たたき石(24)、すり石(27)、剥片が出土した。覆土中および坑底部より礫・礫片が多く出土しているが、これらは主にⅣ層中よりの崩落にともなう流れ込みである。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。

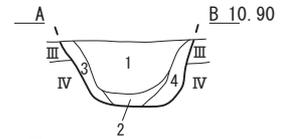
P-28



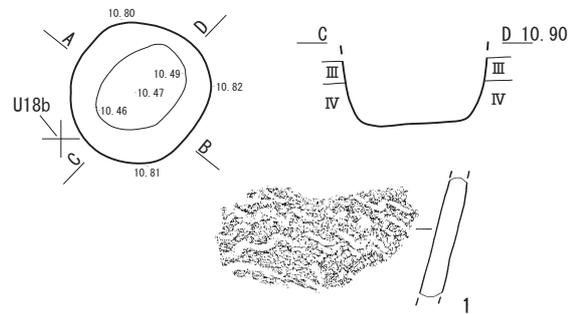
- P-28
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 炭化材1%含む
 - 2 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 にぶい黄褐色土(10YR4/3)含む
 - 3 10YR4/3にぶい黄褐色土 しまり中 粘性中



P-29

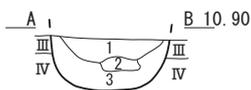
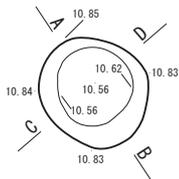


- P-29
- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
 - 2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/6)塊10%含む
 - 3 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中
 - 4 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中



P-30

U19b

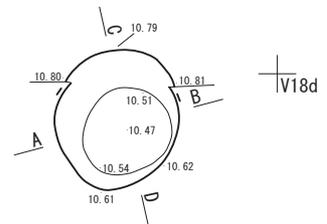


- P-30
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 炭化材1%含む
 - 2 10YR5/8黄褐色粘土 しまり強 粘性中
 - 3 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中



P-32

U18a

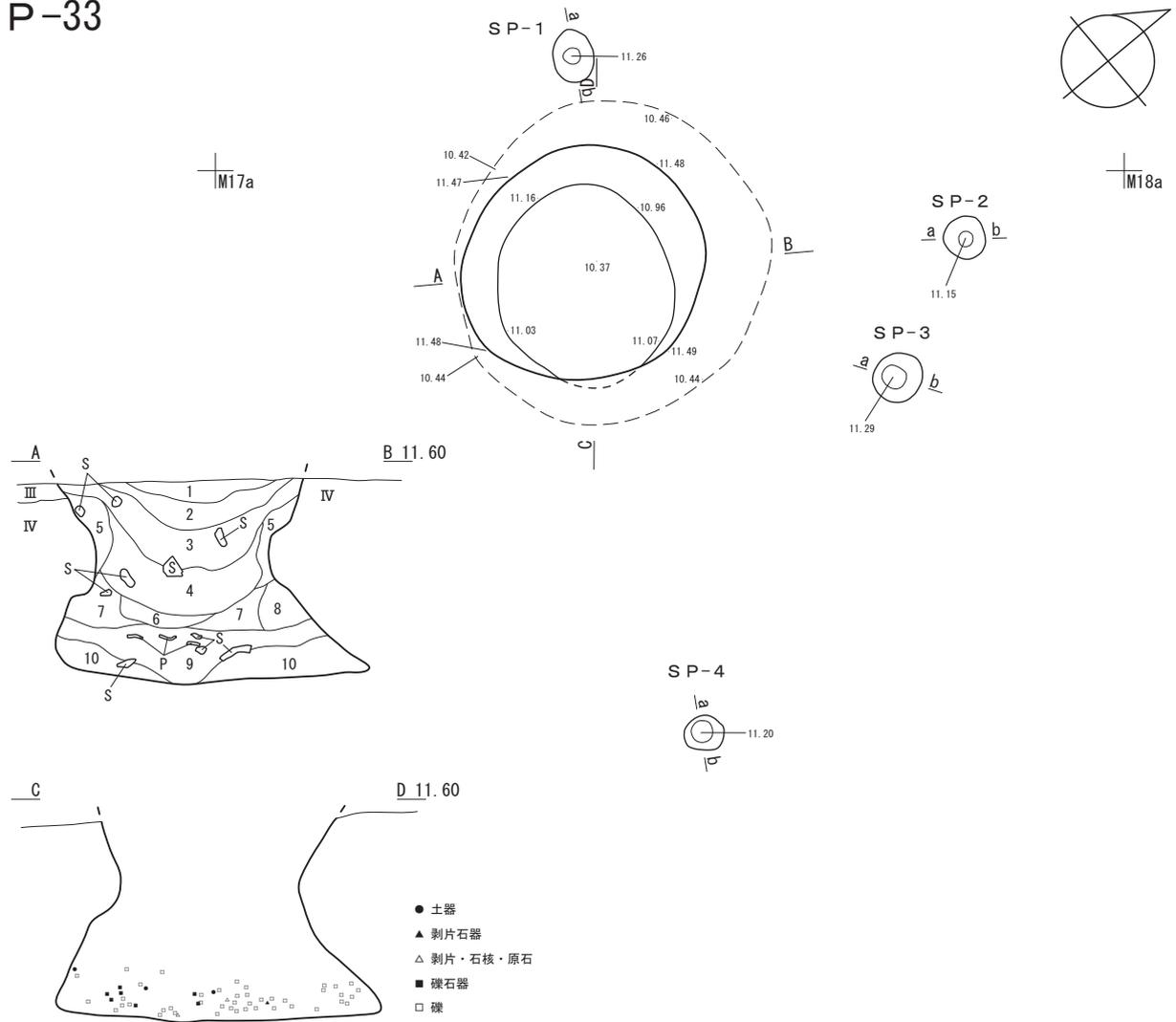


- P-32
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/6)粒1%含む
 - 2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/6)塊10%含む



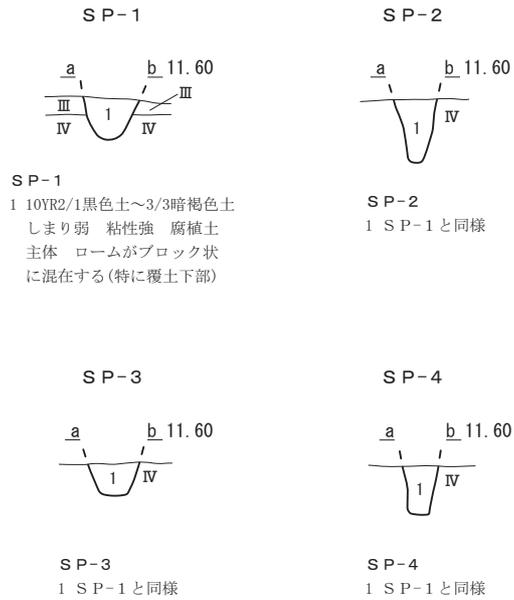
図IV-43 P-28~30・32と出土遺物

P-33



P-33

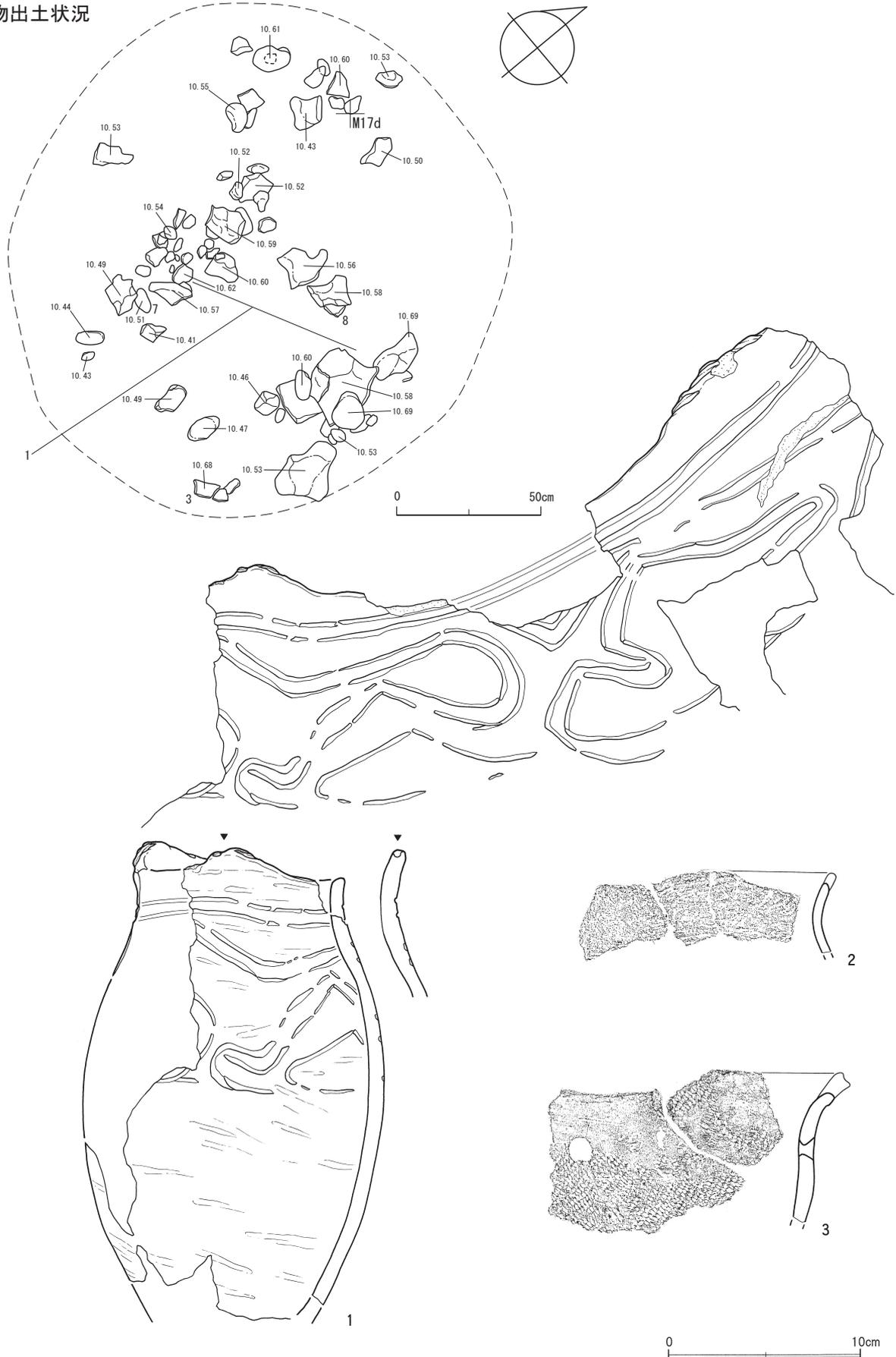
- 1 10VR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中
II層起源の腐植土(自然堆積)
- 2 10VR2/1黒色土 しまり弱 粘性中
1層と同質だがロームが部分的に混じる
- 3 10VR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強
1層と同質だがロームが微量に混じる
炭化材(φ20mm以下)微量に混じる
- 4 10VR2/1黒色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 ローム少量混じる
ロームブロック(φ30mm以下)が見られる
- 5 10VR2/2黒褐色土~4/3にぶい黄褐色土
しまり弱 粘性強 ロームに腐植土が
斑状に混じる III層起源の崩落土
- 6 10VR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 ローム少量混じる(上部
に多い)
- 7 10VR2/3黒褐色土~4/4褐色土 しまり弱
粘性強 腐植土とロームがラミナ状に
混在する
- 8 10VR5/6橙色土~3/3暗褐色土 しまり弱
粘性強 ローム主体 腐植土ブロック
(φ10mm以下)あり
- 9 10VR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 ローム微量混じる
- 10 10VR1.7/1黒色土~4/6褐色土 しまり弱
粘性強 腐植土とロームがラミナ状に
混在する 炭化材(φ10mm以下)少量混じる



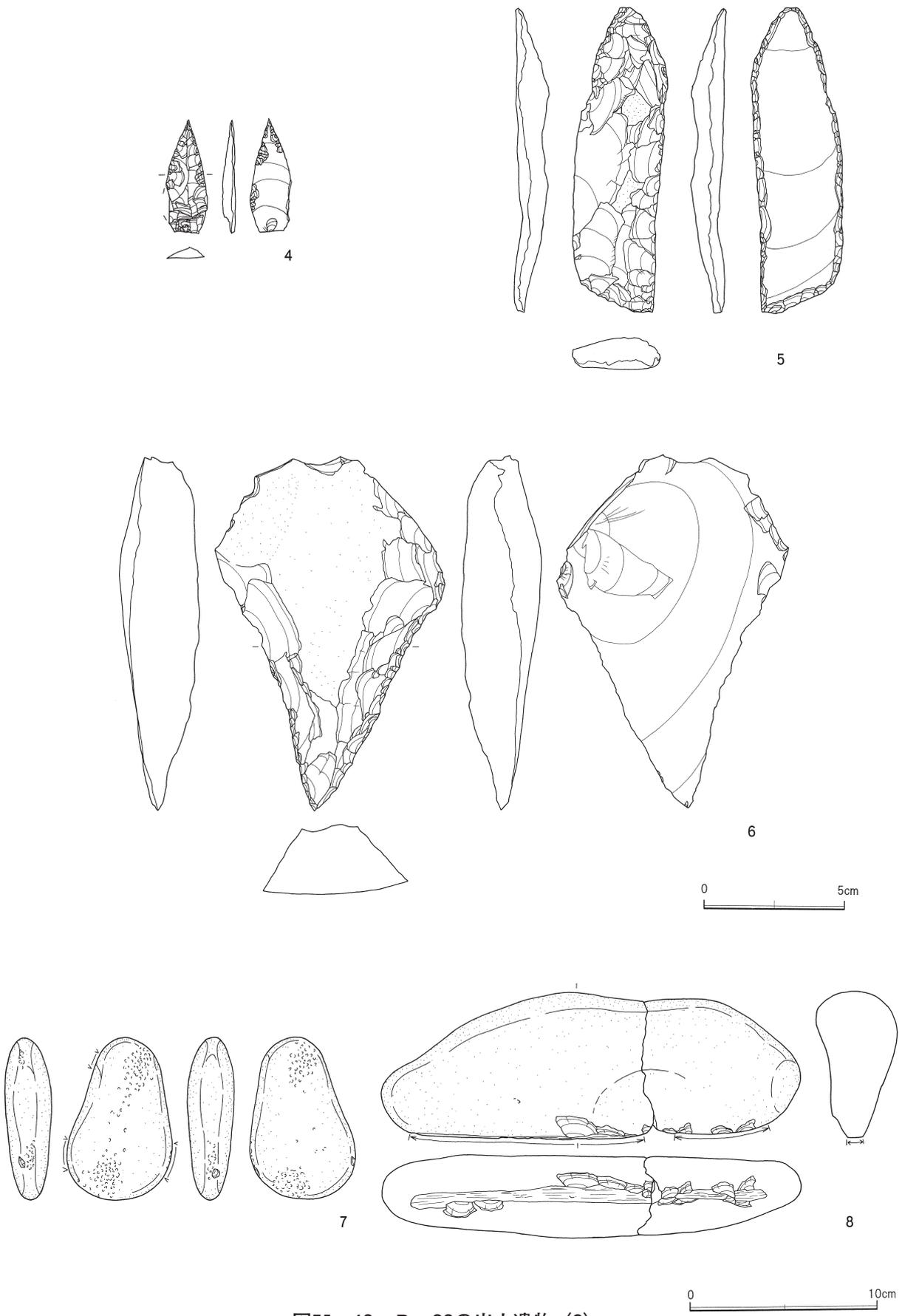
0 1m

図IV-44 P-33 (1)

遺物出土状況



図IV-45 P-33 (2) と出土遺物 (1)



図IV-46 P-33の出土遺物 (2)

遺物 土器：1～3はIV群a類。1は口縁～胴下部が復元された壺。底部を欠く。広口で、胴部の張り出しが小さい細身の器形。全体の約4/5が残存しており、口径10.9cm、胴部の最大径15.5cmを測る。口縁部は波状で、3か所の波頂部を有していたと推測され、このうち2か所が残存する。波頂部は棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。外面は無文地でよく磨かれている。ヘラ状工具による斜め、あるいは横方向の調整痕が観察され、器面には凹凸が見られる。頸部に細い平行沈線を2条巡らし、口縁部と胴部を区画する。胴上部には主に2条1組の細い沈線により不整な曲線文様が描かれる。色調は内外面ともに褐色～黄褐色を呈し、外面には炭化物が付着する。胎土は砂礫が多く混入しており、器面に浮き出す。2・3は口縁部片で、いずれも山形突起を有する。2は無文。3はLR斜走縄文が施される。(芝田)

石器：4は三角形の石鏃。平基。ごく粗い調整で未成品の可能性がある。5は篋状石器。縦型のつまみ付きナイフの形状をしたもの。縦長剥片の両面周縁を二次加工して刃部を作出している。6はスクレイパー。急角度の直線状の刃部が下端部に向かって収束する。7はたたき石。扁平礫の腹背部と周縁部に敲打痕がある。8はすり石。断面が三角形の礫の稜を擦っている。(酒井)

P-34 (図IV-47/表1・4)

特徴 III層中位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、比較的緩く立ち上がっているが全周で明瞭である。覆土は、II層を主体とする土で、埋め戻しかどうかは不明であるが均一である。遺物は、覆土から剥片1点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-35 (図IV-47/表1・4)

特徴 III層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は中央部がわずかに盛り上がっているが、ほぼ平坦である。壁は、比較的緩く立ち上がっているが全周で明瞭である。覆土はII層を主体とする自然堆積である。2層・3層はIV層ロームが混じる土である。遺物は出土していない。

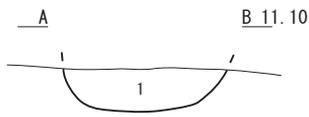
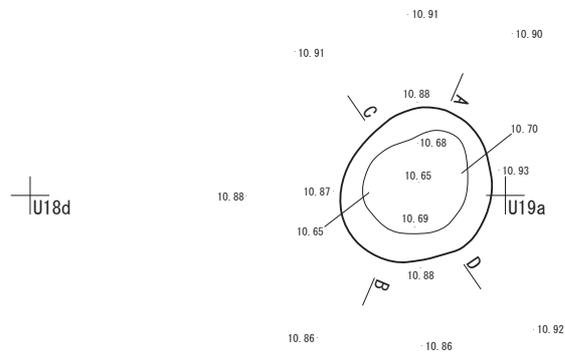
時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-36 (図IV-47/表1・2・9)

特徴 III層上面で明赤褐色土と黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はII・III層主体の埋め戻し。覆土1層の赤褐色土はこの位置で焼成された焼土ではなく、焼けた土を入れたものと考えられる。この赤褐色土中から頁岩の微細剥片10点が出検されている。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性がある。(酒井)

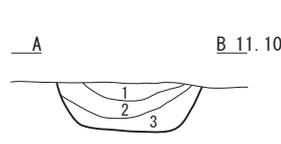
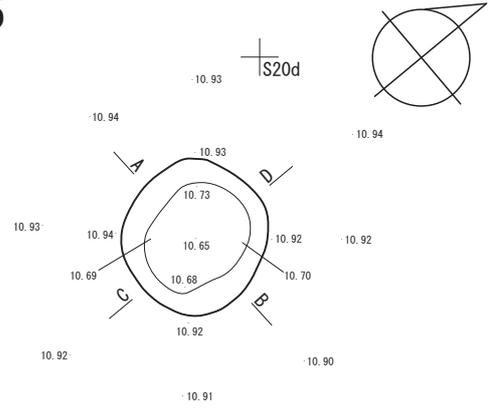
P-34



P-34
 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり弱 粘性弱
 II層相当



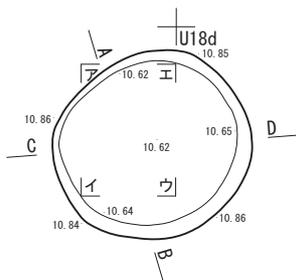
P-35



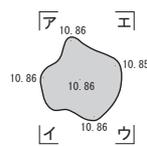
P-35
 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
 II層相当
 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ5~010mm)2%混じる II+ローム
 3 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ5~10mm)2%混じる II>ローム



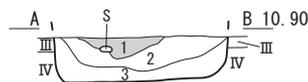
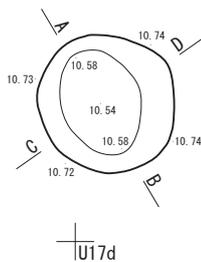
P-36



上面赤褐色土範囲



P-37



P-36
 1 5YR5/8明赤褐色焼土~5YR4/3にぶい赤褐色焼土
 しまり中 粘性中
 2 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中
 3 10YR3/3暗赤褐色土 しまり中 粘性中
 黄褐色土(10YR5/6)塊20%含む

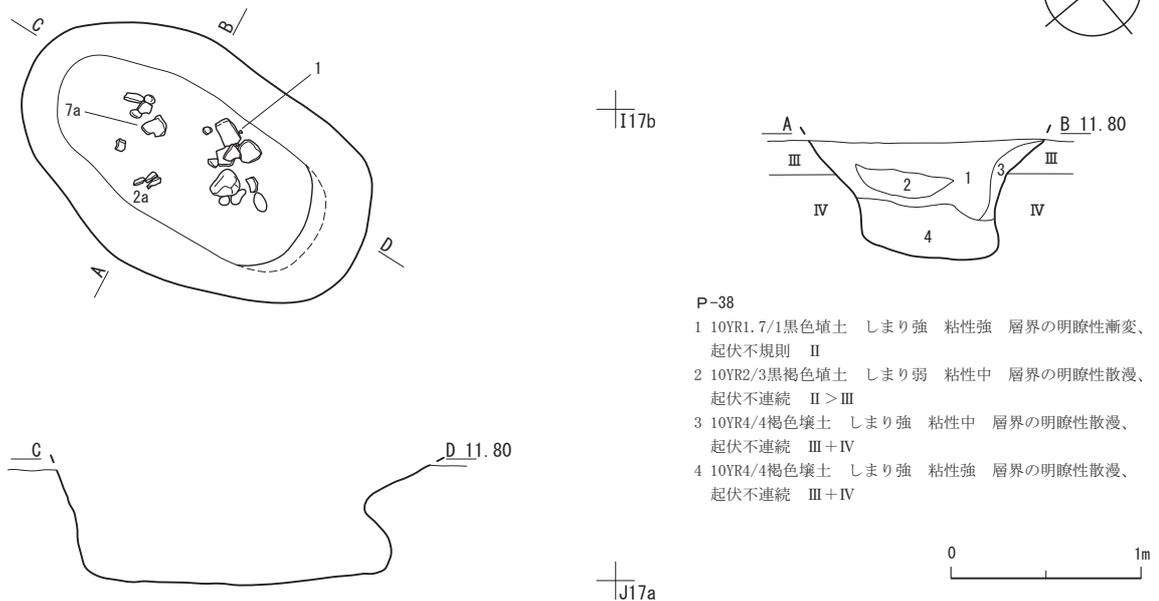


P-37
 1 10YR3/2黒褐色土 しまり中 粘性中
 黄褐色土(10YR5/6)粒10%含む
 2 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中
 暗褐色土(10YR3/3)塊30%含む



図IV-47 P-34~37

P-38



図IV-48 P-38

P-37 (図IV-47/表1)

特徴 IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅢ・IV層主体の流れ込み。遺物は出土していない。平面形は確認面で円形、坑底面で楕円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

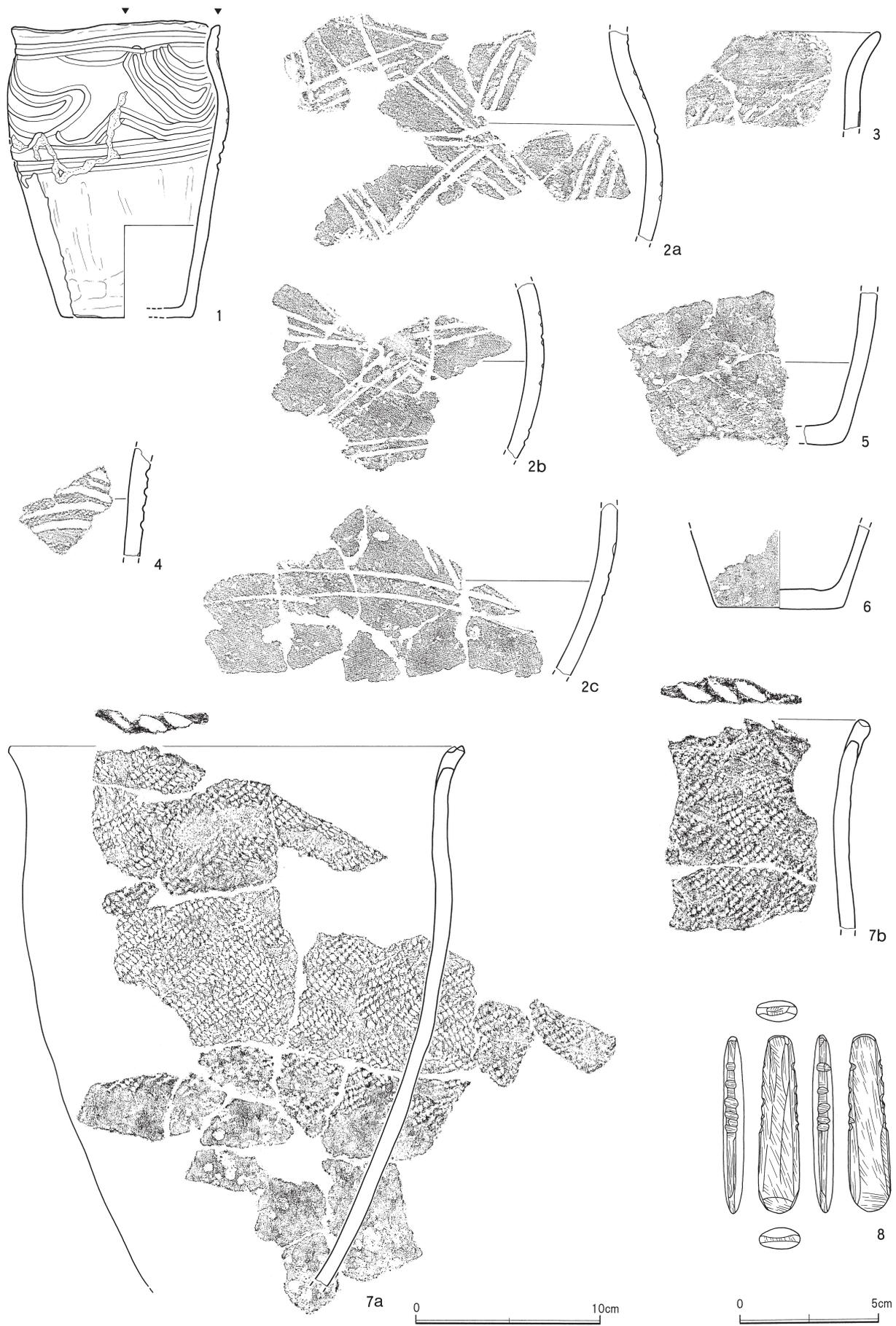
時期 周辺の遺構や遺物から推測すると、縄文時代前期前半の可能性はある。(酒井)

P-38 (図IV-48/表1~6/図版17)

特徴 標高11.8mの平坦面に立地する。Ⅲ層調査中、小判形の黒い落ち込みを検出した。短軸で半截したところ、オーバーハングしながら立ち上がる壁と、ほぼ平坦な底面を確認した。覆土~坑底から複数の土器片と礫片等が出土した。形状は浅いTピットを思わせる。

時期 出土した土器片が縄文時代後期前葉のものであり、この時期の土坑と思われる。(新家)

遺物 土器：1~7はIV群a類。1~4は無文地に沈線で文様が描かれるもの。1は口縁~底部が復元された小型の深鉢。全体の約1/2が残存しており、口径11.2cm、底径7.1cm(推定)、高さ16.1cmを測る。口縁部が直線的に立ち上がり、胴上部が膨らむ器形。底部は平底。口縁部は緩い小波状で、口唇断面は丸い。頸部と胴中部にそれぞれ2条、3条の平行沈線を巡らし、文様帯を区画する。内部にはやはり2ないし3条1組の沈線により垂下する屈曲文を連続して施している。内外面ともによく磨かれており、胴下部には縦方向、底部には横方向の調整痕が残る。色調は外面が暗褐色~黒褐色、内面が褐色~暗褐色を呈する。内面には黒斑が見られる。胎土は砂礫が多く混入しており、器面に浮き出す。2は深鉢の胴部。口縁部が外反もしくは直線的に立ち上がり、胴上部が膨らむ器形と推測される。頸部~胴中部に2条1組の平行沈線で文様帯を2段区画し、それぞれの内部に3条1組の沈線により鋸歯状文が描かれる。3は口縁部。口唇直下は無文で、下部に斜位と推測される沈線が見られる。4は胴部。太い沈線で横走もしくは波状の沈線が見られる。5・6は底部。いずれも無文で平底である。7は深鉢で、底部を欠失する。口縁部が外反し、胴上部がわずかに膨らむ器形。口縁~胴部にLR斜走縄文が施されるが、底部は無文である。口唇の山形突起の頂部は、棒状施文具の側面により刻まれる。(芝田)



図IV-49 P-38の出土遺物

石器：8は石製品。短冊形の石のみを転用したものと考えられる。全面を研磨によって整形し、両側縁に短い溝状の刻みを片側6本ずつ施している。刃部は研磨によって潰されている。(酒井)

P-39 (図IV-50/表1~5)

特徴 調査範囲際のⅢ層下位で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅢ・Ⅳ層主体。覆土2層は埋め戻し、覆土1層は流れ込み。覆土1層と2層の層界から遺物が検出される。遺物は覆土から縄文時代前期前半の土器、頁岩の微細剥片、礫が出土している。平面形は楕円形。坑底は平坦だが長軸方向に勾配が見られる。壁はやや急に立ち上がる。

時期 出土遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1・2はⅡ群a類。1は口縁部片。半截竹管状施文具による疎らな刺突列が波状に施される。口唇は断面V字状の細い棒状施文具により刻まれる。2は胴部片。磨滅により器面が不鮮明になっているが、半截竹管状施文具による横向きの刺突列が多段に施される。(芝田)

P-40 (図IV-50/表1~5/図版18)

特徴 Ⅲ層上位で楕円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層・3層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片6点、U剥片2点の合計8点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 土器：1はⅡ群a類。口縁～胴中部が復元された深鉢。底部を欠く。全体の約1/2が残存しており、推定口径17.0cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は角型。端面は水平で、半截竹管状施文具による横向きの刺突が連続して加えられている。器外面には疎らなRL斜走縄文が施され、結節回転文が多段に巡る。色調は外面が褐色、内面が褐色～暗褐色を呈する。内面はナデ調整されるが、指頭による凹凸が残る。内面には炭化物が多量に付着する。胎土は緻密で、細砂礫・繊維が混入している。(芝田)

P-41 (図IV-51/表1~5)

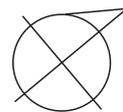
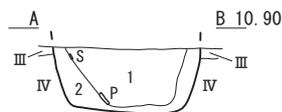
特徴 Ⅲ層中位で土器のまとまりを検出。「一括土器4」として調査を行ったが、覆土の遺物として取り扱う。ほぼ1個体分の土器がつぶれた状態で検出されたので周囲の精査を行ったところ、土器のまとまりの下位から円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦である。壁はやや緩やかに立ち上がっているが、全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片3点、剥片1点の合計4点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 土器：1はⅡ群a類。口縁～胴部が復元された深鉢。底部を欠く。全体の約1/3が残存しており、推定口径22.5cmを測る。口縁部は平縁で、直線的に立ち上がる。口唇断面は角型で、端面は水平。口縁～胴上部にLR斜走縄文が施され、結節回転文が多段に巡る。胴下部はLR縄文とRL縄文が交互に施され、羽状となっている。胴下部の縄文は磨滅により不鮮明である。色調は外面が褐色～黒褐色、内面が暗褐色を呈する。内面は横ナデによる調整痕が残る。胎土は砂礫・繊維が多量に混入しており、径0.5cmほどの細礫が器面に浮き出す。(芝田)

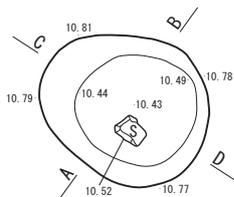
P-39

T17a

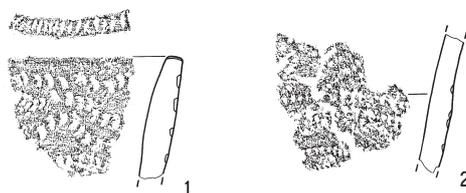


P-39

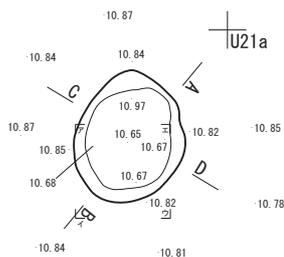
- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性中
褐色土(10YR4/4)粒1%含む
 - 2 10YR3/3暗褐色土 しまり強 粘性中
黄褐色土(10YR5/6)塊30%含む
- 1層と2層の層界に土器・頁岩剥片を多く検出する



T17b



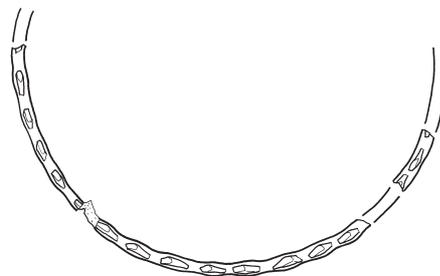
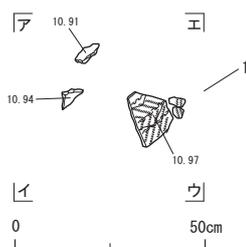
P-40



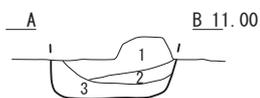
U21a

0 10cm

覆土上部遺物出土状況



U21b

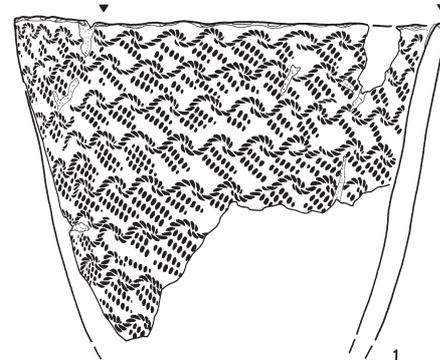


P-40

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 7.5YR4/6褐色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム粒(φ5~10mm)25%混じる
- 3 7.5YR3/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム粒(φ5~10mm)5%混じる



0 1m

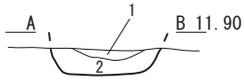
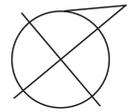


0 10cm

図IV-50 P-39・40と出土遺物

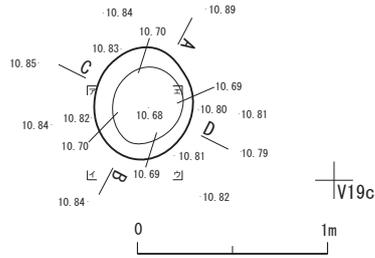
P-41

V19a

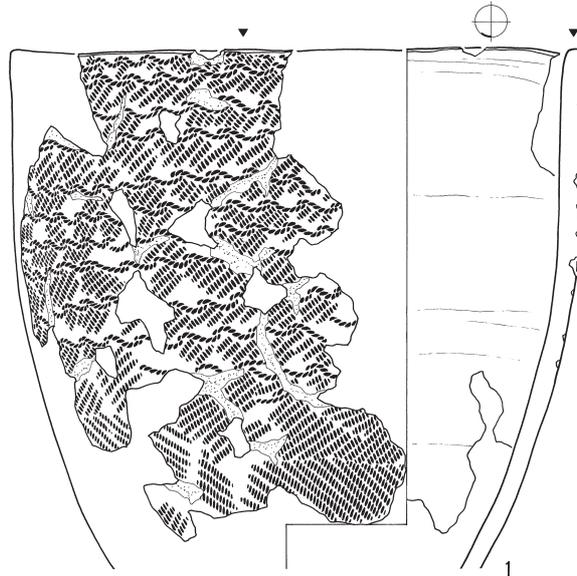
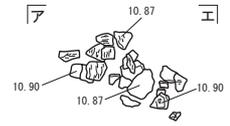


P-41

- 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ5mm以下)1%混じる

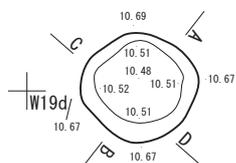


覆土遺物出土状況
(一括土器4)

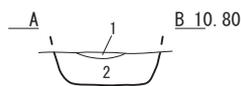


図IV-51 P-41と出土遺物

P-42



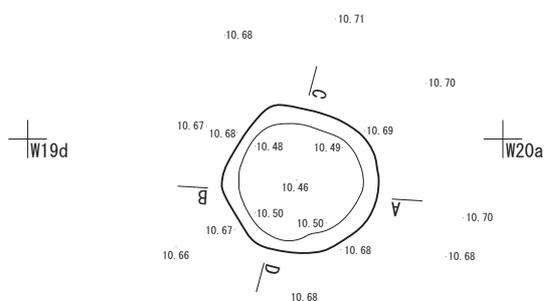
W20a



P-42

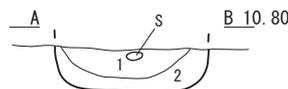
- 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
II層相当
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム+II層 ローム粒(φ5~10mm)5%混入

P-43



W19d

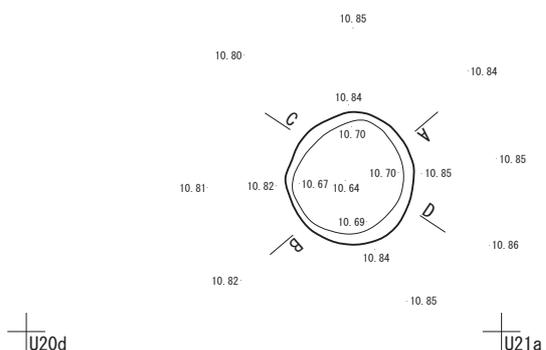
W20a



P-43

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
ローム粒(φ5~10mm)5%混じる

P-44



U20d

U21a

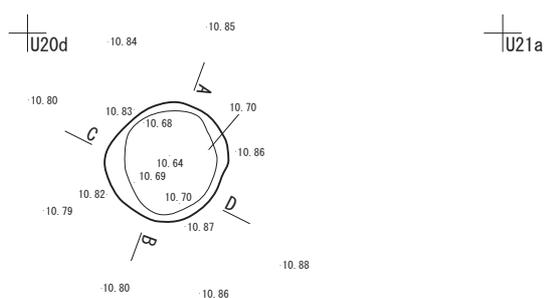


P-44

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強



P-45



U20d

U21a



P-45

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強



図IV-52 P-42~45

P-42 (図IV-52/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する暗褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる。遺物はすべて覆土からで、スクレイパー1点、剥片2点、礫1点の合計4点が出土している

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-43 (図IV-52/表1～4)

特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底はわずかに起伏がある。壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片10点、同後期前半1点、たたき石1点、剥片27点、礫2点の合計41点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

P-44 (図IV-52/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦で、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする土壌で、埋め戻しかどうかは不明であるが均一な覆土である。遺物はすべて覆土からで、石鏃1点、石錐1点、スクレイパー1点、剥片14点の合計17点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-45 (図IV-52/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦である。壁は、南西側でやや緩やかに立ち上がるが、そのほかは急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする土壌で、埋め戻しかどうかは不明であるが均一な覆土である。遺物はすべて覆土からで、剥片15点が出土している。このうち2点が黒曜石製である。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

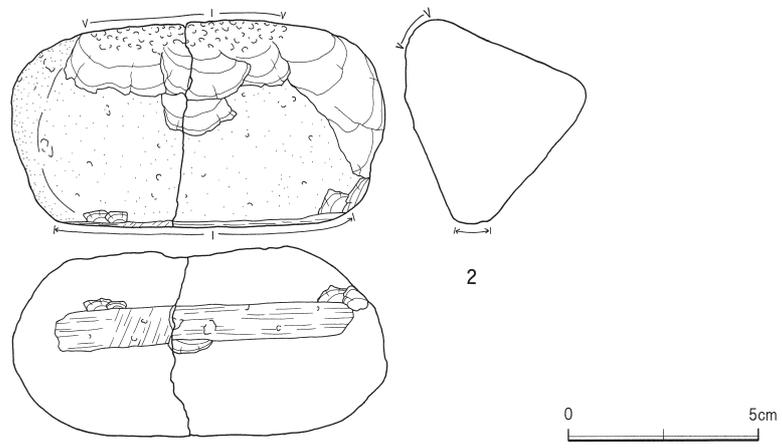
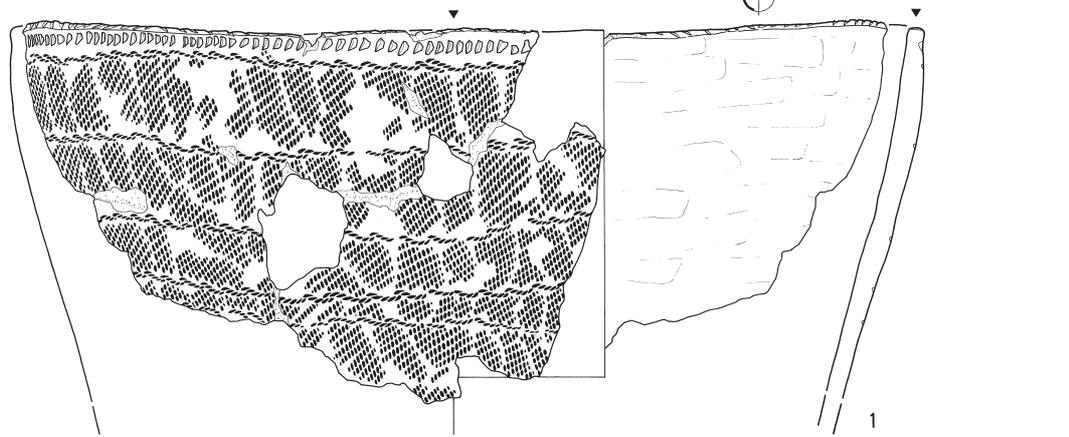
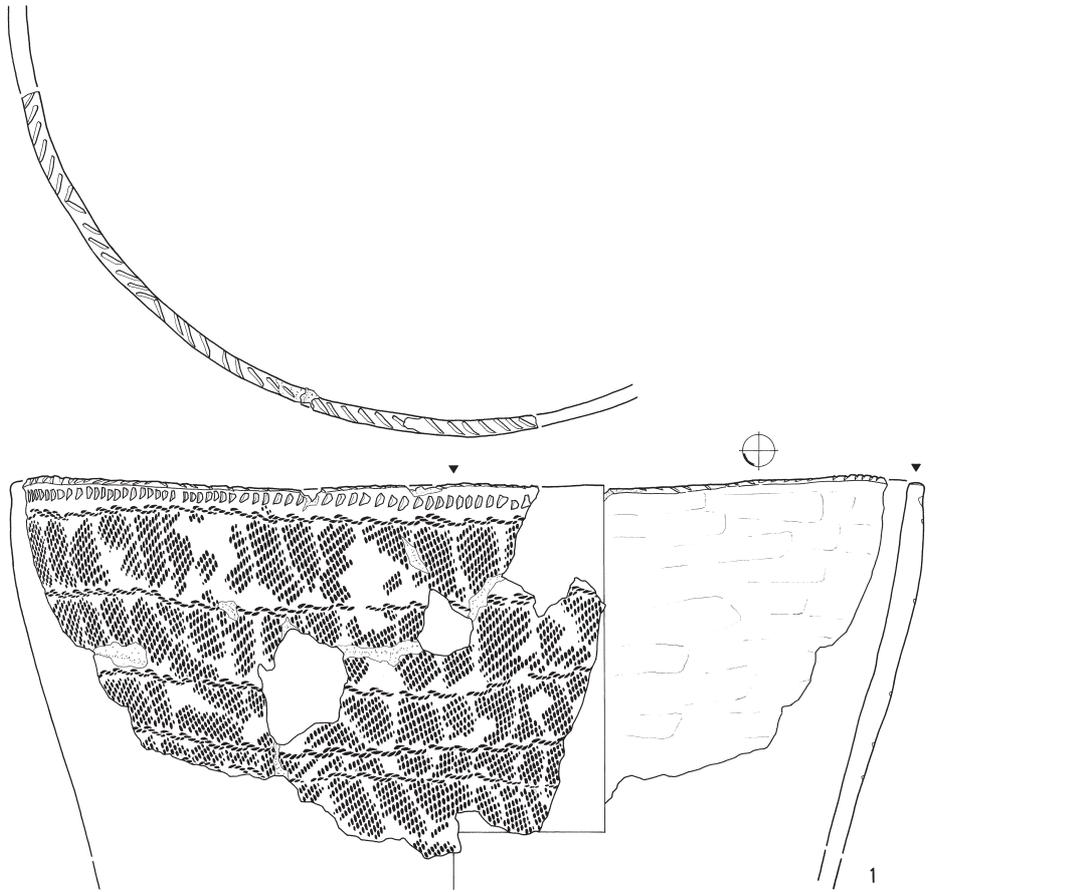
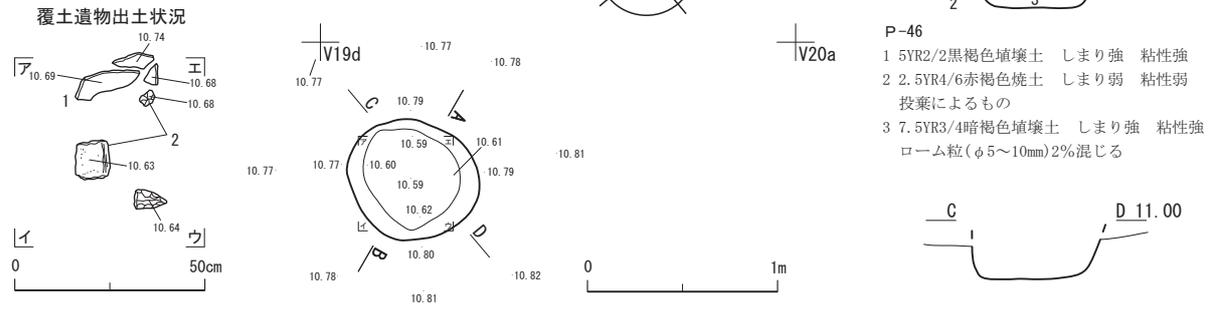
P-46 (図IV-53/表1～6・9/図版18)

特徴 Ⅲ層中位で楕円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形、坑底は平坦である。壁はやや緩やかに立ち上がっているが、全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。覆土1層から炭化物が検出された。2層は多量の焼土を含む赤褐色土である。Ⅲ層主体の土壌である。炭化物も混じる。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片5点、石槍・ナイフ類1点、スクレイパー1点、断面三角形すり石1点、U剥片1点、剥片31点の合計40点が出土している。ほかに、炭化したクルミの外殻が検出された。この炭化クルミを試料として放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ(HEBI2-7)、 $5,650 \pm 30\text{yrBP}$ という数値が得られた。詳細はⅥ章第1節を参照されたい。

時期 出土した土器片から縄文時代縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 土器：1はⅡ群a類。口縁～胴上部が復元された深鉢。胴中～底部を欠く。全体の約1/4が残存しており、推定口径35.9cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は角型。端面は水平で、ヘラ状施文具の先端により斜めに刻まれる。器面にはLR斜走縄文が施され、結節回転文が多段に巡る。口唇

P-46



図IV-53 P-46と出土遺物

直下には半截竹管状施文具による刺突列が1段巡る。色調は外面が暗褐色、内面が褐色を呈する。外面には炭化物が多量に付着する。内面にはヘラ状工具による横向きの調整痕が見られ、指頭による凹凸も一部に残る。胎土は砂礫・繊維が目立つ。(芝田)

石器：2はすり石。P-46出土のものとW20区出土のものが接合している。断面が隅丸三角形の稜を擦ったもの。もう一つの稜には敲打痕がある。たたき石としての利用も考えられる。(酒井)

P-47 (図IV-54/表1)

特徴 Ⅲ層中位で楕円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形、坑底は平坦である。壁はやや緩やかに立ち上がっているが、全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。遺物は出土していない。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-48 (図IV-54/表1～4・6/図版18)

特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層中から炭化物が出土している。枝状の炭化物で北西壁方向に傾斜している。被熱層が見られないことから流れ込んだものと見られる。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片2点、スクレイパー1点、たたき石1点、剥片14点、礫2点の合計20点が出土している。ほかに、炭化したクルミの外殻が検出された。

時期 出土した土器片から縄文時代縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 石器：1はたたき石。扁平な楕円礫の両端部に敲打痕がある。(酒井)

P-49 (図IV-54/表1～4/図版18)

特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物は覆土と坑底から出土している。覆土からは、縄文時代前期前半の土器片11点、石槍・ナイフ類1点、篋状石器1点、剥片195点の合計208点が出土している。ほかに、炭化したクルミの外殻が検出された。坑底からは、礫2点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

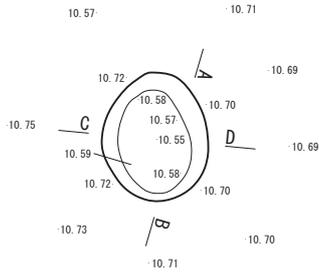
P-50 (図IV-55/表1～5/図版18)

特徴 Ⅲ層上位で楕円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。土坑北側を現代の攪乱によって一部を消失している。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形と思われる。坑底は平坦。壁は南側で急角度に、その他はやや緩やかに立ち上がっているが全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする土である。覆土1層と2層の層界から口縁部から胴部までのほぼ半個体分の土器破片がまとまって出土した。人為的なものか否かは、特定できなかった。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片45点、剥片19点、礫6点の合計70点が出土している。

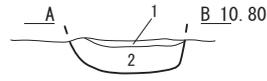
時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 土器：1はⅡ群a類。口縁～胴中部が復元された深鉢。胴下～底部を欠く。口縁部が直線的に立ち上がり、胴部がわずかに膨らむ器形。上面観は楕円形である。口径は長軸で25.1cm、短軸で23.4cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は角型。端面は水平で、棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。撚りの異なる原体を交互に横位回転することにより、不整な羽状縄文を施している。色調は内外

P-47



W19a

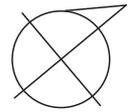


P-47

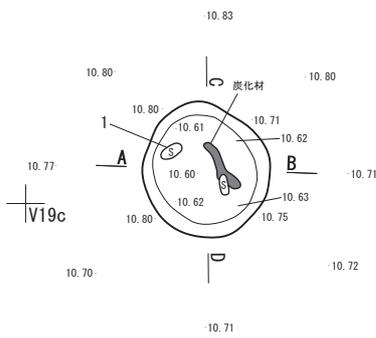
- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強



W19d



P-48



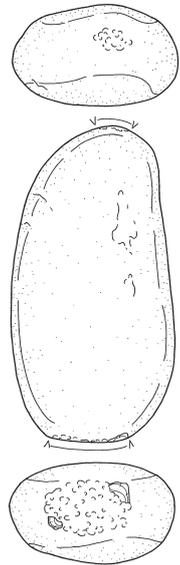
W19c



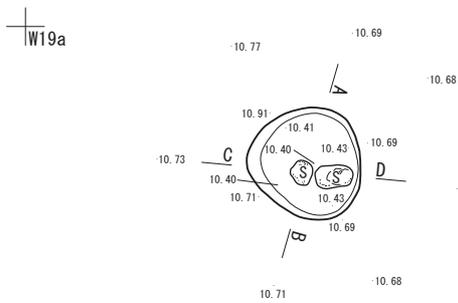
P-48

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ5~10mm)2%混じる

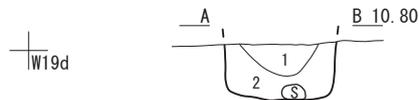
W20b



P-49



W19a



W19d

P-49

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- II + III

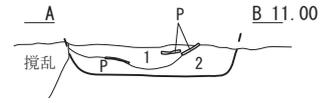
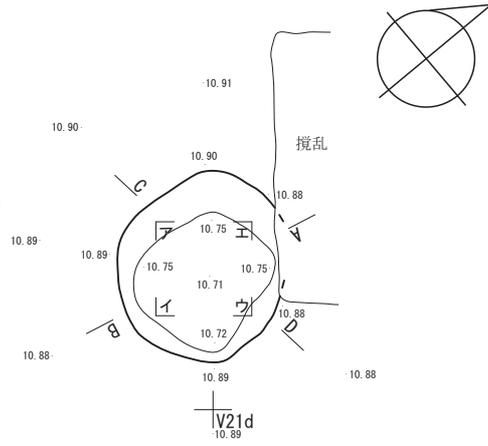
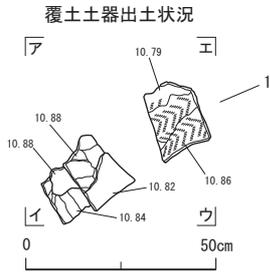


0 10cm

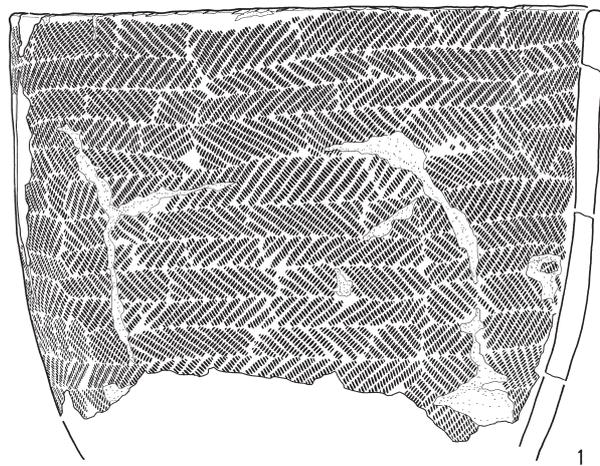
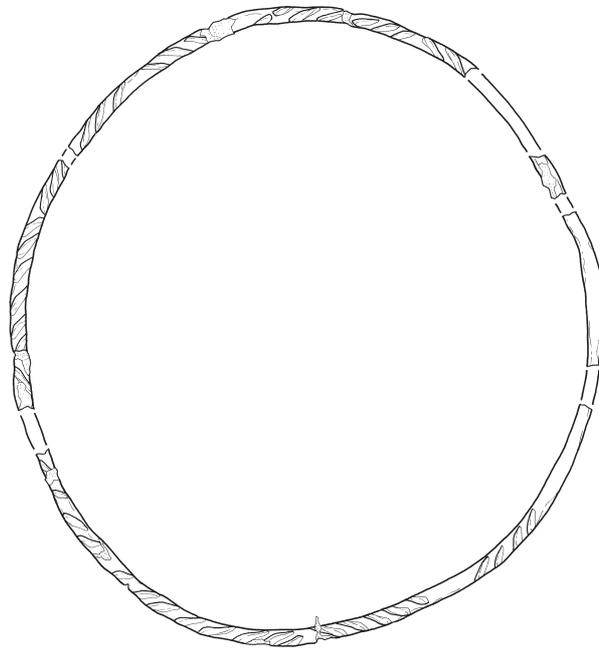
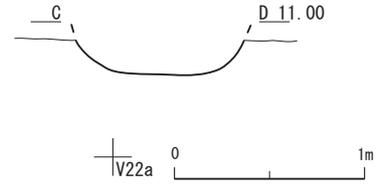
0 1m

図IV-54 P-47~49と出土遺物

P-50



P-50
 1 5YR2/1黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 2 7.5YR3/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ1~5mm)2%混じる



図IV-55 P-50と出土遺物

面ともに暗褐色～褐色を呈する。胴中部の外表面は剥落が著しい。内面はナデ調整され、平滑になっている。胎土は砂礫・繊維に富む。焼成は良好で、硬くしまる。(芝田)

P-51 (図IV-56/表1～4)

特徴 U19区側のIV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。このことからV19区側を精査したところ、Ⅲ層上面で落ち込みを確認した。覆土はⅢ・IV層主体。覆土2層は埋め戻し、覆土1層は流れ込み。覆土1層と2層の層界から縄文前期前半の土器や礫が出土している。平面形は楕円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

時期 出土遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-52 (図IV-56/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はIV層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、剥片18点、礫1点の合計19点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-53 (図IV-56/表1～4)

特徴 IV層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土1層から礫が出土している。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-54 (図IV-56/表1～5/図版18)

特徴 V18区側のIV層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。このことからV18区側を精査したところⅢ層上面で落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土1層中からは多量の遺物が出土している。縄文時代前期前半の土器、甕状石器や石槍・ナイフ、スクレイパーが出土し、頁岩の微細剥片が集中して検出されている。平面形は楕円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。P-84を切って構築している。

時期 出土遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

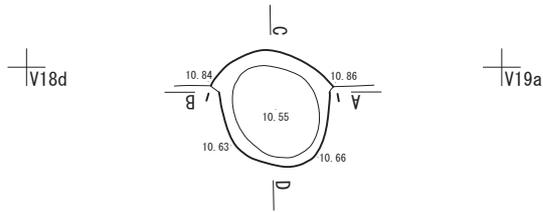
遺物 土器：1はⅡ群a類。口縁部片と胴部片。撚りの異なる原体を交互に横位回転することにより、羽状縄文を施している。(芝田)

P-55 (図IV-57/表1～4)

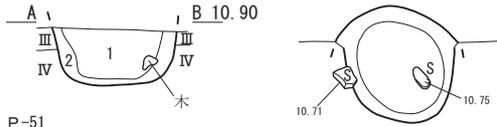
特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。覆土1層中に、流れ込んだと思われる炭化物が混じる。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片1点、U剥片1点、剥片35点、礫1点の合計38点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

P-51



遺物出土状況

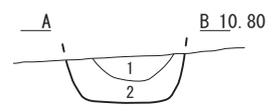
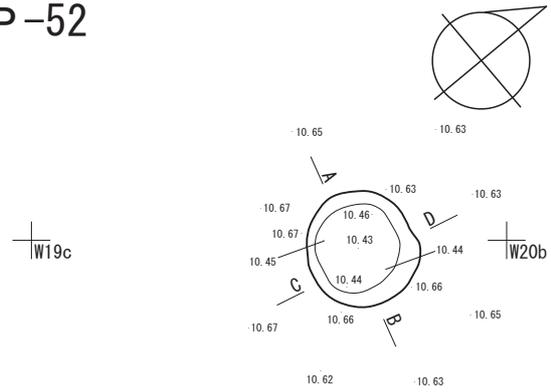


P-51

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり強 粘性中
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり強 粘性中
黄褐色土(10YR5/6)塊10%含む



P-52

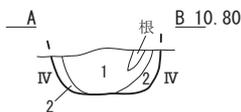
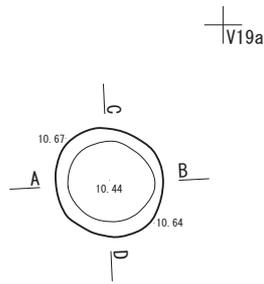


P-52

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強 II + IV



P-53



P-53

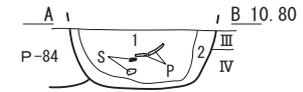
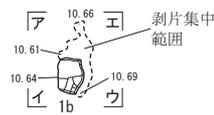
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
黄褐色土(10YR5/6)粒1%含む
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
黄褐色土(10YR5/6)塊含む



P-54

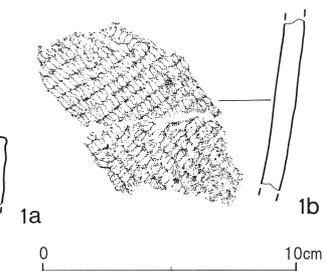


遺物出土状況



P-54

- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり強 粘性中
黄褐色土(10YR5/6)粒(φ1mm以下)1%含む
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
黒褐色土のブロックが混入する



図IV-56 P-51~54と出土遺物

P-56 (図IV-57/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅢ・Ⅳ層主体で流れ込み。覆土から石鏃や微細剥片・礫が出土している。平面形は楕円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-57 (図IV-57/表1～4)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。覆土1層から縄文前期前半の土器や微細剥片が出土した。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 出土遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-58 (図IV-57/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。遺物は出土していない。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-59 (図IV-57/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。覆土1層からU剥片、微細剥片、礫が出土した。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-60 (図IV-57/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。遺物は出土していない。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-61 (図IV-58/表1・2・4)

特徴 Ⅳ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅢ・Ⅳ層の流れ込み。覆土から剥片や礫片が出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-62 (図IV-58/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。西側を半裁して調査を行った際に掘り過ぎてしまい大半を削平してしまった。覆土はⅡ・Ⅲ層主体の流れ込み。遺物は出土していない。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-63 (図IV-58/表1～4)

特徴 調査範囲南側の緩斜面上に掘り込まれた小型の土坑。Ⅲ層上面で黒色土が落ち込んでいるのを検出した。掘り込み面はⅡ層中と推測される。平面形は円形である。坑底面はほぼ平坦で、壁面はやや急に立ち上がる。覆土は自然堆積で、壁際の崩落土以外はⅡ層土の落ち込みである。遺物は覆土中より礫が出土したが、坑底部からは出土していない。

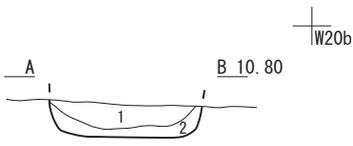
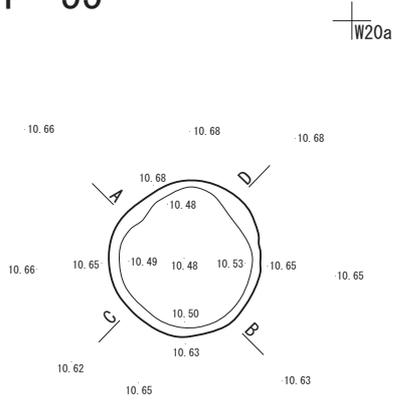
時期 周辺の遺構、包含層出土の遺物から縄文時代前期前半である。(芝田)

P-64 (図IV-58/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。北側にトレンチを入れたところ壁面を確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。遺物は出土していない。平面形は円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-55

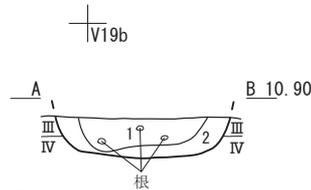
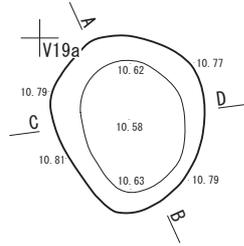


P-55

- 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
炭化物粒(φ5□10mm)1%下位に混じる
流れ込んだものと思われる
- 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
II+IV



P-56

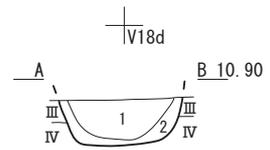
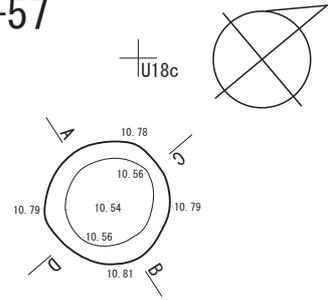


P-56

- 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
- 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中



P-57

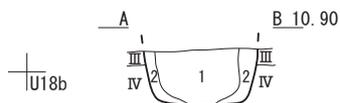
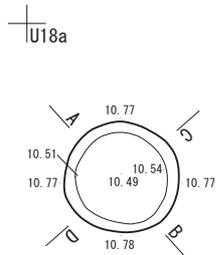


P-57

- 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
- 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中
にぶい黄褐色土(10YR5/4)塊30%含む



P-58

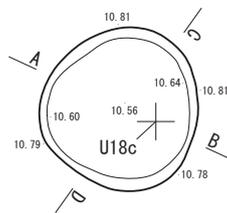


P-58

- 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
- 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(10YR4/6)塊含む

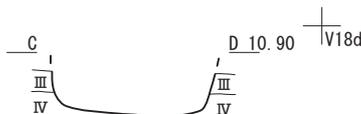


P-59

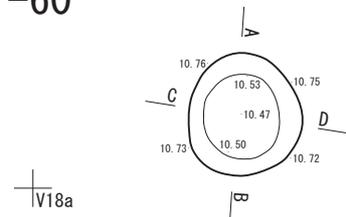


P-59

- 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
炭化材(φ1mm以下)1%含む
- 10YR3/2黒褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(10YR4/4)塊30%含む
- 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中

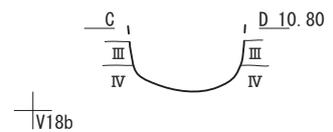


P-60



P-60

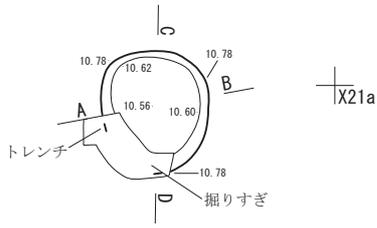
- 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中
- 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(10YR4/6)塊を含む



図IV-57 P-55~60

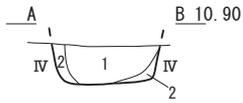
P-61

U19b



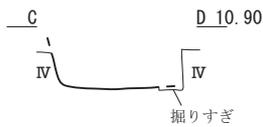
X21a

V19a

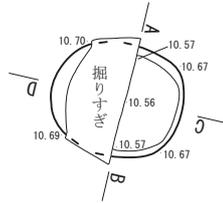


P-61

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
- 2 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中



P-62



P-62

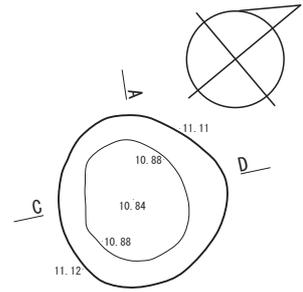
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中



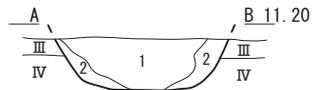
P-63

Q17c

X21d



R17d



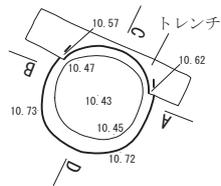
P-63

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中
II層起源の腐植土(自然堆積) ローム
が微量に混じる
- 2 10YR3/4暗褐色土~4/4褐色土 しまり弱
粘性強 腐植土+ローム(斑状) 壁際
の崩落土

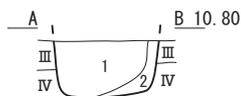


P-64

U18b

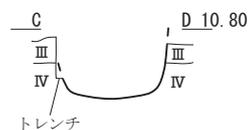


V18a



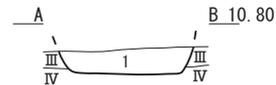
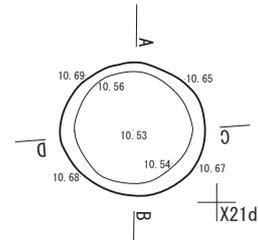
P-64

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
- 2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中



P-65

X21a



P-65

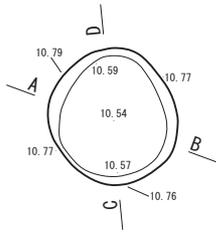
- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(10YR4/6)粒1%含む



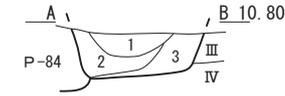
図IV-58 P-61~65

P-66

IV19a



IV19b

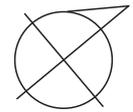


- P-66
- 1 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/8)粒1%含む
 - 2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/8)粒1%含む
 - 3 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 暗褐色土(10YR3/3)塊を斑状に20%含む

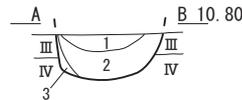
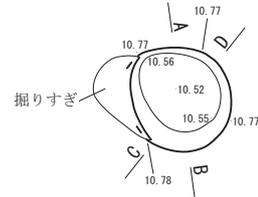


P-67

IV19a



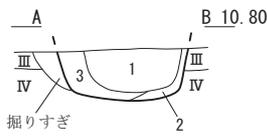
IV19d



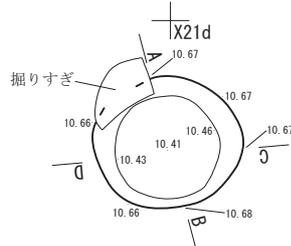
- P-67
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
 - 2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 1層よりやや暗い
 - 3 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 暗褐色土(10YR3/3)が斑状に30%含む

P-68

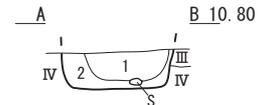
IX21a



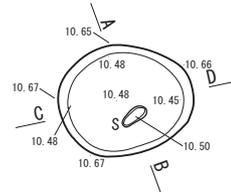
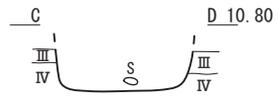
- P-68
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
 - 2 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/4)20%含む
 - 3 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/4)塊を斑状に50%含む



P-69



- P-69
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/8)粒1%含む
 - 2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/4)を斑状に30%含む

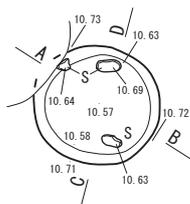


IV19d

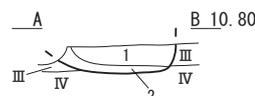
IV20a

P-70

IV19c



IV20b



- P-70
- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中 黄褐色土(10YR5/8)粒1%、炭化材含む
 - 2 10YR3/3黒褐色土 しまり中 粘性中 褐色土(10YR4/4)塊30%含む



図IV-59 P-66~70

P-65 (図IV-58/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。遺物は出土していない。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-66 (図IV-59/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上位から黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土1層から微細剥片が出土している。南東側を半裁した際にP-84を切って構築していることを確認した。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。同じ前期前半と考えられるP-84を切って構築されていることから、P-84よりも新しいと考えられる。(酒井)

P-67 (図IV-59/表1~4)

特徴 Ⅲ層上面から黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土から縄文前期前半の土器やスクレイパー、微細剥片、礫が出土している。平面形は不整円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 出土した遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-68 (図IV-59/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上面から黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土から微細剥片が出土している。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-69 (図IV-59/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上面から黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅢ・Ⅳ層主体の流れ込み。覆土1層と2層の層界から礫が出土している。平面形は楕円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-70 (図IV-59/表1~4)

特徴 Ⅲ層上面から黒褐色土の落ち込みを確認した。西側の一部をP-48に切られている。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土から縄文前期前半の土器やたたき石・剥片・礫片が出土している。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

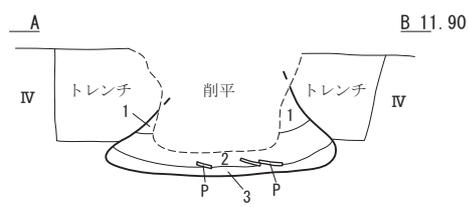
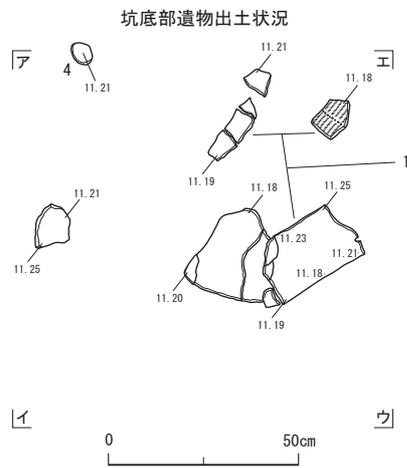
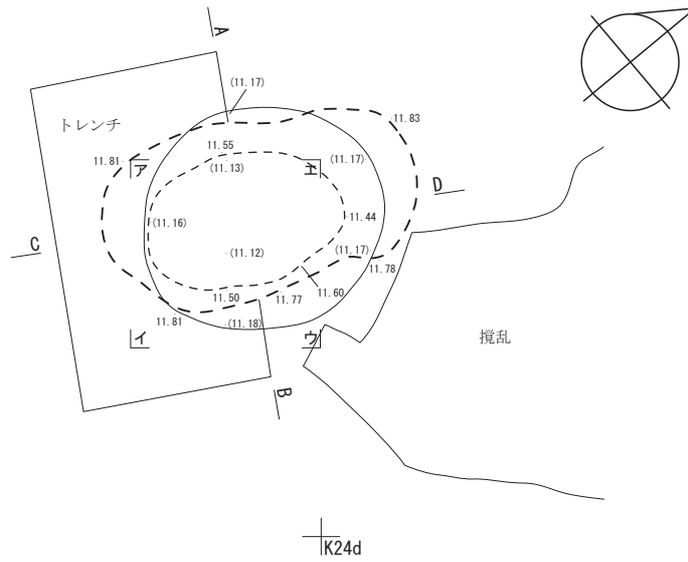
P-71 (図IV-60・61/表1~5/図版19)

特徴 Ⅳ層上面を精査中に黒褐色土のシミを検出した。当初、攪乱と誤認し黒褐色土を除去していたところ、土器が出土したことから南西側にトレンチを入れて確認を行った。その結果、坑底部からオーバーハングして掘り込み面中位にかけて窄まる形状のフラスコ状土坑であることを確認した。当初の誤認のため、土坑の上半を削平している。覆土はⅡ・Ⅲ層を主体としてⅣ層がブロック状に混入する。坑底・覆土から縄文前期後半の土器、覆土から微細剥片・礫が出土している。検出面の形状は削平により不明。坑底の形状はほぼ円形で平坦である。

時期 出土した土器から縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

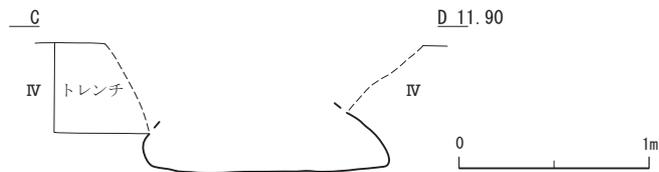
遺物 土器：1~5はⅡ群b類。1は口縁~底部が復元された大型の深鉢。底面の大部分を欠くが、平底と考えられる。全体の約1/2が残存しており、口径32.2cm(推定)、底径18.0cm(推定)、器高43.4cmを測る。口縁部には低い山形突起が4か所設けられていたと推測され、このうち2か所が残存する。口唇断面は丸い。口縁部には2条1組の撚糸文が5段横走する。胴部には単軸絡条体の回転

P-71

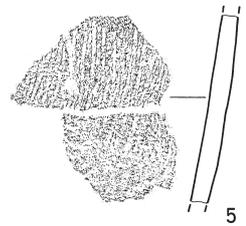
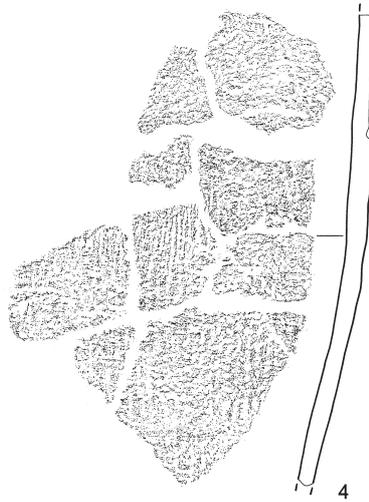
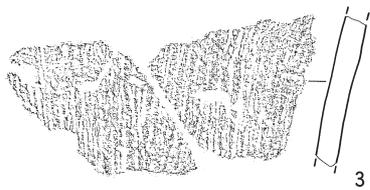
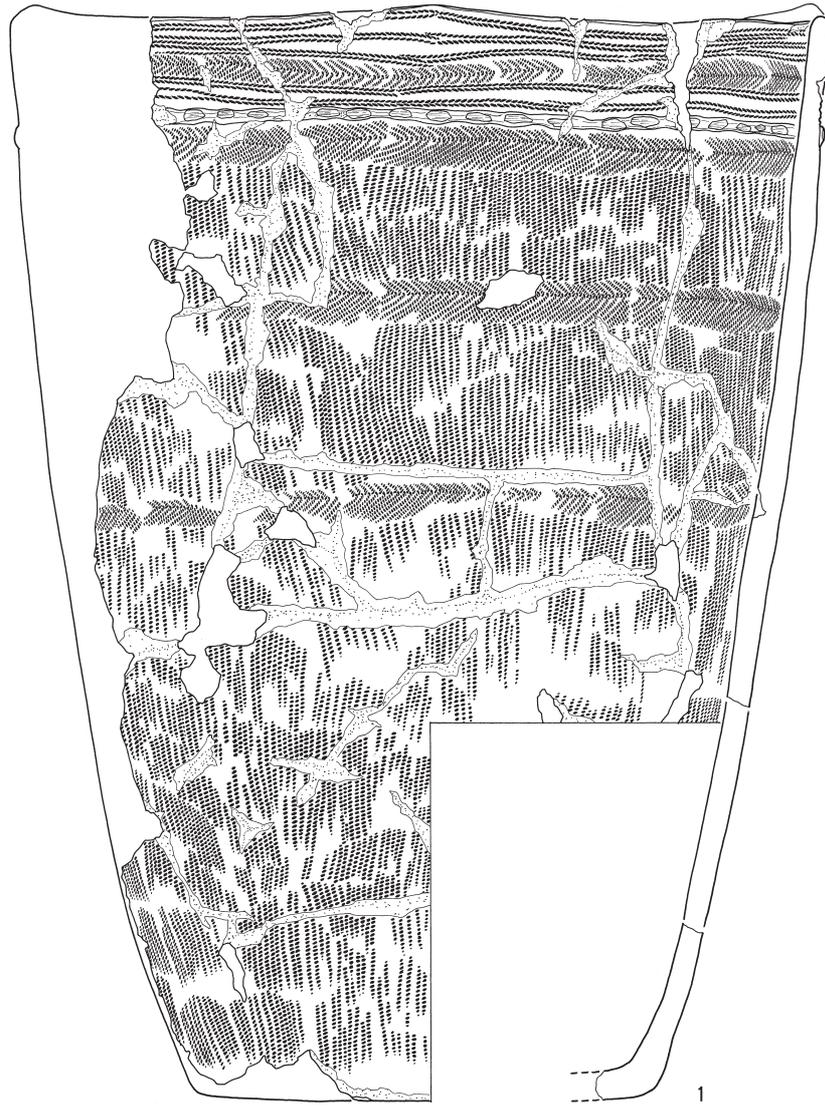


P-71

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(10YR4/6)塊を5%含む
- 2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(5YR4/6)塊(φ20mm以下)を20%含む
- 3 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中
褐色土(10YR4/6)塊を40%、炭化材を微量含む



図IV-60 P-71



図IV-61 P-71の出土遺物

文が縦走する。口縁部と胴部は半截竹管状施文具による横向きの刺突列が加えられた貼付帯で区画される。貼付帯の幅は0.3～0.5cmで、刺突後に横ナデにより押し潰され、平坦になっている。口縁～胴部は結束第1種の羽状縄文が4段巡る。色調は外面が黄褐色～黒褐色、内面が褐色を呈する。内面は丁寧に磨かれており、平滑になっている。内面には炭化物が多量に付着する。胎土は砂礫が多く混入しており、器外面に浮き出す。焼成は良好で、硬くしまる。2は口縁部片。やや外反し、口唇断面は丸い。2条1組の撚糸文が多段に横走し、下部に半截竹管による横向きの刺突列が加えられた貼付帯が1条巡る。3～5は胴部片。単軸絡条体の回転文が縦走する。(芝田)

P-72 (図IV-62/表1・2・4・6)

特徴 Ⅲ層上面から黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で埋め戻し。覆土1層からは石斧片・微細剥片・礫片が出土した。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。

遺物 石器：1は石斧片。基部と腹面を欠損している。撥形で研磨によって整形されている。

(酒井)

P-73 (図IV-62/表1)

特徴 H-4の調査中に、住居跡床面で円形を呈する暗褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、わずかながら壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦である。壁はH-4が構築される際の削平を受け、わずかに立ち上がりが確認できる程度である。覆土はⅢ層を主体とする土で、Ⅳ層ロームが混じる。遺物は出土していない。

時期 時期の特定にはいたらなかった。

(立川)

P-74 (図IV-62/表1～4・6)

特徴 H-4の調査中に、住居跡床面で楕円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。土坑上部は、住居構築の際に削平を受けている。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片1点、同後期前半の土器片1点、たたき石1点、剥片3点、礫1点の合計7点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半～同後期前半と考えられるが、特定にはいたらなかった。

(立川)

遺物 石器：1はたたき石。扁平礫の両端部と側縁に敲打痕がある。

(酒井)

P-75 (図IV-63/表1・2・4)

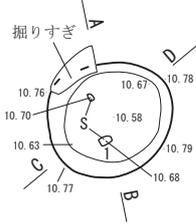
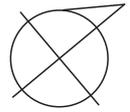
特徴 Ⅳ層上面で楕円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形、坑底は平坦である。壁はやや緩やかに立ち上がっているが、全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層・3層はⅣ層ロームが混じる土である。覆土1層の上部から、拳大の礫が出土している。遺物は覆土からで、剥片1点、礫1点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。

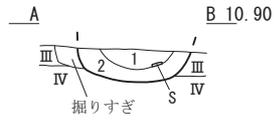
(立川)

P-72

↑V20a

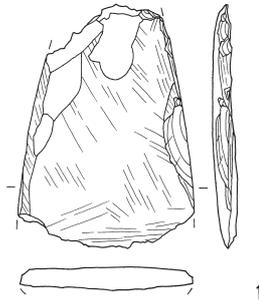


↑V19c

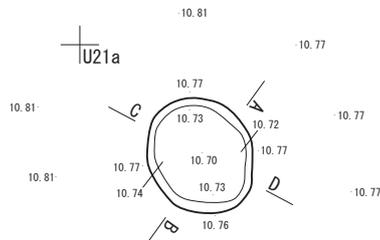


P-72

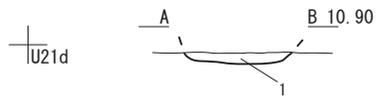
- 1 10YR2/2黒褐色埴壤土 しまり中 粘性中
 - 2 10YR2/3黒褐色埴壤土 しまり中 粘性中
- 炭化材を微量に含む



P-73



↑U21a



↑U21d

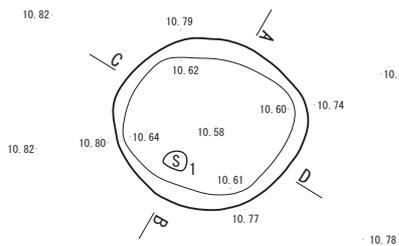
P-73

- 1 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ5~10mm)1%混じる

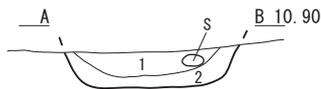


P-74

↑U21a

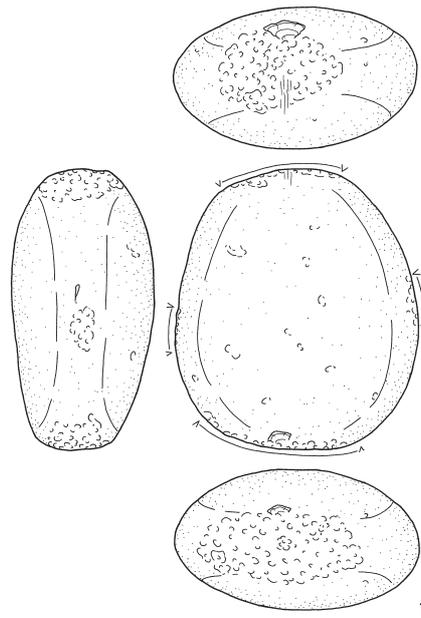


↑U21b



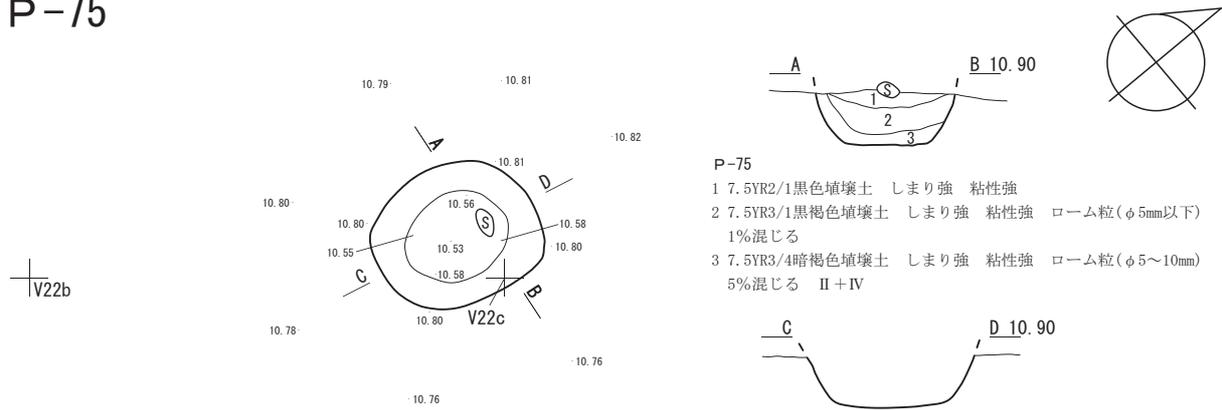
P-74

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 - 2 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ5~10mm)5%混じる

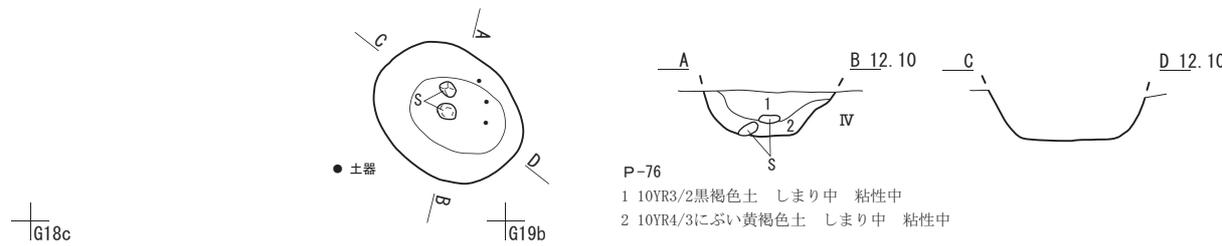


図IV-62 P-72~74と出土遺物

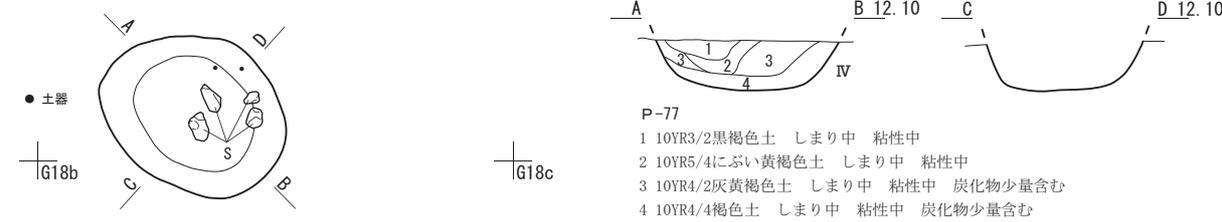
P-75



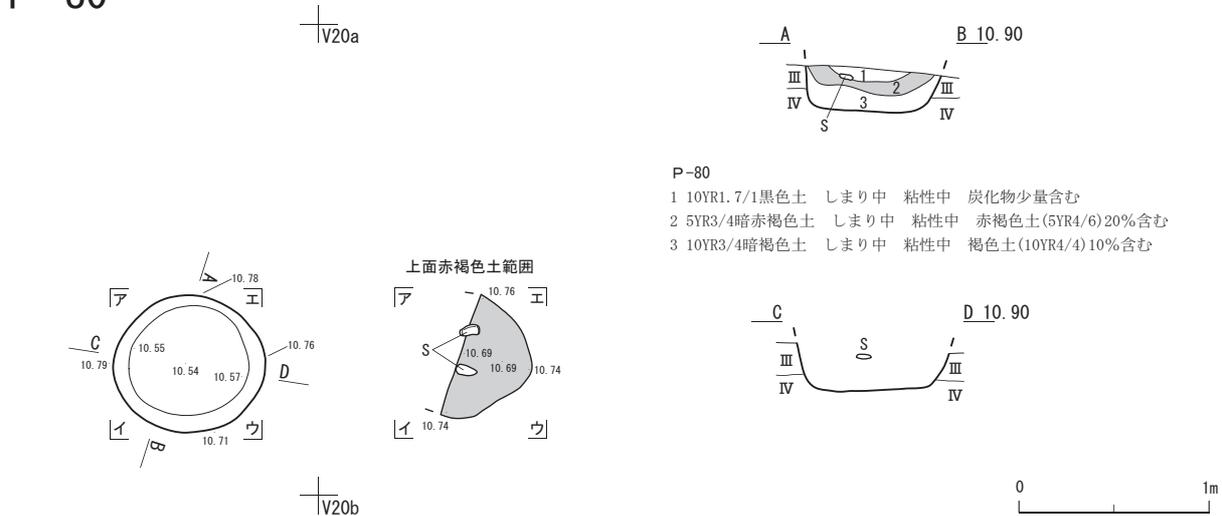
P-76



P-77



P-80



図IV-63 P-75~77・80

0 1m

P-76 (図IV-63/表1~4)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれた小型の土坑。IV層上面で黒色土の落ち込みを検出した。掘り込み面はII層中と推測される。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土は1層が自然堆積、2層が掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は坑底から礫、覆土中からII群b類の土器、礫が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

P-77 (図IV-63/表1~4/図版19)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれた小型の土坑。IV層上面で落ち込みを検出した。掘り込み面はII層中と推測される。平面形は楕円形で坑底面は平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土1層は自然堆積、2~4層は掘り上げ土等の埋め戻しである。遺物は覆土中からII群b類の土器、剥片、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

P-78 (図IV-63/表1~4・6/図版19)

特徴 標高12.0mの平坦面に立地する。包含層調査後、IV層上面を精査したところ、円形の黒い落ち込みを検出した。検出状況がP-71に似ており、フラスコ状土坑を想定して半截した。平坦な底面とオーバーハングした壁を確認した。覆土はII~IV層を起源とする9層に分層した。堅密度は軟~しようで、しまりがなく、自然堆積したものと思われる。坑底と覆土から、土器片、剥片石器、礫等が出土した。

時期 坑底より出土した土器片により、縄文時代前期後半と考えられる。(新家)

遺物 石器：1はスクレイパー。縦長剥片の側縁に刃部を作出している。調整は粗く未製品の可能性がある。(酒井)

P-79 (図IV-65/表1~6/図版19)

特徴 III層上面から黒褐色土の落ち込みを確認した。覆土1層は自然堆積、2層はII・III層主体の埋め戻し。覆土1層と2層の層界からは縄文前期前半の土器がまとまって検出され、スクレイパー・微細剥片・礫片も出土した。平面形は円形。底面は平坦で壁は急に立ち上がる。

時期 出土した遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はII群a類。口縁~胴中部が復元された深鉢。胴下~底部を欠く。上面観は楕円形である。口径は長軸で25.7cm、短軸で23.8cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は角型。端面は水平で、ヘラ状施文具の先端による刺突が連続して加えられている。器面にLR斜走縄文が疎らに施され、原体の太さが異なる結節回転文が交互に巡る。口縁部に2孔1対の補修孔が2か所確認される。色調は内外面ともに黒褐色~褐色を呈する。胴中部の縄文は磨滅により不鮮明である。内面はナデ調整され、指頭による凹凸が残る。胎土は砂礫・繊維が多く混入する。焼成は良好で、硬くしまる。

(芝田)

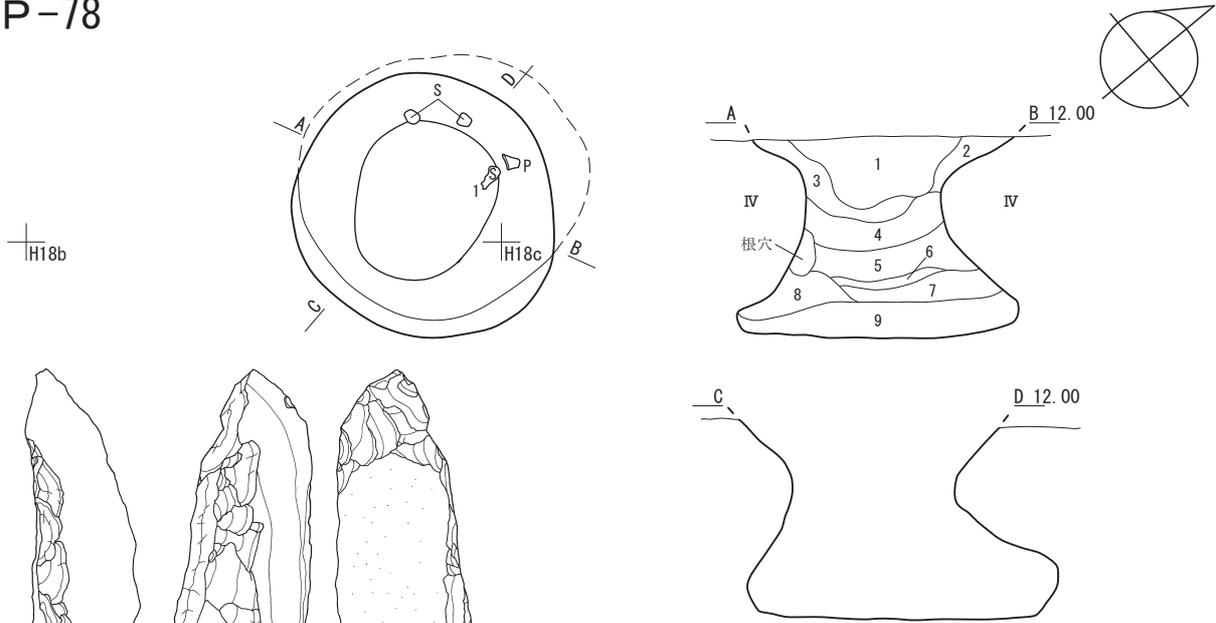
石器：2はスクレイパー。縦長剥片の片面側縁に直線的な刃部を作出している。(酒井)

P-80 (図IV-63/表1~4/図版19)

特徴 III層上面で黒色土と暗赤褐色土の落ち込みを確認した。覆土はIII・IV層主体で埋め戻し。覆土2層の暗赤褐色土は焼土と見られる。この位置で焼成されたものではなく、焼けた土を入れたものと考えられる。覆土1・2層から縄文時代前期前半の土器・微細剥片・礫片が出土した。平面形はほぼ円形で壁はやや急に立ち上がる。

時期 出土した遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

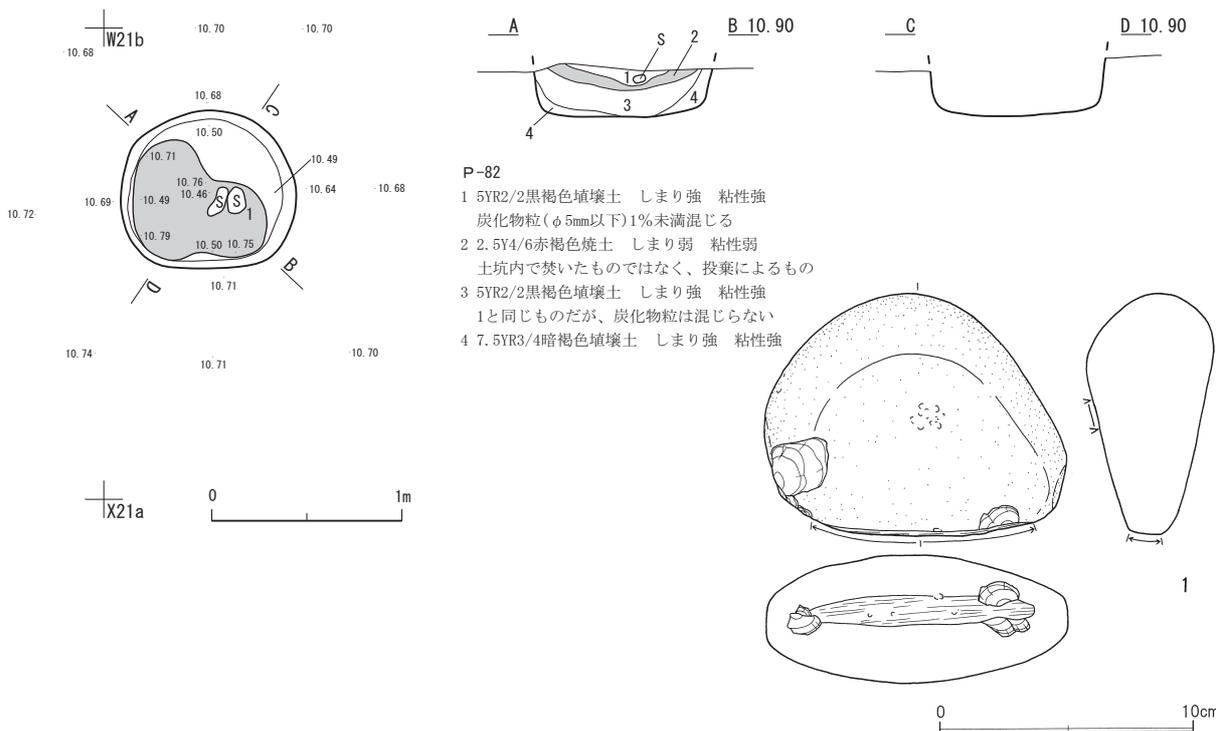
P-78



P-78

- 1 10YR1.7/1黒色埴壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏平坦 II
- 2 10YR3/4暗褐色壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏不規則 III > IV
- 3 10YR4/4褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏不規則 IV > III
- 4 10YR3/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強 層界の明瞭性判然、起伏平坦 III > IV
- 5 10YR4/6褐色埴壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性明瞭、起伏平坦 IV ≧ III
- 6 10YR3/2黒褐色埴壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性明瞭、起伏平坦 II > III
- 7 10YR4/4褐色埴壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性漸変、起伏波状 IV > III
- 8 10YR4/6褐色埴壤土 しまり弱 粘性強 層界の明瞭性漸変、起伏不連続 IV ≧ III
- 9 10YR3/4暗褐色埴壤土 しまり弱 粘性中 層界の明瞭性明瞭、起伏平坦 III > IV

P-82

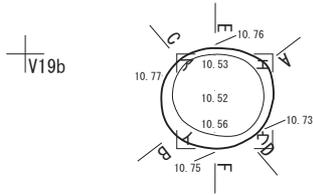


P-82

- 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
炭化物粒(φ5mm以下)1%未満混じる
- 2 2.5Y4/6赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
土坑内で焚いたものではなく、投棄によるもの
- 3 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
1と同じものだが、炭化物粒は混じらない
- 4 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強

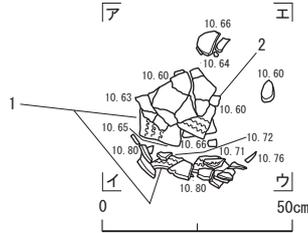
図IV-64 P-78・82と出土遺物

P-79

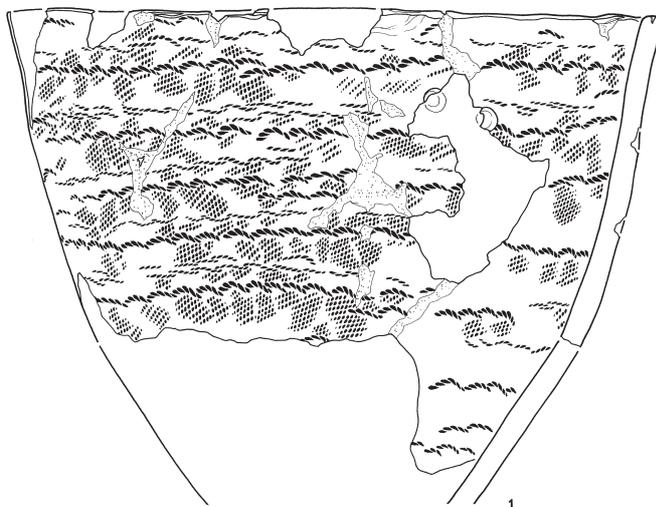
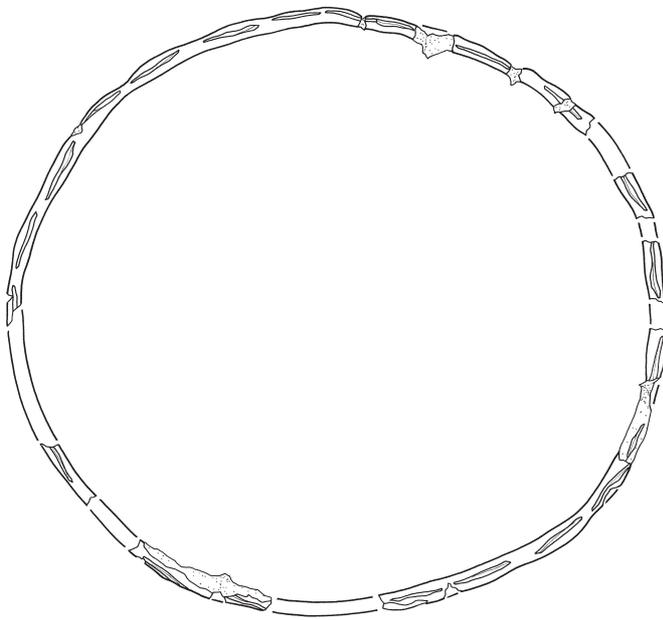


IV19b

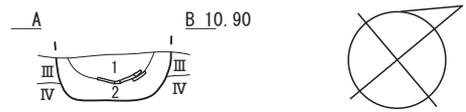
遺物出土状況



W19a

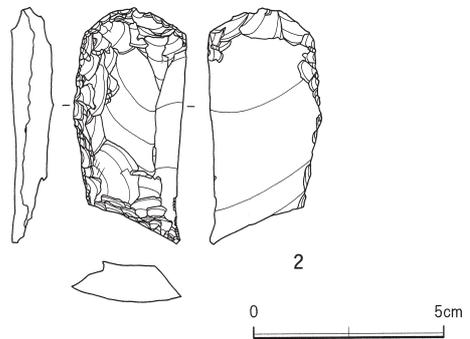


0 10cm



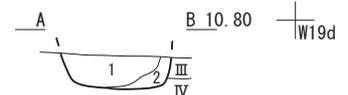
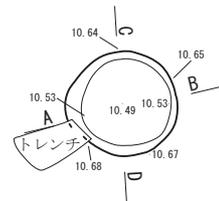
P-79

- 1 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中
- 2 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中



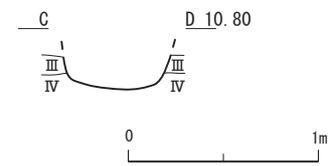
P-81

IV19c



P-81

- 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
- 2 10YR2/3黒褐色土 しまり中 粘性中
- 暗褐色土(10YR3/4)斑状に含む



図IV-65 P-79・81と出土遺物

P-81 (図IV-65/表1)

特徴 Ⅲ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。遺物は出土していない。平面形は円形。坑底は平坦で壁はやや急に立ち上がる。

時期 周辺の遺構・遺物から推測すると、縄文時代前期前半と考えられる。(酒井)

P-82 (図IV-64/表1～4・6)

特徴 Ⅲ層中位で円形を呈する黒褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅲ層を主体とする土壌で、埋め戻されたものと考えられる。覆土1層から炭化物が出土している。覆土2層は、多量の焼土と炭化物が混じるⅢ層主体の土である。覆土3層に被熱が見られないことから他所で形成された焼土を埋めたものと思われる。覆土から、拳大の礫が2点並んで出土している。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片2点、すり石1点、剥片34点、礫2点、原石1点の合計40点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 石器：1はすり石。断面が扁平に近い隅丸三角形の礫の稜を擦っている。両端部に敲打による整形が見られる。腹背部には敲打痕がみられる。(酒井)

P-83 (図IV-66/表1～4・9)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する赤褐色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土1層は、多量の焼土と炭化物が混じるⅢ層主体の土壌である。覆土2層・3層に被熱が見られないことから他所で形成された焼土を埋めたものと思われる。覆土2層・3層はⅢ層を主体とする自然堆積と見られる。遺物はすべて覆土中からで、縄文時代早期後半の土器片2点、同前期前半の土器片12点、スクレイパー1点、剥片54点、礫1点の合計70点が出土している。ほかに、炭化したクルミの外殻が検出された。この炭化クルミを試料として放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ(HEBI2-8)、 $5,630 \pm 30 \text{yrBP}$ という数値が得られた。詳細はⅥ章第1節を参照されたい。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

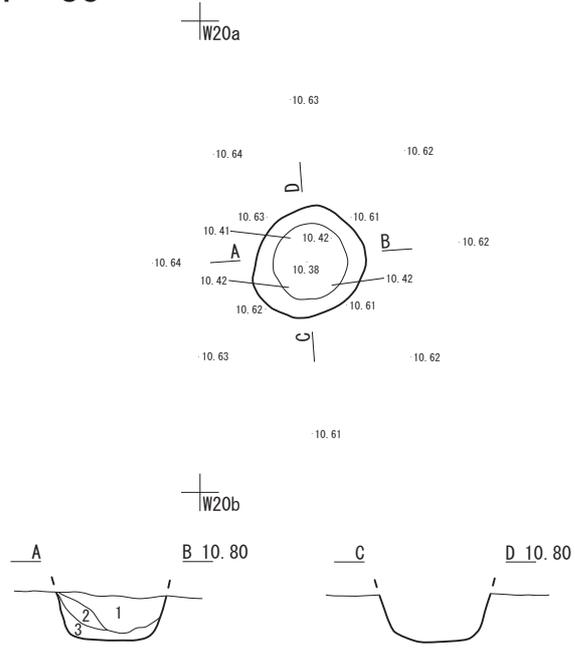
P-84 (図IV-66/表1～4・6)

特徴 P-54・P-66の壁面に黒褐色土の土層が確認されたことから周辺を精査したところ、黒色土の落ち込みを確認した。覆土はⅡ・Ⅲ層主体で流れ込み。覆土から縄文時代前期前半の土器とすり石・微細剥片・礫片が出土している。平面形はほぼ円形。坑底は平坦で壁は急に立ち上がる。土層断面からP-54・P-66に切られている。

時期 出土した遺物や周辺の遺構・遺物から推測すると縄文時代前期前半と考えられる。同じ前期前半と考えられるP-66に切られていることから、P-66よりも古いと考えられる。

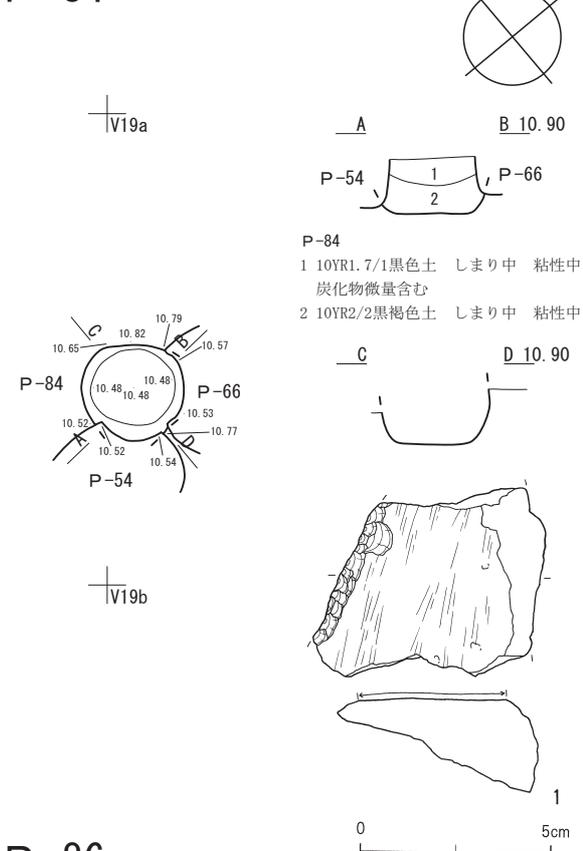
遺物 石器：1は石皿片。平坦な擦り面がある。縁辺を打ち欠いて整形している。(酒井)

P-83



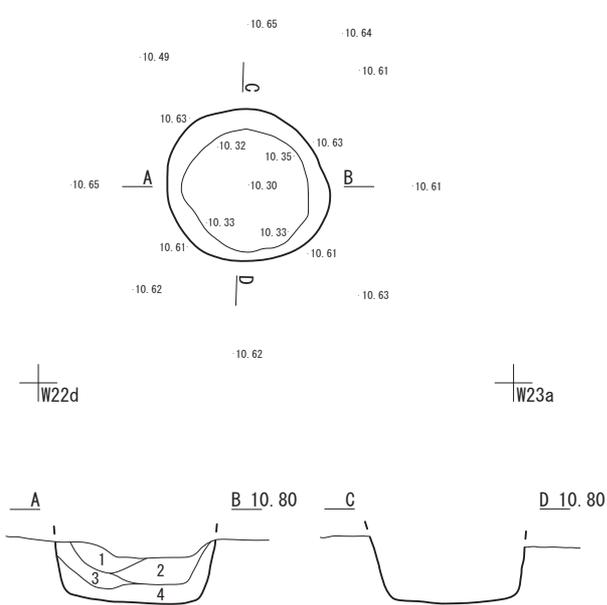
- P-83
 1 5YR4/8赤褐色埴焼土 しまり弱 粘性弱
 2 7.5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 3 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強

P-84



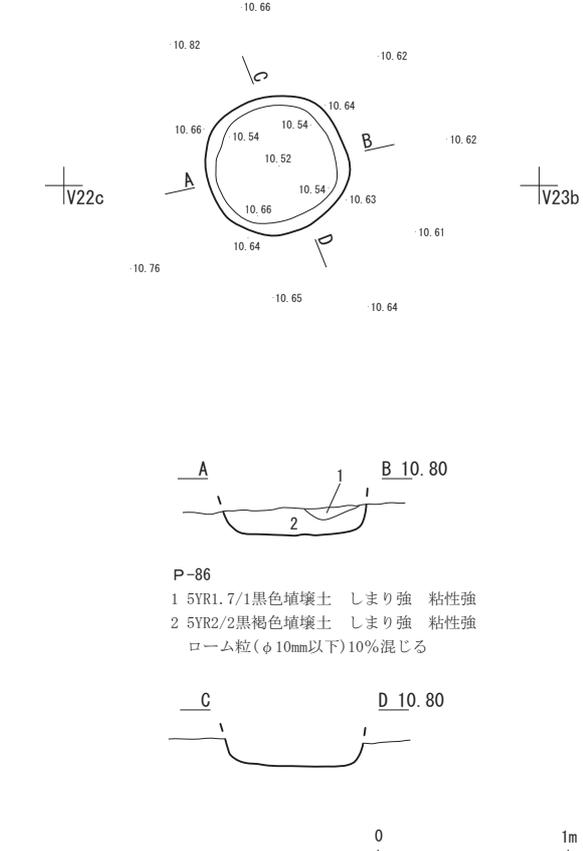
- P-84
 1 10YR1.7/1黒色土 しまり中 粘性中
 炭化物微量含む
 2 10YR2/2黒褐色土 しまり中 粘性中

P-85



- P-85
 1 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ10mm以下)1%混じる
 2 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ10mm以下)2%混じる
 3 7.5YR4/6褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ10mm以下)20%混じる
 4 7.5YR3/4暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム+II

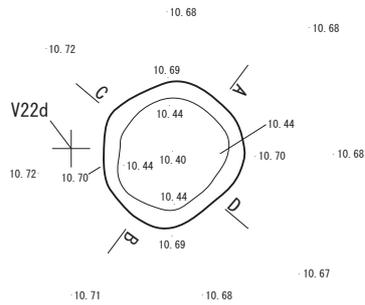
P-86



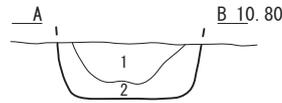
- P-86
 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
 2 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 ローム粒(φ10mm以下)10%混じる

図IV-66 P-83~86と出土遺物

P-87



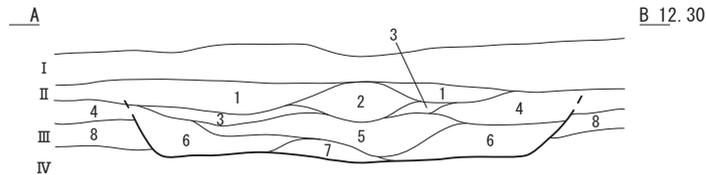
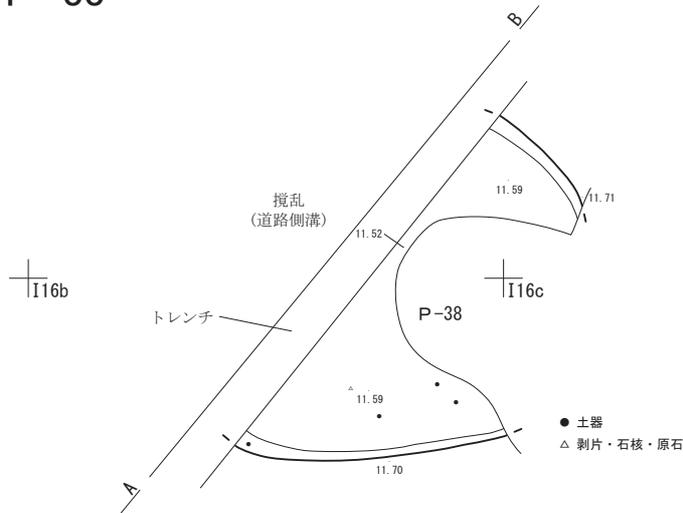
V22d
V23a



P-87

- 1 5YR1.7/1黒色埴壤土 しまり強 粘性強
 - 2 5YR2/2黒褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ10mm以下)10%混じる

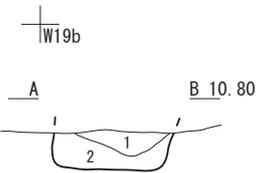
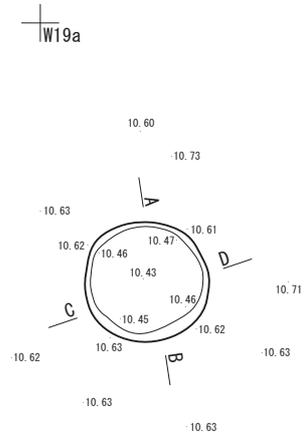
P-88



P-88

- 1 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
- 2 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中
- 3 5YR4/4にぶい赤褐色土 しまり中 粘性中 黒色土+B-Tm
- 4 10YR3/3暗褐色土 しまり中 粘性中
- 5 10YR2/1黒色土 しまり中 粘性中
- 6 10YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中
- 7 7.5YR3/4暗褐色土 しまり中 粘性中 赤褐色ローム粒(φ5mm□10mm)多量含む
- 8 10YR4/2灰黄褐色土 しまり中 粘性中

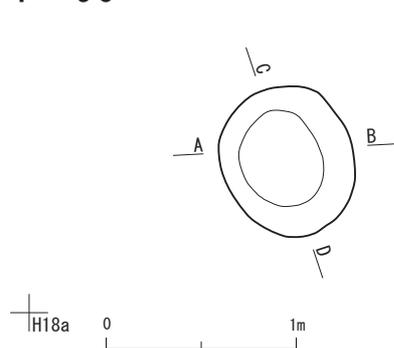
P-89



P-89

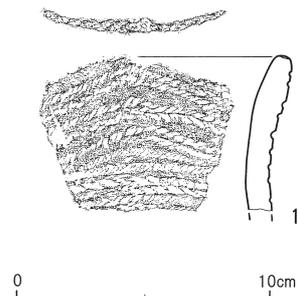
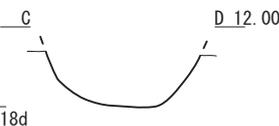
- 1 5YR2/2黒色埴壤土 しまり強 粘性強
 - 2 7.5YR3/3暗褐色埴壤土 しまり強 粘性強
- ローム粒(φ5~10mm)5%混じる

P-90



P-90

- 1 10YR4/4褐色土 しまり中 粘性中
 - 2 10YR5/6黄褐色土 しまり中 粘性中
- ローム主体



図IV-67 P-87~90と出土遺物

P-85 (図IV-66/表1~4)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、全ての層にⅣ層ロームが混じり、硬く締まっている。人為的に埋め戻されたと考えられる。遺物はすべて覆土からで、縄文時代前期前半の土器片1点、剥片2点、礫3点の合計6点が出土している。

時期 出土した土器片から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

P-86 (図IV-66/表1・2・4)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物は、覆土から礫1点が出土している。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-87 (図IV-67/表1)

特徴 Ⅲ層上位で円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物は出土していない。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

P-88 (図IV-67/表1~4)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれた土坑。全体の約1/2は道路側溝の攪乱を受けており、またP-38に切られている。道路側のトレンチにより掘り込みを確認した。掘りこみ面はⅡ層中である。平面形は楕円形と推定され、坑底面は平坦、壁やや開いて立ち上がる。覆土は流れ込みによる自然堆積である。遺物は覆土からⅣ群a類の土器、剥片、礫が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。(菊池)

P-89 (図IV-67/表1)

特徴 Ⅳ層上面の精査中に円形を呈する黒色土のまとまりを検出した。短軸方向で半截したところ、壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形、坑底は平坦、壁は急角度に立ち上がっており全周で明瞭である。覆土は、Ⅱ層を主体とする自然堆積である。2層はⅣ層ロームが混じる土である。遺物は出土していない。

時期 時期の特定にはいたらなかった。(立川)

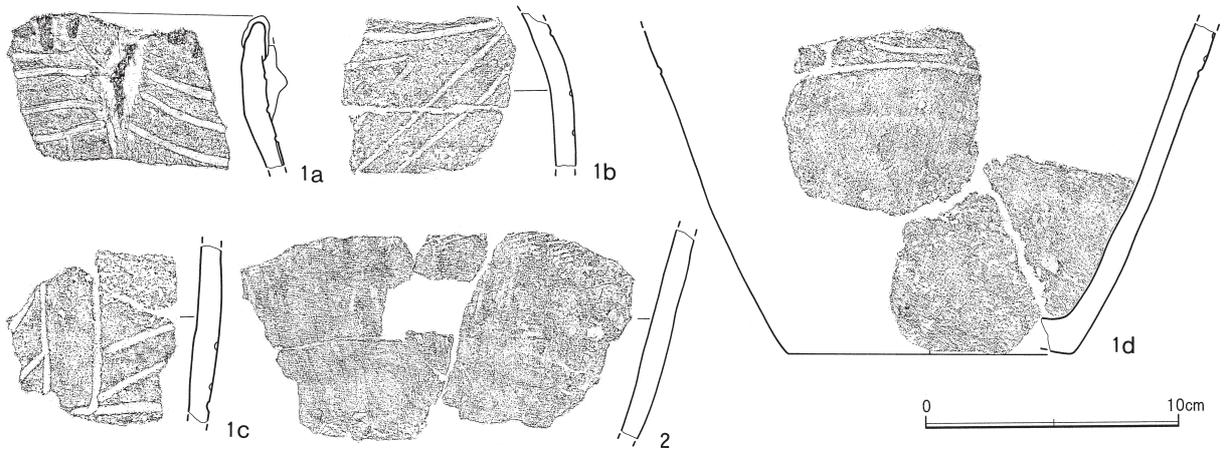
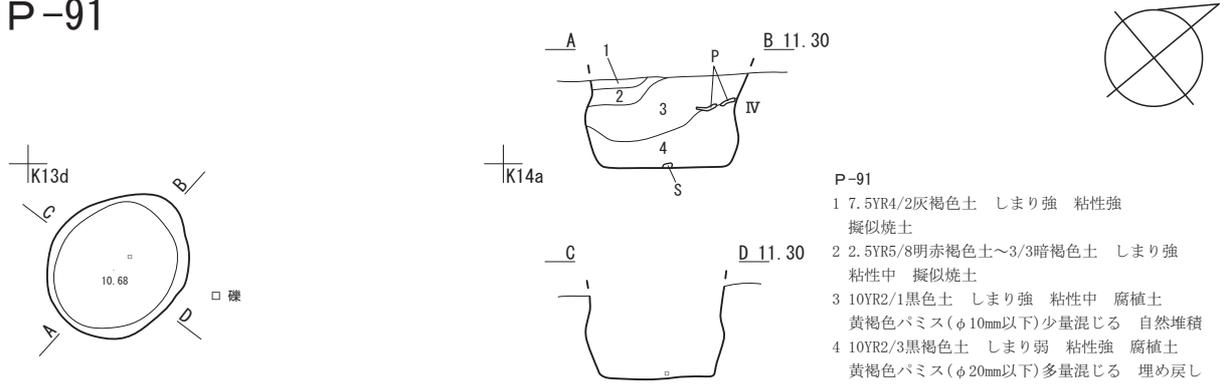
P-90 (図IV-67/表1~3・5/図版20)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれた小型の土坑。Ⅳ層上面で落ち込みを検出した。掘りこみ面はⅡ層中と推測される。平面形は楕円形で坑底面はほぼ平坦、壁はやや開いて立ち上がる。覆土は掘り上げ土の埋め戻しである。遺物は覆土中からⅡ群b類の土器が出土している。

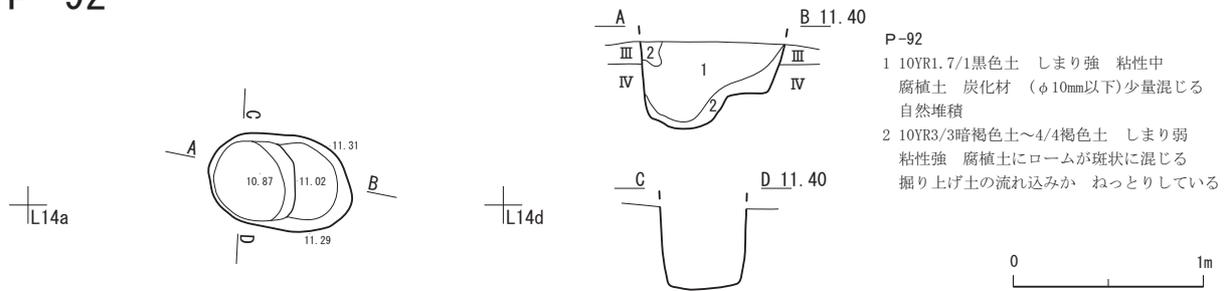
時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。(菊池)

遺物 土器：1はⅡ群b類。口縁部片で、山形突起部分にあたと推測される。外面は2条1組の撚糸文が多段に横走する。口唇は縄文が回転施文され、頂部は口縁外面と同じ2条1組の撚糸文により深く刻まれる。内面は丁寧に磨かれており、平滑になっている。(芝田)

P-91

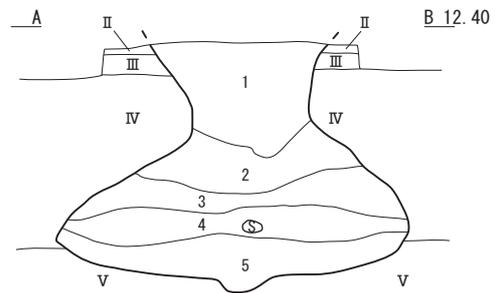
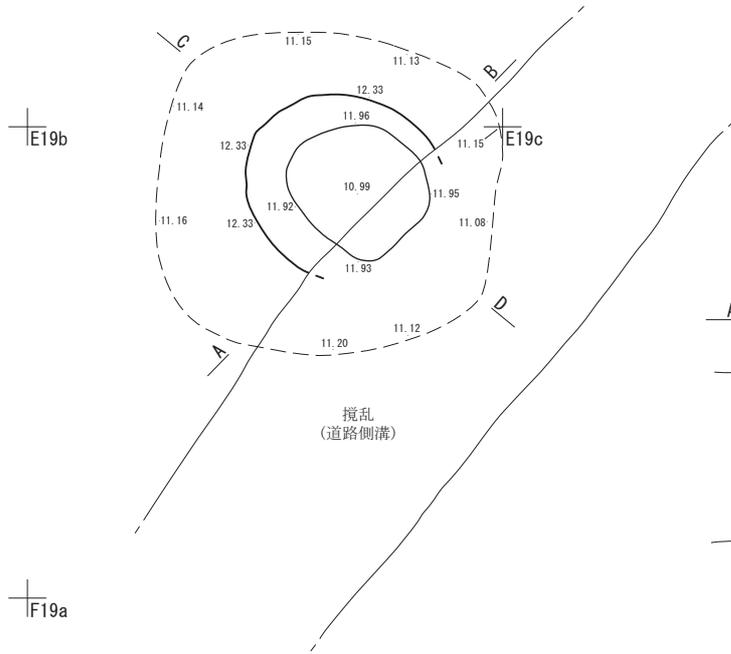
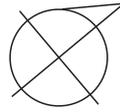


P-92



図IV-68 P-91・92と出土遺物

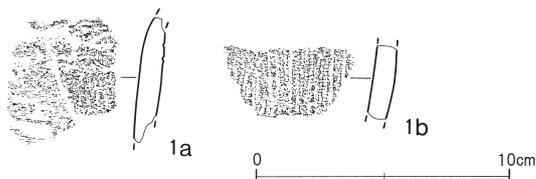
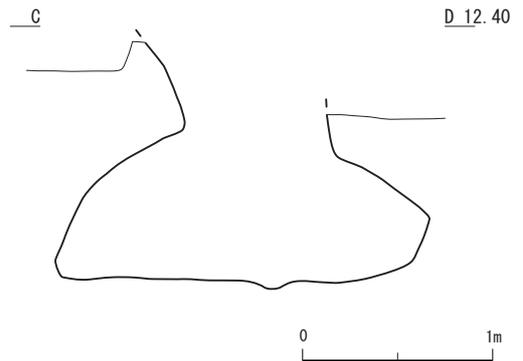
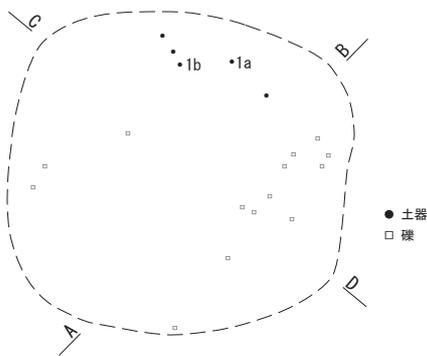
P-93



P-93

- 1 10YR2/1黒色土 しまり強 粘性中 腐植土
円～角礫(φ20～70mm)が混入する
- 2 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性中 腐植土主体
ローム微量混じる 礫は少ない
- 3 10YR2/1黒色土～6/8明黄褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土とロームが斑状に混じる
- 4 10YR6/6明黄褐色土 しまり弱 粘性強 ローム主体
腐植土少量混じる
- 5 10YR3/2黒褐色土 しまりなし 粘性強 腐植土主体
ロームブロックあり ふかふかしている

坑底部遺物出土状況



図IV-69 P-93と出土遺物

P-91 (図IV-68/表1~5/図版20)

特徴 蛇内川の旧河道を臨む段丘の縁に掘り込まれた小型の土坑。町道蛇内線の道路路盤により上部が削平されている。IV層上位で黒色土が落ち込んでいるのを検出した。掘り込み面はII層中と推測される。平面形は円形である。坑底面はほぼ平坦で、壁面は半ばでやや膨らむ。覆土は上部(1~3層)が自然堆積で、下部(4層)は埋め戻しと考えられる。覆土1・2層の赤褐色土壌はいわゆる「擬似焼土」(北埋調報253)で、被熱によるものではない。遺物は覆土中よりIV群a類土器、坑底部から礫が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。

遺物 土器：1・2はIV群a類。1は口縁部、胴部、底部の破片。深鉢で、口縁部が窄まり、胴部が膨らむ器形と推測される。無文地に沈線で文様が描かれる。全体の文様構成は不明である。口唇を挟んで内外面に縦位の貼付帯が加えられる。底部は平底で、大部分が無文である。2は底部に近い胴部片。上部にLR斜走縄文が施されるほかは、無文である。ヘラ状工具による斜め、あるいは縦方向の調整痕が観察され、器面には凹凸が見られる。上部の縄文がこの調整により不鮮明になっている。

(芝田)

P-92 (図IV-68/表1・2・4/図版20)

特徴 調査範囲南側の緩斜面上に掘り込まれた小型の土坑。III層上面で黒色土が落ち込んでいるのを検出した。掘り込み面はII層中と推測される。平面形は楕円形である。掘り込みは垂直であるが、坑底面には段が見られる。覆土は自然堆積で、壁際の崩落土以外はII層土の落ち込みである。覆土の堆積状況から内部で複数の遺構による切り合い関係は認められない。遺物は出土していない。

時期 周辺の遺構、包含層出土の遺物から縄文時代後期前葉である。

(芝田)

P-93 (図IV-69/表1~5/図版20)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれたフラスコ状土坑。東側上部の約1/3が、町道蛇内線の道路側溝埋設工事により壊されている。この攪乱の壁面(II~IV層)に黒色土が落ち込んでいたことから検出した。坑口部の平面形は円形であったと推測される。坑口部から掘り込みの中位までは窄まり、坑底部は大きくオーバーハングする。坑底面はほぼ平坦であるが、礫の抜き取り痕と考えられるくぼみが見られる。覆土は自然堆積である。上部は主にII層土の落ち込みで、土坑を掘削した際に掘り上げられたと推測される、IV層起源の凝灰岩礫が多量に流れ込んでいる。下部は主にIII・IV層を起源とする崩落土と腐植土の互層となっている。坑底部からは、II群b類土器(1)、礫・礫片が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半である。

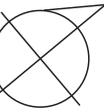
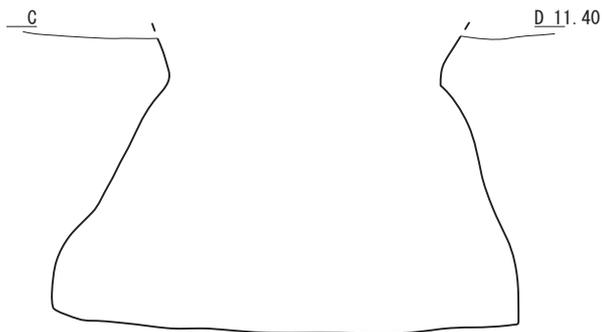
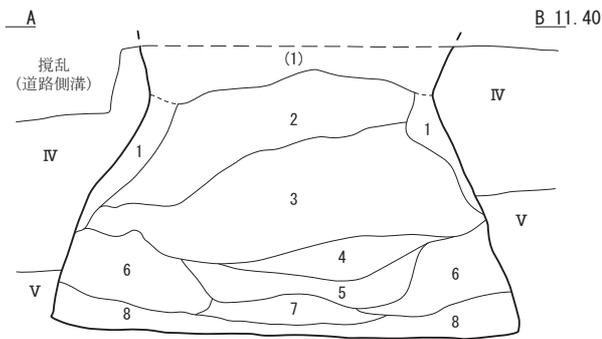
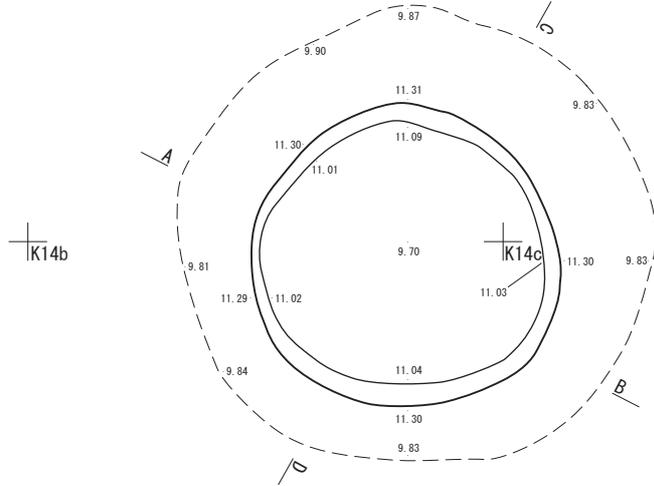
遺物 土器：1はII群b類。いずれも胴部片で、単軸絡条体の回転文が縦走する。器面の磨滅が著しい。

(芝田)

P-94 (図IV-70~72/表1~6/図版21)

特徴 調査範囲南西側の緩斜面上に掘り込まれたフラスコ状土坑。II層調査中にB-Tm降下火山灰が円形に落ち込んでいるのを検出し、下部に遺構の存在を想定してトレンチ調査を行なった。しかし、深さ40~50cmで硬くしまった礫混じりのロームが平坦ではなく確認されたことから、一旦これを風倒木痕と判断した。その後、遺構の切り合いを想定して、さらにトレンチを広げたところ、IV層上面で明瞭な掘り込みの輪郭を確認したため、再び遺構としての調査へ切り替えた。平面形は円形である。坑口部から掘り込みの上位までは窄まり、そこから坑底部まで大きくオーバーハングする。坑底面は中央部へ向かって緩やかに傾斜する。覆土は上位と下位が自然堆積で、中位の大半が埋め戻しに

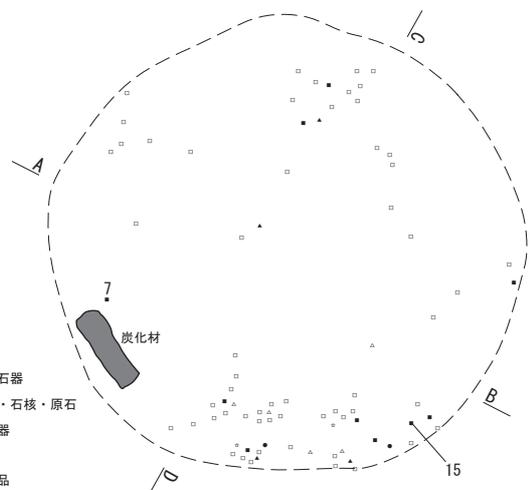
P-94



P-94

- 1 10YR3/1黒褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 ロームと円礫・亜円礫
(φ50mm以下)が多量に混入する
- 2 10YR7/4にぶい黄褐色土 しまり強
粘性強 ローム主体 円礫・亜円礫
(φ80mm以下)多量に混じる
- 3 10YR6/8明黄褐色土 しまり強 粘性強
ローム主体 腐植土微量混じる 円礫
(φ40mm以下)少量混じる 固いが2層よ
りもやや軟らかい
- 4 10YR2/1黒色土 しまり弱 粘性強
腐植土 ロームブロック(φ30mm以下)
あり
- 5 10YR2/3黒褐色土~4/4褐色土 しまり弱
粘性強 腐植土とロームの混合
- 6 10YR2/1黒色土~6/8明黄褐色土 しまり弱
粘性強 腐植土とロームがラミナ状に堆
積する ふかふかしている
- 7 10YR3/2黒褐色土 しまり弱 粘性強
腐植土とロームの混合 5層よりも腐植土
が多い
- 8 10YR1.7/1黒色土 しまり弱 粘性強
腐植土主体 ローム微量に混じる 炭化材
(φ10mm以下)多量に混じる

坑底部遺物出土状況

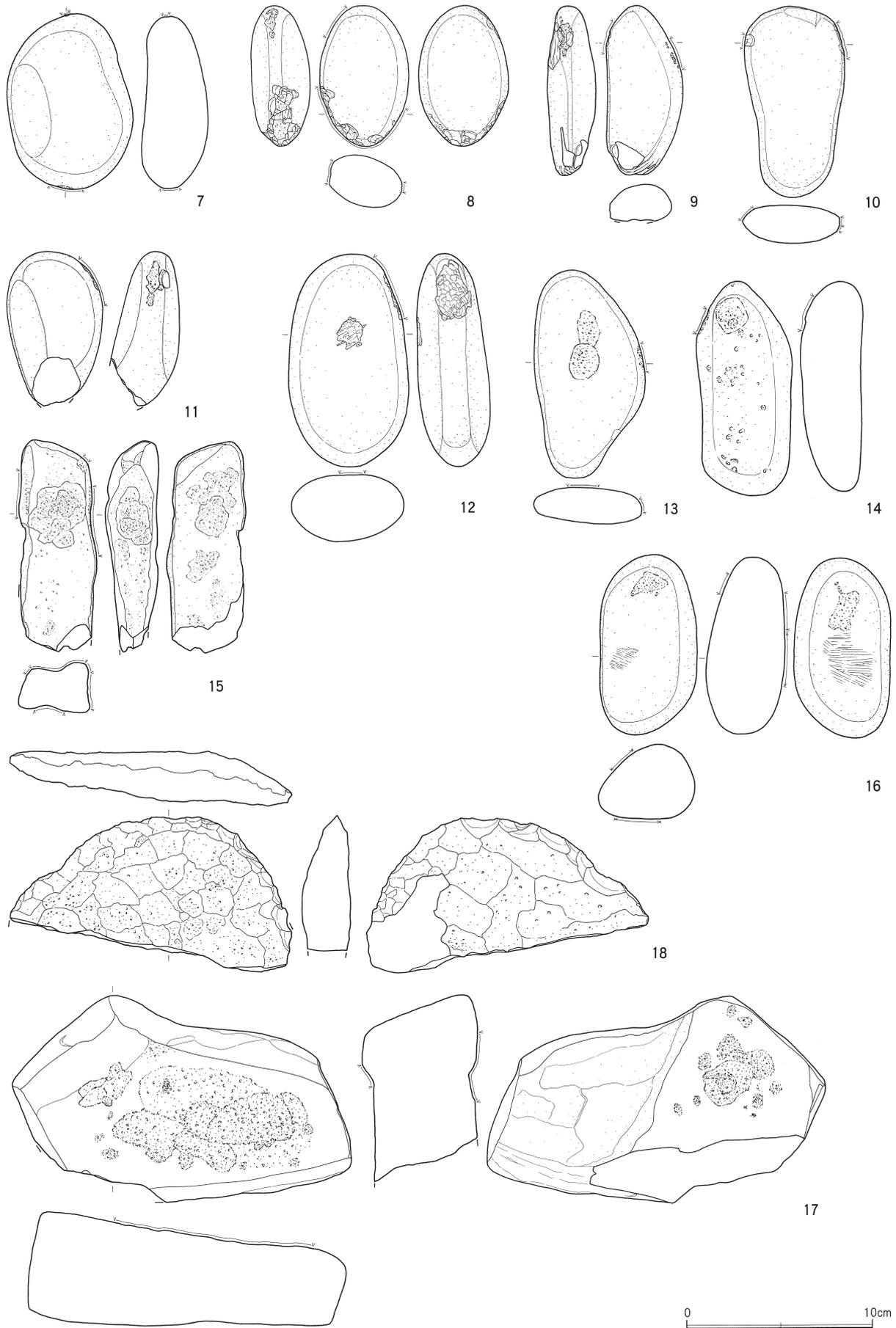


図IV-70 P-94



図IV-71 P-94の出土遺物 (1)

よる。上位は主にⅡ層を起源とする腐植土で、中位の壁際にも落ち込んでいる。中位は礫が多量に混入したロームで、この土坑が使用されなくなった後、完全に埋まりきらない時点で、人為的に埋め戻されたと考えられる。このロームがどこに由来するのかわからないが、隣接するH-12もしくはP-23の掘り上げ土の可能性はある。下位は主にⅢ・Ⅳ層を起源とする崩落土と腐植土の互層となつて



図IV-72 P-94の出土遺物 (2)

いる。坑底部からは、IV群 a 類土器（1～6）、たたき石、（7～16）、台石（17）、扁平打製石器（18）、R剥片、剥片、石核が出土した。覆土中および坑底部より礫・礫片が多く出土しているが、これらは主にIV層中よりの崩落にともなう流れ込みである。坑底部から出土した炭化材を試料として放射性炭素年代（AMS）測定を行なったところ（HEBI 2 - 9）、 $3,620 \pm 30\text{yrBP}$ という数値が得られた。詳細はVI章第1節を参照されたい。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉である。（芝田）

遺物 土器：1～6はIV群 a 類。1は口縁部、胴部の破片。器面に施したLR斜走縄文を粗くナデ消し、無文にしている。口縁部には低い山形突起が見られ、頂部は棒状工具により斜めに刻まれる。幅広の横走沈線が数条巡る。2～4は口縁～胴部片。沈線で区画した内部の縄文を磨り消している。2・3は口縁部が直線的に立ち上がり、胴上部が膨らむ器形。いずれも山形突起を有する。2は、2条1組の横走沈線で区画された口縁部文様帯の内部に、3条1組の沈線によりカギの手状文が連続して描かれる。3は、2条1組の横走沈線で区画された口縁部文様帯の内部に、同じく2条1組の沈線により、対向する弧状文と鋸歯状文が描かれる。胴下部はヘラ状工具による斜め、あるいは縦方向の調整痕が観察され、器面には凹凸が見られる。4は口縁部が外反する器形。全体の文様構成は不明であるが、3条1組の沈線により、波状あるいは曲線文が描かれる。5は胴部片。無文地に櫛歯状工具により波状あるいは曲線文を描き、太い沈線で縁取っている。6は無文の底部。平底で、外面および下面にヘラ状工具による調整痕が見られる。（芝田）

石器：7～16はたたき石。7は扁平な楕円礫の両端部に敲打痕がある。8～11は扁平な棒状礫・楕円礫の周縁部の一部に敲打痕がある。12～14は扁平な棒状礫・楕円礫の周縁部の一部と腹部に敲打痕がある。15は棒状角礫の腹背部と側面に凹み状の敲打痕がある。16は断面が隅丸三角形の礫の腹背部に敲打痕と擦り痕がある。17は台石。角礫の腹背部に敲打痕や凹み状の敲打痕が見られる。P-94の底面からはこの他にも台石・台石片が出土している。凝灰岩を使用しているもので、扁平な角礫の平面に敲打痕のあるものである。18は扁平打製石器。扁平な礫を半円状に打ち欠いて整形している。下部は欠損している。（酒井）

P-95（図IV-73／表1～5／図版21）

特徴 H-11の床面を調査中にやや汚れたロームを確認した。半載し、調査を行った。覆土は埋め戻しである。平面形は長円形である。坑底はやや凹凸がある。壁との境は明瞭である。壁は急角度で立ちあがる。断面形はフラスコ状である。H-11の構築時に壁の上部が壊されている。覆土からII群 b 類土器が出土した。坑底部から出土した炭化材を試料として放射性炭素年代（AMS）測定を行なったところ（HEBI 2 - 10）、 $4,660 \pm 30\text{yrBP}$ という数値が得られた（VI章第1節参照）。

時期 出土したII群 b 類土器からみて縄文時代前期後半と考えられる。（佐藤）

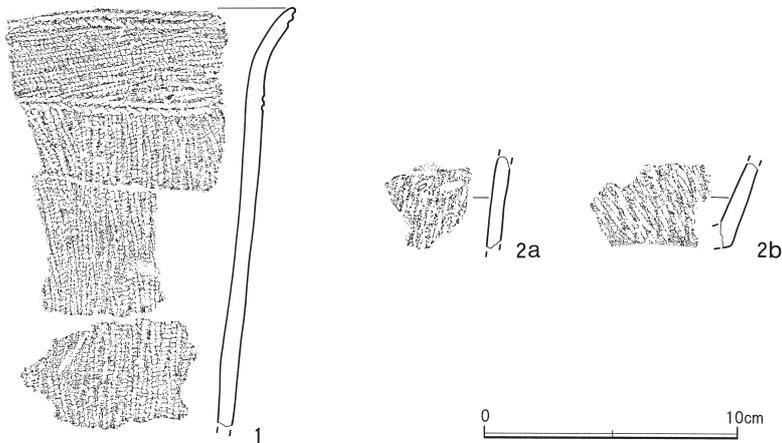
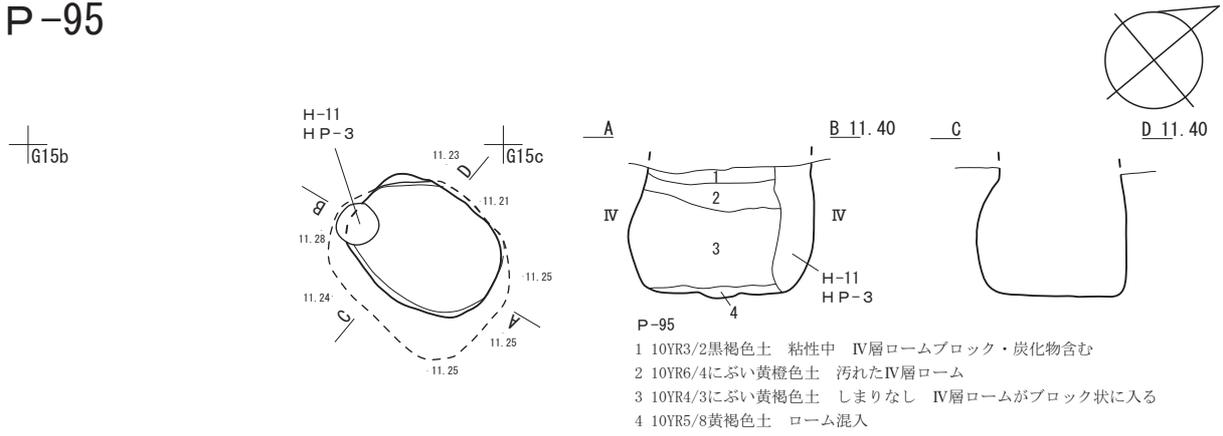
遺物 土器：1・2はII群 b 類。1は口縁～胴部。口縁部に横走、胴部に縦走する単軸絡条体の回転文が施される。口唇直下と頸部に2条1組の撚糸文が横走する。内面は丁寧に磨かれている。2は胴部・底部。撚り戻しの原体による斜走縄文が見られる。（芝田）

P-96（図IV-73／表1・2・4／図版21）

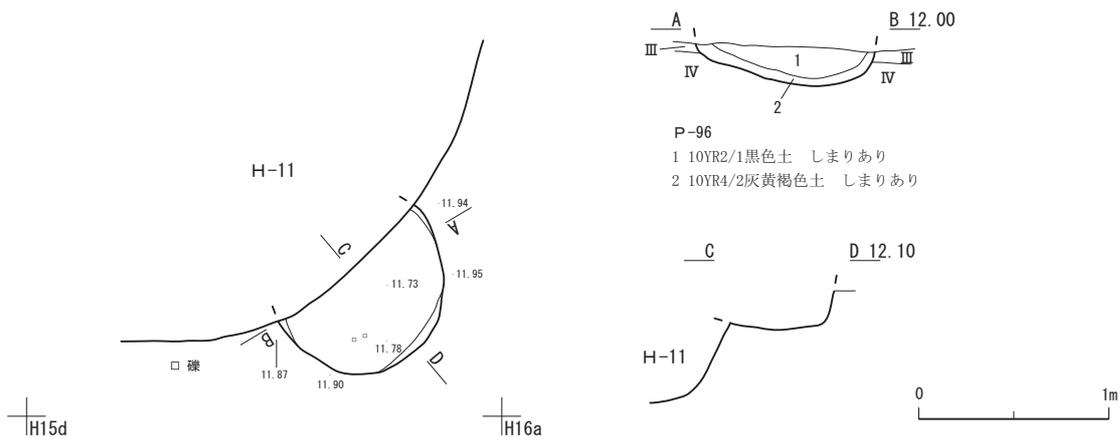
特徴 H-11の調査中に黒色土の落ち込みを確認した。平面形は円形。床はやや凹凸がある。中央部が低く断面形は椀状になる。壁は急角度で立ち上がる。西側の壁・床がH-11構築時に壊されている。

時期 周辺の遺構・遺物からみて、縄文時代前期後半と考えられる。（佐藤）

P-95

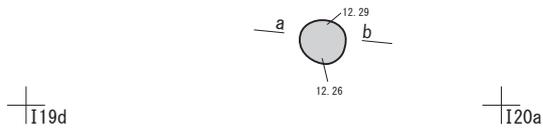


P-96



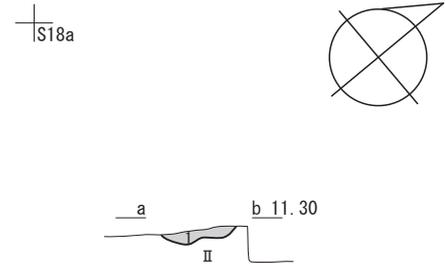
図IV-73 P-95・96と出土遺物

F-1



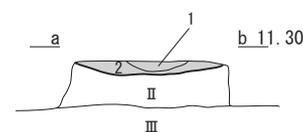
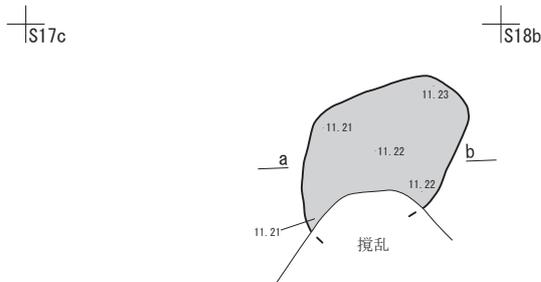
F-1
1 7.5YR3/4暗褐色埴壤焼土 しまり強 粘性中
層界の明瞭性判然、起伏不連続 IIの焼土

F-2



F-2
1 5YR4/4にぶい赤褐色焼土 しまり強 粘性強
下位に焼土粒(2.5YR5/8赤褐色焼土 φ1mm以下)
1%混じる

F-3



F-3
1 5YR6/8橙色焼土 しまり強 粘性弱
2 7.5YR4/4褐色埴壤土 しまり強 粘性強
被熱したII層



図IV-74 F-1~3

4 焼土

F-1 (図IV-74/表1・9)

特徴 標高12.3mの平坦面に形成された焼土。II層中位で検出した。平面形は、おおむね円形である。焼けは弱く散漫である。若干の炭化物粒を含む。焼土を採取し、フローテーション作業を行った(表9)。選別により得られた炭化材を試料として、放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ(HEBI2-11)、 140 ± 20 yrBPという数値が得られた(Ⅵ章第1節参照)。

時期 不明である。放射性炭素年代(AMS)測定の結果から、近世以降に形成された可能性がある。(新家)

F-2 (図IV-74/表1/図版22)

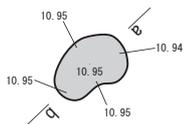
特徴 II層上位調査中ににぶい赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後半截して断面観察を行った。焼土下位に被熱層が見られず、範囲も不明瞭である。このことから他所からの廃棄による焼土の広がりと考えられる。すぐ脇にF-3、一括土器1、FC-1がある。検出層位がほぼ同レベルであることから何らかの関係があるものと考えられるが特定できなかった。遺物は出土していない。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から縄文時代前期後半のものと考えられる。

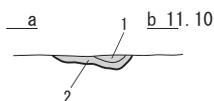
(立川)

F-7

IV18c



IV19b

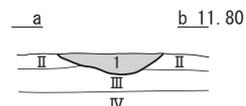


F-7
 1 5YR4/8赤褐色焼土 しまり中 粘性中
 焼土粒(2.5YR5/8明赤褐色焼土 φ1mm以下)
 3%混じる
 2 7.5YR4/4褐色埴壤土 しまり強 粘性強
 被熱したII層

F-9



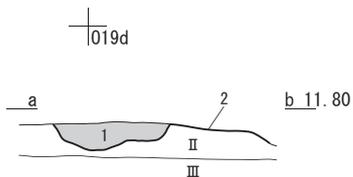
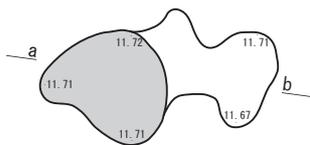
L17b



F-9
 1 7.5YR3/4暗褐色埴焼土 しまり弱 粘性中
 層界の明瞭性判然、起伏平坦 IIの焼土

F-8

IN19c

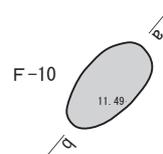


F-8
 1 5YR2/3極暗赤褐色焼土 しまり中 粘性中
 明赤褐色焼土(5YR5/8)粒(3mm)2%含む
 2 5YR2/2黒褐色土 表面のみ検出

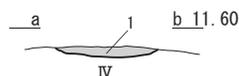
IM17a

F-10

IM17c

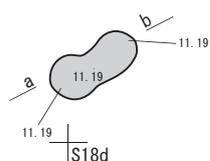


IM18b



F-10
 1 7.5YR4/6褐色埴壤焼土 しまり強 粘性強
 層界の明瞭性判然、起伏平坦 IVの焼土

F-11



F-11
 1 5YR4/8赤褐色焼土 しまり強 粘性弱

IS19a



図IV-75 F-7~11

F-3 (図IV-74/表1~4/図版22)

特徴 II層上位調査中に橙色土の広がりを確認。平面形を実測した後半截して断面観察を行った。橙色の単一層で、断面はおおむねレンズ状をなす。焼土下位に被熱したII層が見られた。このことから現地で焼成されたと考えられる。すぐ脇にF-2、一括土器1、FC-1がある。検出層位がほぼ同レベルであることから何らかの関係があるものと考えられるが特定できなかった。周辺から縄文時代前期後半の土器片43点、スクレイパー1点、砥石1点、剥片22点、礫1点が出土している。この内唯一砂岩製の砥石が被熱していることから焼土に伴うものと見られるが、他は被熱していないことから包含層の遺物の可能性が高い。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から縄文時代前期後半のものと考えられる。

(立川)

F-7 (図IV-75/表1)

特徴 II層中位調査中に赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後、半截して断面観察を行った。赤褐色の単一層で、断面はおおむねレンズ状をなす。焼土下位に被熱したII層が見られた。このことから現地で焼成されたと考えられる。遺物は出土していない。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から縄文時代前期後半のものと考えられる。

(立川)

F-8 (図IV-75/表1)

特徴 II層調査中に暗赤褐色土の範囲を確認した。平面形は不整形である。半截して断面を観察した。断面は暗赤褐色をしており、焼けは良い。遺物は出土していない。

時期 時期を特定するものが無いのではっきりとはしないが、周辺から出土する遺物から縄文時代中期後半~後期前葉と考えられる。

(酒井)

F-9 (図IV-75/表1/図版22)

特徴 標高11.7mの平坦面に形成された焼土。確認が遅れたため、L16調査区をIII層まで下げたところ、L17との境界線(17ライン)に焼土の断面が現れた。削平した部分で断面観察を行った。平面形は不明。焼成面はII層と思われる。焼けは弱く散漫である。

時期 不明である。

(新家)

F-10 (図IV-75/表1・2・4)

特徴 標高11.7mの平坦面に形成された焼土。確認が遅れたため、IV層で確認した。平面形は楕円形。焼成面はII層と思われる。焼けは弱い。

時期 不明である。

(新家)

F-11 (図IV-75/表1)

特徴 II層上位調査中に赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後、半截して断面観察を行った。焼土下位に被熱層が見られず、範囲も不明瞭である。このことから他所からの廃棄による焼土の広がりと考えられる。遺物は出土していない。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から前期後半のものと考えられる。

(立川)

F-12 (図IV-76/表1・2・4)

特徴 II層中位調査中に赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後半截して断面観察を行った。焼土下位に被熱層が見られず、範囲も不明瞭である。このことから他所からの廃棄による焼土の広がりと考えられる。すぐ脇にF-13・14、FC-8がある。検出層位がほぼ同レベルであることから何らかの関係があるものと考えられるが特定できなかった。剥片が13点出土している。すべて頁岩製で

ある。被熱していないことから、包含層の遺物の可能性が高い。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から前期後半のものと考えられる。 (立川)

F-13 (図IV-76/表1)

特徴 II層中位調査中に赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後半截して断面観察を行った。焼土下位に被熱層が見られず、範囲も不明瞭である。このことから他所からの廃棄による焼土の広がりと考えられる。すぐ脇にF-12・14、FC-8がある。検出層位がほぼ同レベルであることから何らかの関係があるものと考えられるが特定できなかった。遺物は出土していない。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から前期後半のものと考えられる。 (立川)

F-14 (図IV-76/表1)

特徴 II層中位調査中に赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後半截して断面観察を行った。焼土下位に被熱層が見られず、範囲も不明瞭である。このことから他所からの廃棄による焼土の広がりと考えられる。すぐ脇にF-12・13、FC-8がある。検出層位がほぼ同レベルであることから何らかの関係があるものと考えられるが特定できなかった。遺物は出土していない。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から前期後半のものと考えられる。 (立川)

F-15 (図IV-76/表1・2・4)

特徴 II層中位調査中に赤褐色土の広がりを確認。平面形を実測した後半截して断面観察を行った。焼土下位に被熱層が見られず、範囲も不明瞭である。このことから他所からの廃棄による焼土の広がりと考えられる。頁岩の剥片が1点出土している。被熱していないことから、包含層の遺物の可能性が高い。

時期 検出された層位や周囲から出土している土器から前期後半のものと考えられる。 (立川)

F-16 (図IV-76/表1)

特徴 標高12.0mの平坦面に立地する。II層下位で検出した。平面形は楕円形。焼けは弱い。

時期 不明である。 (新家)

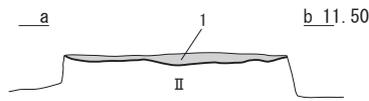
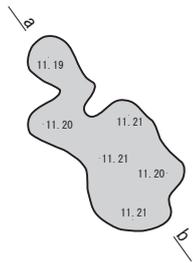
F-17 (図IV-76/表1/図版23)

特徴 標高11.7mの平坦面に立地する。表土I層を除去後、II層上面で検出された。平面形は不整形である。焼成の色が鮮明で、層厚も厚い。形成面に遺物や炭化物を伴わない。

時期 不明である。 (新家)

F-12

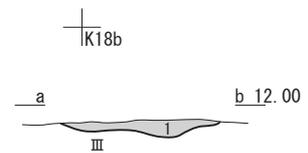
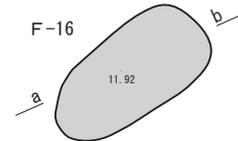
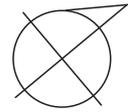
S18b



F-12
1 2.5YR4/6赤褐色焼土 しまり中 粘性中

F-16

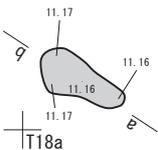
K18a



F-16
1 7.5YR3/4暗褐色埴壇焼土 しまり強 粘性中
層界の明瞭性漸変、起伏不規則 IIIの焼土

T18a

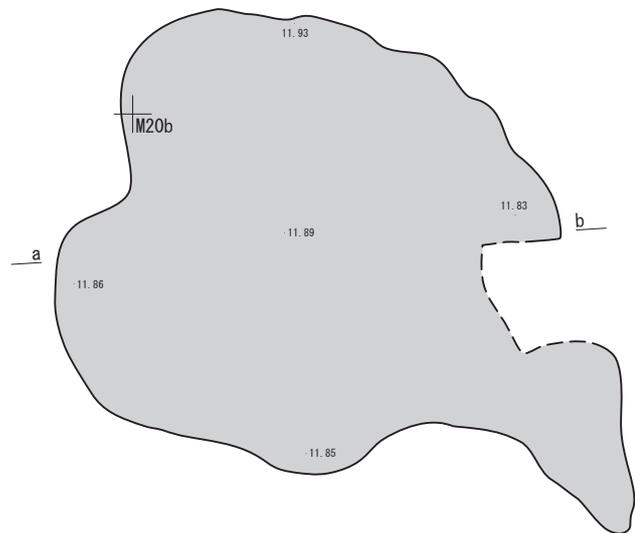
F-13



F-13
1 2.5YR4/6赤褐色焼土 しまり強 粘性強

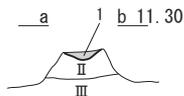
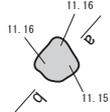
F-17

T18d



F-14

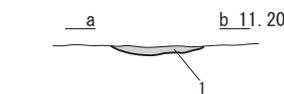
S18b



F-14
1 2.5YR4/6赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
焼土粒(2.5YR7/8橙色焼土 φ1mm以下)が
10%混じる

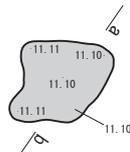
S18c

F-15



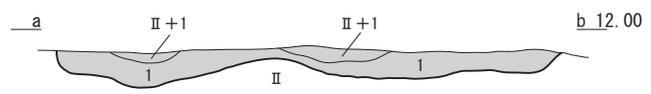
F-15
1 2.5YR4/6赤褐色焼土 しまり弱 粘性弱
焼土粒(φ1mm以下)25%混じる

U20d



U21a

N20a



F-17
1 5YR3/6暗赤褐色埴壇焼土 しまり弱 粘性強
層界の明瞭性漸変、起伏不規則 IIの焼土



図IV-76 F-12~17

5 集石

S-2 (図IV-74/表1・2・4/図版22)

特徴 標高12.5m付近の平坦面に立地する。Ⅱ層調査中、凝灰岩の礫片の散らばりを検出した。円礫も数点含まれる。被熱は見られない。人為的なものは不明である。

時期 不明である。 (新家)

6 剥片集中

FC-1 (図IV-77/表1~4・6/図版22)

特徴 Ⅱ層上位調査中、頁岩の剥片がやや広い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を記録し、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。すぐ脇にF-2・3、一括土器1がある。検出層位がほぼ同レベルであることから何らかの関係があるものと考えられるが特定できなかった。遺物は483点出土した。石鏃1点、石槍・ナイフ類1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー14点、U剥片2点、R剥片3点、砥石3点、頁岩剥片454点、礫片7点である。この他に縄文時代前期前半の土器破片が25点ある。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。 (立川)

遺物 1はつまみ付きナイフ。縦型で二次加工が片面全体に施されている。2はスクレイパー。剥片の側縁に円弧状の刃部を設けている。 (酒井)

FC-2 (図IV-77/表1~4)

特徴 Ⅱ層下位調査中、頁岩の剥片がごく狭い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を記録し、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は226点出土した。スクレイパー2点、頁岩剥片224点である。その他に縄文時代前期前半の土器破片が3点ある。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。 (立川)

FC-3 (図IV-77/表1~4)

特徴 Ⅱ層下位調査中、頁岩の剥片がごく狭い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を記録し、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。このFC-3の上部に、一括土器3が位置する。遺物は106点出土した。頁岩剥片105点、礫1点である。その他に縄文時代前期前半の土器破片が4点ある。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から、縄文時代前期前半と考えられる。 (立川)

FC-4 (図IV-78/表1~4)

特徴 Ⅱ層中位調査中、頁岩の剥片がやや広い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を実測した後、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は107点出土した。石斧1点、頁岩剥片234点、礫2点である。その他に縄文時代前期前半の土器破片が2点ある。

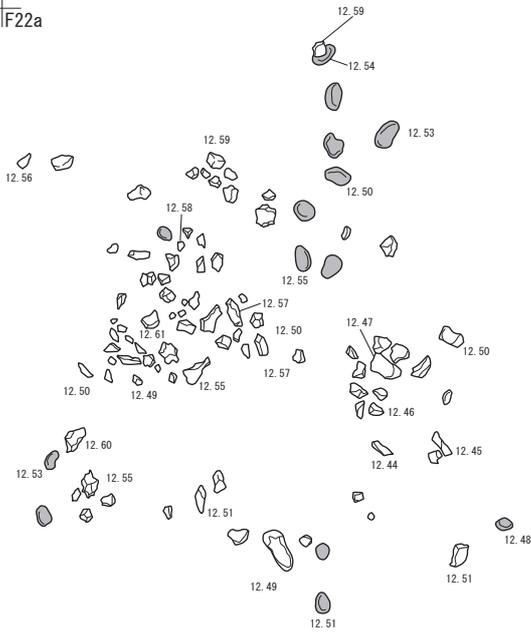
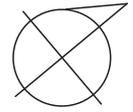
時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。 (立川)

S-2

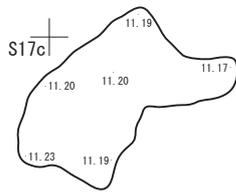
●→円礫・丸礫（河原石）

F22a

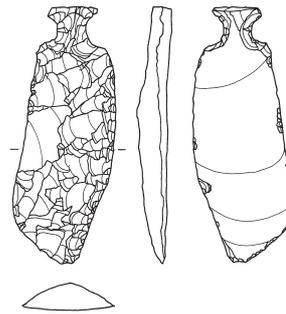
F22d



FC-1



S18b

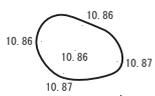
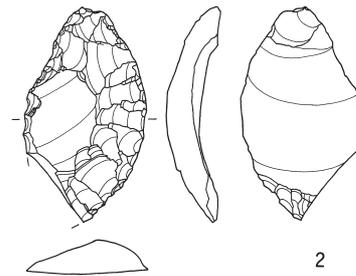


FC-2

T17b

FC-3

U17c



U17a

V17a



図IV-77 S-2・FC-1～3と出土遺物

FC-5 (図IV-78/表1~4)

特徴 II層中位調査中、頁岩の剥片がやや広い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を実測した後、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は164点出土した。頁岩剥片162点、礫2点である。その他に縄文時代前期前半の土器破片が12点ある。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

FC-6 (図IV-78/表1~4)

特徴 II層中位調査中、頁岩の剥片がやや広い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を実測した後、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は550点出土した。石鏃1点、スクレイパー1点、R剥片1点、頁岩剥片540点、礫7点である。その他に縄文時代前期前半の土器破片が7点ある。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

FC-7 (図IV-78/表1~4・6)

特徴 II層中位調査中、頁岩の剥片がやや広い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を記録し、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は556点出土した。石槍・ナイフ類1点、筥状石器1点、頁岩剥片553点、礫1点である。その他に縄文時代前期前半の土器破片が9点ある。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 1は筥状石器。形状は縦型で二次加工が片面全体に施されたつまみ付きナイフと類似したもの。(酒井)

FC-9 (図IV-78/表1~4・6)

特徴 II層中位調査中、頁岩の剥片がごく狭い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を記録し、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は712点出土した。スクレイパー1点、すり石1点、頁岩剥片710点である。

時期 検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

遺物 1はすり石。扁平礫の側縁を擦っている。側縁を敲打によって直線状に整形した後に擦っている。(酒井)

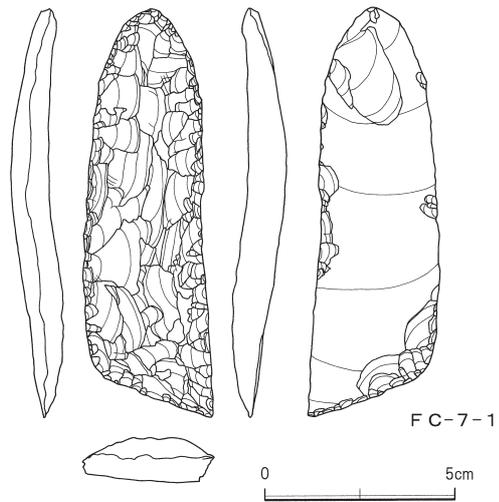
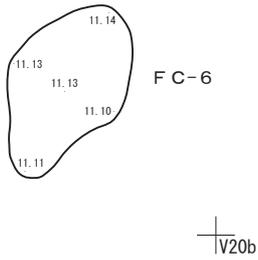
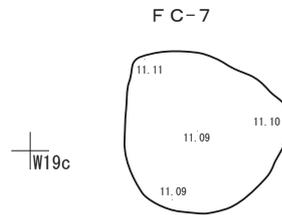
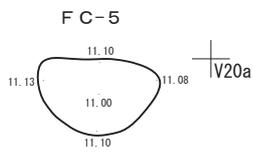
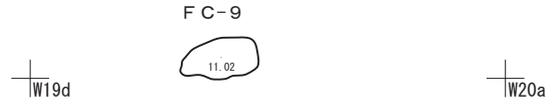
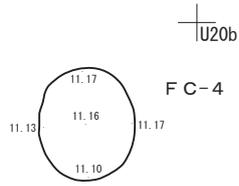
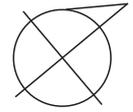
FC-10 (図IV-78/表1~4)

特徴 II層中位調査中、頁岩の剥片がやや広い範囲内に集まった状態で検出された。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。範囲を記録し、土ごと取り上げ、水洗して遺物を検出した。遺物は435点出土した。石槍・ナイフ類1点、たたき石1点、頁岩剥片425点、黒曜石剥片1点、礫7点である。その他に縄文時代早期後半の土器破片1点、同前期前半の土器破片が23点ある。

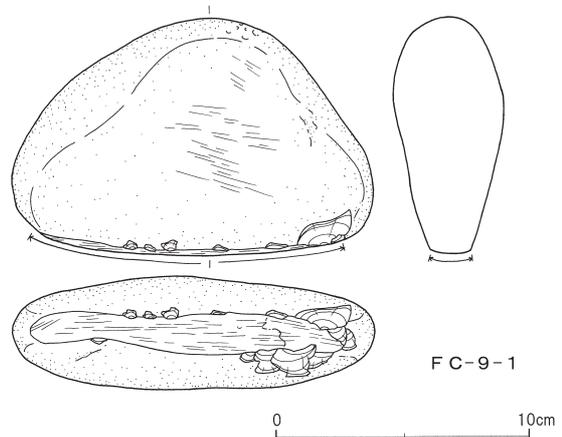
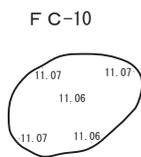
時期 縄文時代早期後半の土器破片が確認されているが、検出された層位やその層から出土している土器から縄文時代前期前半と考えられる。(立川)

FC-4・5・6

FC-7・9



FC-10



図IV-78 FC-4~7・9・10と出土遺物

7 一括土器

一括土器 1 (図IV-79/表5/図版23・42)

特徴 II層上位を調査中に土器破片のまとまりを検出した。この範囲を一括土器1として調査を行った。比較的大きな土器破片が狭い範囲にまとまって確認された。主体となるのは縄文時代中期後半の土器片37点であるが、同前期前半の土器片6点が混入している。一括土器1に接して、F-2・3、剥片集中1が同時に検出されている。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。

時期 検出された層位や出土した土器から縄文時代中期後半である。(立川)

遺物 土器：1はII群a類。口縁部片。平縁で、口唇断面は角型。端面はやや外傾し、棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。器面には羽状縄文が施される。色調は外面が褐色～黒褐色、内面が暗褐色を呈する。胎土は砂礫の混入が目立ち、器面に浮き出す。焼成は良好で、硬くしまる。2はIII群b-3類。口縁～胴中部片。口縁部が直線的に立ち上がり、胴部が膨らむ器形。口唇断面は角型。端面はやや内傾し、半截竹管状施文具による横方向の刺突列が加えられる。器面には比較的長い原体によるRL斜走縄文が施される。口唇直下と胴部の張り出し部分の2か所には貼付体が剥落した痕跡が確認される。色調は外面が褐色～暗褐色、内面が灰黄褐色を呈する。胎土は砂礫が多く混入する。焼成はやや不良で、胴中部の剥落が著しい。(芝田)

一括土器 2 (図IV-79/表5/図版23・29)

特徴 II層調査中に土器の破断面が環状にまとまっているのを検出した。土器1個体が埋設された小土坑を想定し、周辺を精査したが、土器片の周辺での落ち込みなどは確認できなかった。さらに土器の中央部に土層観察用のトレンチを設定したが、II層中に掘り込みなどは確認されなかった。土器は倒立しており、口縁部が下位にある。上位の胴下部～底部は欠失している。土器内部の土壌を採取し、フローテーション作業を行なった。選別によって得られた炭化材を試料として、放射性炭素年代(AMS)測定を行なったところ(HEBI2-12)、 $3,650 \pm 30\text{yrBP}$ という数値が得られた(Ⅵ章第1節参照)。

時期 出土した土器から縄文時代後期前葉である。(新家)

遺物 土器：1はIV群a類。口縁～胴中部が復元された深鉢。胴下～底部を欠く。口縁部は平縁で、内傾して立ち上がる。口径は19.9cm、胴上部の最大径21.5cmを測る。口唇断面は角型で、端面はやや内傾する。器面には無節Lの斜走縄文が施される。口唇直下の一部は折り返し口縁になっていて、その部分は縄文が横走ぎみである。色調は外面が褐色～暗褐色、内面が黄褐色～赤褐色を呈する。内面はよく磨かれており、ヘラ状工具による調整痕が確認される。胎土は砂礫に富む。(芝田)

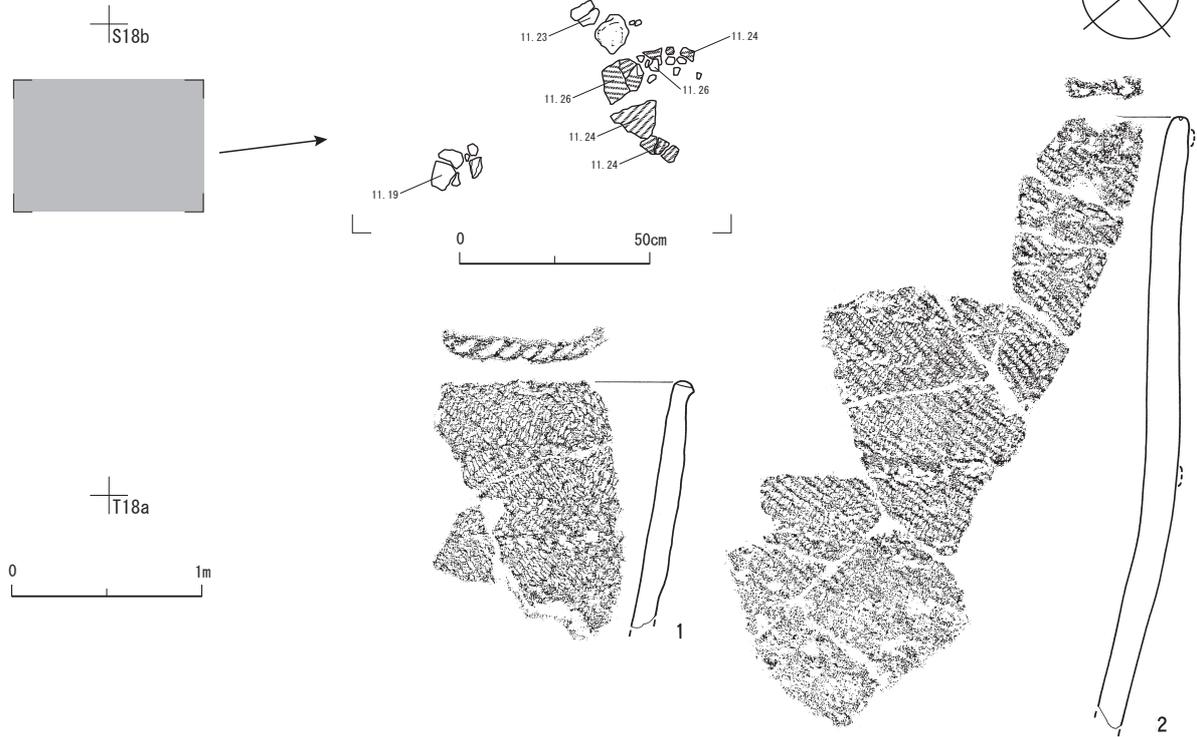
一括土器 3 (図IV-80/表5/図版23・42)

特徴 II層下位を調査中に土器破片のまとまりを検出した。この範囲を一括土器3として調査を行った。比較的小さな土器破片が狭い範囲にまとまって確認され、縄文時代前期前半の土器片108点が出土している。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。

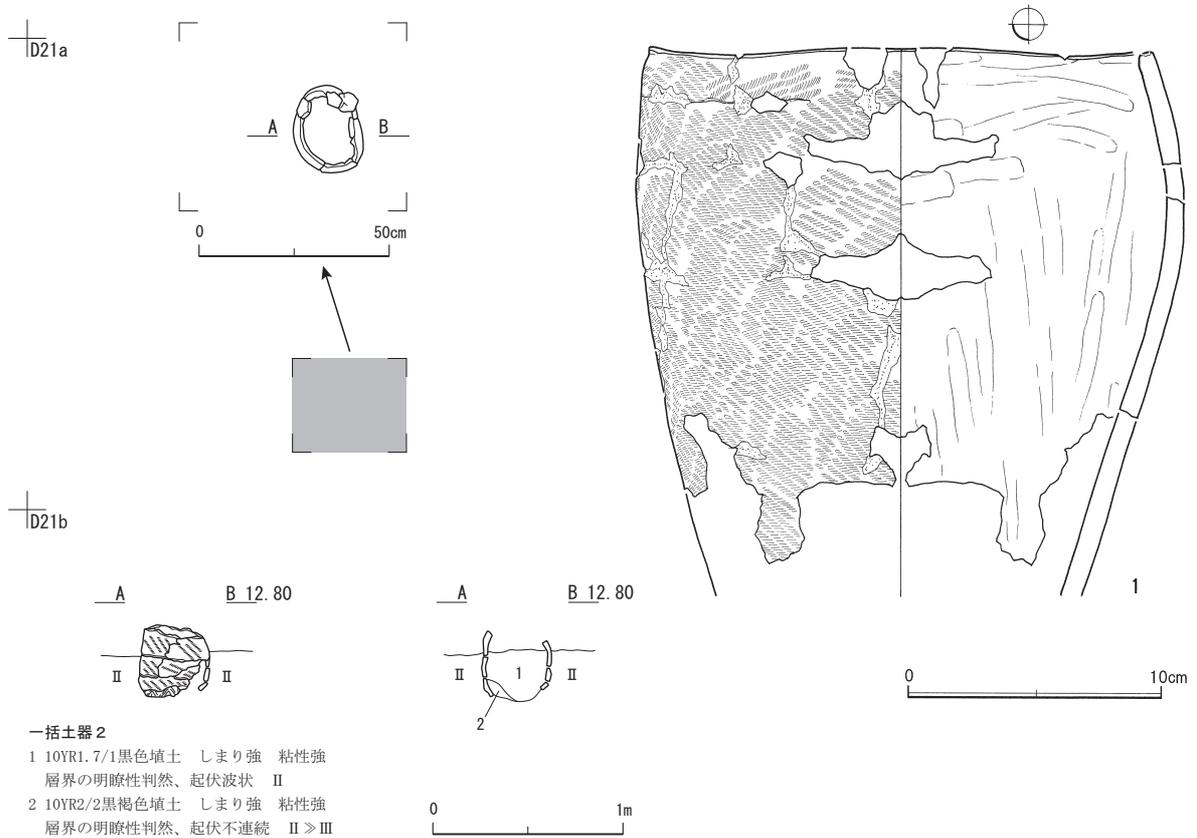
時期 検出された層位や出土した土器から縄文時代前期前半のものと考えられる。(立川)

遺物 土器：1はII群a類。口縁部片と胴部片。口唇断面は丸みを帯びており、端面は棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。器面には羽状縄文が施される。色調は内外面ともに暗褐色～黒褐色を呈する。胎土は砂礫の混入が目立ち、器面に浮き出す。焼成は良好で、硬くしまる。(芝田)

一括土器 1



一括土器 2

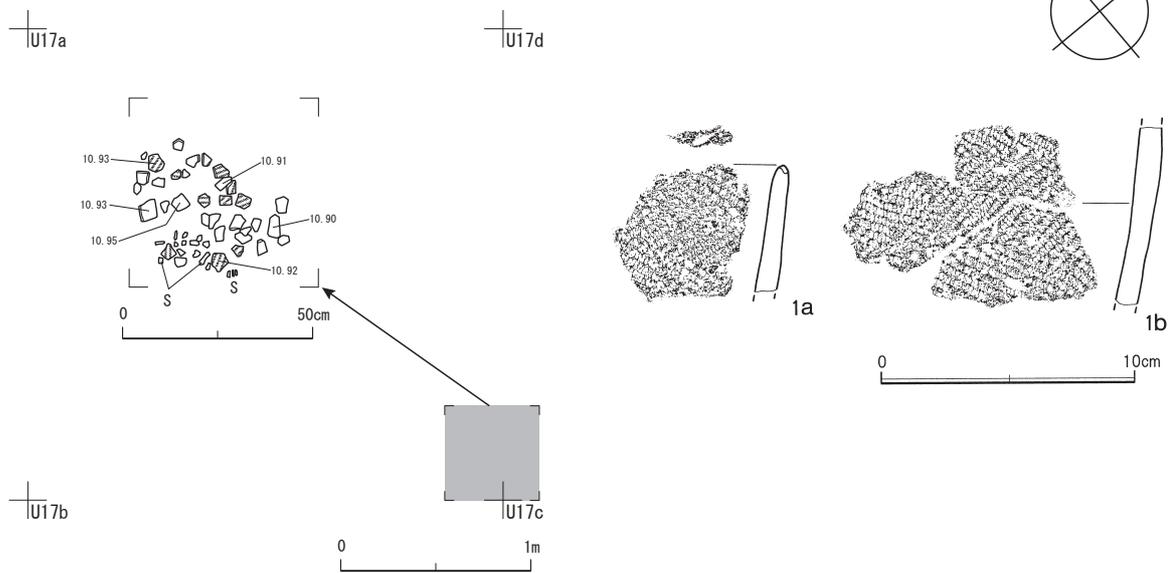


一括土器 2

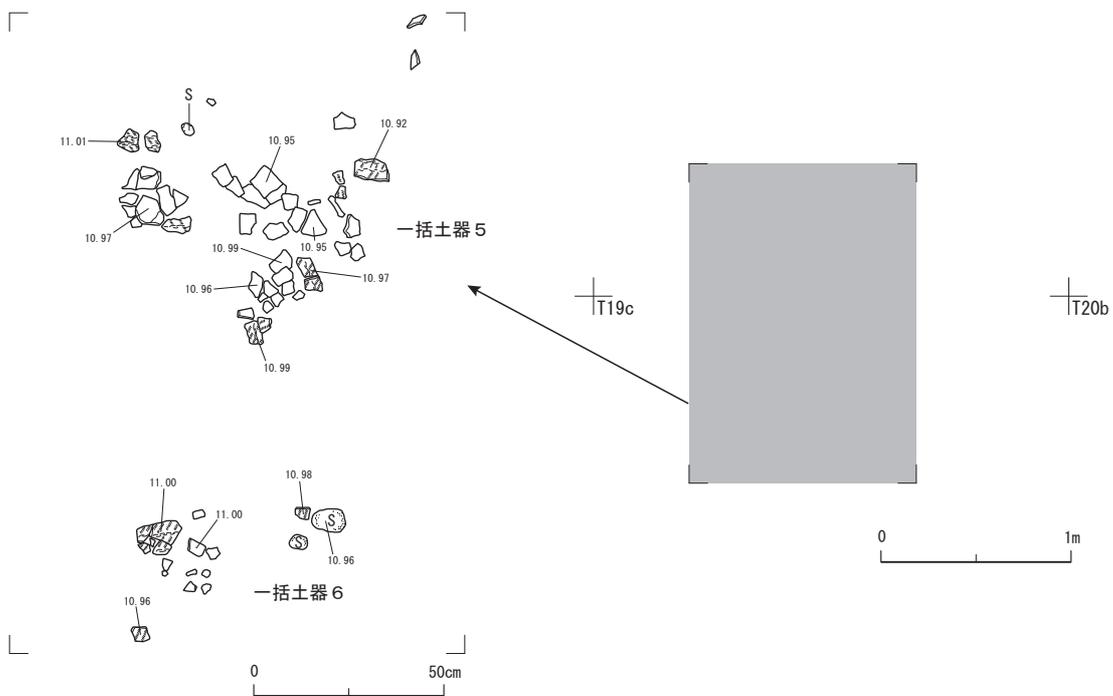
- 1 10YR1.7/1黒色埴土 しまり強 粘性強
層界の明瞭性判然、起伏波状 II
- 2 10YR2/2黒褐色埴土 しまり強 粘性強
層界の明瞭性判然、起伏不連続 II ≫ III

図IV-79 一括土器 1・2

一括土器 3

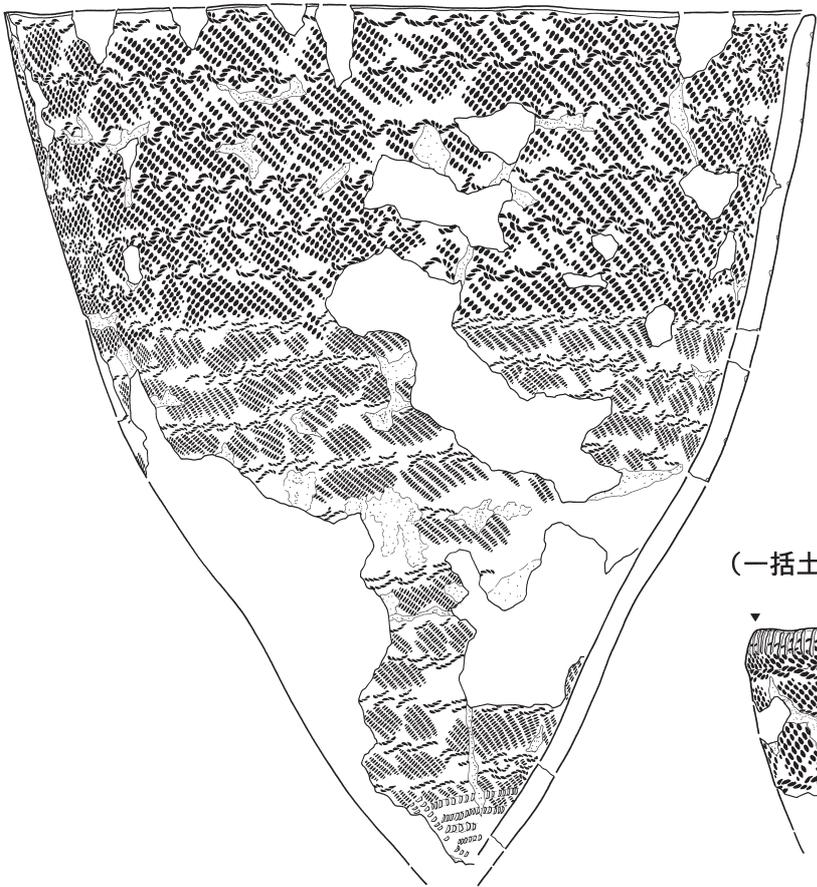
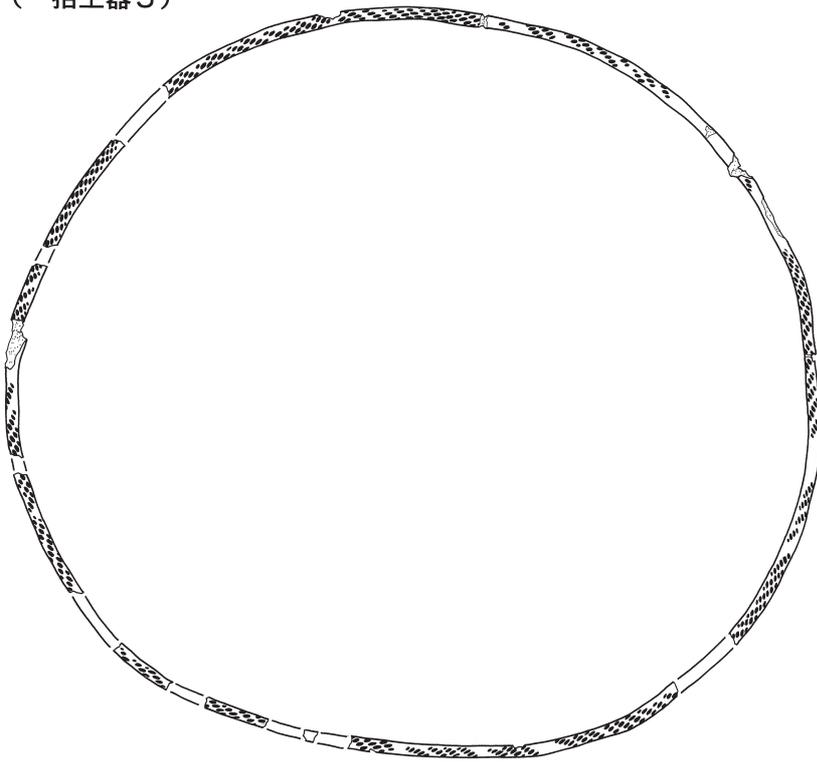


一括土器 5・6

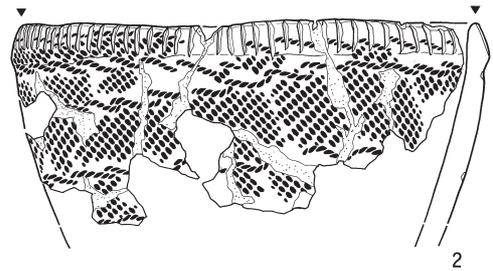


図IV-80 一括土器 3・5・6

(一括土器5)



(一括土器6)



0 10cm

図IV-81 一括土器5・6の出土遺物

一括土器 5 (図IV-80・81/表5/図版23・29)

特徴 II層下位を調査中に土器破片のまとまりを検出した。この範囲を一括土器5として調査を行った。比較的大きな土器破片がやや広い範囲にまとまって確認され、縄文時代前期前半の土器片90点が出土している。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。

時期 検出された層位や出土した土器から縄文時代前期前半のものと考えられる。(立川)

遺物 土器：1はII群a類。口縁～底部が復元された深鉢。底面(端)を欠く。口縁部が大きく開き、胴下部がやや括れる器形で、尖底。上面観は楕円形。口径は長軸で32.1cm、短軸で29.0cm、現存高は34.0cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は角型。端面は水平で、LR縄文が回転施文される。器面にはRL斜走縄文が施され、結節回転文が多段に巡る。地文と結節の原体は胴部下半ではより細く密なものが用いられている。底部は半截竹管状施文具による横向きの刺突列が多段に加えられている。刺突列は波状のものと横走するものが組み合わさり、文様を構成する。色調は内外面ともに黄褐色～暗褐色を呈する。口縁部の外面には黒斑が見られる。胴部の縄文は磨滅により不鮮明である。内面はナデ調整され平滑であるが、剥落が著しい。胎土は繊維が多く混入する。焼成は良好で、硬くしまる。(芝田)

一括土器 6 (図IV-80・81/表5/図版23・29)

特徴 II層下位を調査中に比較的小さな土器破片が狭い範囲にまとまって確認された。この範囲を一括土器6として調査を行った。縄文時代前期前半の土器片20点が出土している。周囲の精査を行ったが掘り込みなどは確認されなかった。

時期 検出された層位や出土した土器から縄文時代前期前半のものと考えられる。(立川)

遺物 土器：2はII群a類。口縁～胴上部が復元された深鉢。胴中～底部を欠く。口縁部がやや内傾する器形。上面観は楕円形。口径は長軸で18.1cm、短軸で16.6cm、胴上部の最大径18.8cmを測る。口縁部は平縁で、口唇断面は尖る。口唇直下はヘラ状施文具の先端により連続して刻まれる。器面にはLR斜走縄文が施され、結節回転文が多段に巡る。色調は外面が褐色～暗褐色、内面が暗褐色～黒褐色を呈する。内面はナデ調整されるが、指頭による凹凸が残る。胎土は繊維が多く混入し、白色の岩石片が目立つ。焼成はやや不良で、外面の剥落が著しい。(芝田)

V 包含層出土の遺物

包含層からは土器28,385点、石器等85,944点、土製品1点、石製品14点が出土した。これまでの調査によって得られた資料の内訳は、表I-2・3に示した。

1 土器

(1) 概要

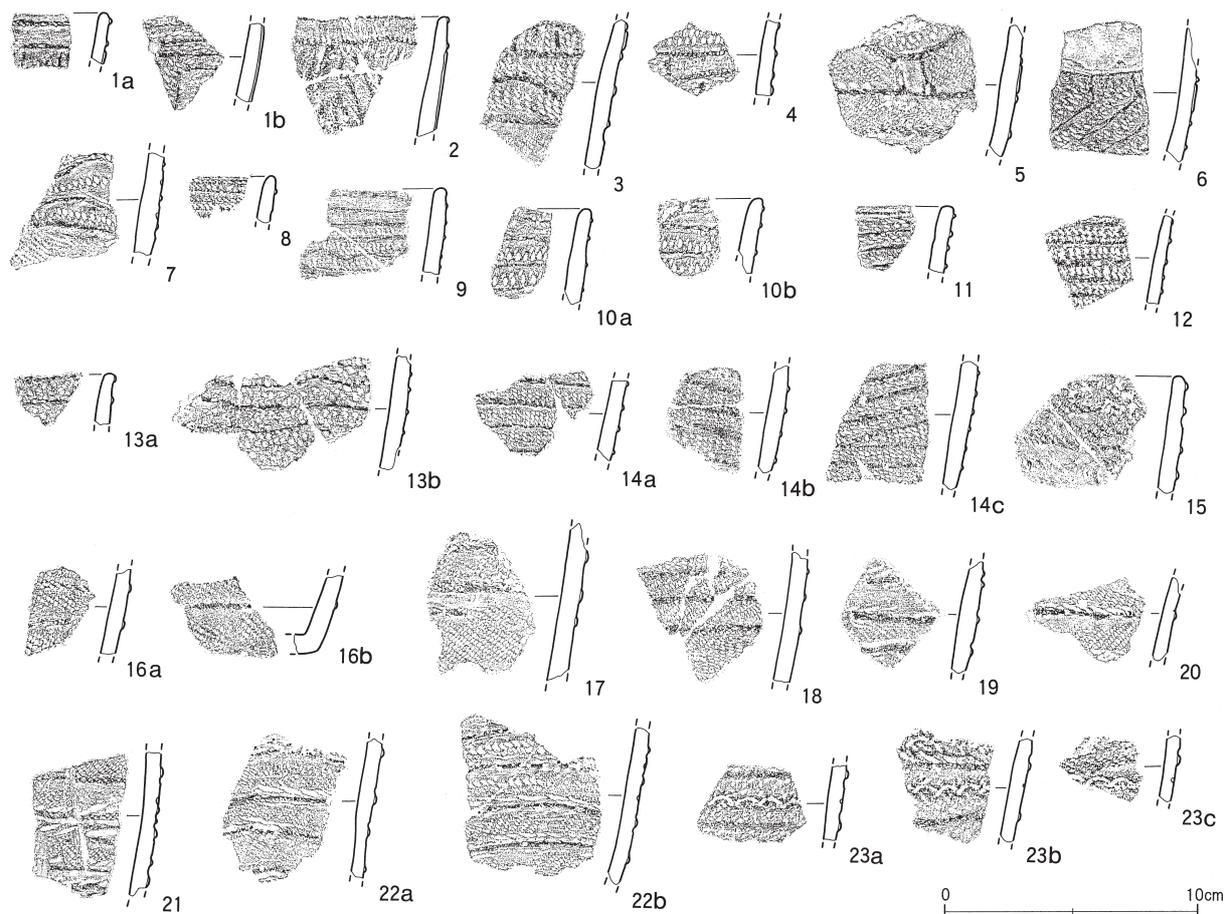
平成21・22年度、2か年の調査で、土器は遺物包含層より28,385点出土した(表I-2)。時期は、縄文時代早期(I群)、前期(II群)、中期(III群)、後期(IV群)、晩期(V群)のものがある。縄文時代後期前葉(IV群a類)の土器が13,457点(47.4%)と最も多く、以下、前期後半(II群b類)の6,534点(23.0%)、前期前半(II群a類)の5,013点(17.7%)、早期末葉(I群b-4類)の1,468点(5.2%)、中期末葉(III群b-3類)の1,297点(4.6%)、早期後葉(I群b-3類)の513点(1.8%)と続く。晩期後葉(V群c類)は75点(0.2%)、中期前半(III群a類)は28点(0.1%)と非常に少ない。

土器の出土分布は遺構とほぼ一致しており、調査範囲の南側に集中し、北側は希薄である(図V-1-17~19)。調査範囲の西側、B~F・16~21ラインは、道路路盤や側溝により遺物包含層が削平されているため、遺物が非常に少ない。一方、調査範囲の南西側、H~N・9~12ラインは、沢地形のために段丘面より各時期の遺物が流れ込み、多数の土器が出土している。I群b-3類土器はL~N・27~29ライン、I群b-4類土器はF・21~25ラインとN~Q・16~17ラインにまとまりがあるが、これらの破片は微細なものが大半で、個体数は少ないと考えられる。II群a類土器は、当該期の土坑が密集する調査範囲の南東側、Q~X・16~21ラインに集中する。II群b類土器は、過半数が調査範囲の南西側、K~N・9~11の沢部分から出土した。沢の上流側には、当該期の住居跡H-11がある。III群a類は点数が少なく、分布も疎らである。III群b-3類土器は、当該期の住居跡H-2周辺のP~R・16~18ラインに比較的まとまっている。IV群a類土器は、調査範囲南側のH~K・15~19ラインとM~P・15~18ラインにまとまりがある。この地域は、当該期の住居跡H-3・5・8やフラスコ状土坑P-23・33・94があり、縄文時代後期前葉の主な生活域であったと考えられる。V群c類土器は、調査範囲南西側、J~M・10~11の沢部分のみで出土した。これらは沢への流れ込みで原位置を動いており、当該期の遺構も検出されていない。

出土層位は、大部分がII層より出土している。III層(漸移層)より出土したものもあるが、木根などの攪乱による可能性がある。低地部分では、B-Tm降下火山灰を挟み、II層を上下に分けたが、流れ込みの縄文土器がII上層・II下層のいずれからも出土している。

(2) I群b-3類(図V-1-1-1~23/表7-1/図版43)

縄文時代早期後葉のもので、中茶路式に相当する。いずれも破片資料で器形を復元できたものはないが、口縁~胴部断面の傾きから鉢もしくは深鉢と推測される。口縁部の形態は平縁で、口唇断面は丸い(1・2・8~11・13・15)。底部は平底のもの(16)が見られる。器厚は0.3~0.6cm。器面に細貼付帯を平行に巡らせ、内部に絡条体圧痕文(1~4・6~14)、斜走縄文(5・15~21・23)、短縄文(22)を施す。細貼付帯は施文の際に押し潰されて、平たくなっているものが見られる。色調が褐色~黄褐色を呈するものは焼成がよく、硬くしまっている。色調が暗褐色~黒褐色を呈するものは、器面や貼付帯が剥落しているものが多い。胎土は粒径0.1~0.3cmの砂礫が多く混入しており、大きなも

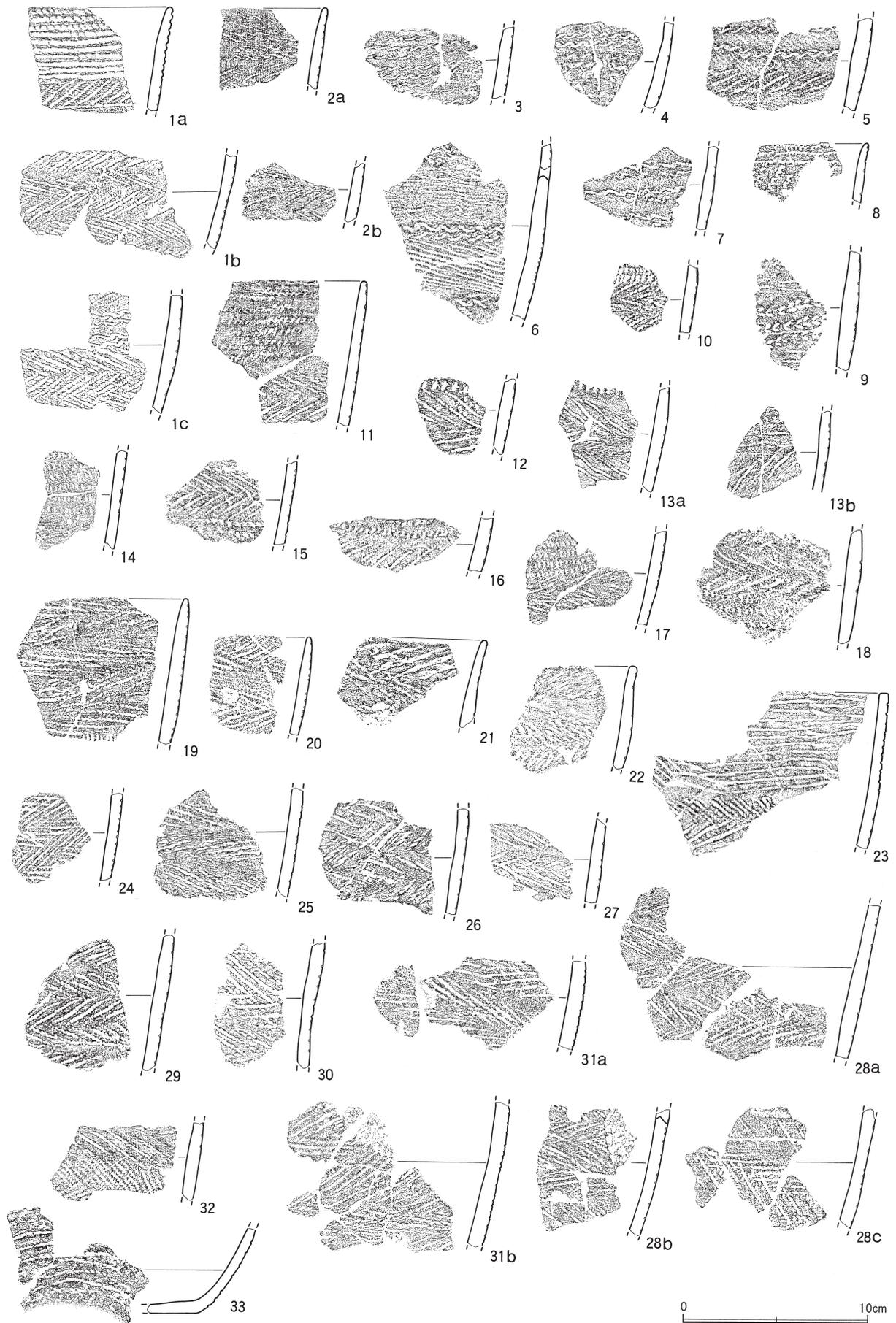


図V-1-1 包含層出土のI群b-3類土器

のが器面に浮き出ている。1～6は横位の細貼付帯を縦位あるいは斜位の短い細貼付帯で連結し、格子状としている。7は細貼付帯が波状に横還する。8～23は横位の細貼付帯が施される。19～22は粘土紐を器面に貼り付ける際の爪跡が残る。23は細い結節回転文が細貼付帯に並走する。

(3) I群b-4類 (図V-1-2-1～33/表7-2/図版43・44)

縄文時代早期末葉のもので、東釧路IV式に相当する。いずれも破片資料で器形を復元できたものはないが、口縁～胴部断面の傾きから鉢もしくは深鉢と推測される。口縁部の形態は平縁もしくは緩やかな波状である。口唇断面は薄く尖り気味のもの(1・2・8・11・19～22)が多いが、角型のもの(23)も見られる。底部は底径の小さな平底のもの(33)がある。器厚は0.2～0.5cmで、I群b-3類よりもやや薄いものが目立つ。口縁部に文様帯を設けるものは、半截竹管状施文具による刺突列(1)、細い結節回転文(2)、縄端の連続圧痕(8)、絡条体圧痕文(11)、縄線文(23)がある。文様帯が区画されないもの(19～22)もある。器面には自縄自巻的な原体による羽状の縄文(1～12・19・20)、棒を軸とした羽状の撚糸文(13～18・21～31・33)、2段の縄による羽状縄文(32)が施される。これらを併用するものも見られる。色調は褐色～暗褐色を呈し、主に内面に炭化物が付着するものが多い。胎土は概ね緻密であるが、粒径0.1～0.3cmの白色凝灰岩礫が浮き出るもの(1・11・25)、長石・輝石に富むもの(5・6・19・21・24・28)がある。焼成がよく、硬くしまっている。1～7は数条の細い結節回転文が横走する。8・9は組紐圧痕文、10～18は絡条体圧痕文が施される。26～28は羽状が乱れて撚糸文が交錯する。



図V-1-2 包含層出土のI群b-4類土器

(4) II群a類 (図V-1-3・4-1~41/表7-3/図版44~46)

縄文時代前期前半のもので、春日町式の前後に相当する資料が出土している。当該期の資料は、P-25・27・40・41・46・50・79、一括土器5・6からも復元資料が出土しており、分布域はほぼ重なる。

羽状縄文が多段に施されるもの (1~6)

いずれも撚りの異なる原体を交互に横方向に回転させ、羽状としている。原体の幅は0.2~0.3cmと細く密である。1~5は口縁部。口唇断面は角形で、2~5は棒状工具により斜めに刻まれる。6は胴部。外面の剥落が著しい。色調は褐色~暗褐色を呈し、焼成は固くしまる。胎土は砂粒が多く、径0.5~1.0cm大の凝灰岩礫が目立つ。繊維の混入はほとんど見られない。函館市春日町遺跡(児玉・大場1954)では結束羽状縄文が施されたもの(春日町二群C類)が出土しているが、結束部をもたない羽状縄文が多段に施される資料は見られない。先行する桔梗野式との関係から、やや古手のものと推測される。

連続刺突文が施されるもの (7~30)

8~12・16~18は、やや間隔の開いた連続刺突列により文様が描かれる。8~10は、無文の器面に竹管状施文具による刺突列を2~3段横走させ、その間にやや乱れたコンパス文を細い沈線で施している。8は口縁部。口唇断面は角形で、棒状工具により斜めに刻まれる。11は縄端、12は半截竹管による刺突列が巡る。12は口唇も半截竹管により刻まれている。16~18は平底の底部。16は底縁がやや外側に張り出す。底側面と底下面には竹管状施文具により「ハ」の字状に刺突列が巡っており、組紐圧痕文に似る。17は底側面に縄端の圧痕列が、18は竹管状施文具による横向きの刺突列が多段に巡る。繊維の混入はほとんど見られない。これらはコンパス文や平底などの特徴から、先行する石川野式に含まれる可能性がある。

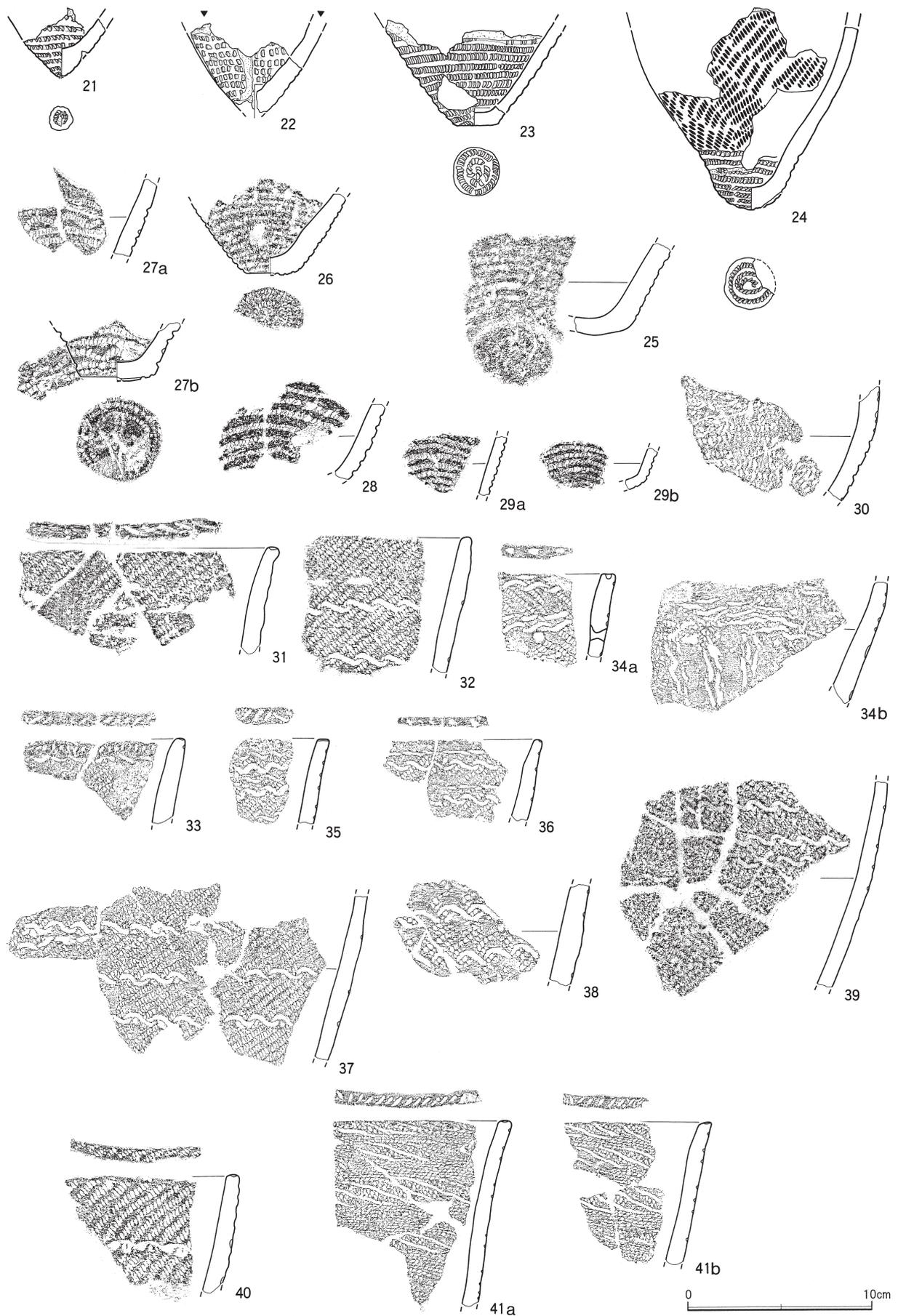
7・13~15・19~30は、竹管状施文具を密に押し引きした連続刺突列により文様が描かれる。7は尖底の底部。上部は羽状縄文だが、下部は竹管状施文具による押引文が多段に巡っている。13~15は口縁~胴部に横位・波状・弧状の刺突列が多段に巡るもの。口唇が棒状施文具により14は斜めに、15は交差して刻まれる。19~30は鉢もしくは深鉢の底部。尖底または底径の小さい平底で、竹管状施文具による横向きの刺突列が同心円状に巡る。19~22は尖底。21は底径0.9cmの狭い底面にもやや乱れた弧状の刺突列が見られる。刺突の幅は0.2cmで、間隔は0.1cmと密である。色調は外面が褐色~黄褐色、内面が黒褐色を呈する。胎土は繊維・砂礫に富む。22は底面を欠く。色調は内外面ともに暗褐色~黒褐色を呈する。器内面には指頭による調整痕が残る。器外面は磨滅・剥落が著しい。23~26は狭い底面に渦巻状の刺突列が施される。23は底径2.5cmを測る。刺突の幅は0.4cmで、間隔はきわめて密である。内面はナデ調整される。色調は外面が暗褐色~褐色、内面が黒褐色を呈する。胎土は繊維・砂礫に富み、焼成はよい。24は胴下~底部が復元された深鉢。胴部下位にL R斜走縄文が施される。条の幅は0.5cmとやや太めで、深く回転施文されている。底径は2.8cmを測る。刺突の幅は0.2cmで、間隔がほとんどなく押し引き状になっている。色調は外面が褐色~赤褐色、内面が黄褐色~褐色。内面には黒斑が見られる。胎土は繊維・砂礫に富む。粒径の大きな砂礫が表面に浮き出ている。外面の一部が剥落する。25は底下面が磨滅により不鮮明である。27は底側面に波状、底下面に放射状の刺突列が描かれる。30は胴部下位に結節回転文が施される。

結節回転文が施されるもの (31~40)

31~39は斜走縄文を地文として、口縁~胴部に結節回転文が多段に横走するもの。31~36は口縁部。31は口唇が棒状施文具により斜めに刻まれる。器面は磨滅により不鮮明である。33・35・36は口唇が竹管状施文具により斜めに刻まれる。33は口唇直下に竹管状施文具による刺突列が巡り、その下部に結節回転文が見られる。34は口唇が半截竹管による横向きの刺突列が施される。口縁部に補修孔が1か所確認される。胴部には2条1組で結節回転文が縦走する。37~39は胴部。40は口縁部で横走する1条の結節回転文に縄端の刺突列を重ねている。口唇には地文と同じL R回転縄文が施されている。



図V-1-3 包含層出土のⅡ群a類土器 (1)



図V-1-4 包含層出土のⅡ群a類土器 (2)

絡条体回転文が施されるもの (41)

41はL縄を密に巻いた単軸絡条体第1種に緩く間隔をあけて巻いた同一原体による斜位の撚糸文を重ねて横位に施文している。口唇断面は角形で、竹管状工具により斜めに刻まれている。

(5) II群b類 (図V-1-5~7-1~34/表7-4/図版46~48)

縄文時代前期後半のもので、円筒土器下層b式、同c式、同d式に相当する土器が出土している。地文のみの胴部、底部破片は細分が困難であるため、それぞれ報告する。

円筒土器下層b式に相当するもの (1・2)

1・2は口縁部と胴部の境に太い貼付帯を巡らす。口径に比して口縁部の幅は狭い。いずれも貼付帯には棒状工具の先端による円形刺突列が加えられている。2は口唇にも円形刺突文が見られる。1は地文がLR斜走縄文。2は地文がRLR複節縄文で、口縁部は斜走、胴部は縦走する。内面には条痕が疎らに縦走する。いずれも色調は暗赤褐色~褐色を呈し、胎土に繊維を多く含んでいる。焼成はもろく、器面の剥落が著しい。

円筒土器下層c式に相当するもの (3~11)

3~9は幅広の口縁部に横走あるいは斜走する単軸絡条体の回転文を施し、さらに撚糸による文様を上書きしている。3は山形突起の頂部から3条の撚糸が垂下する。胴部の地文はRLR複節の斜走縄文である。4・5は2条1組の撚糸により格子状の文様が描かれる。6は頸部、7は口唇直下と頸部に2条1組の縄線が巡る。8は口唇直下に1条の撚糸が横走する。9・10は口縁部に撚糸が多段に巡る。10は斜走縄文が施される。

円筒土器下層d式に相当するもの (12~26)

12~14は幅広の口縁部文様帯をもつもの。12は頸部に稜があり、口縁部がやや内湾する。撚糸文が疎らに斜走する。13・14は口縁部に撚りの異なる2条1組の撚糸文が横走する。13は胴部に単軸絡条体の回転文が縦走する。14の胴部と底面には自縄自巻的な原体が回転施文される。15~26は幅の狭い口縁部文様帯をもつもの。口縁部に撚りの異なる2条1組の撚糸文が多段に横走する。15~18は頸部には結節羽状縄文を1~2段施す。24は頸部に低い貼付帯が巡るもので、半截竹管による横向きの刺突列が施される。25は口唇直下と頸部に縄端が連続圧痕されるもので、胴部には多軸絡条体が回転施文されている。

胴部 (26・27)

いずれも胴部片で、26は単軸絡条体、27は自縄自巻的な原体が回転施文されている。

底部 (28~34)

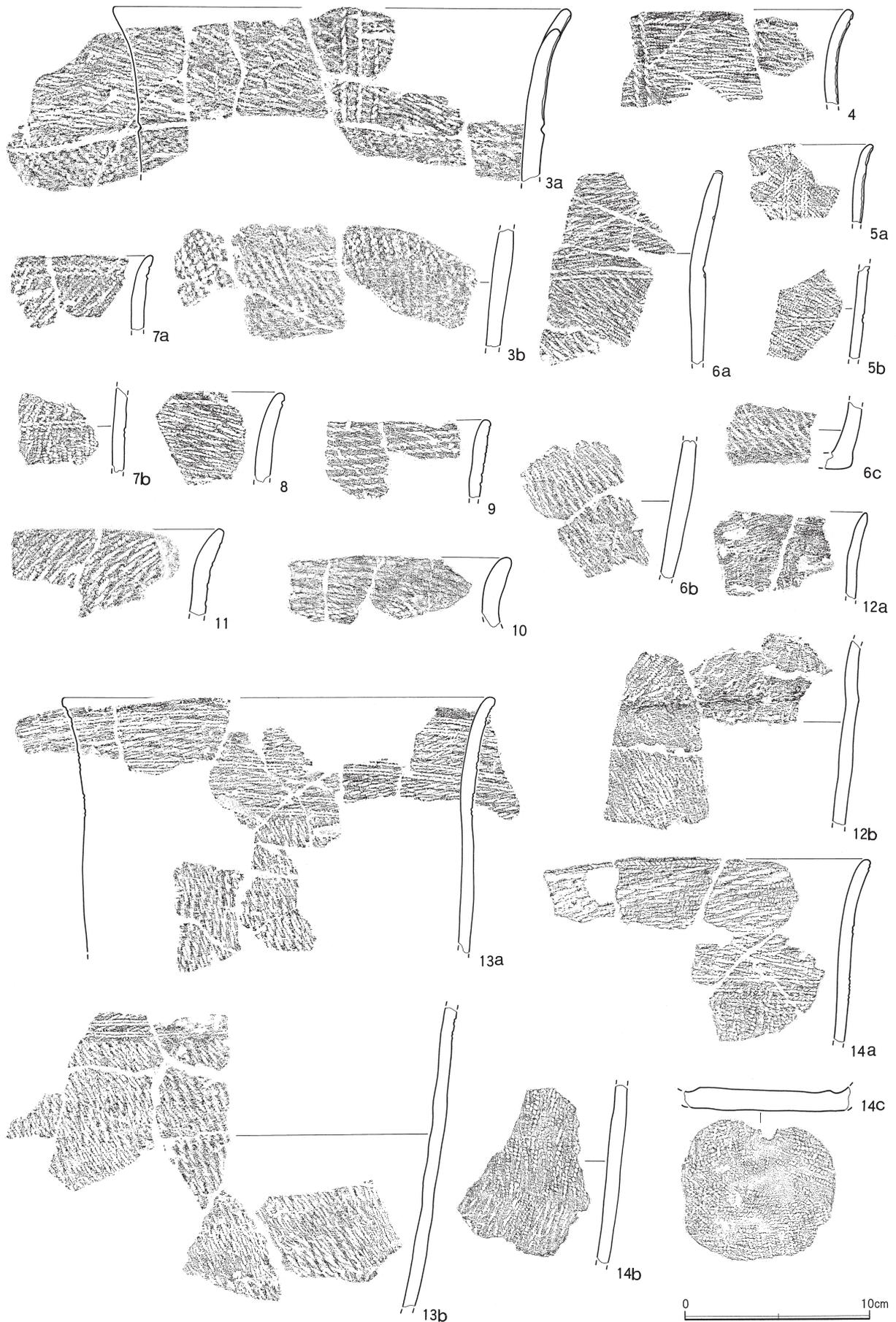
いずれも平底。29・30は底部のみが復元された深鉢で、同一調査区内で出土した。29は指頭による圧痕のため底下面が少し凹み、上げ底ぎみになっている。底下面は楕円形で、底径8.9cmを測る。色調は外面が褐色~黄褐色、内面が暗褐色~褐色を呈する。内面はナデ調整により滑らかになっている。30は底下面がやや潰れた円形で、底径13.6cmを測る。器外面が磨滅し、底下面は著しく剥落する。色調は内外面ともに褐色。内面には指頭の痕跡が見られる。28はLR斜走縄文、29・31・34は自縄自巻的な原体による斜走縄文、30はRLR複節縄文、32・33は単軸絡条体の回転文が施される。

(6) III群a類 (図V-1-8-1/表7-5/図版49)

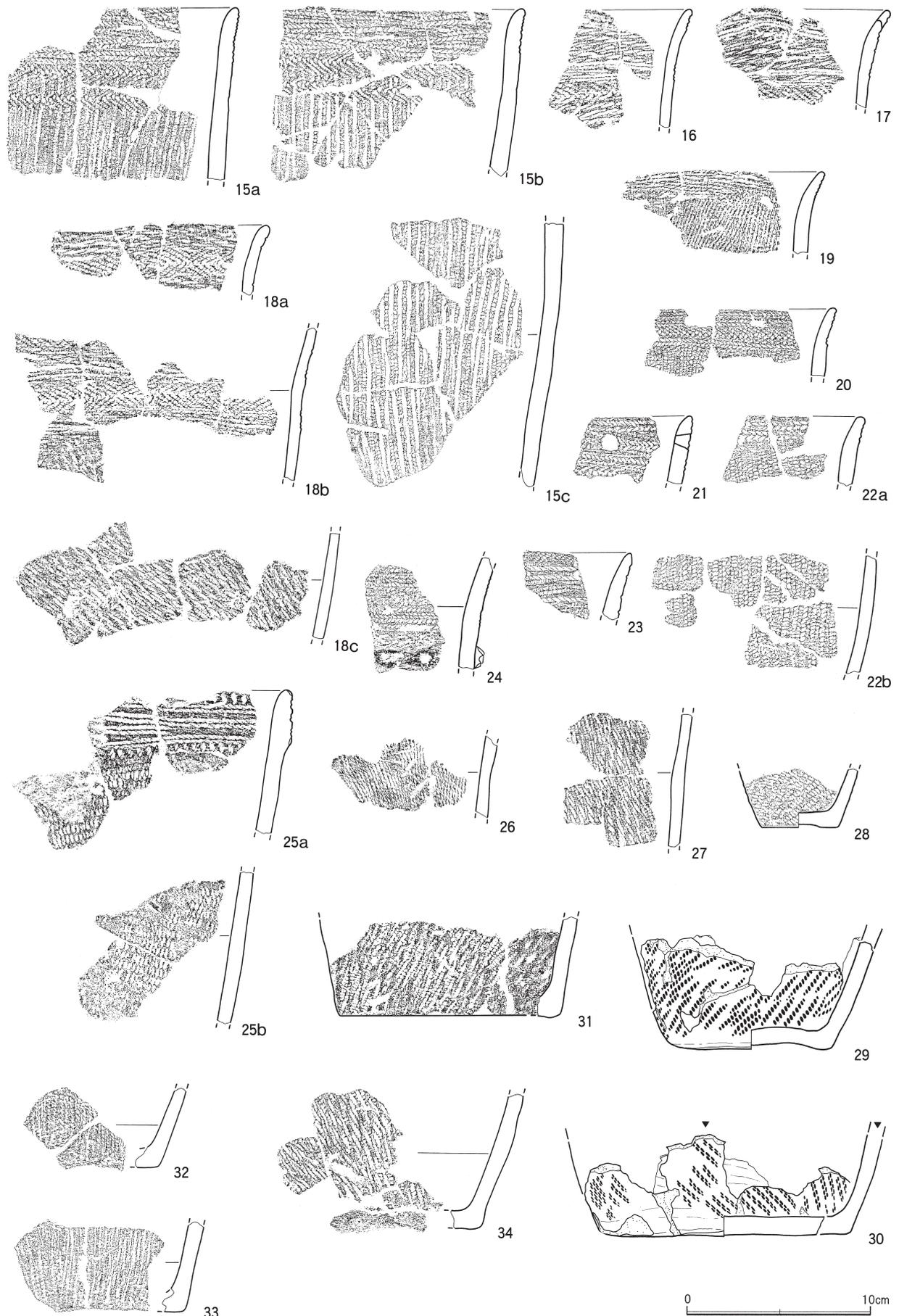
縄文時代中期前半のもので、円筒土器上層b式に相当する。1は口縁部片で口唇を欠く。粘土紐を山形あるいは波状に貼り付け、内部を縄側面圧痕や馬蹄形圧痕文で充填している。貼付帯には短縄文の側面圧痕が縦位に連続して施される。貼付帯の幅は0.6~0.8cmで、一部は剥落する。色調は暗褐色~



図V-1-5 包含層出土のⅡ群b類土器(1)



図V-1-6 包含層出土のⅡ群b類土器 (2)



図V-1-7 包含層出土のⅡ群b類土器 (3)

褐色を呈する。胎土は砂礫が多く混入し、焼成はよい。内面はナデ調整されて平滑である。

(7) III群b-3類 (図V-1-8-2~28/表7-6/図版49)

縄文時代中期後半のもので、ノダップⅡ式に相当する。当該期の竪穴住居跡H-2より一括資料が出土している(図IV-6)。これらをもとに以下のように分類した。縄文のみのが施された個体は、出土地点、器形(胴部の膨らみと頸部のくびれ)、胎土などから、ここに含めた。

①器面に貼付帯が巡るもの(2~10)

2・3・6は口縁部、4・5・7~9は胴部、10は平底の底部。口唇断面は角型である。2~5は器面に地文を施した後に貼付帯を巡らし、さらに貼付帯の上にも回転方向を違えて縄文を施す。4は内面にヘラ状工具による調整痕が残る。5は破片下位の厚みから底部付近と考えられる。6~10は器面に貼付帯を巡らした後、貼付帯を押し潰すように地文を施す。8は胴部が膨らみ、口縁部が直線的に立ち上がる器形と推測される。2~7・10はRL斜走縄文、8・9はLR斜走縄文が器面に施される。色調は褐色~黒褐色を呈しており、内面が暗赤褐色のもの(4)もある。胎土は細砂礫が多量に混入しており、器面に浮き出すものが大半である。5・6は器面の剥落が著しい。9は内面に炭化物が付着する。

②半截竹管による横向きの刺突列が巡るもの(11~25)

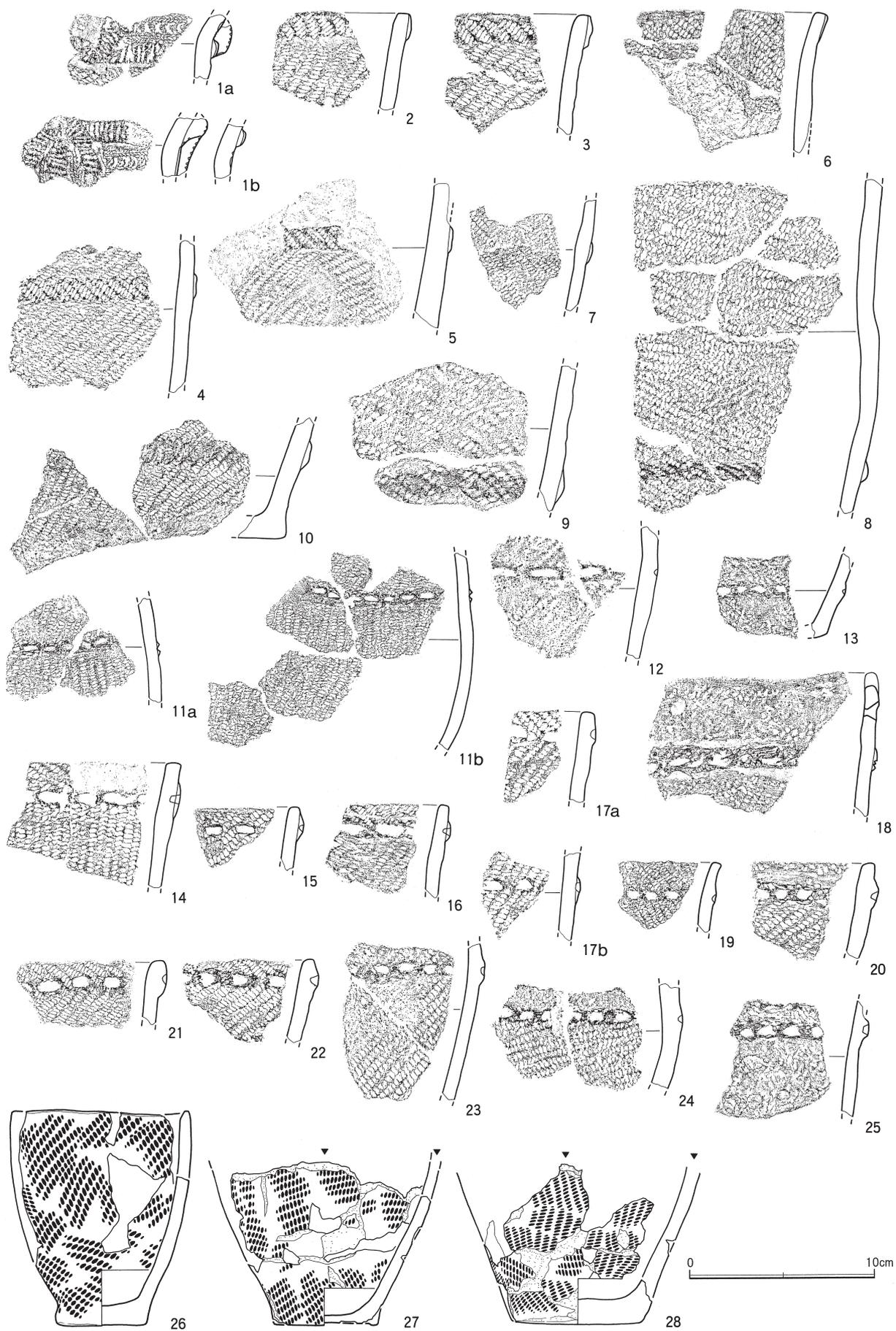
14~22は口縁部、11・12・23~25は胴部、13は底部。口唇断面は角型のもの(14~16・21・22)と丸みを帯びるもの(17~20)がある。11~13は刺突の浅いもの。半截竹管状施文具をやや長めに押し引いている。間隔は密なもの(11)と疎らなもの(12)がある。刺突孔の周縁が盛り上がり、堤状になっている。13は器面がナデられ、刺突孔の周縁が潰れており、当初は深く施文されていた可能性がある。14~18は貼付帯の上から刺突列を加えるもので、刺突は深い。17は胴部にも刺突列がみられる。18は補修孔が1か所みられる。19は口縁部、23~25は胴部の屈曲部分に刺突列が巡る。21・22は口唇直下の肥厚部分に刺突列が巡る。11・13・16・19・20はRL斜走縄文、12・15・23・24はLR斜走縄文が器面に施される。14・17・21・22は口唇直下がRL斜走縄文、刺突列から下位がRL縦走縄文となっている。23・24は胴部の張り出し部(最大径部分)と考えられる。25は器面がナデられており、縄文が不鮮明である。色調は褐色~暗褐色を呈する。胎土は緻密で、焼成は良好であるものが多い。

③縄文のみなもの(26~28)

26は口縁~底部が復元された小型の深鉢。全体の約2/3が残存する。口径9.7cm、底径4.9cm、高さ11.7cmを測る。口縁部は平縁で、直線的に立ち上がる器形。口唇断面は丸い。平底で底縁がやや張り出す。回転方向の異なるLR斜走縄文を上下に施すことにより、不整な羽状縄文を作出している。内面には指頭による調整痕が見られる。色調は暗褐色を呈し、一部に炭化物が付着する。27・28は胴下~底部が復元された深鉢。27は平底で、底径5.6cmを測る。器面には横走ぎみのLR斜走縄文が施される。色調は外面が褐色、内面は黒褐色を呈する。焼成は良好ではなく、器外面の剥落が著しい。28は平底で、底径6.9cmを測る。器面には縦走ぎみのRL斜走縄文が施される。色調は外面が褐色~赤褐色、内面が暗褐色~黒褐色を呈する。胎土は砂礫の混入が目立ち、粒径の大きなものは器面に浮き出ている。底部側面には器外面の剥落により、輪積みの際の粘土紐接合面が露出している。

(8) IV群a類 (図V-1-9~15-1~113/表7-7/図版50~55)

縄文時代後期前葉のもので、涌元式、大津式に相当する資料がある。涌元式は非常に少なく、大津式が大部分である。地文が縄文のみなもの、無文のものについては、いずれの型式に属するか判断し難いため、それぞれまとめて報告している。



図V-1-8 包含層出土のⅢ群a類・Ⅲ群b-3類土器

涌元式に相当するもの

①縄線文による文様のもの（1～7）

1は口縁～胴上部が復元された深鉢。口径は18.0cm、胴部の最大径は19.4cmを測る（推定）。口縁部がやや外反し、胴上部が膨らむ器形。口縁部は緩い小波状を呈し、外面の一部に段が見られる。地文はLR原体による横走ぎみの斜走縄文。器外面はナデられており、縄文は不鮮明である。器内面は櫛歯状工具による縦あるいは横方向の調整痕が確認される。口縁部に2条1組のRL縄側面圧痕が半円状に垂下する。口唇断面は角形で、回転縄文を施す。内外面ともに色調は暗褐色を呈し、焼成はよくしまる。2は口縁～胴中部が復元された小型の深鉢。推定口径は12.2cmを測る。胴中部がわずかに膨らむ器形。口縁部は平縁。口唇断面は角形。地文は条痕が不整に縦走し、不鮮明ではあるが横走縄文も一部に認められる。内外面は指頭による調整のため凹凸が残る。口縁部にRL原体による縄を1条強く横位に圧痕している。胎土は細砂礫が多く混入しており、粒径の大きなものは器表面に浮き出ている。3～7は口縁部。3・6は口縁部に山形突起を有する。3～6はRL原体による縄を2条横位に圧痕している。3は地文が磨滅により不鮮明であるが、縦位の撚糸文あるいは条痕文と推測される。4・6は地文がLR原体による横走ぎみの斜走縄文。5は地文がRL原体による斜走縄文で、口唇直下は無文帯となっている。7は地文がLR原体による斜走縄文で、破片端に弧状と推測される縄線文が認められるが、全体の文様構成は不明である。

②オオバコのとうによる文様のもの（8）

8は口縁～胴部。口縁部には山形突起を有し、オオバコの「とう」の側面圧痕が2条横走する。地文は同じ「とう」を回転施文している。

③刺突により文様が施されるもの（9・10）

9・10は口縁部。9は波状口縁で、口縁部が外反する器形と考えられる。口唇直下は無文で、胴部との境に肥厚帯が横走する。肥厚帯上には先端の尖った施文具により、2条の刺突列が巡る。地文は1段Lの無節縄文。10は無文で横ナデの調整痕が残る。半截竹管状施文具による横向きの刺突列が2条巡る。口唇は棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。

④縄文地に沈線により文様が施されるもの（11）

11は口縁部。胴部上半がやや膨らむ器形。地文は細いRL原体による斜走縄文。沈線により蛇行線文が上下方向に描かれている。中空施文具による円形刺突文が垂下する。

大津式に相当するもの

①無文地に沈線により文様が施されるもの（12～64）

12は口縁～底部が復元された小型の深鉢。推定口径13.8cm、胴部の推定最大径14.3cm、底径7.0cm、高さ15.3cmを測る。口縁部がやや内傾する器形で、平底。口縁部は小波状を呈する。口唇断面は角形。器外面は磨かれており、底部付近はへら状工具による縦方向の調整痕が残る。口縁～胴部上半には半截竹管状施文具の腹縁を用いた2条1組の浅い沈線により、波状の連続する文様が施される。底下面にも同じ施文具による短沈線が1条見られる。胎土は細砂に富み、焼成は良好である。器面の色調は褐色～暗褐色で、黒斑が見られる。外面の一部に炭化物が付着する。13～18は破片資料。13～16は主に蛇行する沈線による文様。13は波状口縁の頂部が棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。17は波状の口縁部に平行する横走沈線から連なる弧状あるいは鋸歯状の沈線による文様。18は口唇直下と胴部に横走沈線による区画帯を有し、その内部を棒状施文具による押し引き状の刺突で充填している。無文部分には同一施文具を用いた短沈線により、花卉様の文様が描かれる。

19は深鉢の復元個体で、口縁部および底面の中央部を欠く。現存する胴部の最大径は28.3cm、底径は

13.7cmを測る。平底。口縁部全体の文様は不明であるが、胴部との境にへら状施文具による2条の横走沈線を巡らし、同じく2条1組の連続山形沈線を描いていたと推測される。この沈線による文様のある部分は著しく磨滅している。胴～底部は無文で、よく磨かれているが、一部剥落している。器面は褐色～黄褐色を呈し、黒斑が見られる。20～35は破片資料。主に2ないし3条1組の細い沈線により、弧状文・波状文・鋸歯状文・曲線文を描いている。口縁部が外反するものと、内傾するものがあるが、胴部が少し膨らむものが多い。沈線の側縁に粘土がめくれ上がっているものが見られる。26・31は壺形土器。31は先端の尖った錐状施文具を用いており、特に沈線の幅が狭い。28～30・33～35は胴部片。36は壺形土器の大型破片。口縁～胴部にかけて、へら状施文具による太い横走沈線を多段に巡らす。口縁部には2条1組の沈線を組み合わせた乙字文が連続すると推測される。

37～50は櫛歯状施文具により描かれた文様を、太い沈線で縁取るもの。内外面が丁寧に磨かれているものが多い。37は口縁～胴上部が復元された深鉢。全体の約2分の1が残存し、推定で口径18.6cm、胴部の最大径18.9cmを測る。胴部が張り出し、口縁部がわずかにくびれ直立する器形。口縁部の4か所に山形の波頂部があったと推測され（残存2か所）、口唇は棒状施文具の側面により斜めに刻まれる。口唇断面は丸い。口縁部の横走帯から垂下する菱形文・屈曲文などが並列して半截竹管状施文具により描かれている。器面の色調は褐色～暗褐色を呈し、内外面ともに丁寧に磨かれている。焼成は良好で、硬くしまっている。38～50は破片資料。38～44は口縁部で、口唇断面は丸みを帯びる。大柄な波状（38・39・48）、流水状（40～42・46）、曲線（43～45・47・49・50）の文様が描かれている。50は平底で、底径7.2cmを測る。

51～53は口縁の波頂部の内外面に細い貼付帯が弧状に施されるもの。51は櫛歯状施文具により文様を描き、太い沈線で縁取っている。口縁部には横走帯の下部に「カニのはさみ状」文が配されている。52は口縁部に横長の雷文が半截竹管状施文具により施される。53は貼付帯上に1段Rの原体が回転施文される。外面の貼付帯の下部は太い沈線により縁取られている。口縁部には浅い沈線により逆三角形文などが描かれ、棒状施文具の先端による円形刺突文が連続して施される。

54～64は直線の文様が描かれるもの。54～58は口縁部に横走沈線が2～4条巡る。54～57は波状口縁の頂部。54は波頂部口唇が棒状施文具の側縁により斜めに刻まれる。55・56は波頂部口唇に半截竹管状施文具による横向きの刺突列が施される。57は波頂部より粘土紐で「8」の字状の文様が垂下し、内面にも細い沈線が1条横走する。59～63は斜格子あるいは格子目状の文様が施される。59は折り返し口縁のもの。底部は無文の平底で、底径7.1cmを測る。へら状工具による縦方向の調整痕が残る。内面には炭化物が付着する。60・61は波状口縁のもの。61は口縁部に対向する方形文が細い沈線により描かれる。64は小型の深鉢の底部。底径4.9cmを測る。平底。底側面に2条の横走沈線が巡り、その上部には弧状文の1部が認められる。器外面はナデ調整されているが、器内面は指頭による凹凸が残る。

②縄文地に沈線により文様が施されるもの（65～86）

65～74は器面全体に横走ぎみの斜走縄文を施した後、半截竹管状施文具により沈線文を描くもの。65は壺形土器の口縁～胴部で、上下の横走または波状沈線を蛇行沈線で連結している。66～68・70は弧状、69・71は横走、72・73は波状または「S」の字状の文様が描かれる。68は口唇に縦位の縄側面圧痕が連続して施される。74～76は地の縄文が浅く疎らで、無文の部分が多いもの。沈線は比較的細い。74は口縁部に横走沈線から垂下する蛇行または「S」の字状沈線、胴部に2条1組の沈線により連続山形文が描かれる。75・76は胴部で、いずれも器面の磨滅が著しいが、曲線文の一部が見られる。

77は口縁～底部が復元された深鉢。口径24.5cm、底径12.3cm、高さ40.0cmを測る。胴上部が張り出し、口縁部がやや外反する器形で、平底。口縁部の4か所に山形突起を有する。口唇にはRL縄文が回転施文され、さらに同一原体の縄を斜位に連続して圧痕している。器面には横走ぎみのRL斜走縄文が

疎らに施されるが、ナデにより不鮮明である。胴中部から底部はほとんどが無文で、へら状施文具による縦方向の調整痕が残る。器内面は横ナデ調整されているが、底部付近は指頭の痕跡が見られる。口縁部と胴部にはそれぞれ2条の横走沈線で区画された文様帯がある。口縁部には上下の横走沈線を蛇行線で結んだ、横長の「工」の字状文が連続する。胴上部には3条1組の沈線により上下に対向する弧線文が連続する。沈線はへら状施文具により浅く描かれ、断面は方形である。器面の色調は褐色を呈し、特に内面下半は黒斑が著しい。口縁部の内外面には部分的に炭化物が付着する。胎土は砂礫を多く含み、焼成は硬くしまっている。77は出土地点および層位から、竪穴住居跡H-12に伴っていた可能性がある。

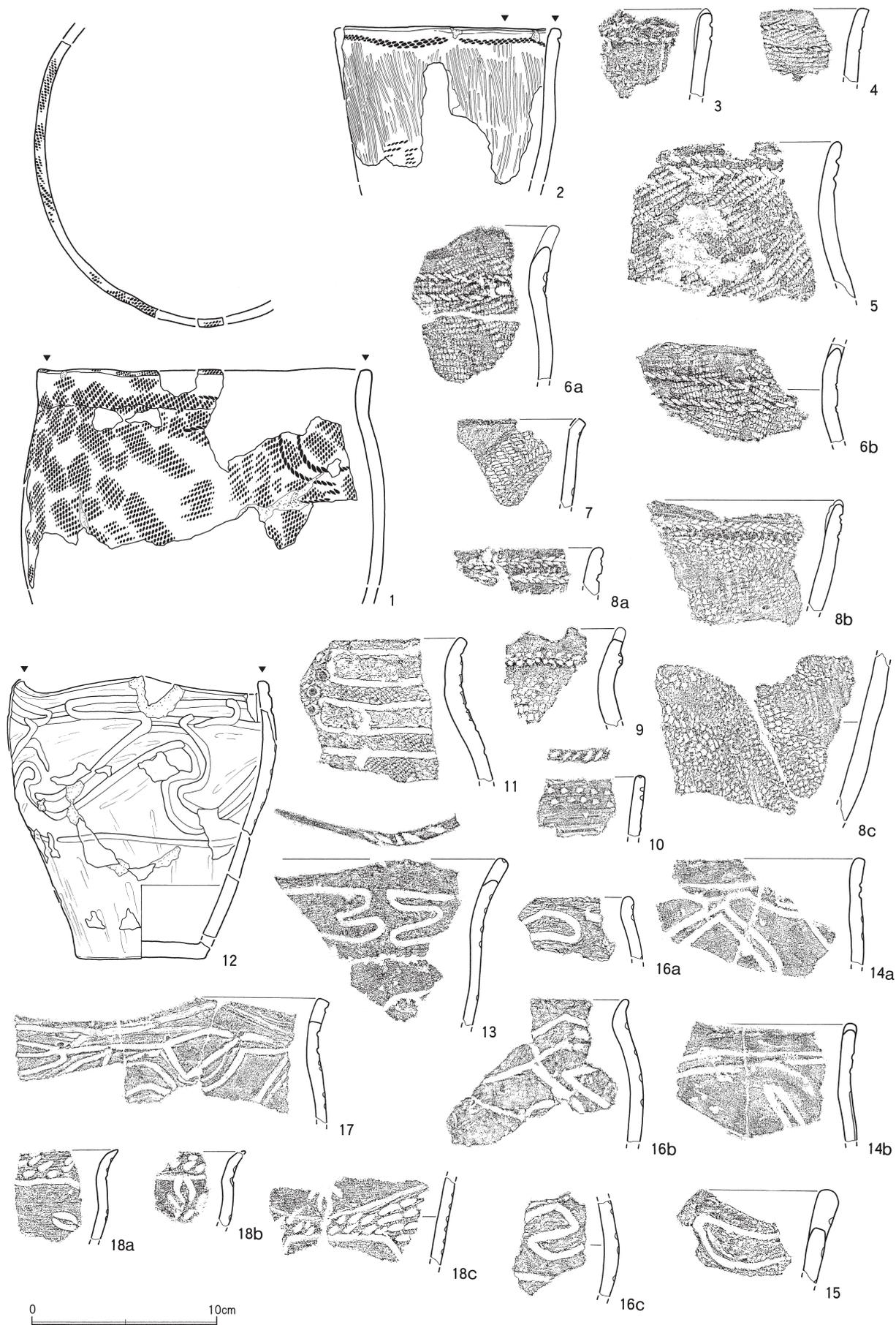
78~86は磨消縄文の技法が用いられているもの。器面に斜走縄文を施した後、沈線により鋸歯状(78)、横走(79~81)、曲線(82・84・86)、波状(83)、弧状(81・85)の文様を描き、沈線以外の部分の縄文を磨り消している。78は磨消部分には横方向の擦痕が残る。79は山形波頂部の口唇が棒状施文具の側縁により斜めに刻まれる。82は波頂部の口唇が指頭により圧痕される。83は胴~底部が無文で、平底。底径5.6cmを測る。へら状工具による縦方向の調整痕が残る。内面に炭化物が付着する。86は磨り消しが不十分で、地の縄文が部分的に残されている。

縄文のみのも (87~98)

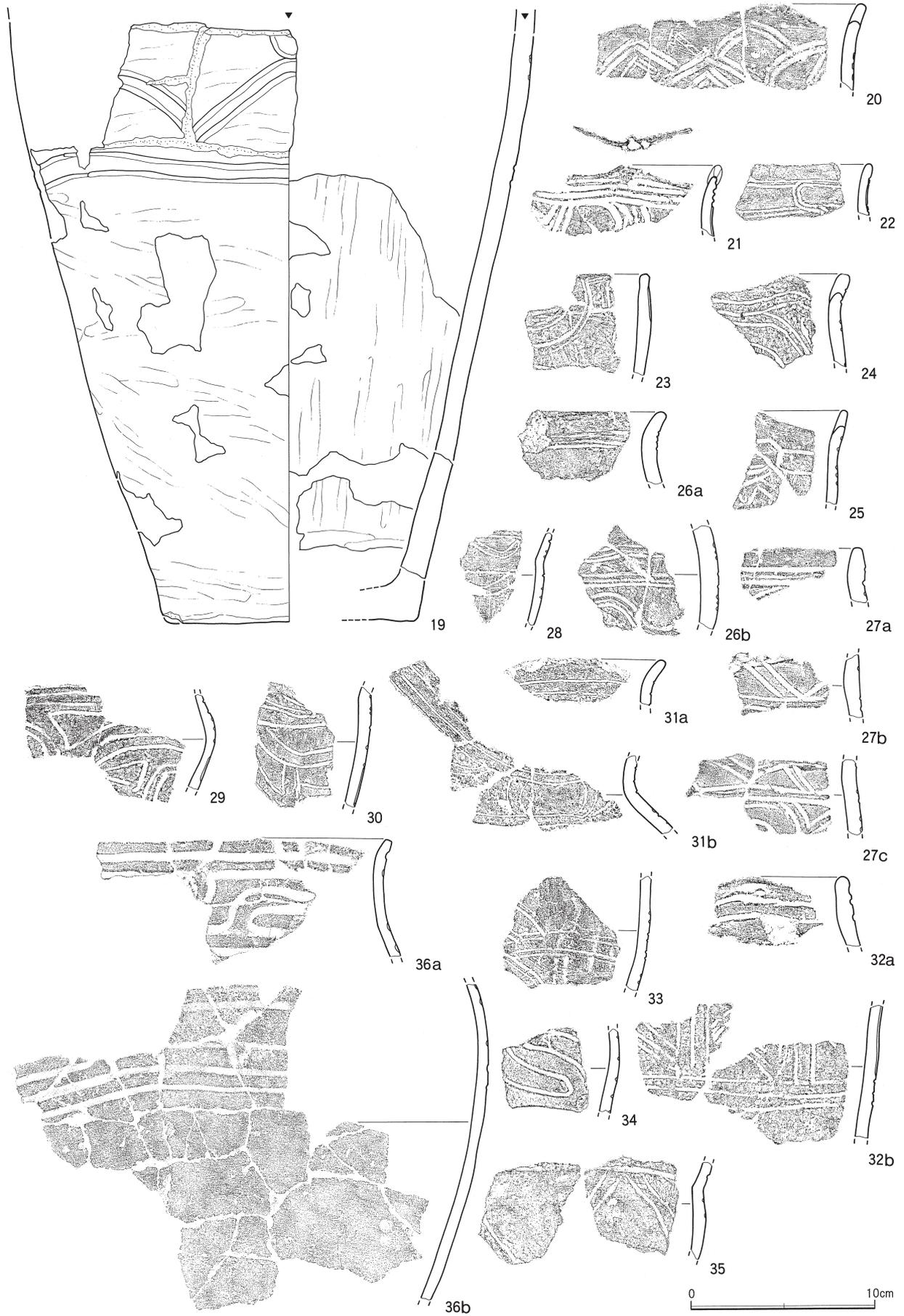
87は口縁~胴部が復元された小型の深鉢。推定口径10.2cmを測る。胴部が張り出し、口縁部が外反する器形。口縁の4か所に山形の突起部があり、頂部が指頭により圧痕される。口唇外縁が肥厚し、波状になっている。器外面にはLR原体による横走縄文を施した後なで調整している。器面の色調は暗褐色~黒褐色を呈する。胎土は細砂礫を多く含み、大きなものが器外面に浮き出ている。焼成は良好で、硬くしまっている。88~98は口縁~底部の破片資料。器形のわかるものでは、口縁部が外反し、胴上部が膨らむもの(88)、口縁部が内傾し、胴中部が膨らむもの(90)、直線的に立ち上がるもの(98)がある。口縁の形態は、平縁(90~93・97~100)、波状(92)、突起部のあるもの(93・94)がある。96・97は折り返し口縁のもので、その部分はなでられて無文になっている。98は口唇直下が肥厚する。器面には横走あるいは斜走縄文が施されている。原体は大部分が単節LRであるが、無節L(94・95)も見られる。90は口縁部のみ原体の回転方向を変えており、羽状となっている。91は口唇上にも施文がある。98は器面に縄文が施文された後、なで調整により地文が不鮮明になっている。また、胴~底部はへら状施文具により縦方向に削られ、無文である。底部は平底と考えられる。

無文のもの (99~113)

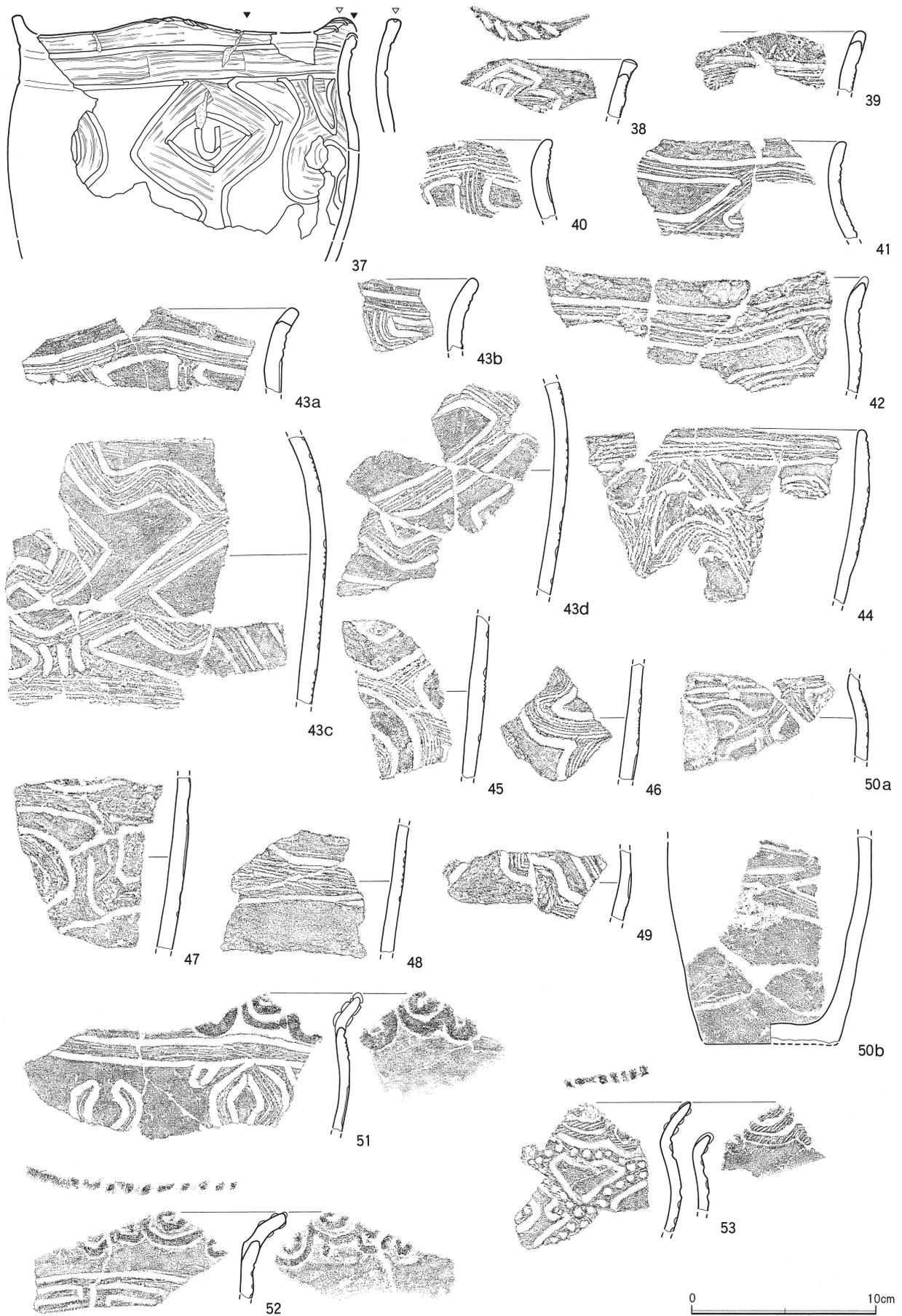
99は口縁~底部が復元された小型の壺。口径8.4cm、底径8.0cm、胴部の最大径11.0cm、高さ13.7cmを測る。口縁部が外反し、胴部があまり張り出さない器形。口径と底径がほぼ等しい。口縁部が緩い小波状を呈する。口唇断面は丸い。色調は褐色~暗褐色を呈する。器面には凹凸が見られ、へら状施文具による横向きの調整痕が残る。焼成は緩く、特に頸部外面の剥落が著しい。100は壺の口縁部。全体の約1/3が残存しており、推定口径14.0cmを測る。口唇が外傾し、外面が肥厚する。口唇面には半截竹管状施文具の先端による刺突列が施される。口縁外面には2段の肥厚帯が巡り、これらを縦位に連結する把手が取り付けられる。把手は残存部分から5ないし6か所あったと推測される。内外面には指頭や爪による調整痕が残る。色調は褐色を呈し、主に把手部分に黒斑が見られる。胎土には細砂礫を多く含み、粒径の大きなものは器面に浮き出す。101~113は無文の底部。これらは口縁~胴部の文様帯を欠くが、大津式に伴うものであろう。平底で、底縁が角形となるものが多い。103のみ底面を欠く。101・102は底部のみが復元された小型の深鉢。101は底径4.2cmを測り、底縁が外側へ張り出す。色調は褐色~暗褐色を呈し、器外面の一部が剥落する。102は底径5.1cmを測り、底面がやや厚みのある凸



図V-1-9 包含層出土のIV群a類土器 (1)



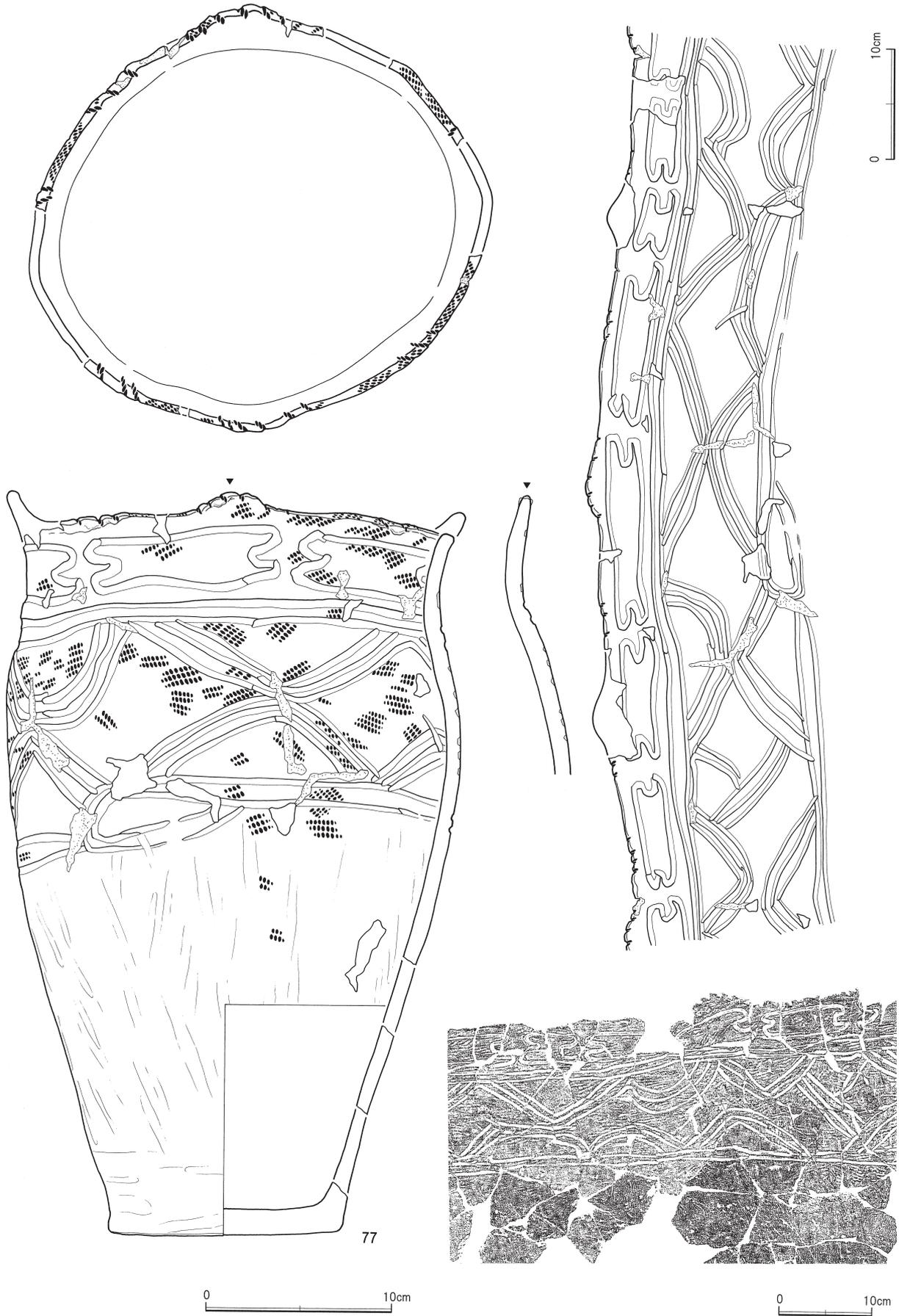
図V-1-10 包含層出土のIV群a類土器 (2)



図V-1-11 包含層出土のIV群a類土器 (3)



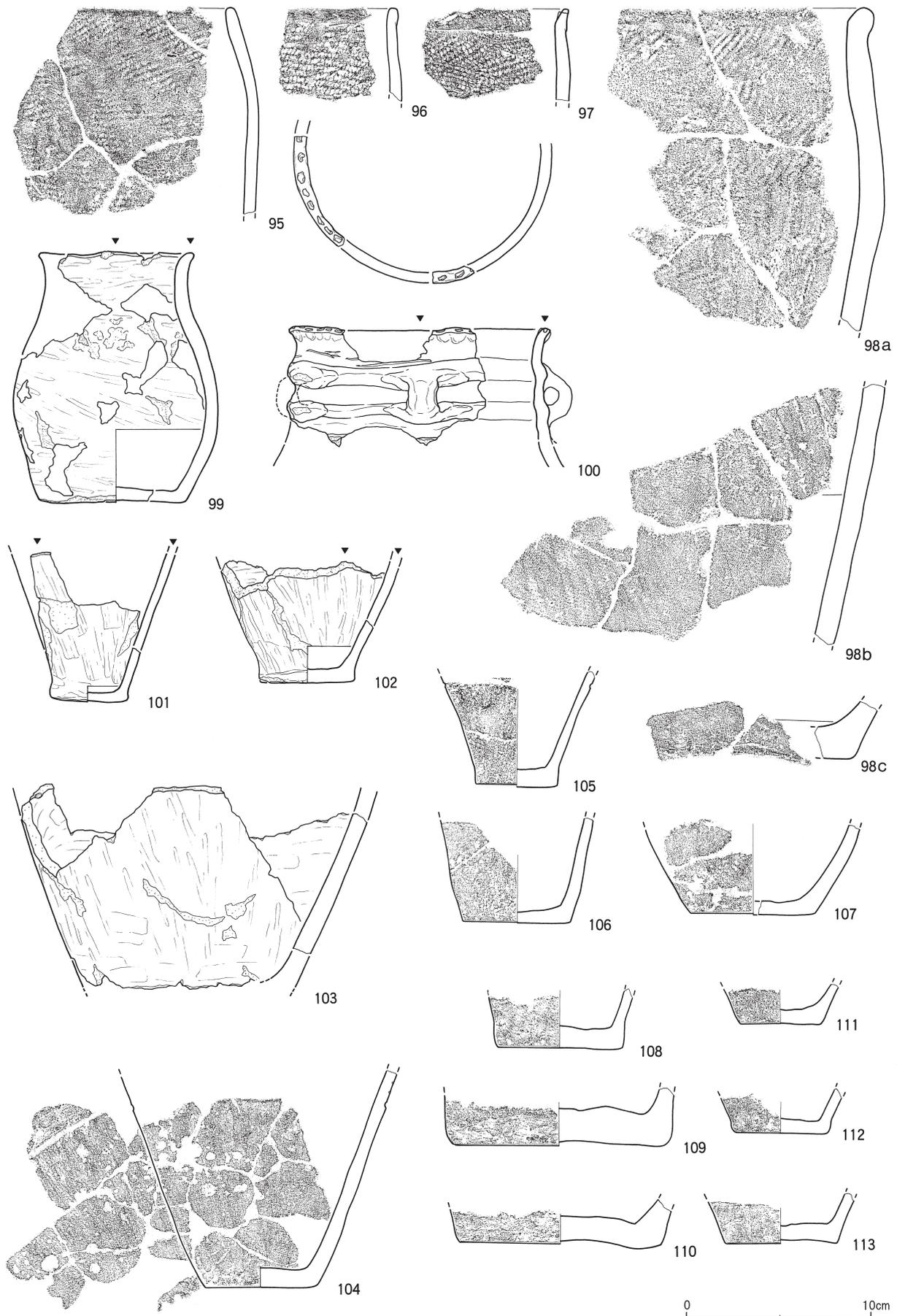
図V-1-12 包含層出土のIV群a類土器 (4)



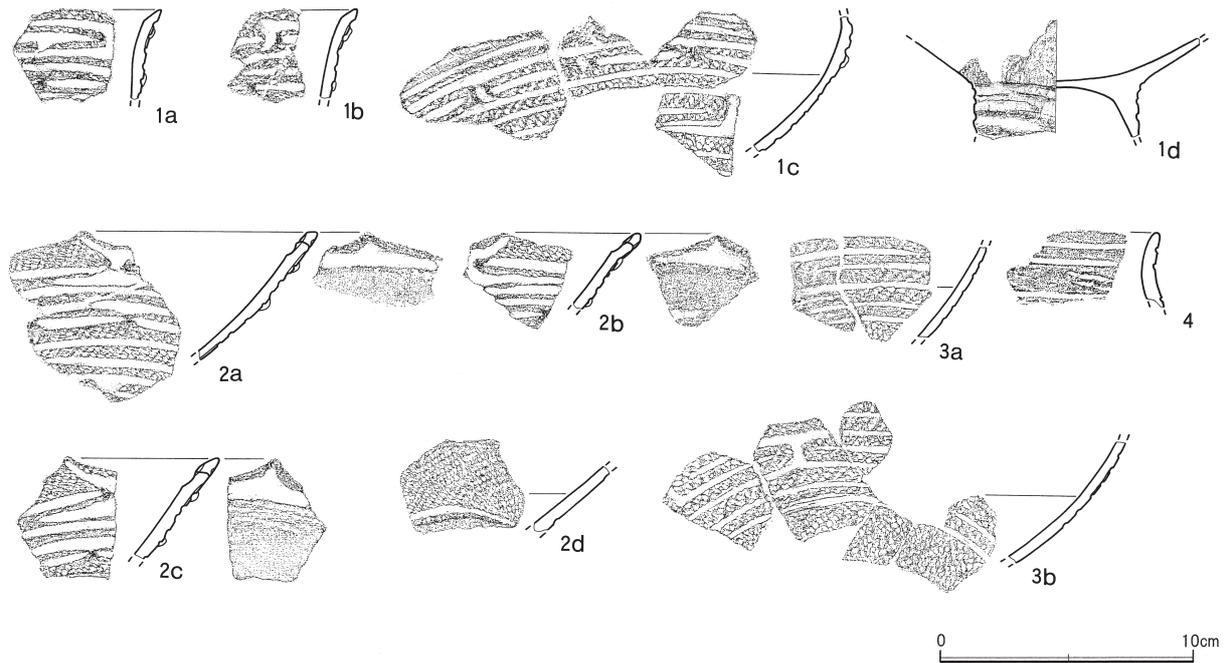
図V-1-13 包含層出土のⅣ群a類土器 (5)



図V-1-14 包含層出土のIV群a類土器 (6)



図V-1-15 包含層出土のIV群a類土器 (7)



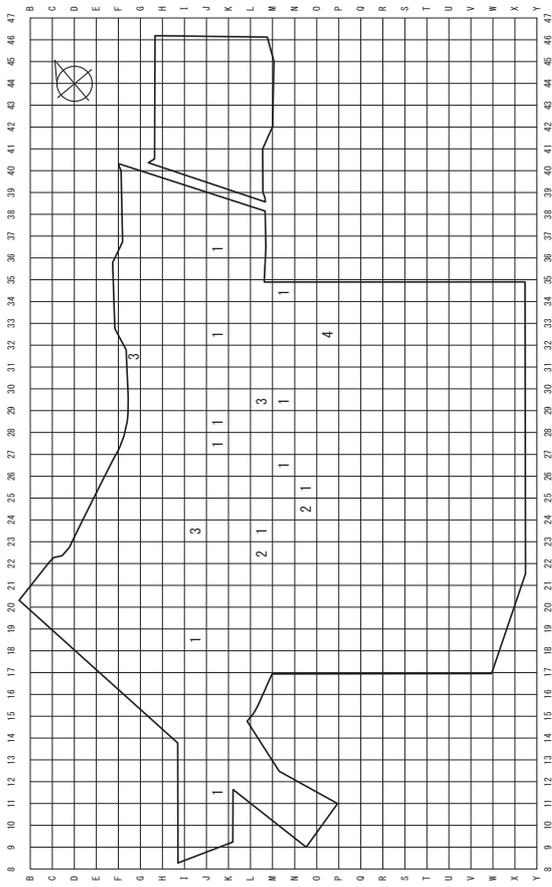
図V-1-16 包含層出土のV群c類土器

底風になっている。色調は外面が褐色、内面が黒褐色を呈する。胎土は砂が多く混入しており、焼成はよい。102～104はヘラ状施文具による縦方向の調整痕が観察できる。103は底部付近の胴下部が復元された深鉢。色調は褐色～黄褐色を呈し、内外面ともに黒斑が見られる。内面の一部に炭化物が付着する。胎土は砂礫に富み、粒径の大きなものが器面に浮き出す。104は器面がよく磨かれており、一部に横走沈線が認められるが、全体の文様構成が不明なので、ここに含めた。110は底下面がわずかに凹み、上げ底状になっている。

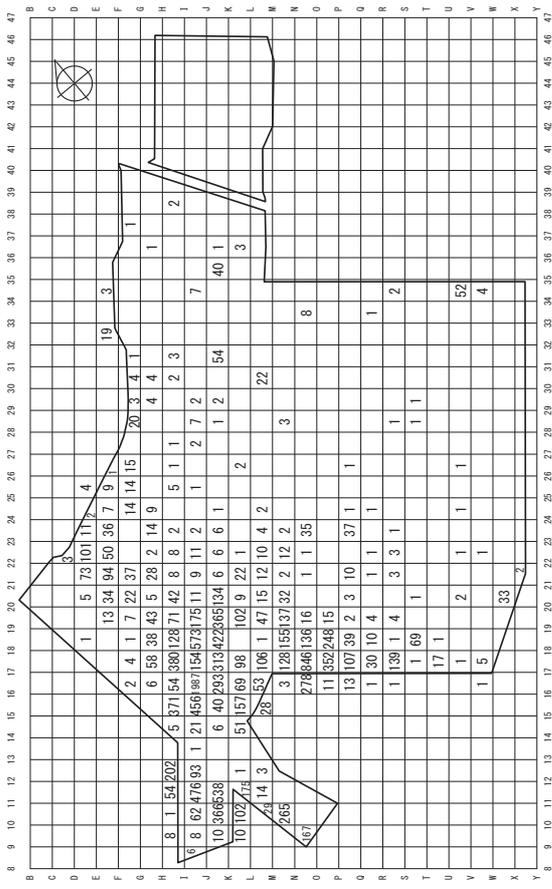
(9) V群c類 (図V-1-16-1～4 / 表7-8 / 図版55)

縄文時代晩期後葉のもので、大洞A式に相当する。知内町湯の里6遺跡Vc類(北埋調報18)、木古内町新道4遺跡D地区第4類(北埋調報52)に類例がある。1～3はLR斜走縄文を地文とし、沈線により文様が描かれるもの。1は台付鉢の口縁～底部。口縁～胴部には横走沈線を多段に巡らし、沈線内に2個1対の瘤状突起を貼り付けている。胴部には工字文の一部と考えられる「L」の字状の沈線が認められる。高台部には数条の横走沈線が巡る。内面はナデ調整により滑らかになっている。色調は内外面ともに褐色～黄褐色を呈する。2は浅鉢の口縁～底部。口縁部には山形突起を有し、その頂部は指頭により圧痕されている。山形突起の下は「工」の字状の沈線と2個1対の瘤状突起の組み合わせられた文様が配される。口唇直下の内面には太く浅い沈線が口唇に沿って巡る。底部付近にも細かい沈線が1条横走する。色調は内外面ともに黄褐色を呈する。3は浅鉢の胴部。器厚が2mmほどで、薄手であるが、焼成はよい。横走沈線を数条巡らし、これらを交互に縦位の短沈線で結ぶことにより、工字文風の文様を描いている。色調は内外面ともに黄褐色を呈する。4は壺形土器の口縁部。無文地に細い横走沈線が数条巡る。焼成がよく、色調は外面が黒褐色、内面が褐色である。(芝田)

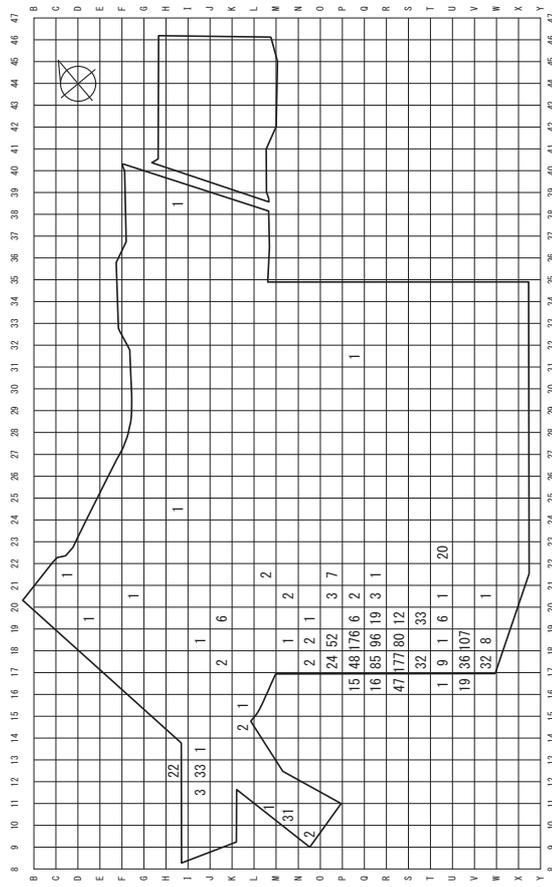
Ⅲa 28点



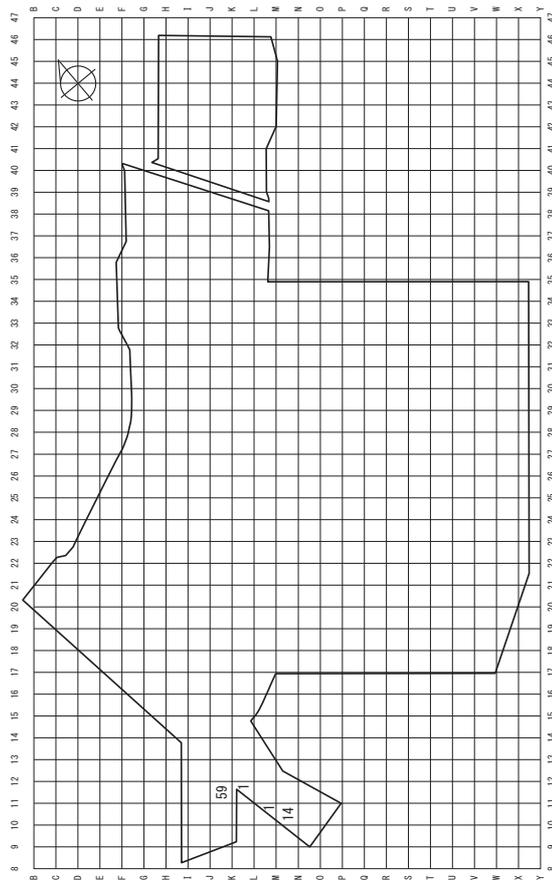
Ⅳa 13,457点



Ⅲb-3 1,297点



Ⅴc 75点



図Ⅴ-1-19 包含層出土器の分布 (3)

2 石器等

蛇内 2 遺跡の包含層からは、剥片石器2,115点、剥片34,001点、礫石器534点、礫・礫片49,294点、土・石製品15点、合計85,959点が出土している。そのうちⅡ層から81,503点、Ⅲ層から3,433点、表土や攪乱などから1,023点が出土している。この中から定型的で完形のものを中心に抽出し掲載した。利用する石材は、剥片石器は頁岩が約98%を占め、黒曜石やメノウなどを使用したものは非常に少ない。礫石器では器種ごとに利用する石材の傾向が見られた。石斧は泥岩・片岩、すり石は砂岩・安山岩、たたき石は砂岩・凝灰岩・頁岩、砥石は砂岩、扁平打製石器は安山岩が主体となる。全体的な傾向としては、砂岩(39%)・凝灰岩(20%)・安山岩(18%)・頁岩(9%)・泥岩(9%)・その他(5%)が利用されている。

礫・礫片を除いた石器類の出土分布は、調査範囲の西～南側にかけて多く出土している。これは遺構の検出分布と一致している。特に土坑が多数検出された調査範囲の南端部からは、非常に多くの遺物が出土している。

分類別では、石鏃(4.5%)、石槍・ナイフ(5.4%)、つまみ付きナイフ(11.2%)、スクレイパー(17.7%)、たたき石(9.3%)が多く出土している(()内は石器類の中の占有率)。特徴的なのは、つまみ付きナイフが多く出土していることである。反面、石皿や台石といった大型の礫石器の出土は少ない。

石鏃(図V-2-1-1~12/表8/図版61)

石鏃は121点出土している。五角形のもの1%、三角形のもの55%(平基29%、凹基26%)、有茎のもの33%(平基22%、その他11%)、破片11%である。分布は形状によって違いが見られる。三角形のものは調査範囲の南端部に集中している。平基と凹基では分布に大きな違いは見られない。縄文前期前半の土器(Ⅱ群a類)と分布が重なることから、この時期のものと推定される。有茎のものは調査範囲の西側に分布している。使用される石材は頁岩が87%を占め、黒曜石(10%)やメノウなどが見られる。

1は五角形のもの。非常に薄く作られている。2~5は三角形のもの。2・3は平基、4・5は凹基。6~12は有茎のもの。基部が6は尖基、7は円基、8~12は平基である。9は茎部にアスファルトが付着する。

石錐(図V-2-1-13~17/表8/図版61)

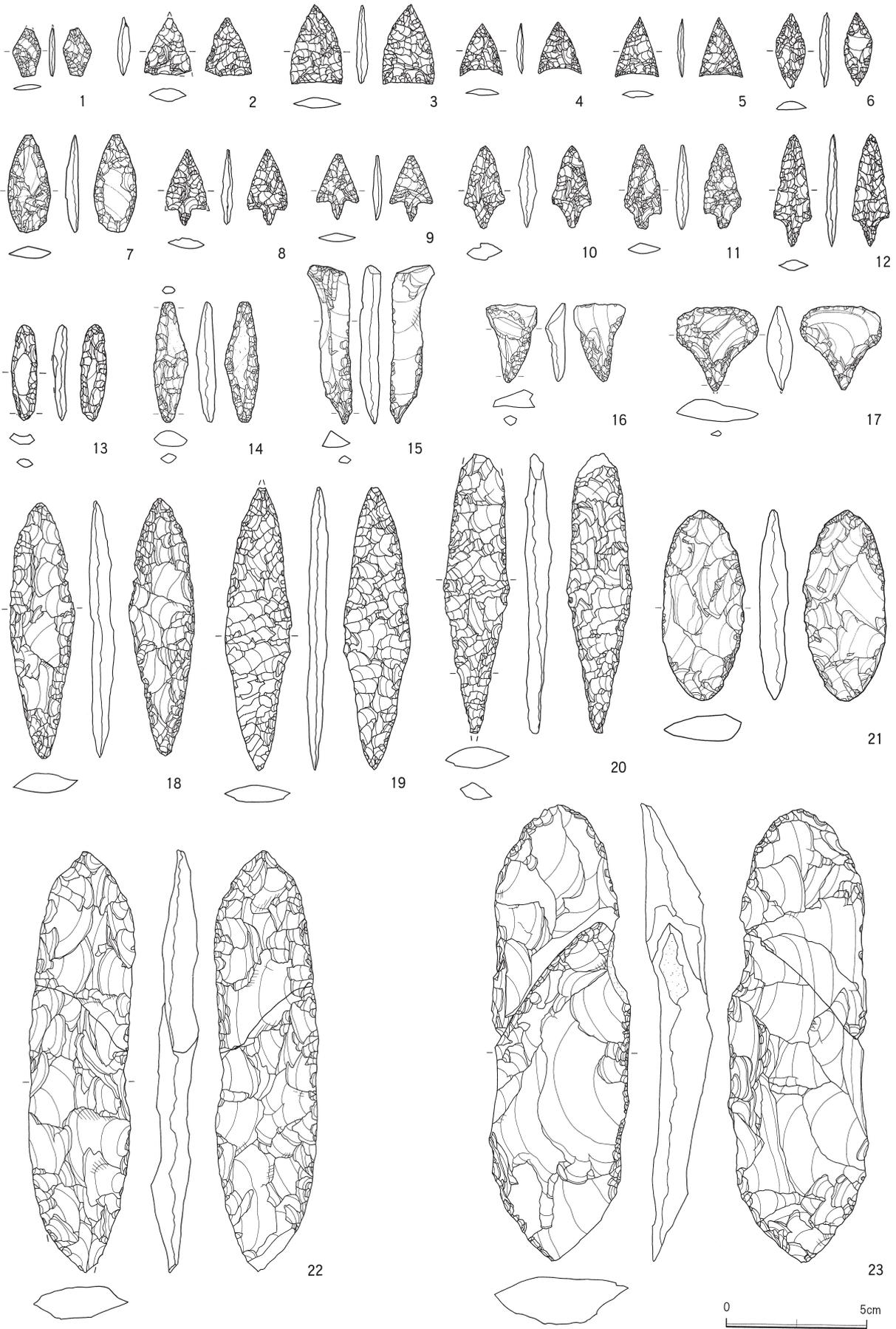
石錐は47点出土している。棒状のもの、剥片の一部に機能部を作出したものが出土している。分布は形状によって違いが見られる。棒状のものは調査範囲の南端部に集中している。縄文前期前半の土器(Ⅱ群a類)と分布が重なることから、この時期に使用したと推定される。使用される石材はすべて頁岩である。

13~15は棒状のもの。13・14は両面加工によって棒状に整形し、両端部に機能部を作出している。先端部はいずれも磨耗し丸みを帯びている。15~17は剥片の一部に機能部を作出したものの。15は棒状剥片の下端部に機能部を作出したものの。

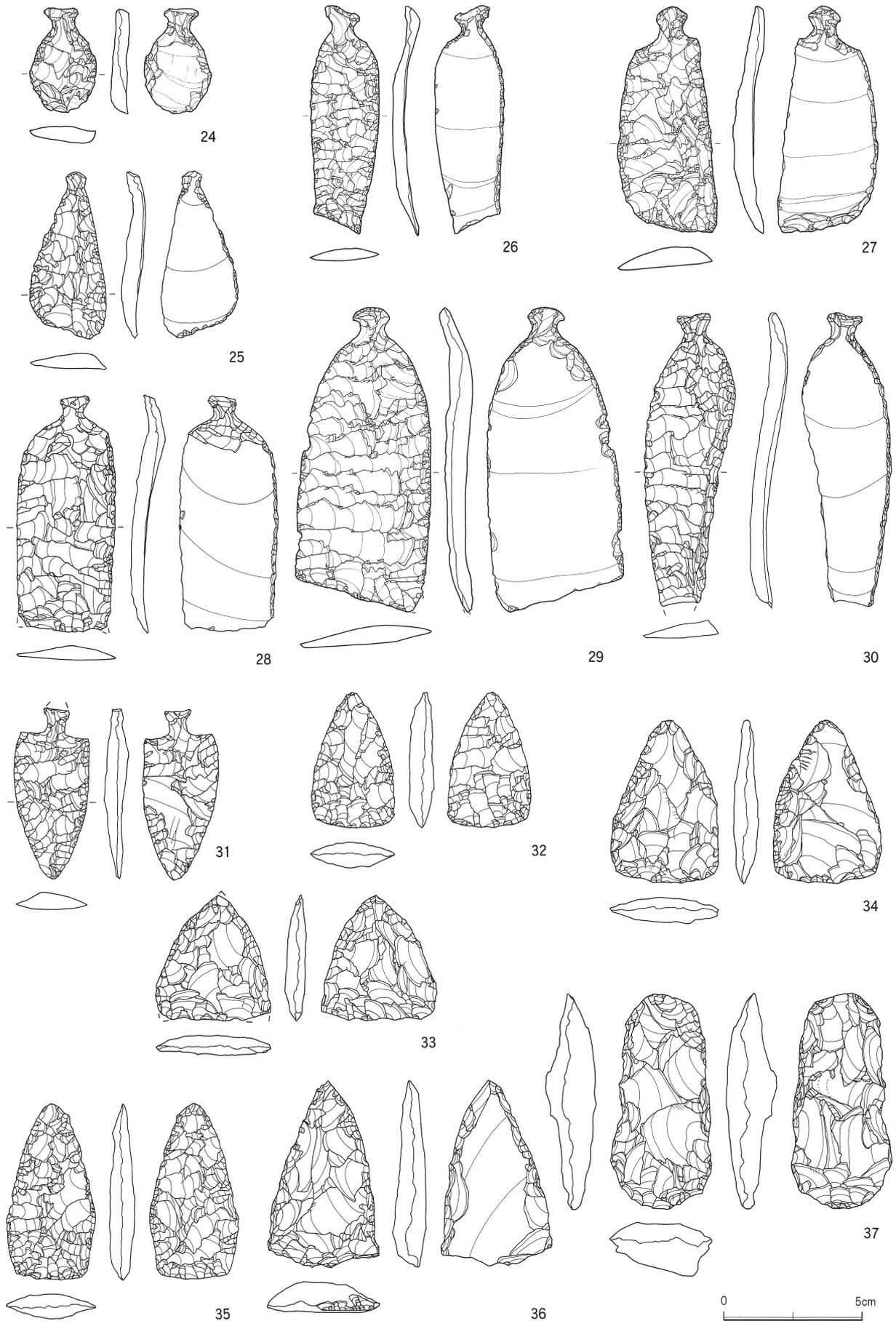
石槍・ナイフ(図V-2-1-18~23/表8/図版61)

石槍・ナイフは131点出土している。破片で確認されるものがほとんどである。分布は調査範囲の南端部に多く見られる。縄文前期前半の土器(Ⅱ群a類)と分布が重なることから、この時期のものと推定される。使用される石材はすべて頁岩である。

18~23は茎部と身部との境が不明瞭なもの。18~20は細身の柳葉形をしており、最大幅が中位にあるもの。細部の調整は丁寧である。20の基部は錯行剥離で調整している。21~23は幅広の木葉形をし



図V-2-1 包含層出土の石器 (1)



図V-2-2 包含層出土の石器 (2)

ており、最大幅が中位にあるもの。22・23は長さ15cmを超える大型品である。厚手で加工が粗い。23は基部側の破損面に再加工を施しており、破損後に再利用したと見られる。

つまみ付きナイフ (図V-2-2-24~31/表8/図版61)

つまみ付きナイフは295点出土している。縦型のもの、横型のものがある。縦型のものが圧倒的に多く、横型のものは1点のみである。縦型のものは、二次加工が片面全体に施され、背面右側縁に表面加工のための打面があるものが大半を占める。このタイプは縄文時代早期後半の特徴を示す。下端部は直線状の刃部が設けられるものが多い。分布は調査範囲の西~南部に多く見られる。縄文時代早期後半の竪穴住居跡を検出した範囲と重なる。使用される石材は頁岩が99%、黒曜石が1%である。

24~30は二次加工が片面全体に施され、背面右側縁に表面加工のための打面があるもの。24は下端部が円弧状になるもの。25・27は片側側縁が円弧状になるもの。26・28・29は下端部に直線的な刃部を設けるもの。31は両面加工で刃部が下端で収束するもの。

籠状石器 (図V-2-2-32~37・図V-2-3-38・39/表8/図版61・62)

籠状石器は43点出土している。形態的には撥形もの、長方形のもの、縦型の手まり付きナイフに類似した形状のものがある。分布は調査範囲の西~南部に多く見られる。形状によって分布に傾向が見られ、撥形ものは調査範囲の南端部に集中する。縄文前期前半の土器(Ⅱ群a類)と分布が重なることから、この時期のものと推定される。使用される石材は頁岩が99%、粘板岩が1%である。

32~39は籠状石器と称されるもの。32~36・38は撥形のもの。両面に二次加工を施している。32・35は両面共に丁寧な二次加工を施している。36は背面の周縁部に二次加工を施している。37は長方形のもの。縦長剥片を利用して両面加工により整形している。39は二次加工が片面全体に施され背面右側縁に表面加工のための打面があるつまみ付きナイフと類似のもの。つまみ部分が作出されていないので、籠状石器とした。

スクレイパー (図V-2-3-40~45/表8/図版62)

スクレイパーは472点出土している。素材となる剥片の側縁や一部分に急角度の刃部を設けるものが多く見られる。分布は調査範囲の南側に特に多く見られる。使用される石材は頁岩が99%、黒曜石などが1%である。

40は剥片の周縁を加工して円形の刃部を作出したもの、41は剥片の周縁を加工して刃部を作出したもの、42~45は剥片の側縁に直線や外湾する刃部を作出したもの。43は表面両側縁に刃部を作出した後、裏面右側縁を加工している。

両面調整石器 (図V-2-3-46/表8/図版62)

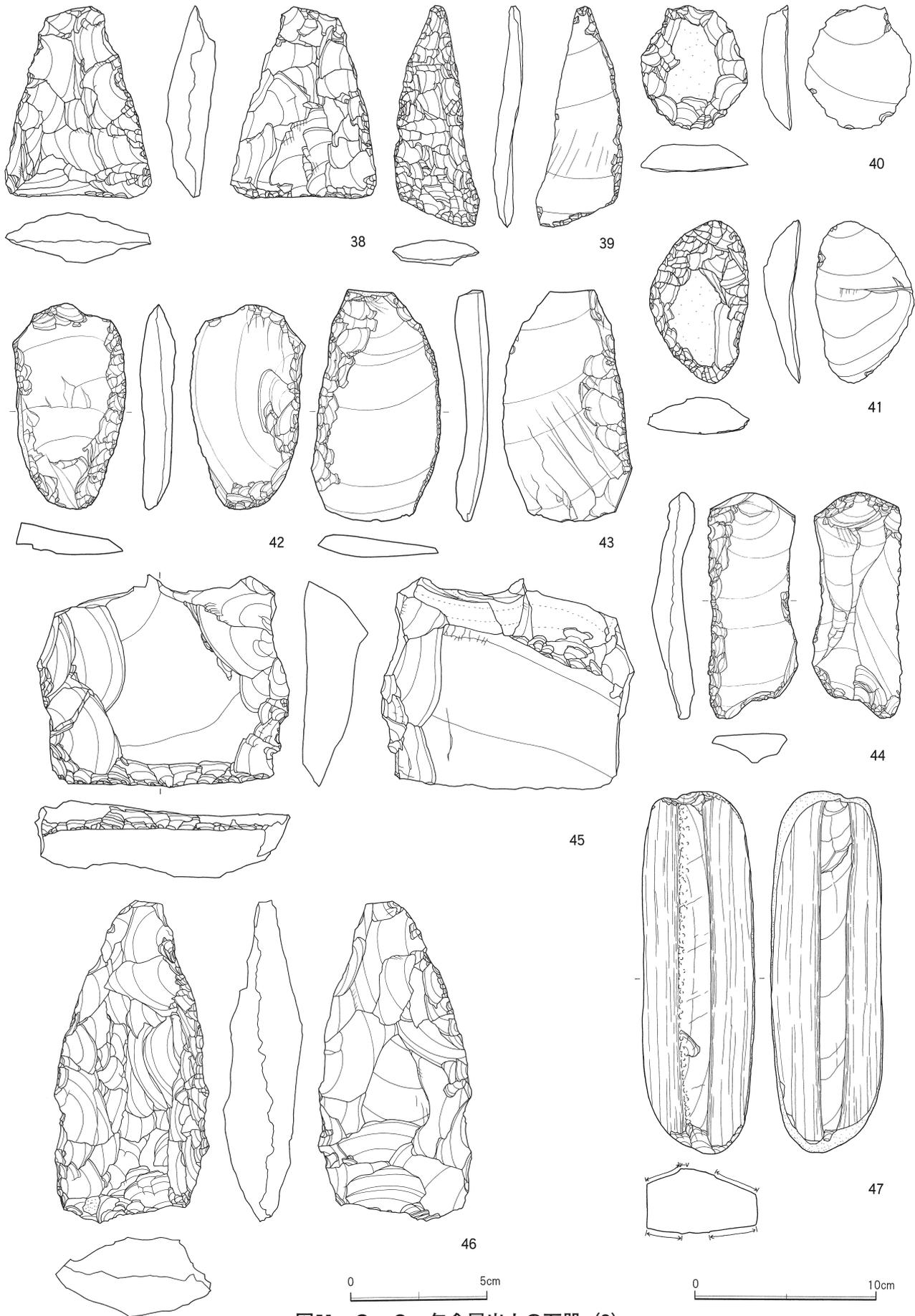
両面調整石器は45点出土している。石槍やナイフなどの未成品も含まれる。使用される石材はすべて頁岩である

46は石槍の未成品の可能性があり、両面を粗く打ち欠き調整している。

石斧・石のみ・擦り切り残片 (図V-2-3-47・図V-2-4-48/表8/図版62)

石斧は50点出土している。すべて破片である。使用される石材は泥岩(58%)・片岩(32%)が主体である。石のみは2点出土している。使用される石材は泥岩と凝灰岩である。擦り切り残片は1点出土している。泥岩である。分布は調査範囲の西~南部に多く見られる。

47は擦り切り残片。扁平な楕円礫から擦り切りによって、厚さ2~3cmの扁平な礫を切り取ったもの。擦り切りは表裏両面から行われ、最終的に厚みが15mmほどになった段階で折り取られている。石斧の原材として切り出されたと考えられる。48は短冊形の石のみ。扁平な棒状礫に刃部を作出し、側縁を研磨によって整形している。両刃で曲刃。



図V-2-3 包含層出土の石器 (3)

たたき石 (図V-2-4-49/表8/図版62)

たたき石は240点出土している。扁平な楕円礫や棒状礫の端部や側縁に敲打痕のあるものが多い。使用される石材は砂岩(36%)・凝灰岩(29%)・頁岩(17%)・安山岩(11%)・その他(7%)である。分布は調査範囲全体に広がるが、特に西～南部に多く見られる。

49は棒状角礫の腹背面と側縁に凹み状の敲打痕がある。

台石

台石は15点出土している。平坦面に使用痕が見られるものであるが、すべて破片である。安山岩・凝灰岩が使用されている。図示しなかった。

すり石 (図V-2-4-50~53・図V-2-5-54/表8/図版62・63)

すり石は71点出土している。断面三角形の礫の稜を擦ったもの、北海道式石冠、扁平礫の側縁を擦ったもの、扁平礫の側縁を擦って長軸両端に抉りのあるもの、棒状礫の端部を擦ったものがある。断面三角形の礫の稜を擦ったものが83%を占める。分布は断面三角形のものは調査範囲の南端部に集中し、扁平礫のものは西側に分布する。断面三角形のものは、縄文前期前半の土器(Ⅱ群a類)と分布が重なることから、この時期と推定される。使用される石材は砂岩(50%)・安山岩(43%)である。

50~53は断面三角形の礫の稜を擦ったもの。礫の端部や腹背部に敲打痕が見られることから、たたき石としての利用も考えられる。50・52は2か所の稜を擦っている。左端部には敲打痕も見られる。51~53は長軸端部に敲打による調整が見られる。腹背面に敲打痕が見られ、たたき石としても使用された可能性がある。53は両端部と稜を敲打によって整形し、稜を擦っている。54は北海道式石冠。中央部に擦り面に平行する溝状の把握部があるもの。全体を敲打によって整形している。

扁平打製石器 (図V-2-5-55・56/表8/図版63)

扁平打製石器は21点出土している。完形品は4点のみで残りは破損品である。扁平礫を打ち欠いて半円状に整形し弦を擦っている。使用される石材は安山岩(76%)が多い。調査範囲の西から北側に見られる。

55は半円状扁平打製石器。扁平礫を半円状に打ち欠き弦を擦っている。被熱している。56は破損品。板状礫を半円状に打ち欠き、弦を擦っている。

石鋸 (図V-2-5-57/表8/図版63)

石鋸は5点出土している。使用される石材は安山岩・粘板岩である。

57は板状礫に直線状の薄い刃部を作出したもの。腹背面を研磨によって整形し、直線的な刃部を作出している。刃には刃に対して40°~50°の角度をつけた刻みを入れている。

石皿 (図V-2-5-58/表8/図版63)

石皿は4点出土している。掲載した1点を除き破片である。使用される石材は安山岩や砂岩である。

58は敲打によって外形を方形に整形し、内側に深さ約2cmの方形の窪みを作出して平坦な底面を作出している。底面には擦り痕は確認できない。裏面には原石面が残る。

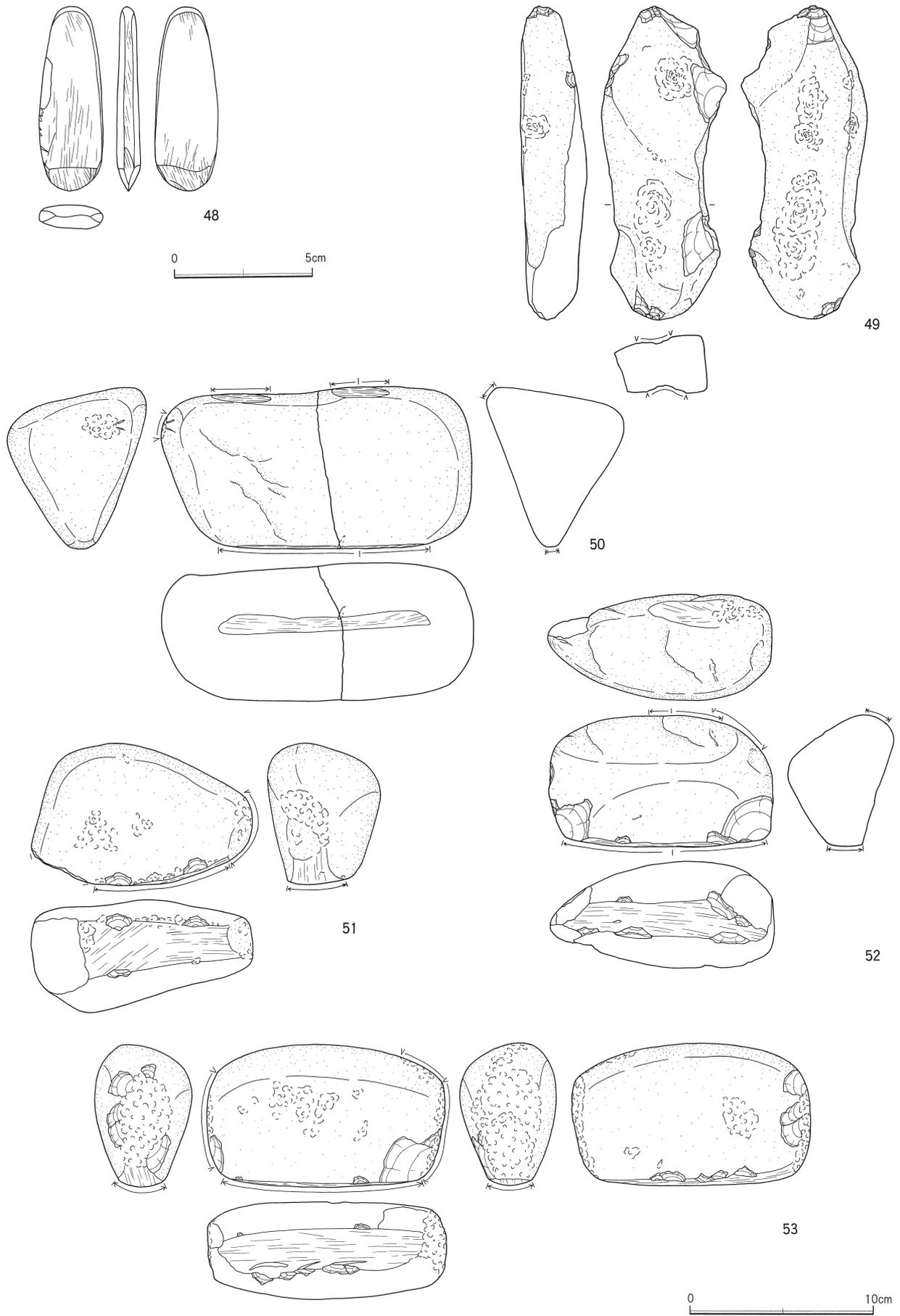
砥石 (図V-2-6-59/表8/図版63)

砥石は75点出土している。完形品は無く、すべて破損品である。矢柄研磨器が1点出土している。

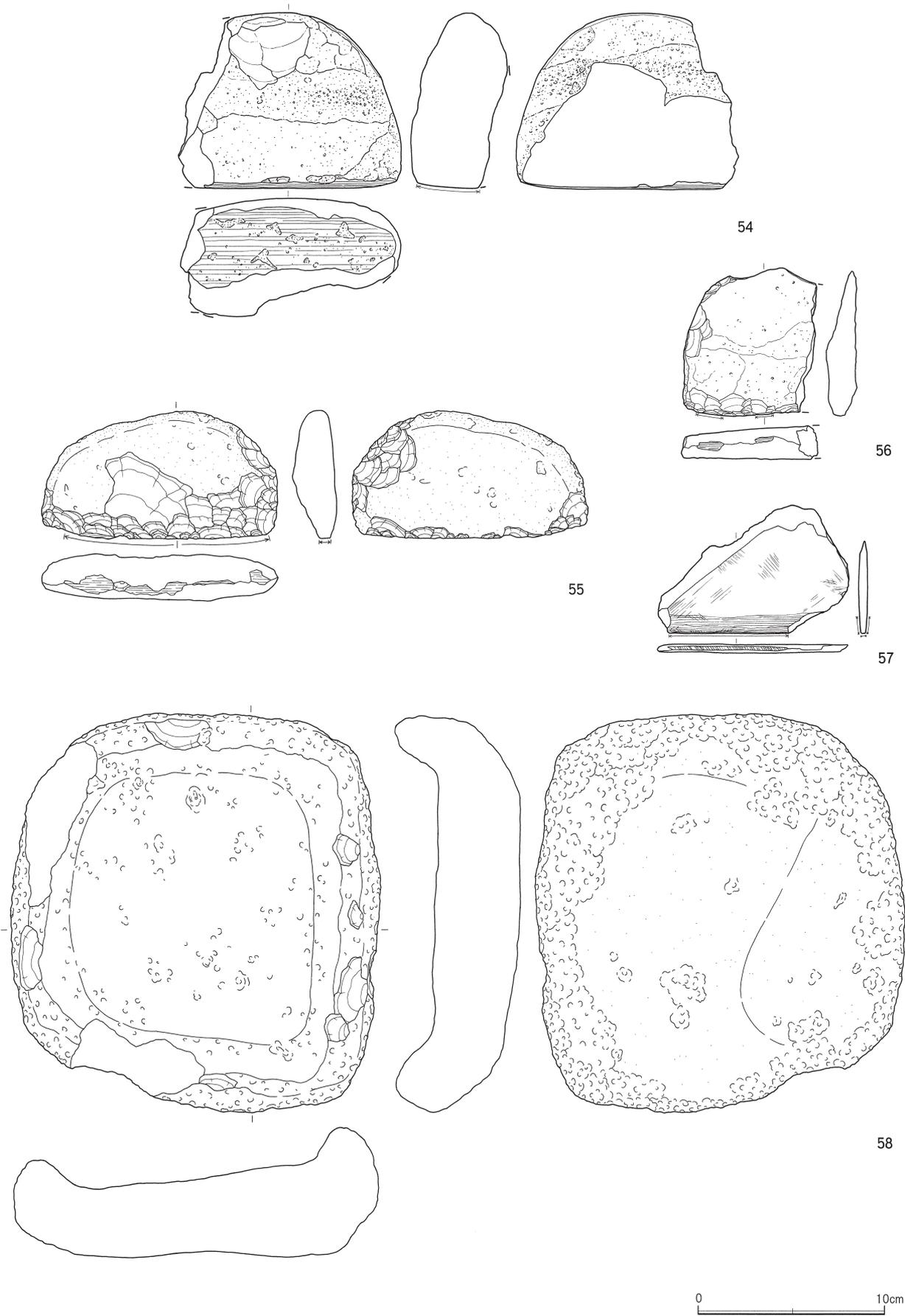
59は厚さ約2cmの板状に整形した礫の平坦面に、擦痕と敲打痕が見られる。

石錘 (図V-2-6-60~62/表8/図版63)

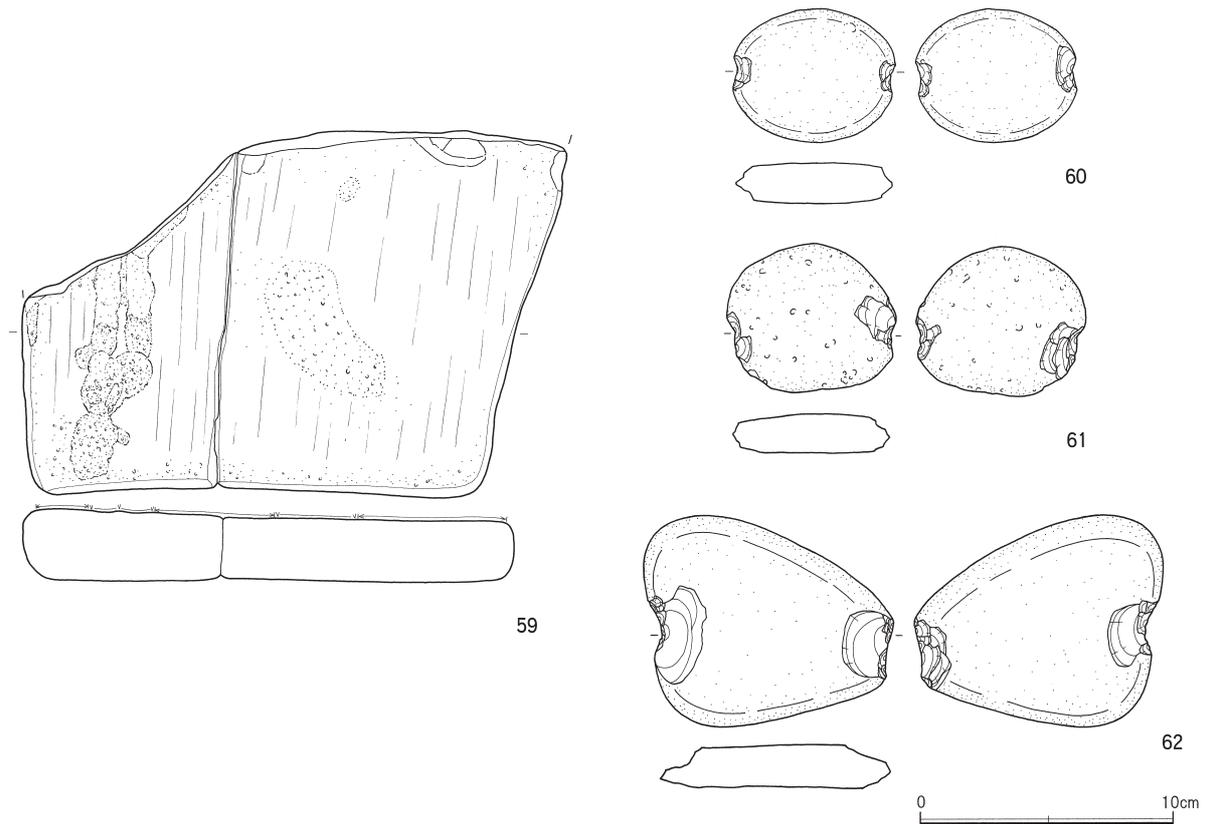
石錘は23点出土している。扁平礫の長軸の両端部に打ち欠きのあるもの、短軸の両端部に打ち欠きのあるものがある。短軸に打ち欠きのあるものは2点のみである。打ち欠きは2か所のものが多くを占め、打ち欠きが3か所あるものが1点ある。破片は7点である。使用される石材は砂岩(43%)・



図V-2-4 包含層出土の石器 (4)



図V-2-5 包含層出土の石器 (5)



図V-2-6 包含層出土の石器 (6)

安山岩 (35%)・凝灰岩 (17%)・泥岩 (5%) である。完形品15点のうち100g未満が7点、200g以上が6点であった。打ち欠きが3か所あるものは866.8gと非常に重い。分布は縄文早期後半の土器 (I群b類) と分布が重なることから、この時期のものと推定される。

60~62は扁平礫の長軸の両端部に打ち欠きがある。打ち欠き部分には使用痕が見られ、磨耗して丸くなっている。

土製品・石製品（図V-2-7-63~76／表8／図版64）

土製品1点、石製品14点が出土している。全点を掲載した。

63は土製品。管玉状のもの。64~76は石製品。64・65は玉類。64は右半を欠損している。全面を研磨し、左端部と腹部に貫通孔がある。左端部の貫通孔は穿孔痕が確認できない。腹背部の貫通孔は両側から穿孔されている。65は垂飾。やや胴の張った長形状をしている。全面を研磨している。長軸両端に表裏両面から穿孔された貫通孔がある。貫通孔には穿孔痕が認められ、長軸外側方向に糸ずれによる磨耗痕がある。糸ずれ痕の方向から、横位置で使用したと考えられる。表・裏・側面には円形のくぼみ状の文様を列状に並べて装飾している。円形のくぼみ状の文様は直径2.5~3.5mm、深さ0.5~1.0mmで、合計71か所が確認される。低地部（旧河道跡）から出土しており（図Ⅲ-4）、時期は不明。

66~69は異形石器。66は両面加工により上下左右に突起を作出し、左右対称を意識した形状をしている。67・68は剥片の短軸側に抉りが入っているもの。69は石槍の破損品を再加工したもの。破損した刃部側を再加工して半円形の刃部を作出している。

70~75は三角形石製品。三角形石製品は6点出土し、すべてを掲載した。70~72は片面全体を加工し三方からの急角度剥離で三角形の整形している。腹面に原石面を残す。73~75は三方からの急角度剥離で三角形の整形している。腹背面に原石面を残す。

76は三角柱状石製品。礫を三角柱状に整形し、全体を研磨している。底面に原石面を残している。おもて面に格子状の刻線文（横8列、縦5列）を施している。また、敲打による列点が中央横一列に施される。低地部（旧河道跡）から出土しており、時期は不明。形状は異なるが、格子状の刻線文を施す石製品は釜谷遺跡56A号住居址（木古内町教委1999）でも出土している。釜谷遺跡のものは円筒土器下層c式土器に伴っている。

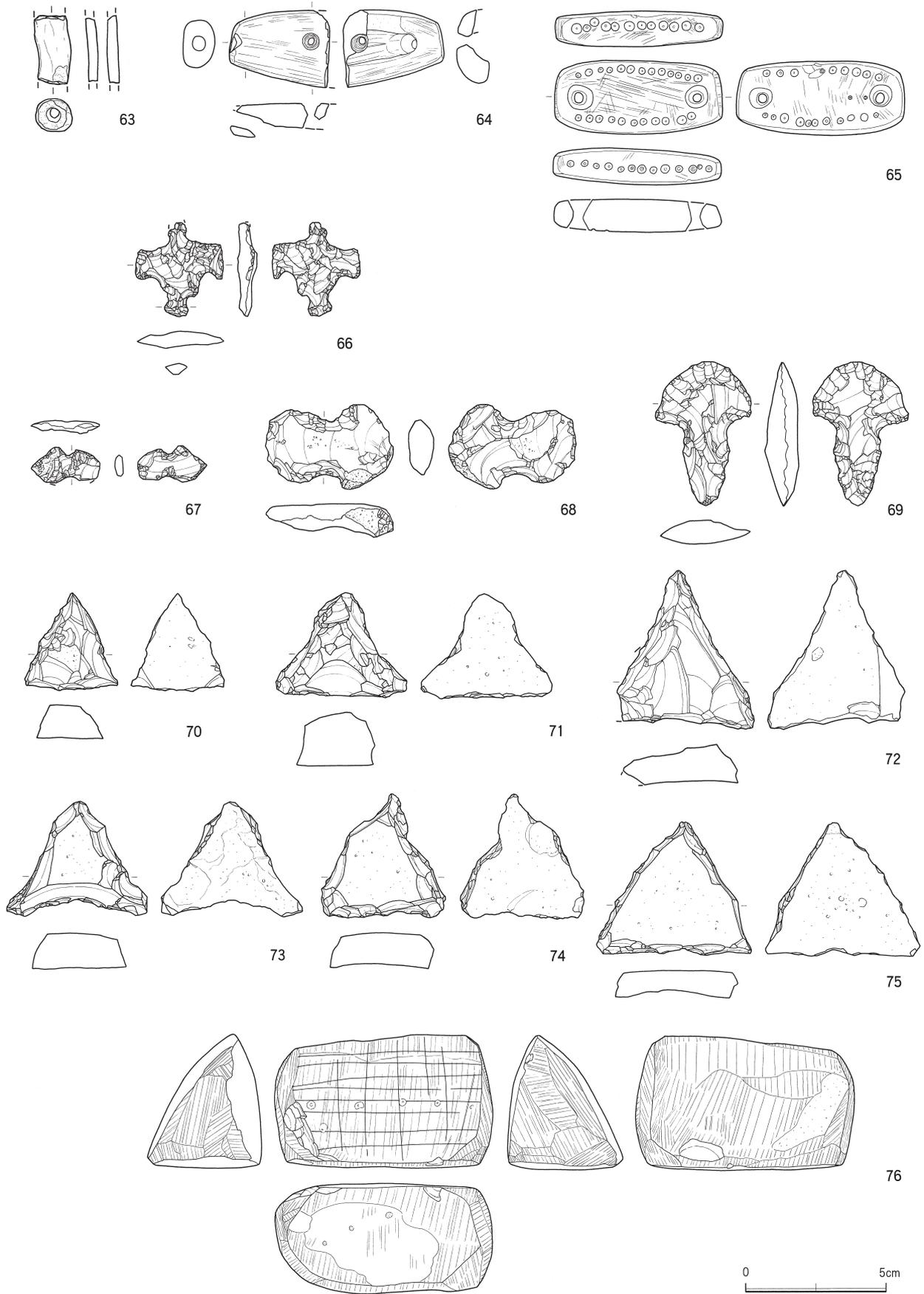
剥片

剥片は34,001点が出土している。調査範囲の北東側を除くほぼ全面から出土している。分布の傾向としては調査範囲の中央部から東側は出土が疎になり、西~南側にかけて出土が密になる。特に南西端では非常に多くの出土が見られる。剥片石器の出土傾向と同様であり、遺構の検出範囲と重なっている。石材は頁岩が99.4%以上を占め、黒曜石などはごく少量が認められる。石材別の重量は頁岩が233,653.8g、その他が1,294.4g、合計234,948.2gである。

礫・礫片

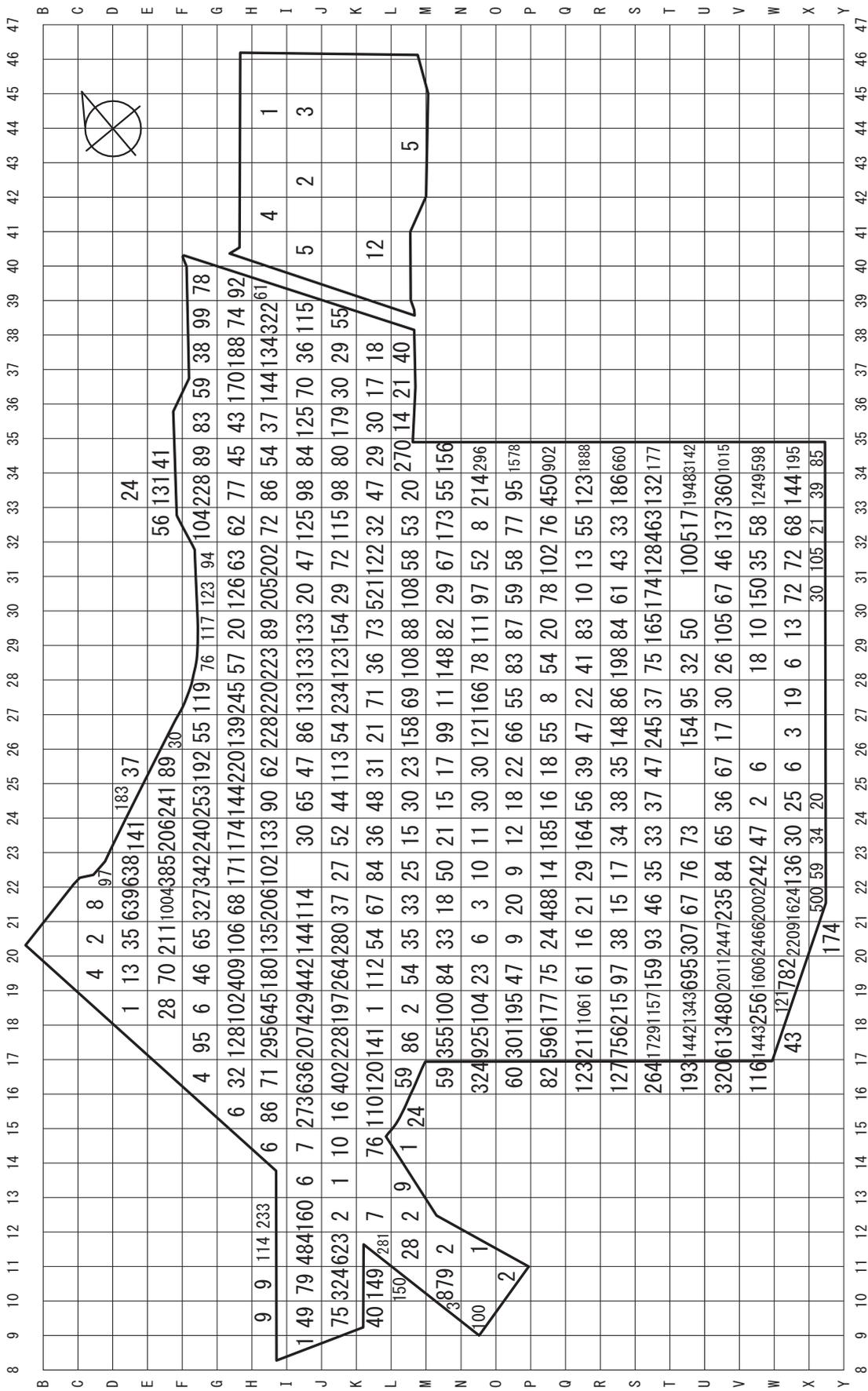
礫・礫片は49,294点出土している。総重量は1,990,669.1gである。調査範囲のほぼ全面から出土している。特に調査範囲南東側と北西側に多くの出土が見られる。調査範囲の南東側は遺構や土器・石器類の出土は少なく、礫・礫片のみが多量に検出される。平成22年度に調査を行った道路下は、Ⅱ層が削平されているため出土量が極端に少ない。調査範囲北東側も極端に出土量が少なくなる。これは地形的に旧河川跡を挟んでいるために、異なる出土分布を示す可能性が考えられる。

礫・礫片の中には、円礫や楕円礫が多く含まれる。平均すると長径4.5cm・短径3.2cm・厚さ1.7cm・重さ40.0gの大きさである。石材は凝灰岩と頁岩で84%を占める。この他では砂岩、泥岩、安山岩が多く、片岩・メノウ・チャートなども見られる。これらの石材のうち凝灰岩はⅣ層中に見られることから自然礫の可能性はある。自然礫の可能性のある凝灰岩を除くと、平均は長径5.5cm・短径3.8cm・厚さ2.1cm・重さ67.8gとなる。頁岩や砂岩・安山岩の円礫・楕円礫は自然に包含層中にあるものではなく、海岸や川から石器等の素材とするために人為的に持ち込まれたものと考えられる。（酒井）



図V-2-7 包含層出土の土製品・石製品

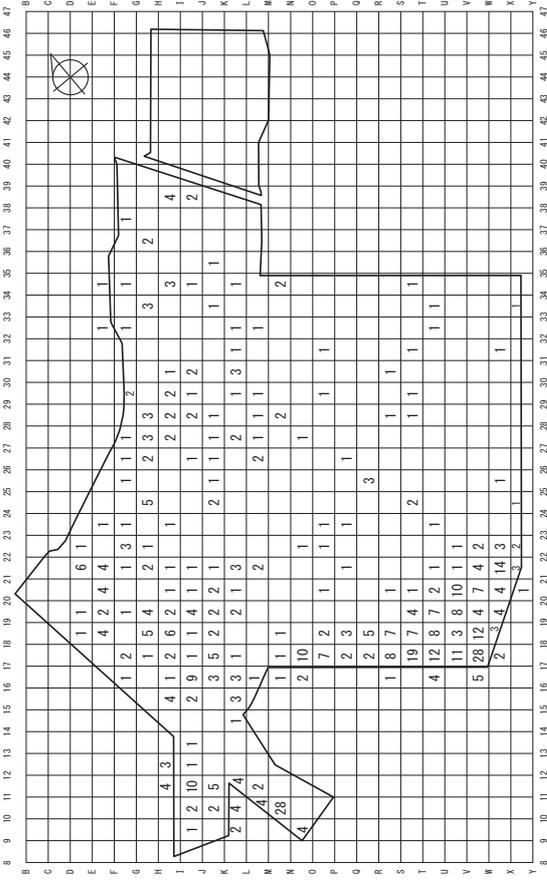
石器総合計 85, 959点



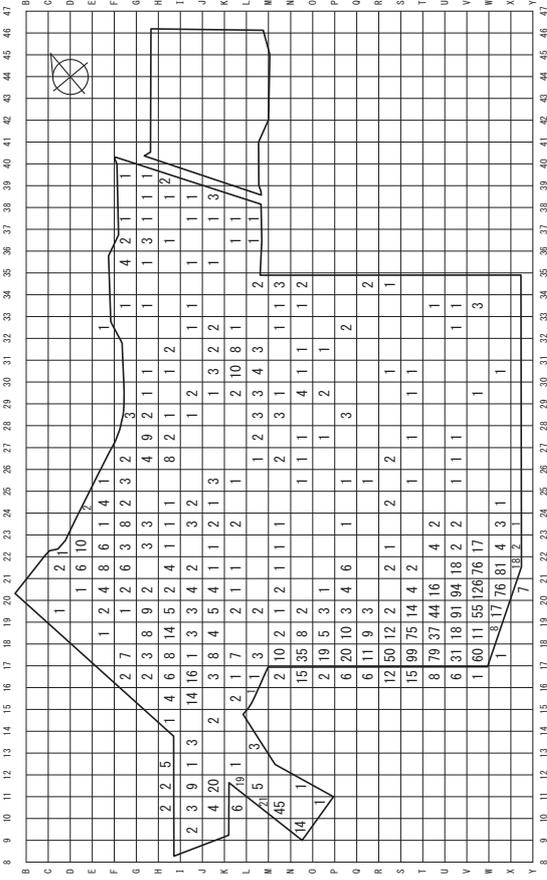
南西側 18 排土 22 表探 20 北側 - 畑 22

図V-2-8 包含層出土石器等の分布 (1)

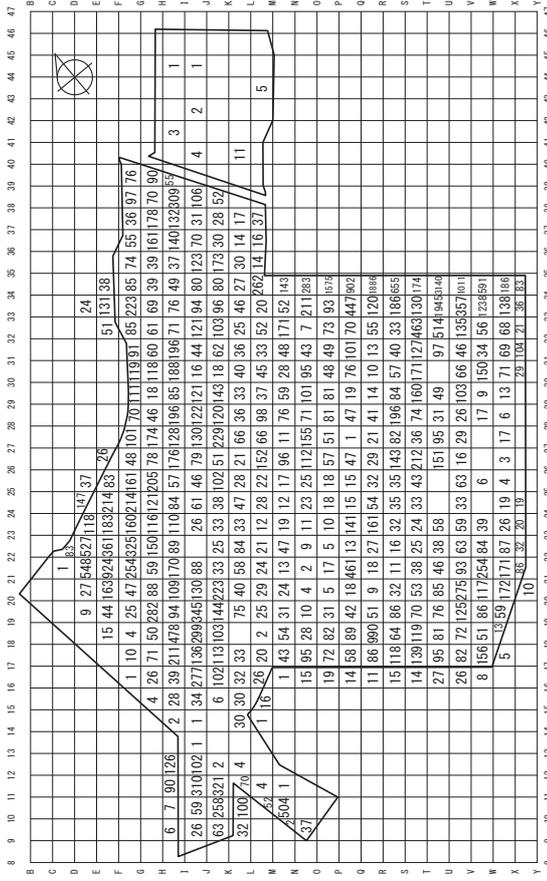
礫石器総合計 549点



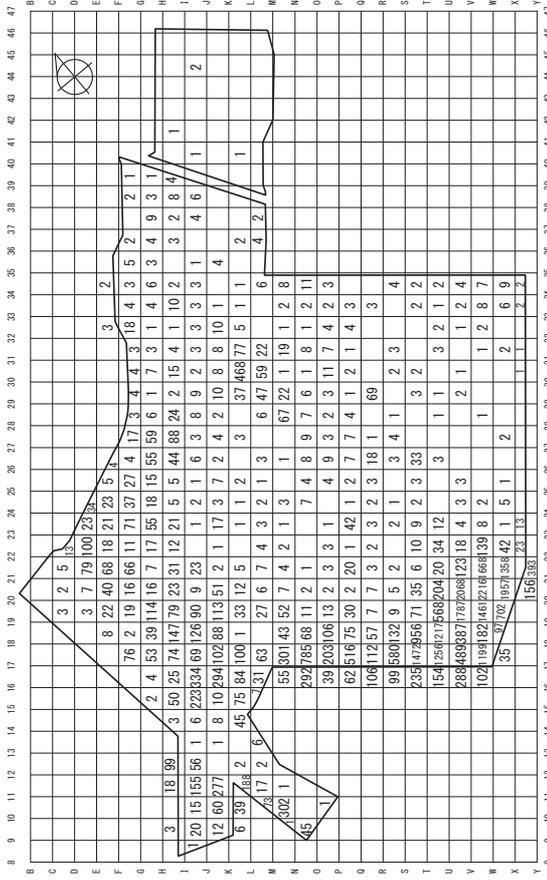
剥片石器総合計 2,115点



礫・礫片 49,294点



剥片 34,001点



図V-2-9 包含層出土石器等の分布 (2)

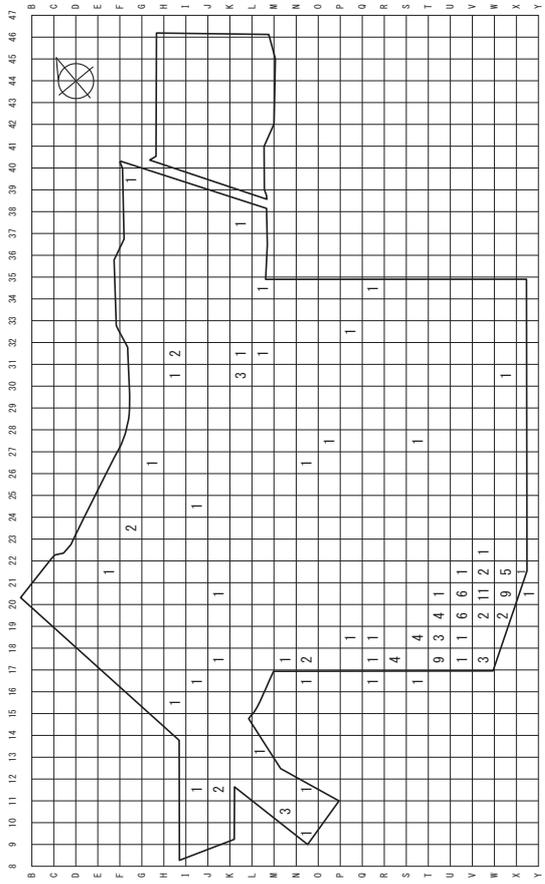
表深 8 北側・畑 18

表深 6 北側・畑 3

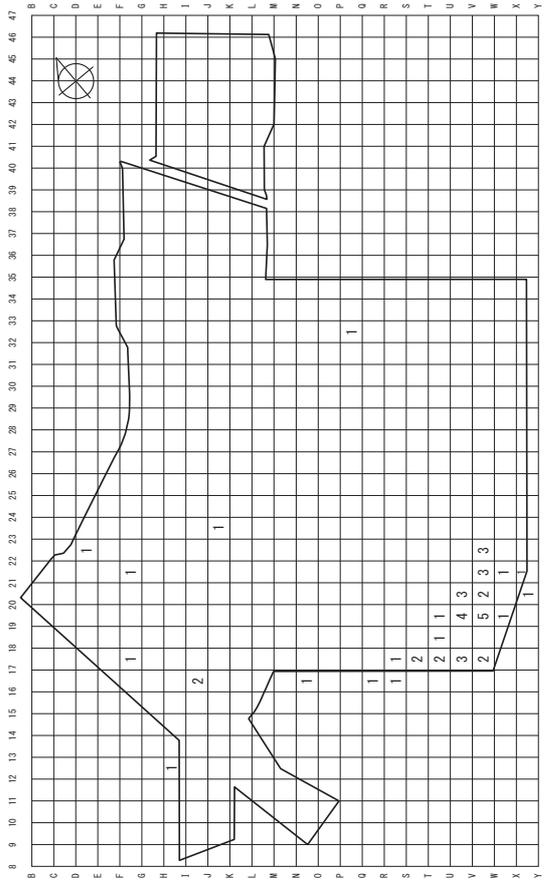
表深 21 排土

表深 17 南側

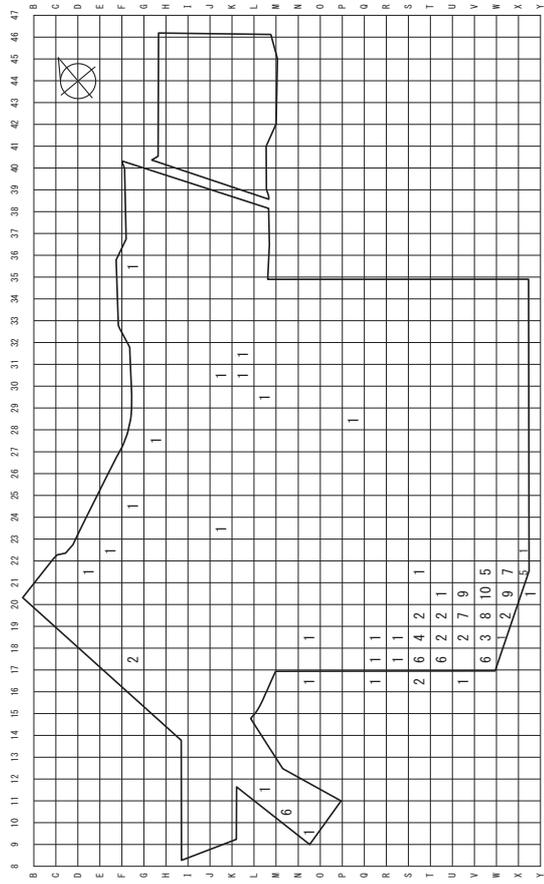
石鏃 121点



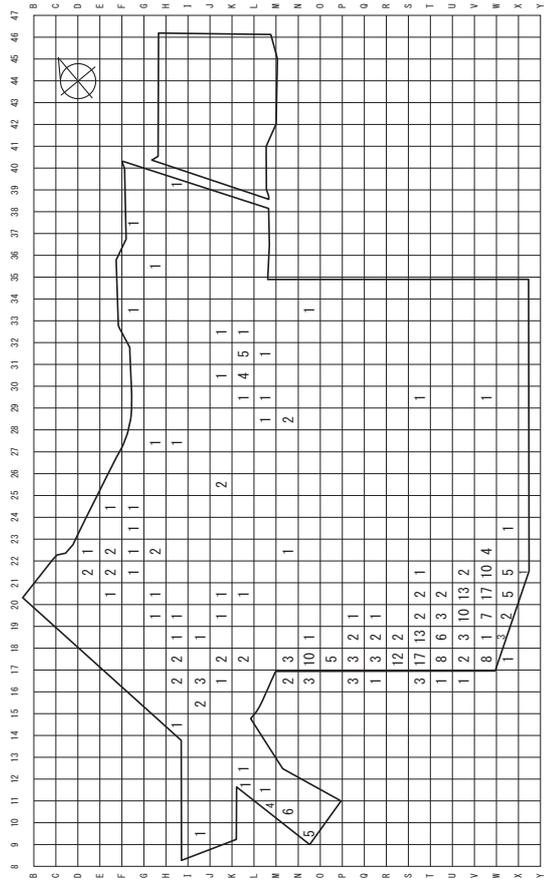
石鏃 47点



石槍ナイフ類 131点

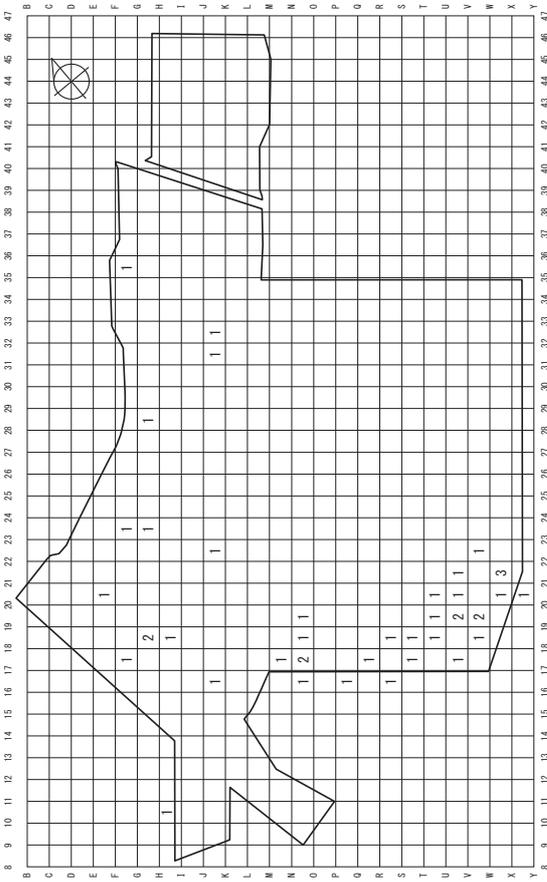


つまみ付きナイフ 295点

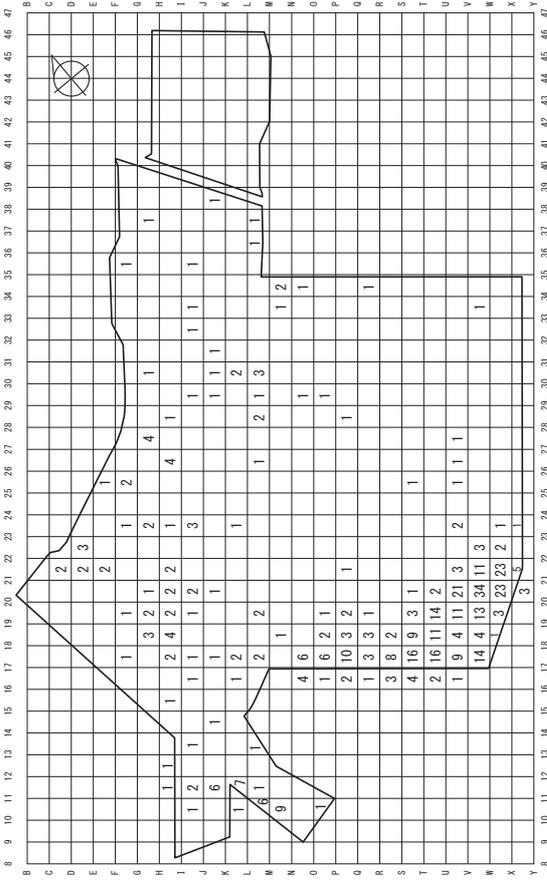


図V-2-10 包含層出土石器等の分布 (3)

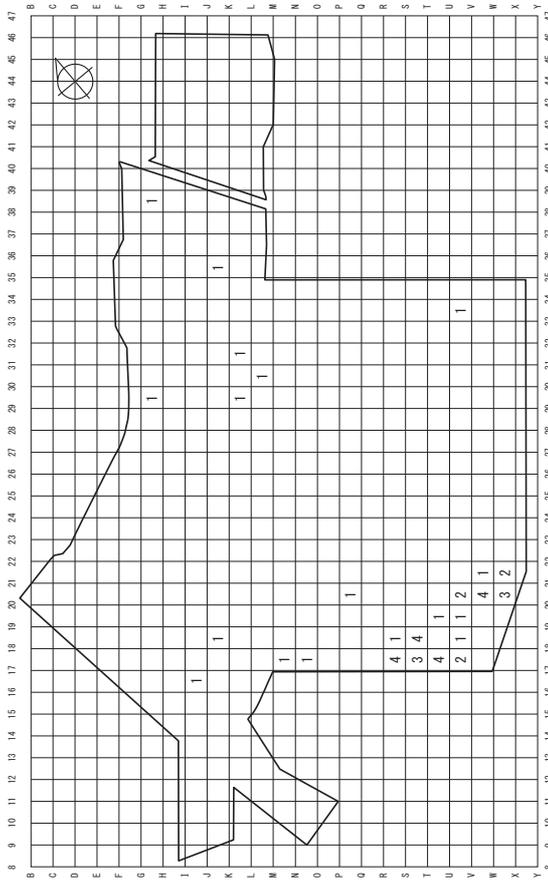
ヘラ状石器 43点



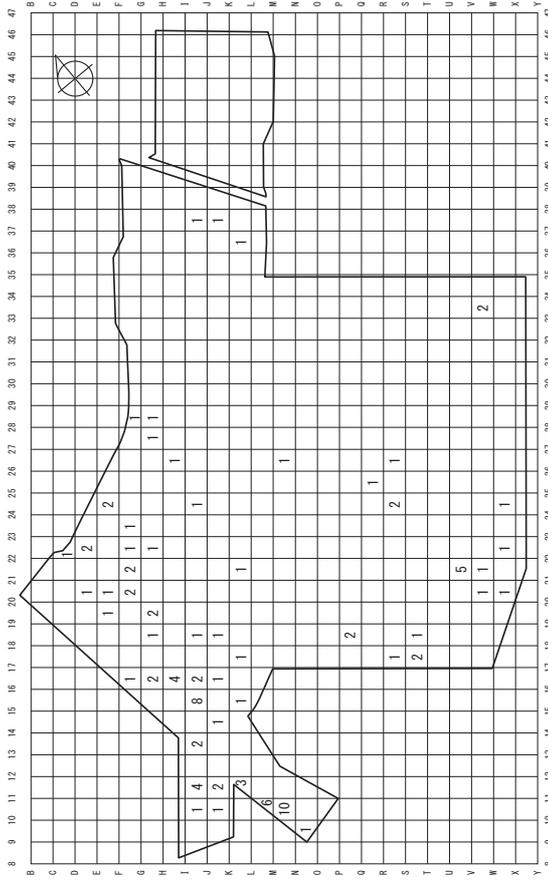
スクレイパー 472点



両面調整石器 45点



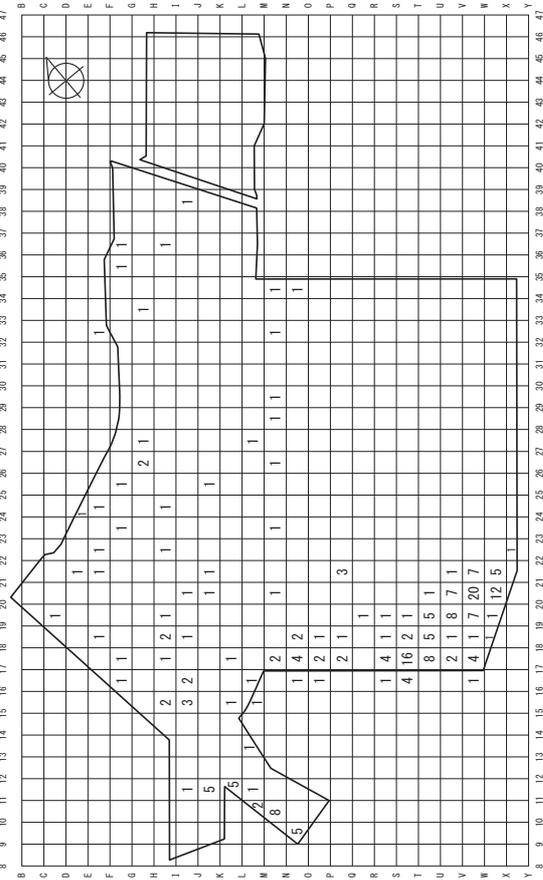
石核 104点



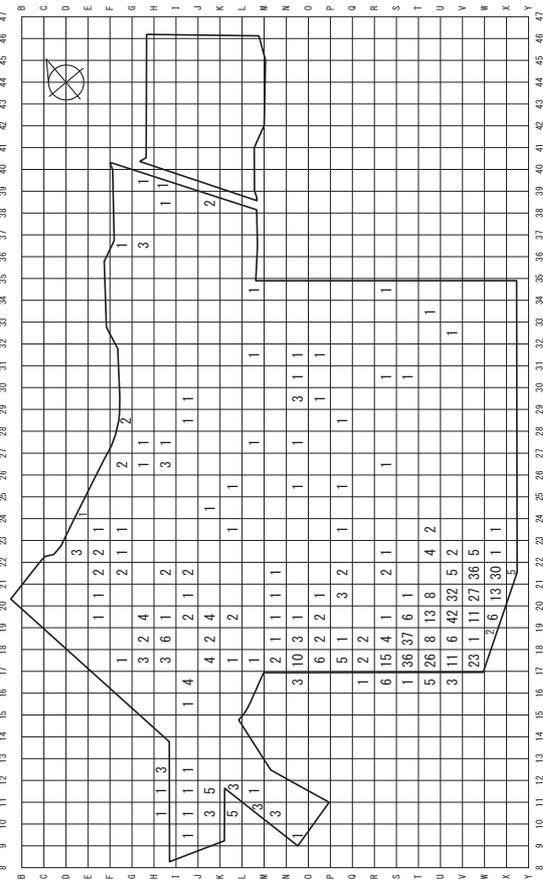
表紙 4

図V-2-11 包含層出土石器等の分布 (4)

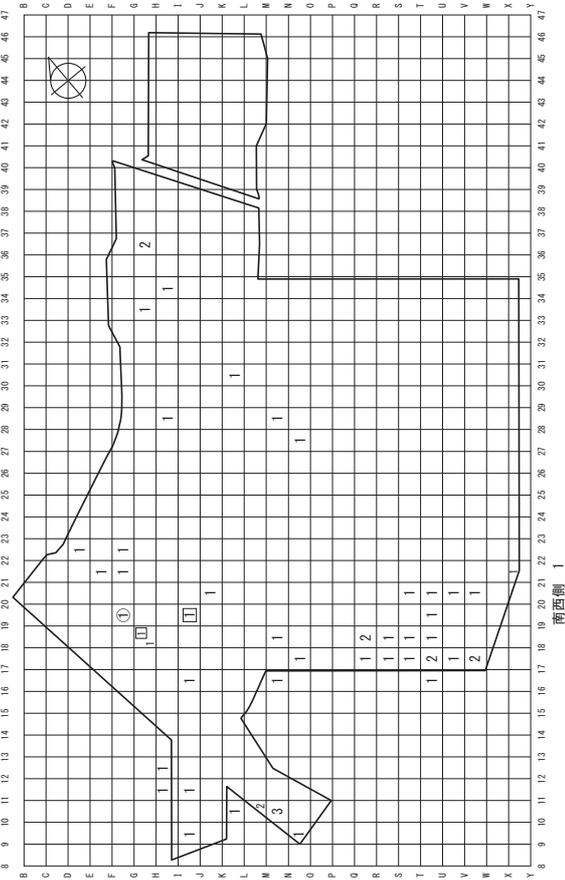
R剥片 227点



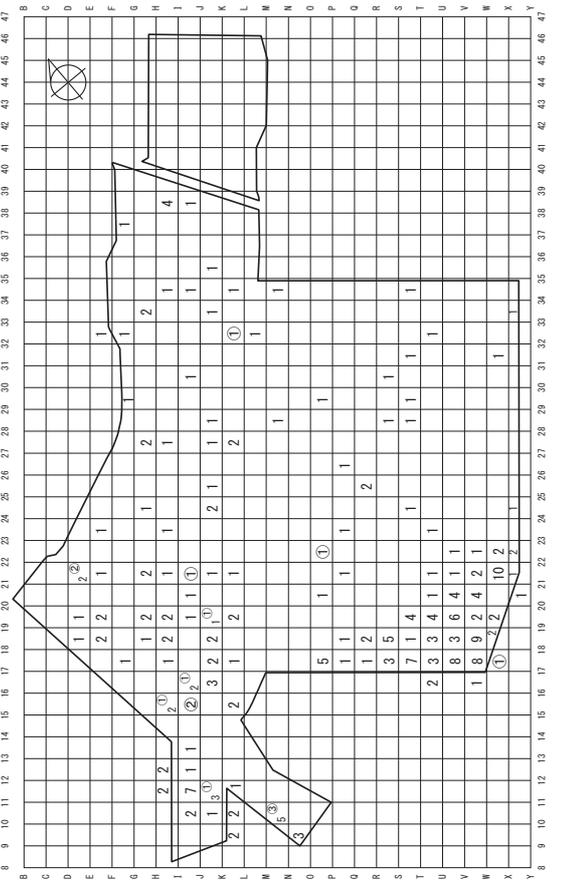
U剥片 630点



石斧・擦り切り残片・石のみ 50点・1点・2点 ①→擦り切り残片 □→石のみ

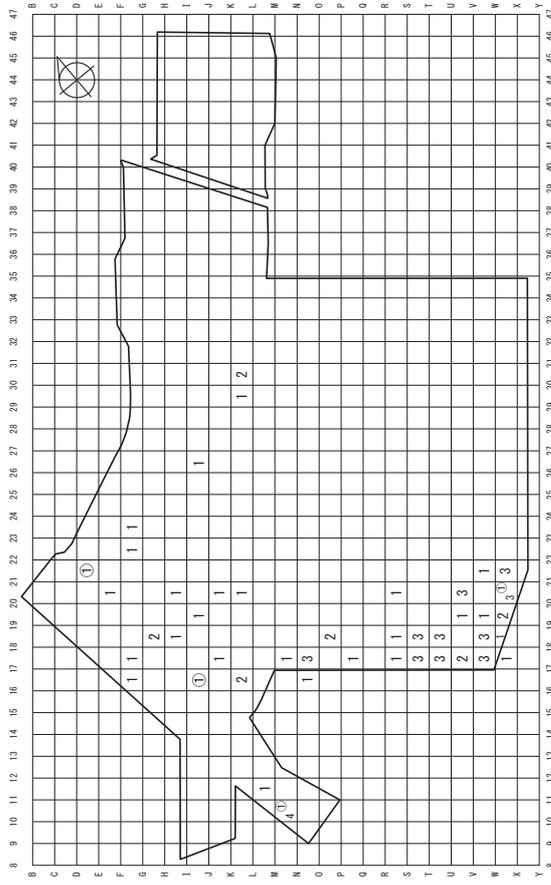


たたき石・台石 240点・15点 ①→台石

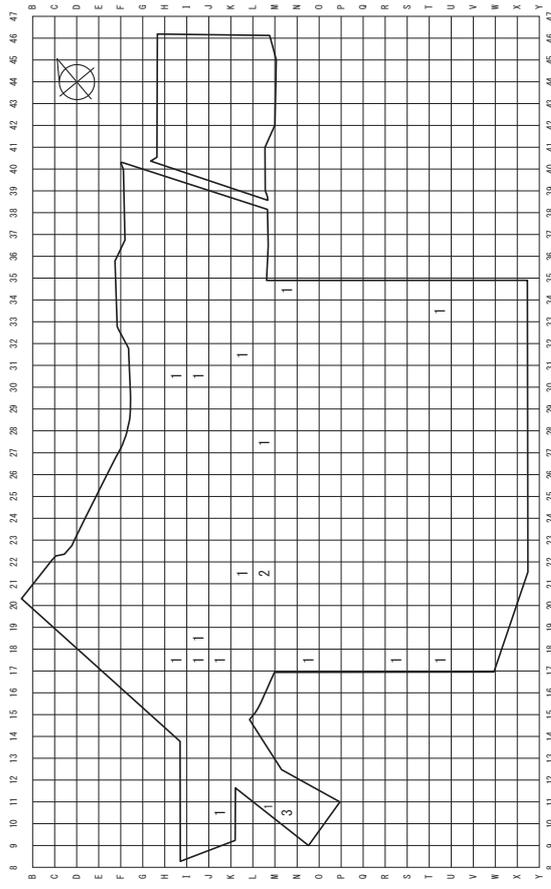


図V-2-12 包含層出土石器等の分布 (5)

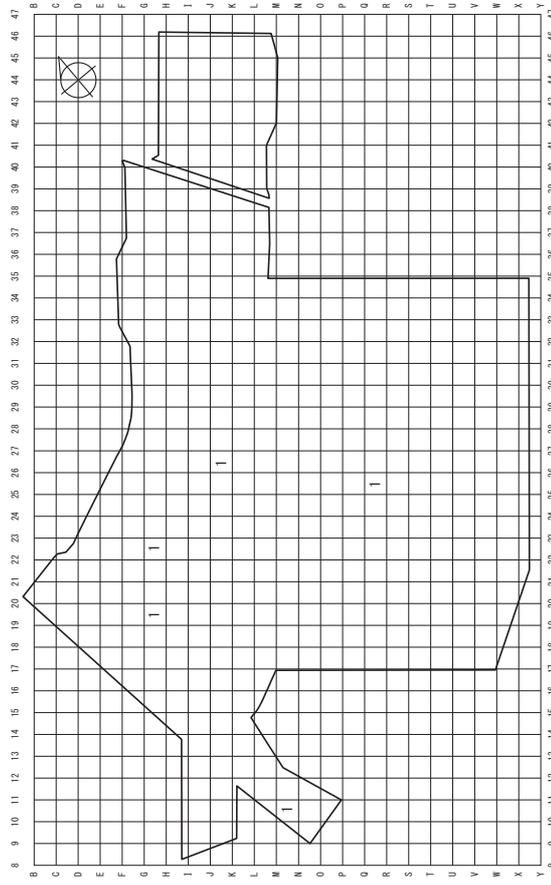
すり石・石皿 71点・4点 ①⇒石皿



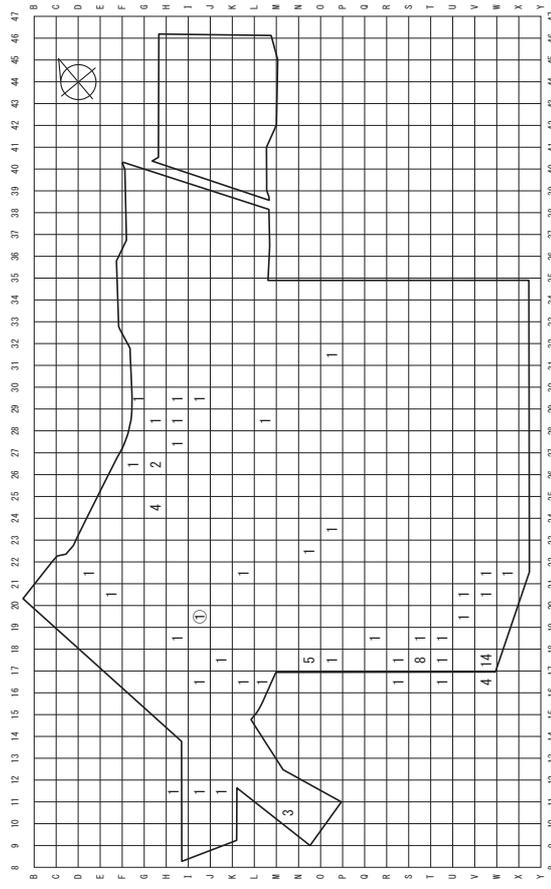
扁平打製石器 21点



石鋸 5点

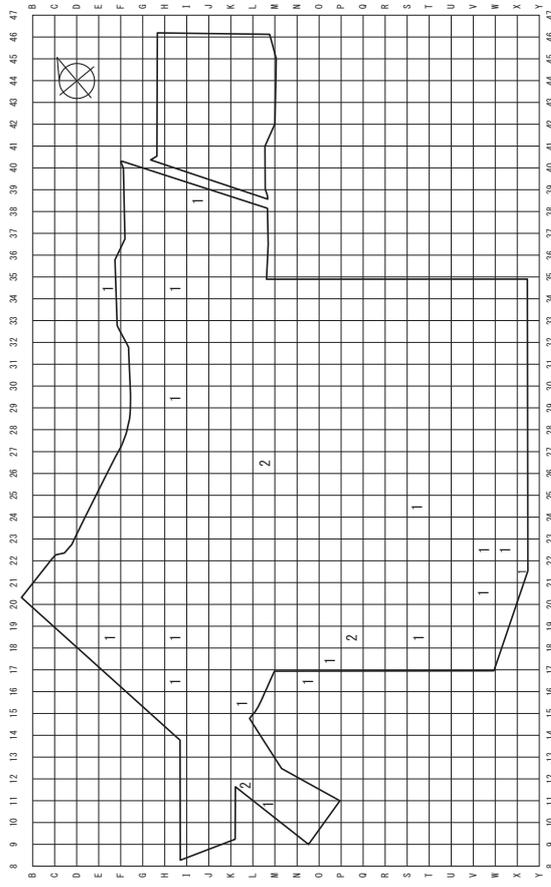


砥石・矢柄研磨器 75点・1点 ①⇒矢柄研磨器

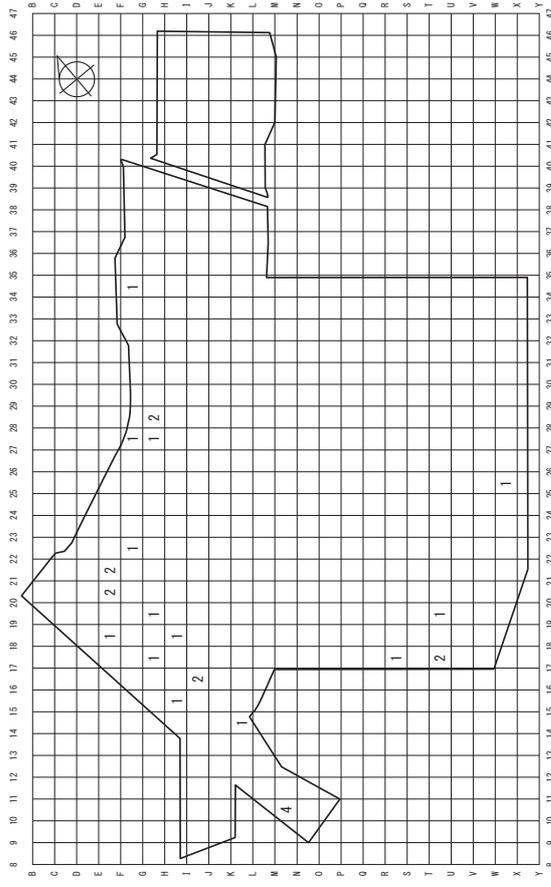


図V-2-13 包含層出土石器等の分布 (6)

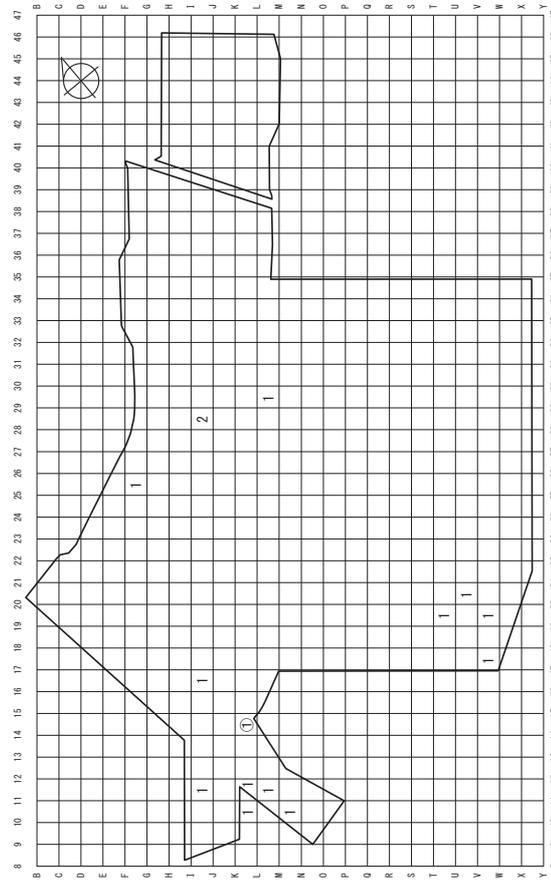
石錘 23点



加工痕のある礫 27点



石製品・土製品 14点・1点 ①⇒土製品



図V-2-14 包含層出土石器等の分布 (7)

Ⅵ 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果

平成21・22年度に当財団が株式会社加速器分析研究所に委託し、年代測定の成果として提出された「放射性炭素年代測定結果 報告書」を掲載する。報告書中の測定結果については、2か年分をまとめて掲載している。測定の対象となった試料HEBI 2 - 1～12の採取位置などについては表Ⅵ-1のとおりである。

HEBI 2 - 1～12は、遺構や一括土器から採取された炭化材・炭化クルミである。各遺構や一括土器の年代を把握することを目的として行った。HEBI 2 - 3～8・11・12はフローテーション試料から抽出したものである。(酒井)

表Ⅵ-1 放射性炭素年代測定試料一覧

試料番号	遺構名	層位	試料種類	重量 (乾: g)	採取日	測定法	フローテーション 処理番号	備考
HEBI2-1	H-2	床面	炭化材	0.40	09.9.30	AMS	—	炭化物1
HEBI2-2	H-2	床面	炭化材	0.10	09.9.30	AMS	—	炭化物2
HEBI2-3	H-11	炉跡	炭化材	0.40	10.6.8	AMS	10-002	
HEBI2-4	H-11	炉跡	炭化クルミ	0.29	10.6.8	AMS	10-001	
HEBI2-5	P-19	覆土2層	炭化クルミ	0.20	09.9.16	AMS	09-005	
HEBI2-6	P-23	坑底	炭化材	0.10	09.10.19	AMS	09-011	土器内部の土から検出 フラスコ状土坑
HEBI2-7	P-46	覆土1層	炭化クルミ	0.19	09.9.29	AMS	09-007	
HEBI2-8	P-83	覆土1層 (焼土)	炭化クルミ	0.10	09.10.22	AMS	09-012	
HEBI2-9	P-94	坑底	炭化材	2.90	10.6.25	AMS	—	フラスコ状土坑
HEBI2-10	P-95	坑底	炭化材	0.50	10.6.110	AMS	—	フラスコ状土坑
HEBI2-11	F-1	Ⅱ層	炭化材	0.14	9.9.4	AMS	09-001	
HEBI2-12	一括土器2	Ⅱ層	炭化材	0.14	09.9.8	AMS	09-003	土器内部の土から検出

蛇内 2 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

蛇内 2 遺跡は、北海道上磯郡木古内町字札苅510 (北緯41° 41' 48"、東経140° 27' 17") に所在する。測定対象試料は、H-2床面出土木炭 (HEBI 2-1 : IAAA-91855、HEBI 2-2 : IAAA-91856)、H-11炉跡出土木炭 (HEBI 2-3 : IAAA-103524)、炭化物 (HEBI 2-4 : IAAA-103525)、P-19覆土 2層出土炭化物 (HEBI 2-5 : IAAA-103526)、P-23坑底出土木炭 (HEBI 2-6 : IAAA-103527)、P-46覆土 1層出土炭化物 (HEBI 2-7 : IAAA-103528)、P-83覆土 1層出土炭化物 (HEBI 2-8 : IAAA-103529)、P-94坑底出土木炭 (HEBI 2-9 : IAAA-103530)、P-95坑底出土木炭 (HEBI 2-10 : IAAA-103531)、F-1出土木炭 (HEBI 2-11 : IAAA-103532)、一括土器 2内出土木炭 (HEBI 2-12 : IAAA-103533) の合計12点である (表 1)。炭化物HEBI 2-4、5、7、8はいずれも炭化クルミとされる。

2 測定の意義

遺構の構築年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから 1 Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 Mに達した時には「AAA」、1 M未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

3 MVタンデム加速器 (NEC Pelletron 9 SDH-2) をベースとした¹⁴C-AMS専用装置を使用し、¹⁴C数、¹³C濃度 (¹³C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシェウ酸 (HO_xII) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の¹³C濃度 (¹³C/¹²C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ¹⁴C年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中¹⁴C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。¹⁴C年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必

要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下 1 桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1 \sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差 ($1 \sigma = 68.2\%$) あるいは 2 標準偏差 ($2 \sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に当たり、HEBI 2 - 1 ~ 2 はIntCal04データベース (Reimer et al 2004)、HEBI 2 - 3 ~ 12はIntCal09データベース (Reimer et al 2009) を使い、いずれもOxCalv4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001, Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

試料の ^{14}C 年代は、H-2 床面出土のHEBI 2 - 1 が $4060 \pm 30\text{yrBP}$ 、HEBI 2 - 2 が $4170 \pm 30\text{yrBP}$ 、H-11 炉跡出土木炭HEBI 2 - 3 が $4560 \pm 30\text{yrBP}$ 、炭化物HEBI 2 - 4 が $4620 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-19 覆土 2 層出土炭化物HEBI 2 - 5 が $5600 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-23 坑底出土木炭HEBI 2 - 6 が $3620 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-46 覆土 1 層出土炭化物HEBI 2 - 7 が $5650 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-83 覆土 1 層出土炭化物HEBI 2 - 8 が $5630 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-94 坑底出土木炭HEBI 2 - 9 が $3620 \pm 30\text{yrBP}$ 、P-95 坑底出土木炭HEBI 2 - 10 が $4660 \pm 30\text{yrBP}$ 、F-1 出土木炭HEBI 2 - 11 が $140 \pm 20\text{yrBP}$ 、一括土器 2 内出土木炭HEBI 2 - 12 が $3650 \pm 30\text{yrBP}$ である。H-2 床面出土の 2 点の間には若干年代差が認められる。H-11 炉跡出土の 2 点の値は誤差 ($\pm 1 \sigma$) の範囲でわずかに重なる程度で、おおよそ近い年代を示す。暦年較正年代 (1σ) は、HEBI 2 - 1 が2832~2496cal BCの間に 4 つの範囲、HEBI 2 - 2 が2875~2680cal BCの間に 4 つの範囲、HEBI 2 - 3 が3369~3129cal BCの間に 3 つの範囲、HEBI 2 - 4 が3496~3359cal BCの間に 2 つの範囲、HEBI 2 - 5 が4457~4370cal BCの間に 2 つの範囲、HEBI 2 - 6 が2024~1942cal BCの範囲、HEBI 2 - 7 が4520~4454cal BCの範囲、HEBI 2 - 8 が4502~4376cal BCの間に 3 つの範囲、HEBI 2 - 9 が2025~1946cal BCの範囲、HEBI 2 - 10 が3509~3371cal BCの間に 3 つの範囲、HEBI 2 - 11 が1681~1938cal ADの間に 5 つの範囲、HEBI 2 - 12 が2116~1964cal BCの間に 2 つの範囲で示される。HEBI 2 - 5、7、8 は縄文時代前期前葉頃、HEBI 2 - 3、4、10は縄文時代前期末葉から中期初頭頃、HEBI 2 - 1、2 は縄文時代中期後葉から末葉頃、HEBI 2 - 6、9、12は縄文時代後期前葉頃に相当する。HEBI 2 - 11のみ近世以降の新しい値となっている。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-91855	HEBI2-1	遺構：H-2 層位：床面	木炭	AAA	-28.28±0.84	4,060±30	60.30±0.25
IAAA-91856	HEBI2-2	遺構：H-2 層位：床面	木炭	AAA	-25.83±0.38	4,170±30	59.52±0.25
IAAA-103524	HEBI2-3	遺構：H-11 層位：炉跡	木炭	AAA	-30.33±0.51	4,560±30	56.66±0.22
IAAA-103525	HEBI2-4	遺構：H-11 層位：炉跡	炭化物	AAA	-27.02±0.64	4,620±30	56.26±0.22
IAAA-103526	HEBI2-5	遺構：P-19 層位：覆土2層	炭化物	AAA	-26.18±0.40	5,600±30	49.82±0.20
IAAA-103527	HEBI2-6	遺構：P-23 層位：坑底	木炭	AAA	-26.03±0.44	3,620±30	63.74±0.22
IAAA-103528	HEBI2-7	遺構：P-46 層位：覆土1層	炭化物	AAA	-24.60±0.54	5,650±30	49.49±0.19
IAAA-103529	HEBI2-8	遺構：P-83 層位：覆土1層	炭化物	AAA	-23.47±0.62	5,630±30	49.60±0.19
IAAA-103530	HEBI2-9	遺構：P-94 層位：坑底	木炭	AAA	-27.08±0.61	3,620±30	63.71±0.21
IAAA-103531	HEBI2-10	遺構：P-95 層位：坑底	木炭	AAA	-25.62±0.58	4,660±30	55.98±0.20
IAAA-103532	HEBI2-11	遺構：F-1 層位：II層	木炭	AAA	-28.14±0.64	140±20	98.30±0.30
IAAA-103533	HEBI2-12	遺構：一括土器2 層位：II層	木炭	AAA	-25.52±0.58	3,650±30	63.48±0.23

[#3276, 4258]

表 2 (1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91855	30±4, 650	59.90±0.23	4,062±34	2832calBC - 2820calBC (5.9%) 2658calBC - 2654calBC (1.5%) 2633calBC - 2566calBC (44.7%) 2524calBC - 2496calBC (16.0%)	2851calBC - 2812calBC (10.1%) 2744calBC - 2728calBC (1.6%) 2695calBC - 2686calBC (0.9%) 2680calBC - 2481calBC (82.8%)
IAAA-91856	30±4, 180	59.42±0.24	4,167±33	2875calBC - 2850calBC (12.4%) 2813calBC - 2743calBC (36.0%) 2729calBC - 2695calBC (17.3%) 2686calBC - 2680calBC (2.5%)	2883calBC - 2832calBC (19.8%) 2821calBC - 2632calBC (75.6%)
IAAA-103524	30±4, 120	56.04±0.21	4,564±31	3369calBC - 3332calBC (35.3%) 3214calBC - 3187calBC (17.6%) 3156calBC - 3129calBC (15.3%)	3491calBC - 3470calBC (3.9%) 3374calBC - 3314calBC (40.7%) 3294calBC - 3288calBC (0.6%) 3275calBC - 3266calBC (1.0%) 3238calBC - 3106calBC (49.2%)

表2 (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-103525	4,650 \pm 30	56.03 \pm 0.20	4,619 \pm 31	3496calBC - 3460calBC (46.2%) 3376calBC - 3359calBC (22.0%)	3515calBC - 3423calBC (65.6%) 3417calBC - 3411calBC (0.5%) 3405calBC - 3398calBC (0.7%) 3385calBC - 3346calBC (28.6%)
IAAA-103526	5,620 \pm 30	49.70 \pm 0.20	5,596 \pm 32	4457calBC - 4440calBC (15.3%) 4425calBC - 4370calBC (52.9%)	4491calBC - 4356calBC (95.4%)
IAAA-103527	3,630 \pm 30	63.60 \pm 0.21	3,617 \pm 27	2024calBC - 1942calBC (68.2%)	2112calBC - 2104calBC (1.2%) 2036calBC - 1895calBC (94.2%)
IAAA-103528	5,640 \pm 30	49.53 \pm 0.18	5,649 \pm 30	4520calBC - 4454calBC (68.2%)	4546calBC - 4444calBC (86.2%) 4422calBC - 4393calBC (6.8%) 4387calBC - 4373calBC (2.4%)
IAAA-103529	5,610 \pm 30	49.76 \pm 0.18	5,632 \pm 30	4502calBC - 4447calBC (55.9%) 4419calBC - 4401calBC (11.1%) 4378calBC - 4376calBC (1.2%)	4536calBC - 4436calBC (69.3%) 4430calBC - 4368calBC (26.1%)
IAAA-103530	3,660 \pm 30	63.44 \pm 0.20	3,621 \pm 27	2025calBC - 1946calBC (68.2%)	2114calBC - 2100calBC (2.5%) 2037calBC - 1899calBC (92.9%)
IAAA-103531	4,670 \pm 30	55.91 \pm 0.19	4,661 \pm 29	3509calBC - 3484calBC (17.7%) 3476calBC - 3426calBC (42.2%) 3382calBC - 3371calBC (8.3%)	3520calBC - 3366calBC (95.4%)
IAAA-103532	190 \pm 20	97.67 \pm 0.27	137 \pm 24	1681calAD - 1698calAD (9.7%) 1724calAD - 1763calAD (16.4%) 1802calAD - 1815calAD (7.3%) 1834calAD - 1878calAD (22.3%) 1917calAD - 1938calAD (12.5%)	1671calAD - 1711calAD (15.7%) 1716calAD - 1779calAD (24.6%) 1798calAD - 1891calAD (39.2%) 1909calAD - 1943calAD (15.8%)
IAAA-103533	3,660 \pm 30	63.41 \pm 0.21	3,650 \pm 28	2116calBC - 2099calBC (11.2%) 2039calBC - 1964calBC (57.0%)	2134calBC - 2080calBC (23.7%) 2062calBC - 1940calBC (71.7%)

[参考値]

文献

Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19 (3), 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37 (2), 425-430

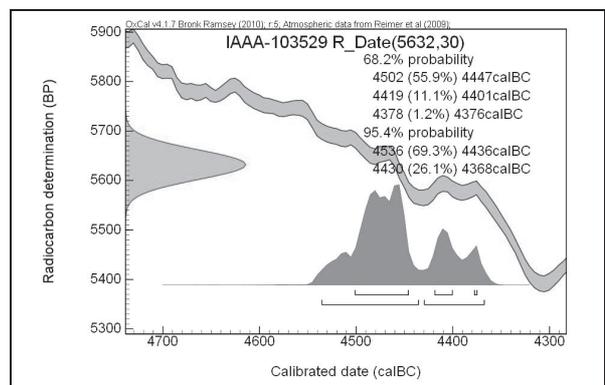
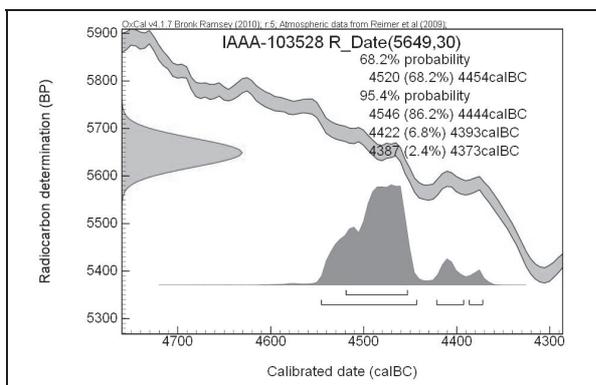
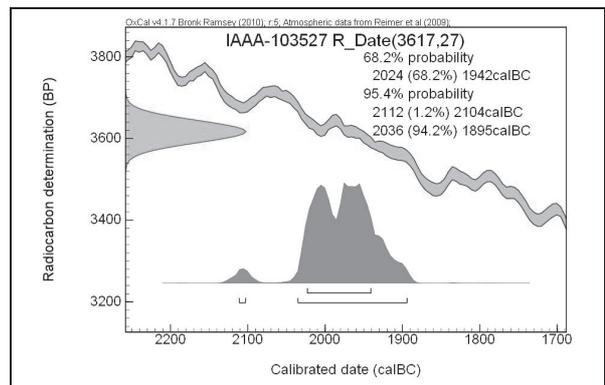
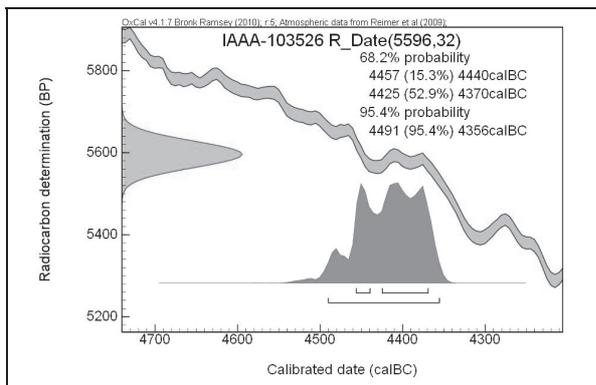
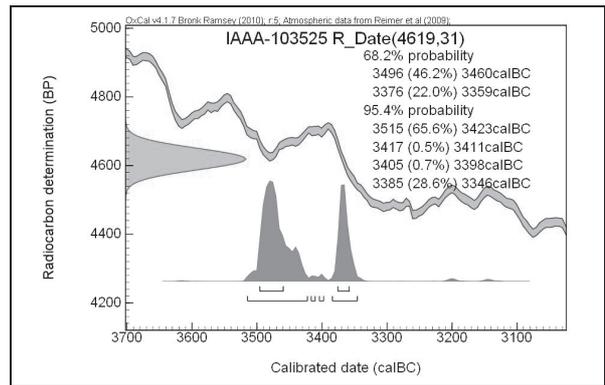
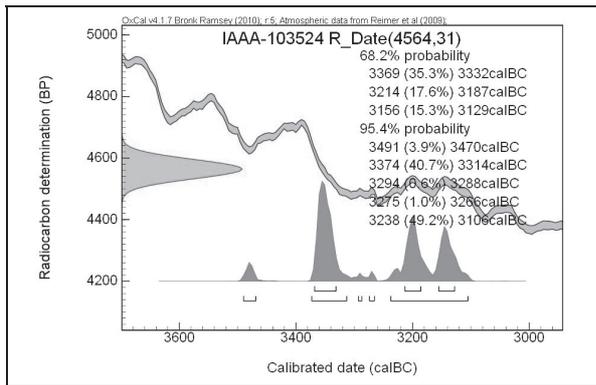
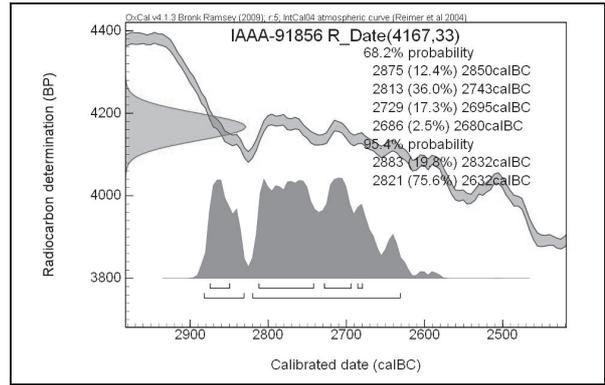
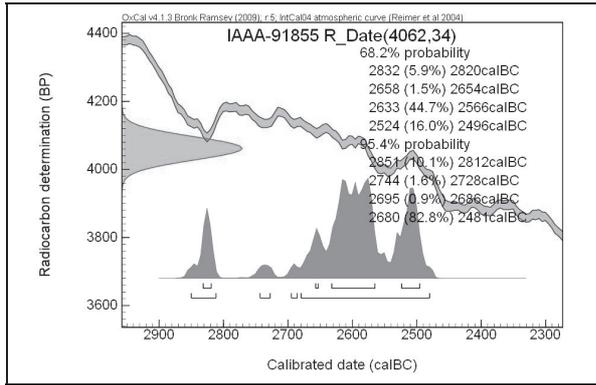
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the radiocarbon calibration program, *Radiocarbon* 43 (2A), 355-363

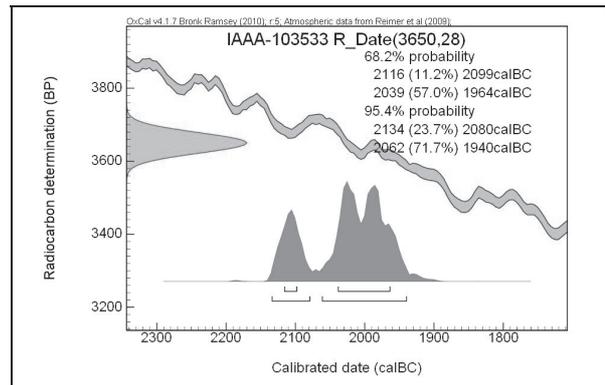
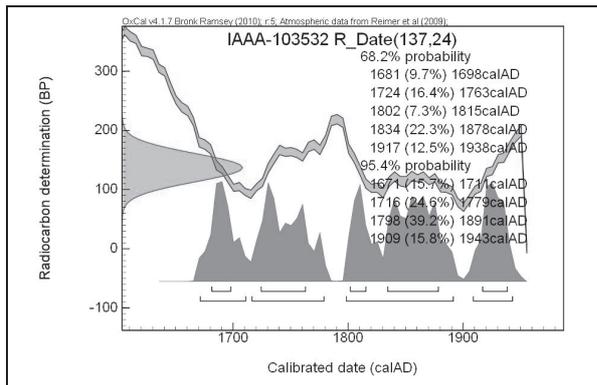
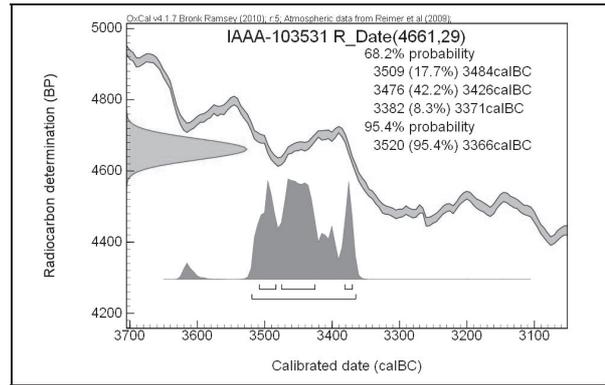
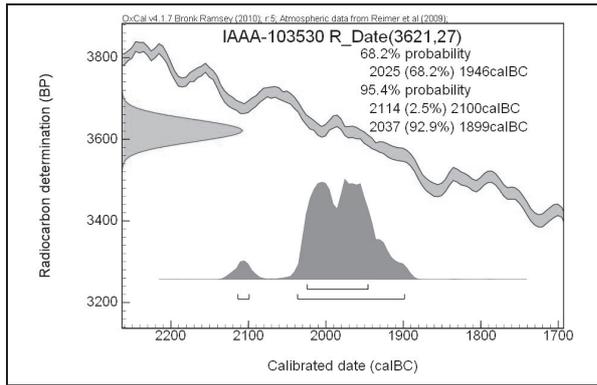
Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43 (2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51 (1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 51 (4), 1111-1150





[参考] 暦年較正年代グラフ

2 放射性炭素年代測定結果について

今回、12点の放射性炭素年代測定を行った。各遺構の年代を把握することを目的として、炭化材・炭化クルミを試料として測定を依頼した。

測定結果については、出土遺物等から予想される年代に概ね合致する数値を得ることが出来た。現場での観察結果および整理段階での検討結果と今回の測定数値に、F-1より採取した試料1点を除いて、大きな乖離は見られなかった。

縄文時代前期前半を想定していたP-19 (HEBI 2-5)・P-46 (HEBI 2-7)・P-83 (HEBI 2-8) は5,600~5,650yrBP、前期後半を想定していたH-11 (HEBI 2-3・4)・P-95 (HEBI 2-10) は4,560~4,660yrBP、中期後半を想定していたH-2 (HEBI 2-1・2) は4,060~4,170yrBP、後期前葉を想定していたP-23 (HEBI 2-6)・P-94 (HEBI 2-9)・一括土器2 (HEBI 2-12) は3,620~3,650yrBPという数値を得た。これらについては、おおよそ想定した時代時期ごとにまとまった数値となっている。

F-1は焼土に伴う遺物がなかったことから、現地調査における所見では、周辺の出土遺物から縄文時代前期後半を想定していた。しかし、ここから採取した炭化材 (HEBI 2-11) を測定したところ、140yrBPという近世以降に相当する数値が得られた。 (酒井)

表1 検出遺構規模一覧

遺構種別	遺構名	調査区	規模(m)					時期(縄文時代)	特徴	図番号	図版番号	
			上端		下端		深さ					
			長軸	短軸	長軸	短軸						
住居跡	H-1	G22・23	3.64	2.90	3.44	2.60	0.20	早期後半	床面・周辺に炭化物	図IV-3	図版3	
	H-2	P・Q17・18	3.56	2.72	3.28	2.46	0.44	中期後半	ノダップⅡ式の一括資料出土	図IV-4	図版4・5	
		HP-1	Q18a	0.68	0.62	(0.62)	0.48		1.04			HF-1下の小土坑
		HP-2	Q17d/Q18a	1.02	0.40	0.34	0.32		0.58			溝を伴う
		HP-3	P18b	0.22	0.20	0.06	0.06		0.24			柱穴
		HP-4	Q18a	0.08	0.08	(0.06)	(0.04)		0.20			柱穴
		HP-5	Q17d/Q18a	0.14	0.12	0.04	0.04		0.38			柱穴
		HP-6	Q18a	0.06	0.06	0.04	0.04		0.30			柱穴
		HP-7	Q18a	0.10	0.10	0.06	0.06		0.28			柱穴
		HP-8	Q18a	0.16	0.12	0.08	0.06		0.26			柱穴
		HF-1	Q18a	0.63	0.48	—	—		0.15			石囲炉
	HF-2	Q18a	0.53	0.32	—	—	0.03	炭化物1・2				
	H-3	K・M18/L17~19	—	5.98	—	5.94	0.16	後期前葉	一部削平を受ける	図IV-8	図版6	
		HP-1	L18b	0.22	0.18	0.10	0.10		0.38			柱穴
		HP-2	L18b	0.28	0.26	0.14	0.12		0.36			柱穴
		HP-3	L18c	0.30	0.26	0.12	0.10		0.36			柱穴
		HP-4	L18c・d/L19b	0.38	0.36	0.22	0.22		0.36			柱穴
		HP-5	L18d	0.24	0.26	0.14	0.14		0.26			柱穴
		HP-6	L18a	0.36	0.26	0.20	0.20		0.36			柱穴
		HP-7	L18a	0.30	0.28	0.18	0.16		0.36			柱穴
		HP-8	K18c/L18d	0.38	0.36	0.26	0.24		0.38			柱穴
		HP-9	L17c	0.26	0.26	0.14	0.12		0.20			柱穴
		HP-10	L19b	0.22	0.20	0.14	0.14		0.50			柱穴
		HF-1	L18a~c	0.67	0.51	—	—		0.11			地床炉
		HF-2	L18a	0.59	0.44	—	—		0.08			地床炉
		入り口跡1	L18b/M18a	1.05	0.16	0.92	0.11		0.20			溝状・入り口跡2と平行
		入り口跡2	L18b/M18a	1.01	0.17	0.96	0.14		0.15			溝状・入り口跡1と平行
	H-4	T21/U20・21	3.00	(2.16)	2.80	(2.00)	0.18	不明	P-73・74と切り合う	図IV-12	図版7	
	H-5	I・J17・18	—	5.70	—	5.44	0.16	後期前葉	風倒木により攪乱を受ける	図IV-13	図版7・8	
		HP-1	I18b	0.24	0.24	0.16	0.16		0.52			柱穴
		HP-2	J17d	0.24	0.20	0.14	0.12		0.46			柱穴
		HP-3	I17d	0.26	0.24	0.18	0.18		0.42			柱穴
		HP-4	I17b	0.38	0.36	0.24	0.22		0.50			柱穴
		HP-5	J18a	0.16	0.12	0.10	0.08		0.50			柱穴
		HP-6	I18b	0.24	0.24	0.10	0.08		0.40			柱穴
		HP-7	J18a	0.28	0.28	0.20	0.18		0.38			柱穴
		HP-8	I18b	0.26	0.22	0.18	0.16		0.40			柱穴
		HP-9	J17d	0.30	0.26	(0.20)	0.20		0.36			柱穴
		HP-10	I17d	0.24	0.22	(0.20)	0.18		0.36			柱穴
		HP-11	J18a	0.16	0.14	0.12	0.10		0.35			柱穴
		HF-1	I17c/I18b	(0.30)	0.47	—	—		—			地床炉
		入り口跡1	J17a・d	(1.04)	(0.20)	0.92	0.09		0.34			溝状・入り口跡2と平行
		入り口跡2	J17a~d	1.07	0.20	0.84	0.09		0.34			溝状・入り口跡1と平行
	H-6	Q・R16・17	—	(3.34)	—	(3.08)	—	早期後半	調査範囲外部分あり	図IV-15	図版8・9	
		HP-1	Q16c/Q17b	0.46	0.44	0.36	0.36		0.18			皿状の小土坑
		HP-2	Q17b	0.62	0.48	0.50	0.38		0.12			皿状の小土坑
	HP-3	Q17b	0.32	0.32	0.26	0.24	0.10	皿状の小土坑				
	H-7	J・K19	4.04	3.48	3.68	3.30	0.32	後期前葉	炉・柱穴なし	図IV-16	図版9	
	H-8	(G・H17~19)	—	—	—	—	—	後期前葉	攪乱により炉・柱穴のみ残存	図IV-17	図版9	
		HP-1	H17d/H18a	0.30	0.26	0.14	0.12		0.34			柱穴
		HP-2	G18c・d	0.26	0.24	0.18	0.16		0.54			柱穴
		HP-3	G18c・d	0.28	0.26	0.22	0.18		0.54			柱穴
		HF-1	G18b	(0.75)	0.33	—	—		0.11			地床炉
		HF-2	G18b・c/H18a・d	1.36	0.61	—	—		0.08			地床炉
	HF-3	H18a	(0.44)	0.47	—	—	0.14	地床炉				
	H-9	C20・21/D20	4.18	4.04	4.10	4.04	0.22	後期前葉	道路路盤による攪乱を受ける	図IV-18	図版10	
		HP-1	C20a	0.22	0.20	0.08	0.06		0.18			柱穴
		HP-2	C20d	0.24	0.22	0.14	0.12		0.36			柱穴
	HF-1	C20b・c	0.82	0.63	—	—	0.07	石囲炉				
	H-10	(I13・14)	—	—	—	—	—	後期前葉	攪乱により炉・柱穴のみ残存	図IV-20	図版11	
		HP-1	I14b	0.28	0.26	0.20	0.16		0.20			柱穴
		HP-2	I14b	0.26	0.26	0.18	0.14		0.28			柱穴
		HP-3	I14c	0.36	0.30	0.24	0.18		0.27			柱穴
		HP-4	I13c	0.24	0.22	0.12	0.12		0.14			柱穴
		HP-5	I14a	0.32	0.32	0.20	0.20		0.24			柱穴
		HP-6	I14a・d	0.26	0.24	0.18	0.13		0.29			柱穴
	HF-1	I14a・b	0.24	0.15	—	—	0.05	地床炉				
	H-11	F15/G15・16	5.60	—	5.14	—	0.60	前期後半	道路側溝による攪乱を受ける	図IV-21	図版12	
		HP-1	G15d	0.26	0.25	0.22	0.14		0.12			柱穴
		HP-2	F15c/G15d	0.32	0.28	0.17	0.16		0.42			柱穴
		HP-3	G15b	0.24	0.22	0.11	0.10		0.61			柱穴
		HP-4	G15c	0.25	0.23	0.20	0.20		0.64			柱穴
		HP-5	G15d	0.25	0.24	0.18	0.14		0.61			柱穴
	HP-6	G15c	0.26	0.26	0.23	0.22	0.44	柱穴				
	HF-1	G15c・d	0.46	0.30	—	—	0.04	地床炉				
	H-12	(H・I15)	—	—	—	—	—	後期前葉	攪乱により炉・柱穴のみ残存	図IV-25	図版13	
		HP-1	I15a	0.26	0.26	0.10	0.10		0.34			柱穴
	HP-2	H15b	0.17	0.16	0.10	0.10	0.24	柱穴				

遺構 種別	遺構名	調査区	規模 (m)					時期 (縄文時代)	特徴	図番号	図版番号								
			上端		下端		深さ												
			長軸	短軸	長軸	短軸													
住居跡	H-12	HP-3	H15c	0.18	0.18	0.06	0.06	0.22	後期前葉	柱穴	図IV-25	図版13							
		HP-4	I15d	0.20	0.14	0.08	0.05	0.32		柱穴									
		HP-5	I15d	0.25	0.20	0.10	0.10	0.32		柱穴									
		HP-6	I15c・d	0.34	0.22	0.08	0.07	0.48		柱穴									
		HP-7	I15a	0.24	0.23	0.12	0.10	0.43		柱穴									
		HF-1	I15a	1.24	0.64	—	—	0.20		地床炉									
		(E17・18/F18)	—	—	—	—	—	攪乱により炉・柱穴のみ残存	後期前葉	柱穴	図IV-26	図版13・14							
	HP-1	E18c	0.24	0.22	0.18	0.16	0.30	柱穴											
	HP-2	E18a	0.30	0.24	0.24	0.20	0.40	柱穴											
	HP-3	E17c	0.34	0.32	0.22	0.18	0.24	柱穴											
	HP-4	F18a	0.30	0.29	0.20	0.18	0.38	柱穴											
	HF-1	F18b	0.45	0.40	—	—	0.20	地床炉											
		(E19・20/F19)	—	—	—	—	—	攪乱により炉・柱穴のみ残存	後期前葉	柱穴	図IV-27	図版14							
	HP-1	E19b	0.20	0.20	0.15	0.14	0.21	柱穴											
	HP-2	E19a	0.30	0.29	0.14	0.14	0.18	柱穴											
	HP-3	E19d	0.28	0.26	0.20	0.17	0.22	柱穴											
	HP-4	E19c/E20b	0.33	0.24	0.20	0.14	0.24	柱穴											
	HP-5	F19d	0.22	0.16	0.13	0.10	0.13	柱穴											
		(E19b/F19a)	0.26	0.22	0.16	0.14	0.14	柱穴	後期前葉	柱穴	図IV-28	図版15							
	HP-6	E19c	0.30	—	0.20	—	0.16	柱穴											
HP-7	E19c	0.30	—	0.20	—	0.16	柱穴												
HF-1	E19c	0.70	—	—	—	0.18	地床炉												
	D18・19	—	—	—	—	0.25	植林による攪乱を受ける												
HP-1	D18c	0.26	0.24	0.09	0.08	0.19	柱穴												
HP-2	D18c	0.24	0.22	0.14	0.14	0.28	柱穴	後期前葉	柱穴	図IV-29	図版16								
HP-3	D18a	0.10	0.10	0.06	0.04	0.20	柱穴												
HP-4	D18b	0.10	0.08	0.04	0.04	0.30	柱穴												
HP-5	D19a	0.26	0.22	0.16	0.16	0.22	柱穴												
P-1	H39a・b	0.93	0.83	0.52	0.47	0.33	不明		土坑			図IV-29	図版16						
P-2	J29d	0.44	0.38	0.28	(0.24)	0.15	不明												
P-3	G27c	1.08	0.96	(0.58)	0.50	0.48	前期後半	図IV-30		図版16									
P-4	J29c・d	0.38	0.32	0.26	0.20	0.18	不明												
P-5	E20a	0.78	0.70	0.58	0.48	0.42	不明												
P-6	F20d	1.24	1.08	1.02	0.84	0.16	不明												
P-7	F22c	0.76	0.70	0.64	0.44	0.22	不明												
P-8	S16c・d/S17a・b	1.08	1.06	0.90	0.84	0.38	前期前半or中期後半				覆土中位に赤褐色土壌			図IV-31	図版16				
P-9	Q18c	0.84	0.77	0.70	0.61	0.24	前期前半or中期後半												
P-10	R18d	0.69	0.61	0.61	0.42	0.29	前期前半												
P-11	R18c	0.68	0.68	0.44	0.44	0.31	前期前半or中期後半												
P-12	(J15c/J16b)	—	1.14	—	0.92	0.20	不明				一部攪乱を受ける								
P-13	U17d	0.74	0.72	0.64	0.64	0.17	前期前半				図IV-32					図版16			
P-14	U17d	0.69	0.68	0.50	0.44	0.29	前期前半												
P-15	U18d	0.73	0.65	0.66	0.54	0.19	前期前半												
P-16	U18c・d	0.72	0.66	0.58	0.51	0.24	前期前半												
P-17	U18a	0.86	0.76	0.72	0.61	0.30	前期前半												
P-18	G23b・c/H23a・d	—	1.08	0.96	0.70	0.52	前期後半										フラスコ状土坑		
P-19	U19a	0.78	0.76	0.56	0.50	0.32	前期前半										覆土上位に赤褐色土壌	図IV-33	図版16
P-20	Q18c/R18d	0.62	0.60	0.50	0.46	0.30	不明												
P-21	Q18b	0.76	0.66	0.48	0.41	0.32	不明												
P-22	R19d	0.76	0.72	0.52	0.48	0.30	不明												
P-23	K15b/L15a	1.95	1.61	2.18	2.00	1.53	後期前葉	フラスコ状土坑	図IV-34	図版16									
SP-1	K15b	0.34	0.32	0.26	0.24	—	不明												
P-24	R17b・c	0.84	0.74	0.62	0.52	0.30	不明												
P-25	R17a	0.74	0.62	0.68	0.54	0.28	前期前半	図IV-35				図版16							
P-26	R17d	0.58	0.56	0.46	0.46	0.30	不明												
P-27	U18b・c	1.18	1.10	0.88	0.82	0.32	前期前半												
P-28	T18b/U18a	0.87	0.80	0.68	0.70	0.24	前期前半												
P-29	U18a・b	0.76	0.70	0.52	0.38	0.36	前期前半												
P-30	U18c	0.62	0.55	0.41	0.41	0.29	前期前半												
P-31	(G23b・c/H23a・d)	—	0.94	(1.44)	0.68	0.38	不明						P-18と切り合う						
P-32	U18b/V18a	0.76	0.65	0.48	0.46	0.34	前期前半				図IV-36~39		図版16						
	L17b・c/M17a・d	1.36	1.27	1.80	1.75	1.14	後期前葉							フラスコ状土坑					
SP-1	L17b	0.30	0.22	0.10	0.08	0.24	不明												
SP-2	M17d	0.24	0.24	0.08	0.08	0.34	不明												
SP-3	M17d	0.28	0.28	0.14	0.13	0.18	不明												
SP-4	M17c	0.22	0.20	0.12	0.12	0.26	不明												
P-34	T18c/U18d	0.86	0.76	0.60	0.52	0.24	不明							図IV-37	図版16				
P-35	S20a・d	0.78	0.76	0.60	0.50	0.28	不明												
P-36	U18a・d	1.05	0.96	0.94	0.84	0.24	前期前半									覆土上位に赤褐色土壌			
P-37	T17b・c	0.76	0.75	0.58	0.42	0.30	前期前半									図IV-38	図版16		
P-38	I16a~d	2.00	1.24	(1.58)	0.72	0.64	後期前葉		P-88と切り合う										
P-39	T16d/T17a	0.92	0.80	0.62	0.58	0.38	前期前半												
P-40	U20d	0.70	0.58	0.54	0.44	0.34	前期前半		図IV-39	図版16									
P-41	V19a	0.60	0.52	0.42	0.36	0.18	前期前半												
P-42	V19c/W19d	0.62	0.58	0.48	0.44	—	不明												
P-43	V19c/W19d	0.82	0.80	0.66	0.62	0.25	前期前半	図IV-40				図版16							
P-44	T20c	0.70	0.58	0.60	0.58	0.24	不明												
P-45	U20d	0.64	0.62	0.54	0.48	0.20	不明												
P-46	V19d	0.68	0.64	0.54	0.46	0.22	前期前半											図IV-41	図版16
P-47	V19b	0.68	0.56	0.56	0.40	0.20	不明												
P-48	V19c・d	0.72	0.66	0.58	0.52	0.18	前期前半				覆土下位に赤褐色土壌								

遺構種別	遺構名	調査区	規模(m)					時期(縄文時代)	特徴	図番号	図版番号	
			上端		下端		深さ					
			長軸	短軸	長軸	短軸						
土坑	P-49	W19a	0.62	0.60	0.53	0.52	0.12	前期前半		図IV-54	図版18	
	P-50	U21b・c	0.98	(0.90)	0.68	0.64	0.20	前期前半		図IV-55	図版18	
	P-51	U18c/V18d	0.66	0.60	0.52	0.44	0.32	前期前半				
	P-52	W19c・d	0.62	0.58	0.44	0.42	0.26	不明		図IV-56		
	P-53	V18d	0.60	0.57	0.44	0.42	0.23	前期前半				
	P-54	V18d/V19a	0.82	0.70	0.61	0.49	0.33	前期前半	P-84と切り合う		図版18	
	P-55	W19d	0.82	0.80	0.68	0.68	0.20	前期前半				
	P-56	U19b/V19a	0.94	0.80	0.70	0.54	0.23	前期前半				
	P-57	U18b・c	0.65	0.64	0.50	0.45	0.27	前期前半		図IV-57		
	P-58	U18a	0.61	0.60	0.50	0.48	0.29	前期前半				
	P-59	U18a~d	0.85	0.83	0.76	0.76	0.25	前期前半				
	P-60	U18b	0.65	0.60	0.45	0.40	0.29	前期前半				
	P-61	U18c/U19b	0.64	0.57	0.50	0.46	0.20	前期前半				
	P-62	X21a	0.70	0.60	—	0.52	0.14	前期前半				
	P-63	Q17c	0.92	0.89	0.63	0.55	0.27	前期前半		図IV-58		
	P-64	U18b	0.58	0.57	0.44	0.46	0.30	前期前半				
	P-65	W21b	0.76	0.71	0.62	0.60	0.16	前期前半				
	P-66	V19a	0.73	0.68	0.64	0.57	0.25	前期前半	P-84と切り合う			
	P-67	V19a	0.60	0.55	0.48	0.38	0.26	前期前半				
	P-68	X21a・d	0.80	0.70	0.56	0.55	0.27	前期前半		図IV-59		
	P-69	V19b・c	0.71	0.59	0.61	0.51	0.22	前期前半				
	P-70	V19c・d	0.66	0.64	0.56	0.53	0.16	前期前半				
	P-71	J24b・c	—	—	1.30	1.20	0.72	前期後半	フラスコ状土坑	図IV-60	図版19	
	P-72	V19a・d	0.68	0.62	0.55	0.50	0.21	前期前半				
	P-73	U21a	0.64	0.54	0.56	0.46	0.60	不明		図IV-62		
	P-74	U20d/U21a	1.02	0.90	0.90	0.72	0.22	不明				
	P-75	V22a~d	0.88	0.74	0.56	0.46	0.30	不明				
	P-76	G18d/G19a	0.82	0.64	0.52	0.38	0.26	前期後半		図IV-63		
	P-77	G18a・b	1.02	0.84	0.66	0.58	0.28	前期後半			図版19	
	P-78	H18a~d	1.41	1.38	(1.50)	(1.44)	1.08	前期後半	フラスコ状土坑	図IV-64	図版19	
	P-79	V19a・b	0.61	0.56	0.47	0.44	0.25	前期前半		図IV-65	図版19	
	P-80	V19d	0.80	0.73	0.63	0.58	0.25	前期前半	覆土中位に赤褐色土壌	図IV-63	図版19	
	P-81	V19b	0.60	0.56	0.47	0.46	0.19	前期前半		図IV-65		
	P-82	W21b	0.94	0.92	0.81	0.81	0.29	前期前半	覆土上位に赤褐色土壌	図IV-64		
	P-83	W20a	0.60	0.54	0.40	0.38	0.26	前期前半				
	P-84	V18d/V19a	0.54	0.51	0.45	0.20	0.34	前期前半	P-54・66・84と切り合う	図IV-66		
P-85	V22c	0.84	0.80	0.67	0.65	0.34	前期前半					
P-86	V22c・d	0.76	0.74	0.64	0.63	0.16	不明					
P-87	U22c/V22d	0.76	0.74	0.58	0.54	0.31	不明					
P-88	I16a~d	—	2.24	—	2.07	0.66	後期前葉	道路側溝による攪乱を受ける	図IV-67			
P-89	W19a	0.66	0.64	0.60	0.56	0.22	不明					
P-90	G18b	0.80	0.70	0.52	0.42	0.18	前期後半			図版20		
P-91	K13d	0.82	0.70	0.70	0.70	0.51	後期前葉	覆土上位に赤褐色土壌	図IV-68	図版20		
P-92	K14b/L14a	0.77	0.51	0.44	0.37	0.46	後期前葉	坑底面に段あり		図版20		
P-93	E19a・b	—	0.97	1.82	1.71	1.31	前期後半	フラスコ状土坑	図IV-69	図版20		
P-94	K14a~d	1.62	1.61	2.52	2.41	1.58	後期前葉	フラスコ状土坑	図IV-70~72	図版21		
P-95	G15b・c	0.86	0.64	1.00	0.82	0.72	前期後半	フラスコ状土坑	図IV-73	図版21		
P-96	G15c	—	0.96	—	0.92	0.24	前期後半	H-11と切り合う		図版21		
焼土	F-1	H19c	0.24	0.22	—	—	0.04	不明(近世以降)				
	F-2	S17c・d	0.52	0.36	—	—	0.11	前期後半		図IV-74	図版22	
	F-3	S17c	—	0.88	—	—	0.08	前期後半	一部攪乱を受ける		図版22	
	F-7	V18c	0.42	0.30	—	—	0.08	前期後半				
	F-8	N19b・c	1.24	0.70	—	—	0.16	中期後半~後期前葉				
	F-9	(L16c/L17b)	—	0.56	—	—	0.12	不明	一部削平される	図IV-75	図版22	
	F-10	M17c	0.56	0.30	—	—	0.07	不明				
	F-11	R18b・c	0.50	0.22	—	—	0.07	前期後半				
	F-12	S18b	1.18	0.56	—	—	0.08	前期後半				
	F-13	S18b	0.50	0.24	—	—	0.06	前期後半				
	F-14	S18b	0.24	0.24	—	—	0.06	前期後半		図IV-76		
	F-15	T20c	0.62	0.48	—	—	0.05	前期後半				
	F-16	K18a	0.92	0.48	—	—	0.10	不明				
	F-17	M19c・d/M20a~c	3.63	(2.56)	—	—	0.24	不明			図版23	
	集石	S-2	F22a	1.60	1.50	—	—	—	不明	円礫多い	図IV-77	図版22
	剥片集中	FC-1	S17b~d	1.14	0.82	—	—	—	前期前半	F-2・3に隣接	図IV-77	図版22
		FC-2	T16c/T17b	0.46	0.32	—	—	—	前期前半			
FC-3		U17b・c	0.27	0.24	—	—	—	前期前半	一括土器3の下			
FC-4		U19c	0.70	0.50	—	—	—	前期前半				
FC-5		V19d	0.60	0.41	—	—	—	前期前半				
FC-6		V19d	1.00	0.63	—	—	—	前期前半				
FC-7		W19c・d	0.92	0.87	—	—	—	前期前半		図IV-78		
FC-9		V19c	0.42	0.22	—	—	—	前期前半				
FC-10		V20c	0.74	0.50	—	—	—	前期前半				

表2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
H-1	覆土	土器	I群b-3類		23	
		剥片石器	石鏃	頁岩	1	
			石槍・ナイフ類	頁岩	2	
			スクレイパー	頁岩	3	
			U剥片	頁岩	1	
			剥片	頁岩	129	
		礫石器	たたき石	頁岩	1	
				砂岩	1	
			砥石	安山岩	1	
			礫	凝灰岩	6	
			頁岩	1		
		砂岩	2			
	合計					171
	床面	土器	I群b-3類			27
		剥片石器	つまみ付きナイフ	頁岩	1	
			剥片	頁岩	1	
		礫石器	礫	凝灰岩	2	
合計					31	
総計					202	
H-2	覆土	土器	II群a類		8	
			III群b-3類		13	
			IV群a類		18	
		剥片石器	石鏃	頁岩	1	
			ヘラ状石器	頁岩	1	
				黒曜石	1	
			スクレイパー	頁岩	2	
		礫石器	剥片	頁岩	17	
				安山岩	2	
			礫	凝灰岩	5	
				珪質頁岩	3	
				頁岩	2	
				砂岩	1	
		泥岩	3			
	合計					77
	覆土3	剥片石器	剥片	頁岩	2	
	合計					2
	覆土7	礫石器	石斧	片岩	2	
			礫	珪質頁岩	1	
	合計					3
	床面	土器	III群b-3類			129
		剥片石器	剥片	頁岩	3	
			石核	頁岩	1	
		礫石器	たたき石	砂岩	1	
			礫	安山岩	5	
				凝灰岩	27	
				珪質頁岩	6	
頁岩				5		
		砂岩	3			
		泥岩	1			
合計					181	
HP-2	土器	III群b-3類			7	
	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1		
		剥片	頁岩	1		
	礫石器	石斧	片岩	2		
		石斧片	片岩	17		
合計					28	
HF-1	土器	III群b-3類			2	
	礫石器	扁平すり石	砂岩	1		
		礫	安山岩	6		
			凝灰岩	15		
	珪質頁岩	1				
合計					25	
総計					316	
H-3	覆土	土器	II群b類		1	
			IV群a類		553	
		剥片石器	石鏃	頁岩	2	
			スクレイパー	頁岩	1	
			U剥片	頁岩	1	
	礫石器	剥片	頁岩	106		
		石核	珪質頁岩	1		
		すり石	安山岩	1		
		断面三角形すり石	安山岩	1		
		たたき石	珪質頁岩	1		

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数			
H-3	覆土	礫石器	たたき石	砂岩	1			
			扁平打製石器	凝灰岩	1			
			砥石	砂岩	50			
				安山岩	8			
			礫	凝灰岩	11			
				珪質頁岩	41			
				頁岩	17			
				砂岩	19			
				泥岩	4			
				片岩	2			
			石製品	安山岩	1			
			合計					668
			入り口溝	土器	I群b-3類			1
	剥片石器	剥片		頁岩	1			
		礫石器	礫	凝灰岩	3			
	合計					5		
	HP-2	礫石器	礫	凝灰岩	1			
	合計					1		
	HP-3	礫石器	礫	凝灰岩	1			
	合計					1		
	HP-4	礫石器	礫	凝灰岩	1			
	合計					1		
	HP-6	土器	IV群a類			4		
		礫石器	礫	凝灰岩	2			
	合計					6		
HP-7	土器	IV群a類			48			
	礫石器	礫	凝灰岩	1				
			頁岩	3				
合計					52			
HP-8	土器	IV群a類			1			
合計					1			
総計					890			
H-4	覆土	土器	II群a類		2			
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1			
			剥片	頁岩	9			
		礫石器	礫	頁岩	1			
				砂岩	1			
	合計					14		
	床面	剥片石器	剥片	頁岩	1			
		礫石器	たたき石	頁岩	1			
			礫	頁岩	1			
			砂岩	1				
合計					4			
総計					18			
H-5	覆土	剥片石器	剥片	頁岩	2			
			扁平打製石器	凝灰岩	2			
		礫石器	礫	凝灰岩	1			
				珪質頁岩	3			
				頁岩	1			
	合計					9		
	床面	土器	IV群a類			13		
		礫石器	礫	凝灰岩	1			
	合計					14		
	風倒木	土器	I群b-4類			1		
			IV群a類			85		
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1			
			R剥片	頁岩	1			
		剥片	頁岩	22				
	礫石器	礫	安山岩	2				
			凝灰岩	6				
			珪質頁岩	5				
			頁岩	6				
			砂岩	10				
	泥岩	1						
合計					140			
HP-3	土器	IV群a類			1			
合計					1			
HP-6	土器	IV群a類			2			
	合計					2		
HP-9	土器	IV群a類			2			
	礫石器	礫	泥岩	1				
合計					3			
総計					169			

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
H-6	床面直上	剥片石器	石錐	頁岩	1
			U剥片	頁岩	1
			剥片	頁岩	8
		礫石器	たたき石	砂岩	1
			台石	安山岩	1
			礫	凝灰岩	2
				珪質頁岩	1
				頁岩	1
		砂岩	1		
		合計	17		
	床面	剥片石器	剥片	頁岩	2
		礫石器	礫	珪質頁岩	2
	HP-1	剥片石器	へら状石器	頁岩	1
			礫	凝灰岩	1
		合計	2		
総計					23
H-7	床面	土器	IV群a類		3
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			R剥片	頁岩	1
			U剥片	頁岩	2
			剥片	頁岩	47
		礫石器	礫・礫片	凝灰岩	4
合計	58				
H-9	床面	土器	IV群a類		3
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			R剥片	頁岩	1
			剥片	頁岩	4
			チャート	2	
		礫石器	石斧	片岩	1
			礫	凝灰岩	5
				珪岩	3
				頁岩	2
			砂岩	1	
		泥岩	1		
		礫片	凝灰岩	8	
	合計	32			
	HP-1	礫石器	礫	珪岩	1
			合計	1	
	HP-3	剥片石器	剥片	頁岩	1
			礫石器	礫	片岩
	合計	2			
	HF-1	剥片石器	剥片	頁岩	6
			礫石器	たたき石	安山岩
		礫	安山岩	4	
			凝灰岩	1	
			珪岩	3	
礫片	砂岩	1			
	珪岩	7			
凝灰岩	12				
合計	35				
総計					70
H-10	HP-1	土器	IV群a類		20
		合計	20		
	HP-2	剥片石器	剥片	頁岩	1
			礫石器	礫	頁岩
	合計	2			
	HP-3	土器	II群b類		1
			IV群a類		3
	合計	4			
	HP-5	剥片石器	剥片	頁岩	3
			合計	3	
HP-6	土器	IV群a類		1	
		礫石器	礫	チャート	1
合計	2				
総計					31

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
H-11	覆土	土器	II群b類		1	
		礫石器	礫	砂岩	1	
		合計	2			
	覆土1	剥片石器	II群b類		1638	
			石槍片	頁岩	1	
			スクレイパー	頁岩	4	
			スクレイパー片	頁岩	1	
			R剥片	頁岩	2	
			U剥片	頁岩	3	
			剥片	頁岩	50	
				黒曜石	1	
			礫石器	砥石	砂岩	1
				台石	凝灰岩	1
		礫	軽石	3		
			珪質頁岩	9		
頁岩	3					
砂岩	4					
チャート	1					
泥岩	3					
片岩	1					
礫片	砂岩	1				
合計	1727					
覆土2	土器	II群b類		13		
		スクレイパー	頁岩	1		
	剥片石器	スクレイパー片	頁岩	1		
		剥片	頁岩	7		
	礫石器	礫	安山岩	1		
	合計	23				
床直	土器	II群b類		14		
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
	スクレイパー片	頁岩	1			
		R剥片	頁岩	1		
		U剥片	頁岩	3		
		剥片	頁岩	7		
	礫石器	石のみ	緑色泥岩	1		
		すり石	砂岩	1		
		礫	凝灰岩	1		
		礫片	角閃岩	1		
			玄武岩	1		
		砂岩	1			
	合計	33				
攪乱	土器	II群		2		
	合計	2				
総計					1787	
H-12	HP-5	剥片石器	剥片	頁岩	1	
			合計	1		
	HP-6	土器	IV群a類		1	
			合計	1		
	HP-7	土器	IV群a類		2	
剥片石器			剥片	頁岩	3	
合計	5					
総計					7	
H-13	HP-1	土器	II群b類		2	
		剥片石器	剥片	頁岩	1	
合計	3					
H-14	HF-1	剥片石器	剥片	頁岩	1	
			礫石器	たたき石	凝灰岩	1
		礫片	凝灰岩	2		
総計	4					
H-15	覆土	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
			合計	1		
	床面	剥片石器	剥片	頁岩	8	
			礫石器	たたき石	安山岩	1
		礫	凝灰岩	1		
			頁岩	1		
	合計	11				
HP-2	剥片石器	剥片	頁岩	1		
		合計	1			
総計					13	

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
P-1	覆土	礫石器	有意の礫	珪質頁岩	1
			総計		1
P-2	覆土	礫石器	たたき石	凝灰岩	1
			礫	珪質頁岩	1
			礫・礫片	安山岩	1
総計	3				
P-3	覆土	土器	II群b類		22
		礫石器	たたき石	砂岩	1
	合計				23
	坑底	土器	II群b類		3
合計				3	
総計					26
P-4	覆土	剥片石器	剥片	頁岩	3
			礫石器	たたき石	砂岩
		礫石器	有意の礫	軽石	1
			礫・礫片	珪質頁岩	2
				凝灰岩	3
総計					10
P-5	覆土	土器	IV群a類		2
			礫石器	礫	凝灰岩
		礫石器	礫	珪質頁岩	4
				頁岩	2
				砂岩	1
総計					11
P-6	覆土	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
		礫石器	礫	珪質頁岩	1
総計					2
P-7	覆土	土器	I群b-3類		2
総計					2
P-8	覆土	土器	II群a類		3
			III群b-3類		1
		土製品	再生土製円盤		1
		剥片石器	剥片	頁岩	4
		礫石器	礫	安山岩	1
				凝灰岩	2
				砂岩	2
	合計				14
	覆土上位	土器	III群b-3類		2
		剥片石器	剥片	頁岩	43
		礫石器	たたき石	凝灰岩	1
				珪質頁岩	1
				頁岩	1
	合計				50
覆土中位	土器	II群a類		5	
		III群b-3類		1	
	剥片石器	石錐	頁岩	1	
		剥片	頁岩	38	
合計				46	
総計					110
P-10	覆土	土器	II群a類		2
			剥片石器	スクレイパー	頁岩
		剥片石器	剥片	頁岩	1
				黒曜石	3
				合計	
	覆土1	土器	II群a類		2
			II群b類		3
		剥片石器	石鏃	頁岩	1
			剥片	頁岩	9
		礫石器	砥石	砂岩	1
				凝灰岩	2
珪質頁岩	1				
礫石器	礫	砂岩	2		
		頁岩	2		
		片麻岩	1		
合計				24	
総計					31
P-11	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	1
		礫石器	礫	珪質頁岩	1
総計					2

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
P-12	坑底	土器	IV群a類		2
		礫石器	礫	珪質頁岩	2
総計					4
P-15	覆土1	剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩	1
総計					1
P-16	覆土1	剥片石器	石鏃	頁岩	1
			剥片	頁岩	2
		礫石器	礫	珪質頁岩	1
総計					4
P-18	覆土	剥片石器	ヘラ状石器	頁岩	2
			剥片	頁岩	12
	合計				14
	覆土上位	土器	I群b-3類		1
			II群b類		5
	合計				6
覆土中位	土器	I群b-3類		2	
		II群b類		4	
合計				6	
坑底	剥片石器	剥片	頁岩	2	
合計				2	
総計					28
P-19	覆土1	土器	II群a類		9
		剥片石器	剥片	頁岩	43
	合計				52
	覆土2	剥片石器	剥片	頁岩	3
				合計	
焼土中	土器	II群a類		3	
		剥片石器	剥片	頁岩	163
	剥片石器	剥片	黒曜石	1	
合計			167		
総計					222
P-21	覆土下	礫石器	礫	砂岩	4
総計					4
P-22	覆土上	礫石器	たたき石	頁岩	1
			合計		1
	覆土1	土器	I群b-4類		1
礫石器			礫	砂岩	1
礫石器	礫	凝灰岩	1		
		合計		3	
総計					4
P-23	覆土	土器	I群b-4類		1
			IV群a類		266
		剥片石器	U剥片	頁岩	1
			剥片	頁岩	43
				黒曜石	1
		礫石器	たたき石	凝灰岩	1
				砂岩	1
				安山岩	4
				凝灰岩	18
				珪質頁岩	22
	礫・礫片	礫	頁岩	22	
			砂岩	16	
			泥岩	3	
			凝灰岩	4	
珪質頁岩			3		
礫・礫片	礫	頁岩	1		
		砂岩	1		
		砂岩	1		
		泥岩	2		
合計				410	
坑底	土器	IV群a類		214	
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
	R剥片		頁岩	1	
	剥片石器	剥片	頁岩	12	
			石斧	泥岩	1
	礫石器	礫	安山岩	6	
			凝灰岩	16	
			珪質頁岩	3	
			頁岩	3	
			砂岩	1	
片岩			1		
礫・礫片	礫	安山岩	1		
		凝灰岩	15		
		珪質頁岩	11		
		頁岩	3		
礫・礫片	礫	砂岩	3		
		砂岩	51		

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
P-23	坑底	礫石器	礫・礫片	チャート	1	
				泥岩	3	
		石製品		橄欖岩	1	
			合計		340	
	総計				755	
P-24	覆土	土器	I群b-4類		1	
			II群a類		2	
		剥片石器	石鏃	頁岩	1	
			つまみ付きナイフ	頁岩	1	
			剥片	頁岩	3	
		礫石器	礫	安山岩	1	
		砂岩	3			
	総計				12	
P-25	覆土	土器	II群a類		54	
			剥片石器	石鏃	頁岩	1
			剥片	頁岩	15	
				黒曜石	1	
		礫石器	礫	珪質頁岩	1	
				砂岩	1	
	総計				73	
P-26	覆土	剥片石器	R剥片	頁岩	1	
			剥片	頁岩	1	
		礫石器	断面三角形すり石	砂岩	1	
	総計				3	
P-27	覆土	土器	II群a類		14	
			剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			合計			15
	覆土1	土器	II群a類		64	
		剥片石器	剥片	頁岩	3	
			黒曜石	1		
	合計			68		
	総計				83	
P-28	覆土1	土器	II群a類		1	
			剥片石器	剥片	頁岩	1
		礫石器	すり石	砂岩	1	
	総計				3	
P-29	覆土1	土器	II群a類		1	
			剥片石器	剥片	頁岩	4
		礫石器	礫	凝灰岩	2	
	総計				7	
P-31	覆土	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
			U剥片	頁岩	1	
			剥片	頁岩	1	
		礫石器	たたき石	砂岩	1	
			礫	砂岩	1	
		合計			5	
坑底	剥片石器	剥片	頁岩	2		
	合計			2		
	総計				7	
P-33	覆土	土器	IV群a類		27	
			剥片石器	石鏃	頁岩	1
				スクレイパー	頁岩	2
				剥片	頁岩	39
		礫石器	礫	安山岩	7	
				凝灰岩	42	
				珪質頁岩	11	
				頁岩	3	
				砂岩	4	
			泥岩	3		
		合計			139	
	覆土10	土器	IV群a類		22	
		剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩	1	
剥片			頁岩	2		
礫石器		断面三角形すり石	安山岩	2		
		たたき石	泥岩	1		
		礫	安山岩	3		
			凝灰岩	32		
			珪質頁岩	11		
	頁岩	3				
	砂岩	1				
	合計			78		
	総計				217	

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
P-34	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	1
			総計		1
P-36	覆土	礫石器	礫	砂岩	1
				合計	1
	焼土	剥片石器	剥片	頁岩	10
				合計	10
	総計				11
P-38	覆土	土器	IV群a類		202
			剥片石器	U剥片	頁岩
			剥片	頁岩	30
		礫石器	砥石	砂岩	1
				安山岩	3
			礫	凝灰岩	10
				珪質頁岩	9
				頁岩	4
			砂岩	3	
			泥岩	2	
		石製品	泥岩	1	
		合計			266
	坑底	土器	IV群a類		41
礫石器			礫	安山岩	1
		合計			42
	総計				308
P-39	覆土1	土器	II群a類		8
			剥片石器	剥片	頁岩
		礫石器	礫	凝灰岩	1
		総計			
P-40	覆土	剥片石器	U剥片	頁岩	2
				合計	2
	覆土1	土器	II群a類		6
	合計			6	
	総計				8
P-41	覆土	土器	II群a類		3
			剥片石器	剥片	頁岩
	総計				4
P-42	覆土	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			剥片	頁岩	2
		礫石器	礫	砂岩	1
	総計				4
P-43	覆土	土器	II群a類		10
			IV群a類		1
		剥片石器	剥片	頁岩	27
			礫石器	たたき石	凝灰岩
			礫	珪質頁岩	1
		合計			40
覆土下	礫石器	礫	安山岩	1	
	合計			1	
	総計				41
P-44	覆土	剥片石器	石鏃	頁岩	1
			石錐	頁岩	1
			剥片	頁岩	7
		合計			9
覆土1	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
		剥片	頁岩	7	
	合計			8	
	総計				17
P-45	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	13
				黒曜石	2
	総計				15
P-46	覆土	土器	II群a類		5
			剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩
			スクレイパー	頁岩	1
			U剥片	頁岩	1
			剥片	頁岩	16
		礫石器	断面三角形すり石	安山岩	1
		合計			25
	覆土1	土器	II群a類		1
	剥片石器	剥片	頁岩	15	
	合計			16	
	総計				41

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
P-48	覆土	土器	II群a類		2	
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
			剥片	頁岩	14	
		礫石器	たたき石	頁岩	1	
			礫	珪質頁岩	1	
		砂岩	1			
総計					20	
P-49	覆土	土器	II群a類		5	
		剥片石器	剥片	頁岩	51	
			合計			
	覆土1	土器	II群a類		2	
		剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩	1	
			剥片	頁岩	98	
	合計					101
	覆土2	土器	II群a類		4	
		剥片石器	へら状石器	頁岩	1	
			剥片	頁岩	46	
	合計					51
	坑底	礫石器	礫	珪質頁岩	1	
				砂岩	1	
合計				2		
総計					210	
P-50	覆土	土器	II群a類		45	
		剥片石器	剥片	頁岩	19	
		礫石器	礫	砂岩	6	
		総計				
P-51	覆土1	土器	II群a類		4	
		剥片石器	剥片	頁岩	2	
		礫石器	礫	安山岩	1	
				凝灰岩	1	
総計					8	
P-52	覆土	剥片石器	剥片	頁岩	18	
		合計				18
	覆土上	礫石器	礫	頁岩	1	
合計					1	
総計					19	
P-53	覆土1	礫石器	礫	安山岩	1	
総計					1	
P-54	覆土	土器	II群a類		2	
		剥片石器	剥片	頁岩	3	
		合計				5
	覆土1	土器	II群a類		122	
		剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩	1	
			へら状石器	頁岩	1	
			スクレイパー	頁岩	1	
	剥片	頁岩	583			
礫石器	礫	頁岩	1			
合計					709	
総計					714	
P-55	覆土	土器	II群a類		1	
		剥片石器	U剥片	頁岩	1	
			剥片	頁岩	35	
		礫石器	礫	砂岩	1	
総計					38	
P-56	覆土1	剥片石器	石鏃	頁岩	1	
			剥片	頁岩	4	
		礫石器	礫	不明	7	
総計					12	
P-57	覆土1	土器	II群a類		7	
		剥片石器	剥片	頁岩	3	
総計					10	
P-59	覆土1	剥片石器	U剥片	頁岩	1	
			剥片	頁岩	2	
		礫石器	礫	珪質頁岩	1	
総計					4	
P-61	覆土	剥片石器	剥片	頁岩	2	
		合計				2
	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	1	
		礫石器	礫・礫片	砂岩	1	
合計					2	
総計					4	

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
P-63	覆土	土器	I群b-3類		3	
		剥片石器	剥片	頁岩	2	
		礫石器	礫	頁岩	3	
				砂岩	1	
			泥岩	2		
総計					11	
P-66	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	1	
総計					1	
P-67	覆土	土器	II群a類		3	
		剥片石器	剥片	頁岩	6	
	合計					9
	覆土1	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
			剥片	頁岩	27	
		礫石器	礫	凝灰岩	1	
				珪質頁岩	1	
				砂岩	1	
	泥岩	1				
合計					32	
総計					41	
P-68	覆土	剥片石器	剥片	頁岩	1	
		合計				1
	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	1	
合計					1	
総計					2	
P-69	覆土1	礫石器	礫	安山岩	1	
総計					1	
P-70	覆土	土器	II群a類		1	
		剥片石器	剥片	頁岩	18	
		礫石器	礫	砂岩	2	
	合計					21
	覆土1	土器	II群a類		1	
		剥片石器	剥片	頁岩	16	
礫石器		たたき石	砂岩	1		
	礫・礫片		砂岩	3		
合計					21	
総計					42	
P-71	覆土	土器	II群b類		82	
		剥片石器	剥片	頁岩	1	
		礫石器	礫	砂岩	1	
	合計					84
坑底	土器	II群b類		81		
合計					81	
総計					165	
P-72	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	4	
		礫石器	石斧	泥岩	1	
			礫・礫片	泥岩	1	
総計					6	
P-74	覆土	土器	II群b類		1	
			IV群a類		1	
		剥片石器	剥片	頁岩	3	
	合計					5
	覆土1	礫石器	たたき石	安山岩	1	
		礫・礫片	砂岩	1		
合計					2	
総計					7	
P-75	覆土1	剥片石器	剥片	頁岩	1	
		礫石器	礫	砂岩	1	
総計					2	
P-76	覆土	土器	II群b類		2	
		礫石器	礫・礫片	凝灰岩	8	
				頁岩	1	
	合計					11
坑底	礫石器	礫・礫片	凝灰岩	1		
合計					1	
総計					12	
P-77	覆土	土器	II群b類		50	
		剥片石器	剥片	頁岩	3	
		礫石器	礫・礫片	凝灰岩	5	
総計					58	

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
P-78	覆土	土器	II群b類		4
		剥片石器	つまみ付きナイフ	頁岩	1
		礫石器	礫・礫片	砂岩	1
				合計	6
	坑底	土器	II群b類		1
		剥片石器	スクレイパー	珪質頁岩	1
			剥片	頁岩	1
		礫石器	礫・礫片	凝灰岩	6
				合計	9
		総計			15
P-79	覆土1	土器	II群a類		42
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			剥片	頁岩	5
			合計	48	
	覆土2	土器	II群a類		2
		剥片石器	剥片	頁岩	10
		礫石器	礫・礫片	頁岩	1
				砂岩	1
		合計	14		
		総計			62
P-80	覆土1	土器	II群a類		7
		剥片石器	剥片	頁岩	72
		礫石器	たたき石	片岩	3
			礫	安山岩	1
			礫・礫片	凝灰岩	3
		合計	86		
	覆土2	土器	II群a類		2
		剥片石器	剥片	頁岩	16
		礫石器	礫・礫片	凝灰岩	1
				砂岩	1
	合計	20			
	総計			106	
P-82	覆土	剥片石器	剥片	頁岩	2
		礫石器	礫・礫片	砂岩	1
				泥岩	1
			合計	4	
	覆土1	土器	II群a類		2
		剥片石器	剥片	頁岩	32
		礫石器	扁平すり石	安山岩	1
	原石	片岩	1		
	合計	36			
	総計			40	
P-83	覆土	土器	I群b-3類		2
			II群a類		12
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			剥片	頁岩	54
	礫石器	礫・礫片	砂岩	1	
	総計	70			
P-84	覆土1	土器	II群a類		3
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			U剥片	頁岩	1
			剥片	頁岩	10
	礫石器	砥石	安山岩	1	
	総計	16			
P-85	覆土	土器	II群a類		1
		剥片石器	剥片	頁岩	2
		礫石器	礫・礫片	砂岩	3
		総計	6		
P-86	覆土	礫石器	礫・礫片	砂岩	1
		総計	1		
P-88	覆土	土器	IV群a類		12
		剥片石器	剥片	頁岩	2
		礫石器	礫・礫片	珪質頁岩	1
		総計	15		
P-90	覆土	土器	II群b類		3
		総計	3		
P-91	覆土	土器	IV群a類		28
		剥片石器	剥片	珪質頁岩	1
			頁岩	1	
	総計	30			
P-92	覆土	剥片石器	R剥片	頁岩	1
		総計	1		

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
P-93	覆土	土器	II群b類		8
			IV群a類		1
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			剥片	頁岩	1
		礫石器	礫	珪質頁岩	1
			礫片	砂岩	1
			泥岩	1	
		合計	14		
	坑底	土器	II群b類		14
		礫石器	礫	凝灰岩	1
		礫片	凝灰岩	13	
	合計	28			
	総計			42	
P-94	覆土	土器	IV群a類		116
		剥片石器	R剥片	頁岩	1
			剥片	頁岩	25
			石核	頁岩	1
		礫石器	たたき石	頁岩	1
				砂岩	4
				泥岩	2
				片岩	1
			扁平打製石器	安山岩	1
			台石	凝灰岩	2
			台石片	凝灰岩	1
			くぼみ石	凝灰岩	4
				砂岩	1
			礫	安山岩	4
			凝灰岩	3	
			珪岩	8	
			頁岩	4	
			砂岩	4	
			泥岩	8	
		礫片	砂岩	2	
	合計	193			
坑底	土器	IV群a類		7	
	剥片石器	R剥片	頁岩	1	
		剥片	頁岩	5	
		石核	頁岩	3	
	礫石器	たたき石	凝灰岩	1	
			瑪瑙	1	
		たたき石片	凝灰岩	1	
		台石	凝灰岩	1	
		台石片	凝灰岩	2	
		くぼみ石	凝灰岩	2	
		くぼみ石片	凝灰岩	2	
礫		安山岩	6		
		凝灰岩	16		
		珪岩	10		
	頁岩	5			
	砂岩	5			
	泥岩	4			
	片岩	1			
	瑪瑙	1			
	緑色泥岩	1			
	礫片	凝灰岩	10		
石製品	凝灰岩	2			
	合計	87			
	総計	280			
P-95	覆土	土器	II群b類		13
		剥片石器	剥片	頁岩	1
	総計	14			
P-96	覆土	礫石器	礫	凝灰岩	2
			総計	2	

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
F C-1	II	土器	II群a類		25	
		剥片石器	石鏃	頁岩	1	
			石槍・ナイフ類	頁岩	1	
			つまみ付きナイフ	頁岩	1	
			スクレイパー	頁岩	14	
			R剥片	頁岩	3	
			U剥片	頁岩	2	
			剥片	頁岩	453	
		礫石器	砥石	安山岩	1	
				砂岩	2	
			礫	安山岩	1	
				珪質頁岩	3	
				頁岩	3	
		砂岩	2			
		総計				
F C-2	II	土器	II群a類		3	
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	2	
			剥片	頁岩	224	
		総計				
F C-3	II下	土器	II群a類		4	
		剥片石器	剥片	頁岩	105	
		礫石器	礫	砂岩	1	
		総計				
F C-4	II中	土器	II群a類		2	
		剥片石器	剥片	頁岩	234	
		礫石器	石斧	片岩	1	
			礫	珪質頁岩	2	
総計					239	
F C-5	II中	土器	II群a類		12	
		剥片石器	剥片	頁岩	162	
		礫石器	礫	砂岩	2	
		総計				
F C-6	II中	土器	II群a類		7	
		剥片石器	石鏃	頁岩	1	
			スクレイパー	頁岩	1	
			R剥片	頁岩	1	
			剥片	頁岩	540	
		礫石器	礫	凝灰岩	1	
				珪質頁岩	1	
				頁岩	2	
				砂岩	3	
総計					557	
F C-7	II	土器	II群a類		9	
		剥片石器	へら状石器	頁岩	1	
			剥片	頁岩	488	
		礫石器	礫	頁岩	1	
	合計					499
	II中	剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩	1	
		合計				
覆土	剥片石器	剥片	頁岩	65		
	合計					65
総計					565	
F C-8	II中	土器	II群a類		37	
総計					37	
F C-9	II	剥片石器	スクレイパー	頁岩	1	
			剥片	頁岩	710	
		礫石器	断面三角形すり石	砂岩	1	
		総計				
F C-10	II	土器	I群b-3類		1	
			II群a類		23	
		剥片石器	石槍・ナイフ類	頁岩	1	
			剥片	頁岩	425	
				黒曜石	1	
		礫石器	たたき石	凝灰岩	1	
			礫	安山岩	1	
				珪質頁岩	1	
				砂岩	5	
総計					459	

遺構名	層位 又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
F-3	焼土	土器	II群a類		11
		剥片石器	スクレイパー	頁岩	1
			剥片	頁岩	22
		礫石器	砥石	砂岩	1
			礫	砂岩	1
		総計			
F-10	II	土器	II群a類		6
		剥片石器	剥片	頁岩	20
		礫石器	礫	珪質頁岩	1
総計					27
F-12	II	剥片石器	剥片	頁岩	13
総計					13
F-15	焼土	剥片石器	剥片	頁岩	1
		総計			
S-2	II	礫石器	石斧	泥岩	1
			有意の礫	凝灰岩	5
				珪質頁岩	9
			砂岩	4	
		礫・礫片	凝灰岩	142	
総計					161

表3 遺構出土土器一覽

合計/点数	遺構種別	遺構名	分類				合計			
			I群b-3類	I群b-4類	II群a類	II群b類		III群b-3類	IV群a類	
住居跡	H-1		50					50		
	H-2				8		151	18	177	
	H-3		1			1		606	608	
	H-4				2				2	
	H-5			1				103	104	
	H-7						2	1	3	
	H-9							3	3	
	H-10					1		24	25	
	H-11					1668			1668	
	H-12							3	3	
	H-13					2			2	
	計			51	1	10	1672	153	758	2645
	土坑	P-3					25			25
P-5								2	2	
P-7			2						2	
P-8					8		4		12	
P-10					4	3			7	
P-12								2	2	
P-18			3			9			12	
P-19					12				12	
P-22				1					1	
P-23				1				480	481	
P-24				1	2				3	
P-25					54				54	
P-27					78				78	
P-28					1				1	
P-29					1				1	
P-33								49	49	
P-38								243	243	
P-39					8				8	
P-40					6				6	
P-41					3				3	
P-43					10			1	11	
P-46					6				6	
P-48					2				2	
P-49					11				11	
P-50					45				45	
P-51					4				4	
P-54					124				124	
P-55					1				1	
P-57					7				7	
P-63			3						3	
P-67					3				3	
P-70					2				2	
P-71							163		163	
P-74							1	1	2	
P-76							2		2	
P-77						50		50		
P-78						5		5		
P-79				44				44		
P-80				9				9		
P-82				2				2		
P-83		2		12				14		
P-84				3				3		
P-85				1				1		
P-88							12	12		
P-90						3		3		
P-91							28	28		
P-93						22	1	23		
P-94							123	123		
P-95						13		13		
計			10	3	463	296	4	942	1718	
剥片集中	F C-1				25				25	
	F C-2				3				3	
	F C-3				4				4	
	F C-4				2				2	
	F C-5				12				12	
	F C-6				7				7	
	F C-7				9				9	
	F C-8				37				37	
	F C-10		1		23				24	
	計			1	0	122	0	0	0	123
焼土	F-3				11				11	
	F-10				6				6	
計				17		0	0	0	17	
合計			62	4	612	1968	157	1700	4503	

表4 遺構出土石器等一覧

遺構種別	遺構名	分類																合計							
		石鏃	石錐	石槍・ナイフ	つまみ付きナイフ	籠状石器	スクレイパー	石核	R剥片	U剥片	剥片	石斧	石のみ	たたき石	台石	扁平打製石器	砥石		すり石	石皿	石錘	加工痕のある礫	礫・礫片	石製品	
住居跡	H-1	1		2	1	3			1	130			2						1			11		152	
	H-2	1			1	1	3	1		23	21		2					1				85		139	
	H-3	2							1	108			2			50	2				1	115	1	282	
	H-4					1				10			1									4		16	
	H-5					1			1	24				1									37		64
	H-6		1		1					10				1						1			8		23
	H-7					1			1	2	47												4		55
	H-9					1			1	13	1		1										50		67
	H-10									4													2		6
	H-11			1			9		3	6	65		1		1		1	1					31		119
	H-12									4															4
	H-13									1															1
	H-14									1				1									2		4
	H-15						1			9			1										2		13
	計		4	1	3	3	1	20	1	6	11	449	22	1	11	2	51	4	2		1	351	1	945	
土坑	P-1																				1		1		
	P-2												1									2		3	
	P-3												1											1	
	P-4									3			1									6		10	
	P-5																					9		9	
	P-6					1																1		2	
	P-8		1							86			1									9		97	
	P-10	1				1				15						1						6		24	
	P-11									1												1		2	
	P-12																					2		2	
	P-15			1																				1	
	P-16	1								2												1		4	
	P-18					2				14															16
	P-19									210															210
	P-21																					4		4	
	P-22												1									2		3	
	P-23					1		1	1	56	1		1							1		210	1	273	
	P-24	1			1					3												4		9	
	P-25	1								16												2		19	
	P-26								1	1								1						3	
	P-27					1				4														5	
	P-28									1								1						2	
	P-29									4												2		6	
	P-31					1			1	3			1									1		7	
	P-33	1		1		2				41			1				2					120		168	
	P-34									1														1	
	P-35									10												1		11	
	P-38									1	30						1					32	1	65	
	P-39									33												1		34	
	P-40									2														2	
	P-41									1														1	
	P-42					1				2												1		4	
	P-43									27				1								2		30	
	P-44	1	1			1				14														17	
	P-45									15														15	
	P-46			1		1			1	31								1						35	
	P-48					1				14			1										2		18
	P-49			1		1				195													2		199
P-50									19													6		25	
P-51									2													2		4	
P-52									18													1		19	
P-53																						1		1	
P-54			1		1	1			586													1		590	
P-55									1	35												1		37	
P-56	1								4												7		12		
P-57									3														3		
P-59								1	2													1		4	
P-61									3													1		4	
P-63									2													6		8	
P-66									1															1	

合計/点数		分類																	合計						
遺構種別	遺構名	石鏃	石錐	石槍・ナイフ	つまみ付きナイフ	筒状石器	スクレイパー	石核	R剥片	U剥片	剥片	石斧	石のみ	たたき石	台石	扁平打製石器	砥石	すり石		石皿	石錘	加工痕のある礫	礫・礫片	石製品	
土坑	P-67						1				6												31	38	
	P-68										2													2	2
	P-69																						1	1	
	P-70										34			1									5	40	
	P-71										1												1	2	
	P-72										4	1											1	6	
	P-74										3			1									1	5	
	P-75										1												1	2	
	P-76																						10	10	
	P-77										3												5	8	
	P-78				2						1												7	10	
	P-79						1				15												2	18	
	P-80										88												7	95	
	P-82										34								1				3	38	
	P-83						1				54												1	56	
	P-84						1			1	10									1					13
	P-85										2												3	5	
	P-86																						1	1	
	P-88										2												1	3	
	P-91										2														2
P-92									1															1	
P-93						1				1													17	19	
P-94								6	2		28			12	15	1							93	157	
P-95											1													1	
P-96																							2	2	
計		7	2	5	3	4	17	6	5	9	1800	2		24	15	1	2	6	1	1		644	2	2556	
剥片集中	FC-1	1		1	1		14		3	2	454											12		488	
	FC-2				1		1				224														226
	FC-3										105												1		106
	FC-4										234	1											2		237
	FC-5										162												2		164
	FC-6	1					1		1		540												7		550
	FC-7			1		1					553												1		556
	FC-9						1				710								1						712
	FC-10			1							426			1									7		435
	計		2		3	2	1	17		4	2	3408	1		1			1	1				32		3474
焼土	F-3						1				22						1						1	25	
	F-10										20												1	21	
	F-12										13													13	
	F-15										1													1	
計						1				56						1						2	60		
集石	S-1																						129	129	
	S-2											1											160	161	
計											1												289	290	
合計		13	3	11	8	6	55	7	15	22	5713	26	1	36	17	1	54	11	3	1	1	1318	3	7325	

表5 遺構出土掲載土器一覽

遺構名	図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考		
H-1	図IV-3-1	a	H-1・39×5	覆土	胴部	I b-3	図版33	同一個体	
		b	H-1・61×1	床面					
	計6	H-1・39×2	覆土						
	図IV-3-2	H-1・61×1	床面						
	図IV-3-3	H-1・1×1	床面						
図IV-3-4	H-1・1×1	床面							
図IV-3-5	H-1・20×1, H-1・23×1	計2	覆土	胴部					
H-2	図IV-6-1	H-2・1×10, H-2・2×1	計11	床面	復元個体(口縁~胴部)	III b-3	図版25	HP-2	
	図IV-6-2	H-2・83×23, H-2・85×1	計24	床面	復元個体(口縁~胴部)				
	図IV-6-3	H-2・3×8		床面	復元個体(口縁~底部)				
	図IV-6-4	H-2・76×1		床面	胴部				
	図IV-6-5	H-2・70×2		床面	胴部				
	図IV-6-6	H-2・112×6		覆土	口縁部				
	図IV-6-7	H-2・81×1		床面	胴部				
	図IV-6-8	H-2・13×3		床面	胴部				
	図IV-6-9	H-2・85×1, H-2・98×1	計2	床面	胴部				
	図IV-6-10	H-2・80×1, H-2・86×1	計2	床面	胴部				
	図IV-6-11	H-2・72×1, H-2・74×3, H-2・75×2	計6	床面	胴部				
H-3	図IV-10-1	H-3・9×3	覆土	II	IV a	図版25	HP-6		
		M18・8×1	計4					復元個体(口縁~胴部)	
	図IV-10-2	a	H-3・7×2	覆土				口縁部	
		b	P-33・61×1					口縁部	
		c	M18・4×3					胴部	
	図IV-10-3	a	H-3・7×1	覆土				口縁部	
		b	J18・3×1					胴部	
	図IV-10-4	H-3・7×1	覆土	口縁部					
	図IV-10-5	a	H-3・5×1					胴部	
		b	H-3・7×1	覆土				胴部	
		c	H-3・4×1					底部	
	図IV-10-6	a	M19・3×3					II	胴部
		b	H-3・5×1	覆土				胴部	
	図IV-10-7	a	H-3・4×1					口縁部	
		b	H-3・4×2	覆土				口縁部	
		c	H-3・4×3					胴部	
	図IV-10-8	a	I16・4×15					II	口縁~胴部
		b	H-3・4×1, H-3・7×2	計3				覆土	胴部
	図IV-10-9	H-3・4×1		覆土				胴部	
	図IV-10-10	H-3・7×2		覆土				胴部	
	図IV-10-11	H-3・4×1		覆土				胴部	
	図IV-10-12	H-3・7×1		覆土				胴部	
	図IV-10-13	H-3・7×1		覆土				胴部	
図IV-11-14	H-3・66×2		覆土	口縁部					
図IV-11-15		H-3・7×2	覆土	口縁部					
		K20・2×1	計3	II					
図IV-11-16	a	H-3・10×14		口縁部					
	b	H-3・4×4	覆土	胴部					
図IV-11-17	H-3・4×1, H-3・7×22	計23	覆土	胴部					
図IV-11-18	H-3・11×1		覆土	底部					
図IV-11-19		H-3・5×1	覆土	底部					
		L19・2×1	計2	II					
図IV-11-20	H-3・4×2		覆土	底部					
図IV-11-21	H-3・4×1		覆土	底部					
図IV-11-22	H-3・7×5		覆土	底部					
図IV-11-23	H-3・9×1		覆土	底部					
H-4	図IV-12-1	H-4・12×1	覆土	胴部	II a	図版36			
	図IV-12-2	H-4・13×1	覆土	胴部					
H-5	図IV-14-1		H-5・1×1	床面	IV a	図版25			
			J18・4×4, J18・5×1, J18・6×2	計8				II	復元個体(胴部~底部)
	図IV-14-2	H-5・20×1		風倒木				口縁部	
	図IV-14-3	H-5・21×1		風倒木				口縁部	
	図IV-14-4	H-5・20×1		風倒木				口縁部	
図IV-14-5	H-5・17×1		覆土	胴部					
H-7	図IV-16-1	H-7・16×1	床面	胴部	IV a	図版36			
H-9	図IV-19-1	a	H-9・56×2	床面	胴部	IV a	図版36	同一個体	
		b	H-9・56×1		胴部				
H-10	図IV-20-1	H-10・8×1	覆土	口縁部	IV a	図版36	HP-1		
	図IV-20-2	H-10・8×1	覆土	口縁部					
	図IV-20-3	H-10・8×7	覆土	胴部					

遺構名	図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考						
H-11	図IV-23-1	a	H-11・6×3	覆土1	口縁部	II b	図版36	同一個体					
		b	H-11・5×2, H-11・11×19, H-11・12×8, H-11・15×1		計30				口縁～胴部				
	図IV-23-2	a	H-11・2×3	覆土1	口縁部				胴部	同一個体			
		b	H-11・5×2, H-11・7×2		計4								
	図IV-23-3	a	H-11・9×13	覆土1	口縁部		胴部	同一個体					
		b	H-11・9×2										
		c	H-11・7×4										
	図IV-23-4		H-11・2×4	覆土1	口縁部		図版37	同一個体					
			G15・3×3		II								
	図IV-23-5	a	H-11・11×2	覆土1	口縁部				同一個体				
		b	H-11・11×2										
	図IV-23-6	a	H-11・12×4	覆土1	口縁部				同一個体				
		b	H-11・13×7										
	図IV-23-7		H-11・14×2	覆土1	胴部								
	図IV-23-8	a	H-11・6×1	覆土1	口縁部				同一個体				
b		H-11・2×3, H-11・3×1 H-11・6×4, H-11・14×3	計11		胴部								
c		H-11・3×6, H-11・6×20, H-11・15×1	計28		胴部								
		G15・1×1			II								
図IV-24-9	a	H-11・12×12, H-11・13×29	覆土1	口縁～胴部	同一個体								
	b	H-11・6×36		計41		胴部							
	c	H-11・3×2, H-11・6×9 H-11・13×22		計33		底部							
図IV-24-10		H-11・10×26	覆土1	復元個体(口縁～底部)	図版26								
H-12	図IV-25-1		覆土	口縁部	IV a	図版38	HP-6						
	図IV-25-2		覆土	胴部			HP-7						
H-13	図IV-26-1		覆土	底部	II b	図版38	HP-1						
P-3	図IV-29-1	a	P-3・3×4	覆土	胴部	II b	図版38	同一個体					
		b	P-3・3×1										
P-8	図IV-31-1		覆土中位	口縁部	III b-3	図版38							
P-23	図IV-37-1		坑底	復元個体(口縁～底部)	IV a	図版26	同一個体						
	図IV-37-2		坑底	復元個体(胴部)									
			覆土					計26					
	図IV-37-3	a	P-23・2×1, P-23・3×2, P-23・4×3, P-23・5×1	覆土				口縁～胴部	図版38	同一個体			
		b	P-23・1×2					胴部					
	図IV-37-4	a	P-23・5×1	覆土				復元個体(胴部～底部)	図版26	同一個体			
	図IV-38-4	b	P-23・5×1	覆土				口縁部	図版38	同一個体			
	図IV-38-5		P-23・6×1	覆土				口縁部					
	図IV-38-6	a	P-23・2×1	覆土				口縁部			同一個体		
		b	P-23・2×1, P-23・4×5					計6				胴部	
	図IV-38-7	a	116・14×1	覆土				口縁部			同一個体		
		b	P-23・4×2					計2				胴部	
		c	P-23・34×1					坑底				底部	
	図IV-38-8		P-23・130×1	坑底				胴部			図版39	同一個体	
	図IV-38-9		P-23・34×3	覆土				胴部					
	図IV-38-10		P-23・34×1	覆土				胴部					
	図IV-38-11		P-23・5×1	覆土				胴部					
	図IV-38-12		P-23・1×2	覆土				口縁部					
	図IV-38-13		P-23・130×1, P-23・162×1	覆土				口縁部					同一個体
	図IV-38-14		P-23・71×3					坑底					
	図IV-38-15		P-23・6×1	覆土				口縁部					図版39
	図IV-38-16		P-23・3×1, P-23・5×2	覆土				胴部					
	図IV-38-17	a	P-23・4×5					覆土	口縁部				
		b	P-23・4×3, P-23・6×2	計5					胴部～底部				
	図IV-38-18		P-23・1×8	覆土				復元個体(胴部～底部)	図版26				
	図IV-38-19		P-23・3×1	覆土				胴部～底部	図版39	同一個体			
			P-23・124×1										計2
	図IV-38-20		P-23・6×1	覆土				底部	図版39	同一個体			
	図IV-38-21		P-23・162×1	坑底				底部					
	図IV-38-22		P-23・130×1	坑底				底部					
		P-23・130×1	坑底	底部									
P-25	図IV-40-1		覆土	復元個体(底部)	II a	図版27							
P-27	図IV-42-1		覆土	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版27	同一個体						
			覆土1					計37					
	図IV-42-2		P-27・3×2 P-27・1×4	覆土1	口縁部	図版39							
		P-27・1×1	計6		胴部								
P-29	図IV-43-1		覆土1	胴部	II a	図版39							
P-33	図IV-45-1		覆土10	復元個体(口縁～胴部)	IV a	図版27	同一個体						
	図IV-45-2		覆土	口縁部									
	図IV-45-3		覆土10	口縁部									

遺構名	図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	分類	図版番号	備考			
P-38	図IV-49-1	P-38・7×2, P-38・8×2, P-38・9×1, P-38・10×5	計10 覆土	復元個体(口縁～底部)	IV a	図版27	同一個体			
	図IV-49-2	a	P-38・19×1	坑底		胴部		図版40		
			P-38・22×1	覆土						
			I16・13×3, I16・14×5, I16・20×1	計11 II						
	b	I16・14×3, I16・24×3	計6	胴部						
		c	I16・17×1, I16・20×1, I16・24×7	計9		胴部				
	図IV-49-3		P-38・22×3	覆土		口縁部				
	図IV-49-4	P-38・22×2	覆土	胴部						
	図IV-49-5	P-38・22×6	覆土	底部						
	図IV-49-6	P-38・21×3	覆土	底部						
図IV-49-7	a	P-38・1×1, P-38・22×4, I16・13×1, I16・14×1, I16・4×1, I16・9×1, I16・12×3, I16・13×1, I16・17×2, I16・20×1, I16・24×4	計20 II	口縁～胴部						
		b	I16・24×2	口縁部						
P-39	図IV-50-1	P-39・2×1	覆土1	口縁部	II a	図版40				
	図IV-50-2	P-39・4×4	覆土1	胴部						
P-40	図IV-50-1	P-40・1×6	覆土	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版27				
		V20・7×2, V21・7×2, V21・8×1	計11 II							
P-41	図IV-51-1	P-41・3×50	覆土	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版28	旧一括土器 4			
P-46	図IV-53-1	P-46・1×1, P-46・2×1	計2 覆土	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版28				
P-50	図IV-55-1	P-50・1×8, P-50・2×7, P-50・3×7, P-50・4×19, P-50・5×1	覆土	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版28				
		U21・2×1	計43 II							
P-54	図IV-56-1	a	P-54・16×3	覆土1	口縁部	II a	図版40	同一個体		
			P-54・15×1		胴部					
			P-54・3×2						計3 覆土	
P-71	図IV-61-1	P-71・4×53, P-71・5×6, P-71・6×1 P-71・1×35	計95 坑底 覆土 覆土 覆土 坑底 覆土	復元個体(口縁～底部)	II b	図版28				
				図IV-61-2				P-71・1×3	口縁部	
				図IV-61-3				P-71・1×3	胴部	
				図IV-61-4				P-71・1×10	胴部	
								P-71・7×1	計11 坑底	
図IV-61-5	P-71・1×3	覆土	胴部							
P-79	図IV-65-1	P-79・2×31, P-79・16×10	計41 覆土1	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版28				
P-91	図IV-67-1	a	P-91・3×1	口縁部	II b	図版40				
				口縁部						
				胴部						
				胴部						
				胴部～底部						
図IV-68-1	b	P-91・3×2	覆土	口縁部	IV a	図版41	同一個体			
				胴部						
				胴部						
				胴部						
図IV-68-2	P-91・3×6	覆土	胴部							
P-93	図IV-69-1	a	P-93・25×5	坑底	胴部	II b	図版41	同一個体		
					胴部					
P-94	図IV-71-1	a	P-94・120×2	覆土	口縁部	IV a	図版42	同一個体		
					b				P-94・122×1	胴部
					c				P-94・122×3	胴部
	図IV-71-2	a	P-94・122×14	覆土	口縁～胴部					
					b				I16・13×1	計15 II
	図IV-71-3	a	P-94・120×5, P-94・122×1	計6 覆土	口縁～胴部					
					b				P-94・120×1, P-94・123×2	計3 胴部
	図IV-71-4	P-94・120×1, P-94・121×2	計3 覆土	口縁部						
	図IV-71-5	P-94・123×4	覆土	胴部						
	図IV-71-6	P-94・122×2	覆土	底部						
P-95	図IV-73-1	a	P-95・2×1, P-95・3×2	計3 覆土	口縁～胴部	II b	図版41	同一個体		
					胴部					
b	P-95・3×1	覆土	底部							
			底部							
一括土器 1	図IV-79-1	一括土器 1・1×3	II	口縁部	II a	図版42	混入			
				口縁～胴部						
一括土器 2	図IV-79-2	一括土器 1・1×11	II	口縁～胴部	III b-3	図版42				
				口縁～胴部						
一括土器 3	図IV-79-1	一括土器 2・1×86 D21・4×1, D21・5×7	計94 II	復元個体(口縁～胴部)	IV a	図版29	正立して出土			
				復元個体(口縁～胴部)						
一括土器 3	図IV-80-1	a	一括土器 3・1×1	II 下	口縁部	II a	図版42	同一個体		
					胴部					
一括土器 5	図IV-81-1	P-10・11×1, P-10・19×1 P-10・1×1 S18・4×2, T19・3×8, T19・11×13, U20・15×1 一括土器 5・1×87 T19・5×2	計116 覆土 覆土1 II II 下 木根	復元個体(口縁～底部)	II a	図版29				
				復元個体(口縁～底部)						
				復元個体(口縁～底部)						
				復元個体(口縁～底部)						
				復元個体(口縁～底部)						
一括土器 6	図IV-81-2	一括土器 6・1×14 T19・3×2, T19・11×6	計22 II 下 II	復元個体(口縁～胴部)	II a	図版29				
				復元個体(口縁～胴部)						

表6 遺構出土掲載石器等一覽

図番号	遺構名	名称	遺物番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考	図版番号
図IV-3-6	H-1	石鎌	50	覆土	(3.0)	1.5	0.5	1.8	頁岩	被熱	図版56
図IV-3-7	H-1	石皿片	12	覆土	19.6	17.7	7.7	3160.0	安山岩		図版56
図IV-7-12	H-2	筥状石器	114	覆土	4.1	2.7	0.5	5.2	頁岩		図版56
図IV-7-13	H-2	石斧	9	床面	9.3	(3.0)	1.2	47.0	片岩		図版56
図IV-7-14	H-2	石斧片	10	覆土7	(12.0)	(4.9)	(2.3)	153.1	片岩		図版56
		石斧片	94	床面							
		石斧片	96	床面							
		石斧片	97	床面							
		石斧片	102	床面							
	M16	石斧片	8	II							
Q18	石斧片	56	II								
図IV-7-15	H-2	たたき石	37	床面	16.6	7.5	3.6	544.0	砂岩	被熱	図版56
図IV-7-16	H-2 HF-1	たたき石	22	床面	31.3	7.0	8.8	2598.0	安山岩		図版56
図IV-7-17	H-2 HF-1	すり石	31	床面	7.4	14.4	4.2	566.1	砂岩		図版56
図IV-11-24	H-3	石鎌	13	覆土	(2.3)	1.2	0.3	0.8	頁岩		図版57
図IV-11-25	H-3	すり石片	27	覆土	(12.1)	5.4	6.9	582.0	安山岩	断面三角形	図版57
図IV-11-26	H-3	石製品	29	覆土	6.7	11.2	4.9	515.4	安山岩	三角柱形石製品	図版57
図IV-12-3	H-4	たたき石	1	床面	9.1	6.2	4.0	353.8	頁岩		図版57
図IV-15-1	H-6	石錘	7	床面直上	2.4	(1.6)	0.6	2.0	頁岩		図版57
図IV-15-2	H-6	たたき石	2	床面直上	10.4	14.7	6.3	1360.0	砂岩		図版57
図IV-15-3	H-6	石皿片	1	床面直上	(16.4)	(11.1)	5.5	1845.0	安山岩		図版57
図IV-19-2	H-9	スクレイパー	49	床面	5.8	5.0	1.4	34.8	頁岩		図版57
図IV-19-3	H-9	石斧	45	床面	11.0	4.2	1.2	101.2	片岩		図版57
図IV-19-4	H-9 HF-1	たたき石	13	焼土	13.2	7.4	4.7	642.0	安山岩		図版57
図IV-24-11	H-11	スクレイパー片	84	床面直上	4.0	3.2	1.0	12.3	頁岩		図版57
図IV-24-12	H-11	スクレイパー	96	床面直上	5.5	3.1	4.3	11.6	頁岩		図版57
図IV-24-13	H-11	石のみ	93	床面直上	(8.8)	1.7	1.2	38.1	緑色泥岩		図版57
図IV-24-14	H-11	すり石	90	床面直上	9.0	12.1	3.2	523.0	砂岩		図版57
図IV-24-15	H-11	砥石	58	覆土1	(10.6)	7.5	3.9	393.0	砂岩		図版57
図IV-28-1	H-15	たたき石	12	床面	20.7	9.2	5.2	1458.0	安山岩		図版58
図IV-30-1	P-4	たたき石	5	覆土	11.4	6.7	4.1	441.0	砂岩		図版58
図IV-30-1	P-6	スクレイパー	1	覆土	7.4	2.9	0.6	15.4	頁岩		図版58
図IV-32-1	P-10	石鎌	12	覆土1	(3.0)	1.8	0.4	1.4	頁岩	三角形平基	図版58
図IV-33-1	P-16	石鎌	2	覆土1	3.6	2.3	0.5	3.5	頁岩	三角形平基	図版58
図IV-34-1	P-31	たたき石	4	覆土	10.1	6.0	5.8	503.0	砂岩		図版58
図IV-39-23	P-23	スクレイパー	107	坑底	12.4	7.0	2.6	216.8	頁岩		図版58
図IV-39-24	P-23	石斧	92	坑底	6.9	3.0	1.3	53.5	泥岩		図版58
図IV-39-25	P-23	たたき石	37	覆土	16.2	6.2	4.7	414.3	凝灰岩		図版58
図IV-39-26	P-23	石錘片	14	覆土	(6.2)	12.2	3.1	364.8	砂岩	被熱	図版58
図IV-39-27	P-23	石製品	114	坑底	(19.6)	8.7	4.3	836.0	カンラン岩		図版58
図IV-40-1	P-24	石鎌	5	覆土	2.3	1.7	0.3	0.9	頁岩	三角形凹基	図版59
図IV-40-2	P-24	つまみ付きナイフ	1	覆土	5.9	2.4	0.8	13.5	頁岩		図版59
図IV-40-2	P-25	石鎌	18	覆土	1.7	1.1	0.3	0.5	頁岩	三角形凹基	図版59
図IV-41-1	P-26	すり石片	1	覆土	(9.8)	(7.3)	8.1	539.0	砂岩	断面三角形	図版59
図IV-46-4	P-33	石鎌	63	覆土	4.1	(1.5)	0.5	2.5	頁岩	三角形平基	図版59
図IV-46-5	P-33	筥状石器	64	覆土	10.9	3.1	11.5	37.6	頁岩		図版59
図IV-46-6	P-33	スクレイパー	62	覆土	12.6	8.3	2.7	224.0	頁岩		図版59
図IV-46-7	P-33	たたき石	21	覆土10	8.7	5.5	2.5	137.6	泥岩		図版59
図IV-46-8	P-33	すり石片	25	覆土10	7.8	22.4	4.5	869.9	安山岩	断面三角形	図版59
		すり石片	68	覆土							
図IV-49-8	P-38	石製品	28	覆土	6.4	1.5	0.7	9.7	泥岩		図版59
図IV-53-2	P-46	すり石片	5	覆土	14.7	7.7	7.7	1219.0	安山岩	断面三角形	図版59
	#20	すり石片	4	II							

図番号	遺構名	名称	遺物番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考	図版番号
図IV-54-1	P-48	たたき石	1	覆土	12.6	6.2	4.0	487.3	頁岩		図版59
図IV-62-1	P-72	石斧片	2	覆土1	(6.5)	(4.6)	(0.6)	23.6	泥岩		図版59
図IV-62-1	P-74	たたき石	1	覆土1	9.6	11.1	5.6	874.1	安山岩		図版59
図IV-64-1	P-78	スクレイパー	1	坑底	12.8	4.0	2.8	133.6	石灰岩		図版60
図IV-65-2	P-79	スクレイパー	7	覆土1	(6.2)	2.9	0.9	20.5	頁岩		図版60
図IV-64-1	P-82	すり石	1	覆土1	9.4	11.9	5.0	760.6	安山岩	断面三角形	図版59
図IV-66-1	P-84	石皿片	7	覆土1	9.1	7.4	4.3	277.6	安山岩		図版60
図IV-72-7	P-94	たたき石	42	坑底	9.4	6.7	3.2	284.0	メノウ		図版60
図IV-72-8	P-94	たたき石	11	覆土	7.5	4.7	3.1	146.0	砂岩		図版60
図IV-72-9	P-94	たたき石	10	覆土	9.1	4.1	2.6	128.5	片岩		図版60
図IV-72-10	P-94	たたき石	13	覆土	10.2	5.1	2.0	161.2	泥岩		図版60
図IV-72-11	P-94	たたき石	7	覆土	(8.4)	5.0	3.5	178.1	砂岩		図版60
図IV-72-12	P-94	たたき石	9	覆土	11.4	6.4	3.7	371.0	頁岩		図版60
図IV-72-13	P-94	たたき石	8	覆土	11.2	5.8	1.8	175.0	砂岩		図版60
図IV-72-14	P-94	たたき石	6	覆土	11.5	4.9	3.2	289.0	砂岩		図版60
図IV-72-15	P-94	たたき石	77	坑底	(11.4)	3.8	2.7	133.0	凝灰岩		図版60
図IV-72-16	P-94	たたき石	12	覆土	9.7	5.2	4.0	228.0	泥岩		図版60
図IV-72-17	P-94	台石	106	坑底	17.0	9.0	5.5	1038.0	凝灰岩		図版60
図IV-72-18	P-94	扁平打製石器	15	覆土	(7.4)	15.2	2.6	298.0	安山岩		図版60
図IV-77-1	FC-1	つまみ付きナイフ	2	II	6.8	2.4	0.8	13.2	頁岩		図版60
図IV-77-2	FC-1	スクレイパー	11	II	(5.6)	3.2	1.1	15.7	頁岩		図版60
図IV-78-1	FC-7	筥状石器	5	II	10.5	3.3	0.9	40.5	頁岩		図版60
図IV-78-1	FC-9	すり石	3	II	9.3	14.1	4.5	781.3	砂岩		図版60

表7-1 包含層出土掲載土器一覽 I群b-3類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考	
図V-1-1-1	a Q18・12×1	II	口縁部	図版43	同一個体	
	b P16・9×1		胴部			
図V-1-1-2	P26・1×1	II	口縁部			
図V-1-1-3	L29・2×1	II	胴部			
図V-1-1-4	F23・3×1	II	胴部			
図V-1-1-5	L29・3×1	II	胴部			
図V-1-1-6	H31・4×1	II	胴部			
図V-1-1-7	D22・6×1	III	胴部			
図V-1-1-8	T16・10×1	II	口縁部			
図V-1-1-9	E26・1×2	II	口縁部			
図V-1-1-10	a K19・8×1	II	口縁部			同一個体
	b K19・2×1		口縁部			
図V-1-1-11	N27・3×1	II	口縁部			
図V-1-1-12	P18・8×1	II	胴部			
図V-1-1-13	a L28・2×1	II	口縁部			同一個体
	b L28・1×3		胴部			
図V-1-1-14	a N27・1×2	II	胴部			同一個体
	b N27・1×2		胴部			
	c N27・1×2		胴部			
図V-1-1-15	N28・2×2	II	口縁部			
図V-1-1-16	a S17・12×1	II	胴部	同一個体		
	b S17・19×1		底部			
図V-1-1-17	H26・7×1	木根	胴部			
図V-1-1-18	G30・5×5	II	胴部			
図V-1-1-19	K29・1×1	II	胴部			
図V-1-1-20	H26・7×1	木根	胴部			
図V-1-1-21	H31・4×1	II	胴部			
図V-1-1-22	a H23・3×1	II	胴部	同一個体		
	b H23・3×2		胴部			
図V-1-1-23	a U17・4×1	II	胴部	同一個体		
	b U17・19×1		胴部			
	c U17・12×1		胴部			

表7-2 包含層出土掲載土器一覽 I群b-4類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考	
図V-1-2-1	a F24・5×1	II	口縁部	図版43	同一個体	
	b F24・4×3		胴部			
	c F23・7×2		胴部			
図V-1-2-2	a N17・5×1	II	口縁部			同一個体
	b N17・15×1		胴部			
図V-1-2-3	N17・20×4	II	胴部			
図V-1-2-4	F23・4×2	II	胴部			
図V-1-2-5	P16・12×2	II	胴部			
図V-1-2-6	G25・3×2	II	胴部			
図V-1-2-7	N17・15×2	II	胴部			
図V-1-2-8	F23・4×2	II	口縁部			
図V-1-2-9	L17・4×2	II	胴部			
図V-1-2-10	Q17・1×1	II	胴部			
図V-1-2-11	N17・20×1, O17・13×1	計2	II			口縁～胴部
図V-1-2-12	M17・1×1	II	胴部			
図V-1-2-13	a O19・3×3	II	胴部			同一個体
	b O19・3×2		胴部			
図V-1-2-14	S17・22×1, S17・39×1	計2	II			胴部
図V-1-2-15	J35・1×1	II	胴部			
図V-1-2-16	F23・7×1	II	胴部			
図V-1-2-17	T18・17×2	II	胴部			
図V-1-2-18	N18・1×1	II	胴部			
図V-1-2-19	N17・15×2	II	口縁～胴部			
図V-1-2-20	J10・12×2	II下	口縁部			
図V-1-2-21	L10・7×1	II	口縁部			
図V-1-2-22	N17・9×2	II	口縁部			
図V-1-2-23	K30・4×3	II	口縁～胴部			
図V-1-2-24	I17・9×2	II	胴部			
図V-1-2-25	L10・10×1	III	胴部			
図V-1-2-26	S17・36×3	II	胴部			
図V-1-2-27	O19・4×2	攪乱	胴部			
図V-1-2-28	a F21・3×5	II	胴部	同一個体		
	b F21・3×4		胴部			
	c F21・3×4		胴部			

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-2-29	P16・4×1	II	胴部	図版44	同一個体
図V-1-2-30	N17・9×3	II	胴部		
図V-1-2-31	a K11・14×2	III	胴部		
	b K11・17×7		胴部		
図V-1-2-32	O16・3×1	II	胴部		
図V-1-2-33	N17・15×2	II	底部		

表7-3 包含層出土掲載土器一覧 II群a類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-3-1	W18・2×1	II	口縁部	図版44	
図V-1-3-2	T18・10×2	II	口縁～胴部		
図V-1-3-3	V19・8×4	II	口縁～胴部		
図V-1-3-4	S18・11×4	III	口縁～胴部		
図V-1-3-5	W21・8×5, W21・10×1 計6	II	口縁～胴部		
図V-1-3-6	V16・3×6, V16・4×15 計21	II	胴部		
図V-1-3-7	W20・1×4	II	胴部		
図V-1-3-8	a U20・11×1	II	口縁部	図版45	同一個体
	b U20・11×1		口縁部		
図V-1-3-9	a U20・11×3	II	胴部		同一個体
	b V20・12×1		胴部		
図V-1-3-10	V21・8×2	III	胴部		
図V-1-3-11	a Q17・11×1	II	口縁部		同一個体
	b Q17・11×1		胴部		
図V-1-3-12	V21・6×2	II	口縁部		
図V-1-3-13	a W20・4×1	II	胴部		同一個体
	b V17・11×1		胴部		
図V-1-3-14	a W21・4×2	II	口縁部		同一個体
	b W21・4×1		口縁部		
図V-1-3-15	a W20・12×3	攪乱	口縁～胴部		同一個体
	b W20・12×2		口縁部		
	c V21・7×4		胴部		
図V-1-3-16	L19・3×1	II	底部		
図V-1-3-17	F23・7×4	II	底部		
図V-1-3-18	W21・4×2	II	底部		
図V-1-3-19	U20・11×1, W20・4×1, W20・7×1 計3	II	胴部～底部		
図V-1-3-20	S17・7×1	II	胴部～底部		
図V-1-4-21	T19・2×2	II	復元個体(底部)	図版29	
図V-1-4-22	V16・2×4	II	復元個体(底部)		
図V-1-4-23	W20・4×2, X20・1×1 計3	II	復元個体(底部)		
図V-1-4-24	W21・4×8	II	復元個体(胴部～底部)	図版30	
図V-1-4-25	U21・1×1	II	胴部～底部	図版45	
図V-1-4-26	S18・4×1	II	底部		
図V-1-4-27	a W21・4×3	II	胴部		
	b W21・4×1		底部		
図V-1-4-28	T18・4×1, T18・14×1 計2	II	胴部～底部		
図V-1-4-29	a V17・7×1	II	胴部		
	b V17・7×1		底部		
図V-1-4-30	W21・4×4	II	胴部		
図V-1-4-31	W21・4×7	II	口縁部		
図V-1-4-32	W21・4×1	II	口縁部		
図V-1-4-33	T19・11×2	II	口縁部	図版46	
図V-1-4-34	a S17・24×1	II	口縁部	図版45	同一個体
	b S18・11×1	III	胴部		
図V-1-4-35	T17・18×1	II	口縁部	図版46	
図V-1-4-36	R17・3×1, R17・13×1 計2	II	口縁部		
図V-1-4-37	S16・9×8	II	胴部		
図V-1-4-38	U19・11×3	II	胴部		
図V-1-4-39	V19・13×14	II	胴部		
図V-1-4-40	W21・5×1	II	口縁部		
図V-1-4-41	a T17・5×5	II	口縁～胴部		
	T17・7×2, T17・10×1 計3		口縁～胴部		

表7-4 包含層出土掲載土器一覽 II群b類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-5-1	a M10・15×1, M10・18×5 計6	II	口縁部	図版46	同一個体
	b M10・10×3, M10・14×6, M10・18×2 計11		胴部		
図V-1-5-2	a M10・14×9	II	口縁～胴部	図版46	同一個体
	b M10・14×2, M10・18×7 計9		胴部		
図V-1-6-3	a M10・18×8	II	口縁～胴部	図版47	同一個体
	b M10・14×2, M10・18×3 計5		胴部		
図V-1-6-4	L10・13×3, L11・14×1 計4	II	口縁部	図版47	同一個体
	a M10・3×2		口縁部		
図V-1-6-5	b M10・3×1	II	胴部	図版47	同一個体
	a N9・8×4		口縁～胴部		
図V-1-6-6	b N9・8×2	II	胴部	図版47	同一個体
	c M10・18×1		底部		
	a M10・3×1, M10・10×1 計2		口縁部		
図V-1-6-7	b M10・3×1	II	胴部	図版47	同一個体
	L10・13×1		口縁部		
図V-1-6-8	N9・8×2	II	口縁部	図版47	同一個体
図V-1-6-9	M10・14×4	II	口縁部		
図V-1-6-10	M10・18×2	II	口縁部	図版47	同一個体
図V-1-6-11	M10・14×2	II	口縁部		
図V-1-6-12	a M10・14×2		II	口縁部	図版47
	b M10・1×2, M10・14×1 計3	胴部			
図V-1-6-13	a M10・10×8, M10・14×6 計14	II	口縁～胴部	図版47	同一個体
	b M10・10×5, M10・14×2, M10・18×2 計9		胴部		
図V-1-6-14	a M10・10×2, M10・14×4 計6	II	口縁～胴部	図版47	同一個体
	b M10・10×1		胴部		
	c M10・14×1		底部		
図V-1-7-15	a G27・2×5	II	口縁～胴部	図版48	同一個体
	b G27・2×6, G27・3×1, G27・5×2 計9		口縁～胴部		
	c G27・2×5, G27・5×1 計6		胴部		
図V-1-7-16	M10・6×1, M10・10×1, M10・14×1 計3	II	口縁～胴部	図版48	同一個体
図V-1-7-17	K11・10×3	II	口縁部		
図V-1-7-18	a M10・3×2, M10・10×3 計5	II	口縁部	図版48	同一個体
	b M10・6×1, M10・10×5 計6		胴部		
	c M10・14×5, M10・18×1 計6		胴部		
図V-1-7-19	M10・10×2	II	口縁部	図版48	同一個体
図V-1-7-20	G18・3×1, G18・7×2 計3	II	口縁部		
図V-1-7-21	H18・13×1	II	口縁部	図版48	同一個体
図V-1-7-22	a G27・5×3	II	口縁部		
図V-1-7-23	b G27・5×8		胴部		
図V-1-7-24	G18・3×1	II	口縁部	図版48	同一個体
図V-1-7-25	F27・1×2	II	胴部		
図V-1-7-26	a G16・1×4	II	口縁部	図版48	同一個体
	b H16・4×2		胴部		
図V-1-7-27	L10・14×2	II	胴部	図版48	同一個体
図V-1-7-28	L10・14×1, L11・2×2 計3	II	胴部		
図V-1-7-29	M33・1×2	II	底部	図版48	同一個体
図V-1-7-30	M10・10×14, M10・14×3 計17	II	復元個体(胴部～底部)		
図V-1-7-31	M10・10×12, M10・26×3 計15	II	復元個体(胴部～底部)	図版30	同一個体
図V-1-7-32	M10・3×1, M10・14×1 計2	II	胴部～底部		
図V-1-7-33	L29・1×2	II	胴部～底部	図版48	同一個体
図V-1-7-34	M25・1×2	II	胴部～底部		
図V-1-7-35	N9・8×4	II	胴部～底部	図版48	同一個体

表7-5 包含層出土掲載土器一覽 III群a類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-8-1	a L29・5×2	II	胴部	図版49	同一個体
	b M34・2×1		胴部		

表7-6 包含層出土掲載土器一覽 III群b-3類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-8-2	F 20・2×1	II	口縁部	図版49	
図V-1-8-3	L 21・1×2	II	口縁部		
図V-1-8-4	H 38・4×1	II	胴部		
図V-1-8-5	C 21・2×1	攪乱	胴部		
図V-1-8-6	R 18・1×5	II	口縁～胴部		
図V-1-8-7	T 17・22×1	II	胴部		
図V-1-8-8	J 19・7×2, Q 18・5×1	II	胴部		
	Q 18・8×3	III			
図V-1-8-9	O 17・9×1, O 17・14×1	計2 II	胴部		
図V-1-8-10	S 17・27×3	II	胴部～底部		
図V-1-8-11	a T 22・3×2	II	胴部		同一個体
	b T 22・3×5		胴部		
図V-1-8-12	H 12・7×2	II	胴部		
図V-1-8-13	R 17・5×1	II	胴部～底部		
図V-1-8-14	J 17・14×1, V 18・9×1	計2 II	口縁部		
図V-1-8-15	P 16・8×1	II	口縁部		
図V-1-8-16	I 11・22×1	II	口縁部		
図V-1-8-17	a M 10・11×1	II	口縁部		同一個体
	b M 10・7×1		胴部		
図V-1-8-18	U 18・9×1	II	口縁～胴部		
図V-1-8-19	P 17・3×1	II	口縁部		
図V-1-8-20	V 17・16×1	II	口縁部		
図V-1-8-21	V 17・17×1	II	口縁部		
図V-1-8-22	O 18・4×1	II	口縁部		
図V-1-8-23	P 17・6×2	II	胴部		
図V-1-8-24	O 18・4×1, O 18・6×1	計2 II	胴部		
図V-1-8-25	T 18・16×1	II	胴部		
図V-1-8-26	M 10・15×5	II	復元個体(口縁～底部)		図版30
図V-1-8-27	I 12・7×15	II下	復元個体(胴部～底部)		
図V-1-8-28	S 19・5×7	II	復元個体(胴部～底部)		

表7-7 包含層出土掲載土器一覽 IV群a類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-9-1	I 16・14×9, I 16・20×12	計21 II	復元個体(口縁～胴部)	図版31	
図V-1-9-2	O 18・5×2, O 18・7×3	計5 II	復元個体(口縁～胴部)		
図V-1-9-3	G 20・2×1	II	口縁部	図版50	
図V-1-9-4	H 18・5×1	II	口縁部		
図V-1-9-5	H 15・1×1	II	口縁～胴部		
図V-1-9-6	a I 16・3×1, I 16・15×1	計2 II	口縁～胴部		同一個体
	b I 16・15×1		胴部		
図V-1-9-7	J 17・8×1	II	口縁部		
図V-1-9-8	a N 23・1×2	II	口縁部		同一個体
	b N 23・1×1		口縁部		
	c N 23・1×2		胴部		
図V-1-9-9	J 9・2×2	II	口縁部		
図V-1-9-10	U 24・1×1	II	口縁部		
図V-1-9-11	J 19・12×1	II	口縁～胴部		
図V-1-9-12	I 16・4×1, I 16・14×26	計27 II	復元個体(口縁～底部)	図版31	
図V-1-9-13	I 16・4×2	II	口縁～胴部	図版50	
図V-1-9-14	a I 16・11×3	II	口縁～胴部		同一個体
	b I 16・11×2		口縁～胴部		
図V-1-9-15	E 23・2×1	II	口縁部		
図V-1-9-16	a H 17・2×1	II	口縁部		同一個体
	b H 17・2×3, H 17・7×1		口縁～胴部		
	c H 17・2×1		胴部		
図V-1-9-17	I 16・4×2, I 16・20×2	計4 II	口縁～胴部		
図V-1-9-18	a I 16・4×1	II	口縁部		同一個体
	b I 16・3×1		口縁部		
	c I 16・14×2		胴部		
図V-1-10-19	M 10・12×24, M 10・16×49	計73 II	復元個体(胴部～底部)	図版31	
図V-1-10-20	N 17・7×1, N 17・18×1, N 17・23×1	計3 II	口縁部	図版50	
図V-1-10-21	K 11・11×2	II	口縁部		
図V-1-10-22	J 11・2×1	II	口縁部		
図V-1-10-23	J 20・3×3	II	口縁部		
図V-1-10-24	H 16・3×1	攪乱	口縁部		
図V-1-10-25	P 17・7×1, P 18・6×1	計2 II	口縁部		
図V-1-10-26	a J 19・8×1	II	口縁部		同一個体
	b J 19・4×2		胴部		

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-10-27	a I 17・16×2	II	口縁部	図版51	同一個体
	b I 17・6×2		胴部		
	c I 17・12×1, J 19・4×1 計2		胴部		
図V-1-10-28	N16・6×1, O17・20×1 計2	II	胴部		
図V-1-10-29	K19・3×1, N17・10×1 計2	II	胴部		
図V-1-10-30	N18・3×2	II	胴部		
図V-1-10-31	a K11・8×1	II	口縁部		
	b K11・8×2, K11・11×2 計4		胴部		
図V-1-10-32	a I 16・24×1	II	口縁部		
	b I 15・4×3		胴部		
図V-1-10-33	I 19・6×1	II	胴部		
図V-1-10-34	G30・2×1	II	胴部		
図V-1-10-35	J 18・3×1, J 19・4×1 計2	II	胴部		
図V-1-10-36	a N16・4×8	II	口縁～胴部		
	b N16・4×13, N16・6×15 計28		胴部		
図V-1-11-37	I 16・4×10	II	復元個体(口縁～胴部)	図版32	
	J 16・6×1	II (I層)			
図V-1-11-38	L 19・2×1	II	口縁部	図版51	
図V-1-11-39	M19・2×2	II	口縁部		
図V-1-11-40	K15・1×1	II	口縁部		
図V-1-11-41	H16・10×3	風倒木	口縁部		
図V-1-11-42	G19・12×4	II	口縁～胴部		
図V-1-11-43	a J 19・6×1, J 20・2×1 計2	II	口縁部		
	b I 16・14×1		口縁部		
	c I 16・4×1, J 20・4×4 計5		胴部		
	d I 16・4×3, I 16・11×1, I 16・12×1 計5		胴部		
図V-1-11-44	H17・5×7	II	口縁～胴部	図版52	
図V-1-11-45	I 16・24×2	II	胴部		
図V-1-11-46	J 11・10×1	II	胴部		
図V-1-11-47	J 17・8×2, J 18・6×2 計4	II	胴部		
図V-1-11-48	J 20・8×2	II	胴部		
図V-1-11-49	J 17・8×2	II	胴部		
図V-1-11-50	a H12・6×2	II	胴部		
	b H12・6×1, H12・8×12 計13		胴部～底部		
図V-1-11-51	M18・8×4	II	口縁～胴部		
図V-1-11-52	O18・7×2	II	口縁部		
図V-1-11-53	I 8・1×2, I 9・2×2 計4	II	口縁部		
図V-1-12-54	I 11・5×3	II中	口縁部		
図V-1-12-55	I 16・4×1, J 18・6×1 計2	II	口縁部		
図V-1-12-56	I 16・12×1, I 16・13×1 計2	II	口縁部		
図V-1-12-57	J 11・6×1	II	口縁部		
図V-1-12-58	K16・3×1	II	口縁部		
図V-1-12-59	a R17・18×4	攪乱	口縁部	同一個体	
	b R17・18×9		胴部～底部		
図V-1-12-60	a I 18・7×1	II	口縁部	同一個体	
	b I 22・2×1		胴部		
図V-1-12-61	K15・1×6, K15・3×2 計8	II	口縁～胴部		
図V-1-12-62	K17・4×1, K17・6×1 計2	II	口縁部		
図V-1-12-63	H16・10×3	風倒木	胴部		
図V-1-12-64	J 10・9×13	II下	復元個体(胴部～底部)	図版32	
図V-1-12-65	J 19・4×1, J 19・6×2, J 19・8×2 計5	II	口縁～胴部	図版53	
図V-1-12-66	N17・7×1	II	口縁部	図版52	
図V-1-12-67	L 21・2×2	II	口縁部		
図V-1-12-68	a E32・1×1	II	口縁部	同一個体	
	b E32・1×2		胴部		
図V-1-12-69	J 11・6×1	II	口縁部		
図V-1-12-70	G17・3×2	II	胴部		
図V-1-12-71	O17・6×3	II	胴部		
図V-1-12-72	H16・10×2	風倒木	胴部	図版53	
	H17・15×1	攪乱			
	H17・16×1	II			
図V-1-12-73	M18・3×1, M18・8×9 計10	II	胴部		
図V-1-12-74	a R17・18×1	攪乱	口縁部	同一個体	
	b R17・18×1		胴部		
図V-1-12-75	K19・3×1	II	胴部		
図V-1-12-76	M17・7×1	II	胴部		
図V-1-13-77	H15・6×106, I 15・3×4, I 15・4×21 計131	II	復元個体(口縁～底部)	図版31	

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-14-78	I 17・12×8	II	口縁～胴部	図版53	同一個体
図V-1-14-79	L 16・2×1	II	口縁部		
図V-1-14-80	J 17・8×2	II	口縁部		
図V-1-14-81	a I 16・24×1	II	口縁部		
	b I 16・24×2	II	胴部		
図V-1-14-82	I 16・8×1	II	口縁部		
図V-1-14-83	a I 15・4×9	II	胴部		
	b I 15・3×1, I 15・4×14		胴部		
	c I 15・4×20		胴部～底部		
計15					
図V-1-14-84	M 10・16×1	II	胴部		
図V-1-14-85	H 15・5×2	II	胴部		
図V-1-14-86	J 18・6×1	II	胴部		
図V-1-14-87	I 16・4×1, I 16・11×2, I 16・12×1	計4	II	復元個体(口縁～胴部)	図版32
図V-1-14-88	I 15・3×4, I 15・4×15	計19	II	口縁～胴部	図版54
図V-1-14-89	H 15・5×3	II	口縁部		
図V-1-14-90	a J 11・6×1	II	口縁部		
	b J 11・6×5		胴部		
計2					
図V-1-14-91	I 15・2×1, I 15・4×1	計2	II	口縁部	
図V-1-14-92	H 15・5×1	II	口縁～胴部		
図V-1-14-93	J 18・3×4	II	口縁～胴部		
図V-1-14-94	K 19・3×5	II	口縁～胴部		
図V-1-15-95	O 18・7×6	II	口縁～胴部		
図V-1-15-96	O 18・7×1	II	口縁部		
図V-1-15-97	J 16・3×1	III	口縁部		
図V-1-15-98	a N 9・9×6	II	口縁～胴部		
	b N 9・4×2, N 9・6×2, N 9・9×4		胴部		
	c N 9・6×2		底部		
計8					
図V-1-15-99	N 17・10×24	II	復元個体(口縁～底部)	図版32	
図V-1-15-100	K 11・22×1, P 17・18×3	計4	II		復元個体(口縁部)
図V-1-15-101	I 11・16×2	II下	復元個体(胴部～底部)		
図V-1-15-102	W 20・10×7	II	復元個体(胴部～底部)	図版33	
図V-1-15-103	H 15・1×1, H 16・6×1, I 15・3×1, I 15・4×13	計16	II		復元個体(胴部)
図V-1-15-104	I 16・3×1, I 16・4×17, I 16・11×1, I 16・12×2	計21	II		胴部～底部
図V-1-15-105	L 15・2×3	II	底部	図版55	
図V-1-15-106	J 11・6×3	II	底部		
図V-1-15-107	M 19・3×11	II	底部		
図V-1-15-108	X 21・3×1	II	底部		
図V-1-15-109	I 16・4×1	II	底部		
図V-1-15-110	N 19・2×1	II	底部		
図V-1-15-111	I 16・4×1	II	底部		
図V-1-15-112	I 16・4×1	II	底部		
図V-1-15-113	J 16・2×1	II	底部		

表7-8 包含層出土掲載土器一覧 V群C類

図番号	調査区・遺物番号×点数	層位	部位	図版番号	備考
図V-1-16-1	a J 11・7×1	II	口縁部	図版55	同一個体
	b J 11・3×1, J 11・7×1		口縁部		
	c J 11・3×2, J 11・7×2		胴部		
	d J 11・7×4		底部		
図V-1-16-2	a J 11・7×2	II	口縁部		
	b J 11・3×1		口縁部		
	c J 11・3×1		口縁部		
	d J 11・7×1		胴部		
図V-1-16-3	a J 11・3×2	II	胴部		
	b J 11・3×4, J 11・7×1, J 11・13×1		胴部		
計6					
図V-1-16-4	L 10・3×1	II	口縁部		

表8 包含層出土掲載石器等一覽

図番号	名称	発掘区	遺物番号	層位	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考	図版番号
図V-2-1-1	石鏃	K31	1	II	(1.7)	1.0	0.2	0.3	黒曜石	五角形	図版61
図V-2-1-2	石鏃	U20	96	II	2.1	1.7	0.5	1.1	黒曜石	三角形平基	図版61
図V-2-1-3	石鏃	W21	102	II	2.8	1.9	0.4	2.0	頁岩	三角形凹基	図版61
図V-2-1-4	石鏃	T17	13	II	1.9	1.5	0.2	0.5	頁岩	三角形凹基	図版61
図V-2-1-5	石鏃	U20	97	II	2.1	1.6	0.3	0.6	頁岩	三角形凹基	図版61
図V-2-1-6	石鏃	T17	14	II	2.7	1.0	0.3	0.8	頁岩	有茎尖基	図版61
図V-2-1-7	石鏃	H15	21	II	3.5	1.5	0.4	2.3	頁岩	有茎円基	図版61
図V-2-1-8	石鏃	E21	1	II	2.7	(1.5)	0.4	1.1	頁岩	有茎	図版61
図V-2-1-9	石鏃	I16	130	II	2.3	1.5	0.3	0.6	メノウ	アスファルト付着 有茎	図版61
図V-2-1-10	石鏃	L34	1	II	2.9	1.4	0.6	1.8	頁岩	有茎	図版61
図V-2-1-11	石鏃	L13	1	II	3.0	1.3	0.4	1.2	黒曜石	有茎	図版61
図V-2-1-12	石鏃	T17	30	II	4.0	1.4	0.4	1.7	頁岩	有茎	図版61
図V-2-1-13	石鏃	U20	133	II	3.4	0.9	(0.5)	1.7	頁岩		図版61
図V-2-1-14	石鏃	V17	23	II	4.3	1.2	0.6	2.9	頁岩		図版61
図V-2-1-15	石鏃	V19	79	II	5.7	1.0	0.6	4.3	頁岩		図版61
図V-2-1-16	石鏃	U17	78	III	2.8	1.7	0.6	2.3	頁岩		図版61
図V-2-1-17	石鏃	I16	61	II	3.0	2.9	0.7	5.2	頁岩		図版61
図V-2-1-18	石槍	W21	84	II	9.2	2.4	0.8	16.6	頁岩		図版61
図V-2-1-19	石槍	U20	134	II	(10.1)	2.4	0.6	15.0	頁岩		図版61
図V-2-1-20	石槍	V19	43	II	(10.0)	2.4	1.0	18.1	頁岩		図版61
図V-2-1-21	ナイフ	M10	42	II	6.8	2.8	0.9	20.5	頁岩		図版61
図V-2-1-22	ナイフ	V17	32	II	15.1	3.7	1.3	71.4	頁岩		図版61
		V17	84	II							
図V-2-1-23	ナイフ	S18	70	II	16.2	4.7	2.1	159.9	頁岩		図版61
		S19	16	II							
図V-2-2-24	つまみ付きナイフ	N9	29	II	3.8	2.4	0.5	4.9	黒曜石		図版61
図V-2-2-25	つまみ付きナイフ	P17	22	II	6.1	2.8	0.7	10.2	頁岩		図版61
図V-2-2-26	つまみ付きナイフ	L11	4	II	8.3	2.4	0.4	10.0	頁岩		図版61
図V-2-2-27	つまみ付きナイフ	N9	31	II	8.2	3.4	0.7	23.0	頁岩		図版61
図V-2-2-28	つまみ付きナイフ	N16	22	II	8.5	3.6	0.8	23.0	頁岩		図版61
図V-2-2-29	つまみ付きナイフ	L10	24	III	11.2	4.7	0.6	41.1	頁岩		図版61
図V-2-2-30	つまみ付きナイフ	J17	15	II	(10.6)	3.1	0.8	23.7	頁岩		図版61
図V-2-2-31	つまみ付きナイフ	N33	1	II	(6.0)	2.8	0.8	11.1	頁岩		図版61
図V-2-2-32	筒状石器	X20	13	II	4.9	3.1	0.9	13.8	頁岩	撥形	図版61
図V-2-2-33	筒状石器	W21	105	II	(4.6)	(4.2)	0.7	13.4	頁岩	撥形	図版61
図V-2-2-34	筒状石器	U19	103	II	5.9	3.9	0.9	19.2	頁岩	撥形	図版61
図V-2-2-35	筒状石器	V19	111	II	6.3	3.2	0.9	18.7	頁岩	撥形	図版61
図V-2-2-36	筒状石器	T20	3	II	6.7	4.1	1.1	29.2	頁岩	撥形	図版62
図V-2-2-37	筒状石器	H10	1	II	7.8	3.7	1.8	46.5	頁岩	長方形	図版62
図V-2-3-38	筒状石器	V19	81	II	7.1	7.1	1.6	53.6	頁岩	撥形	図版62
図V-2-3-39	筒状石器	N18	1	II	8.2	3.0	0.7	16.6	頁岩	つまみ付きナイフ状	図版62
図V-2-3-40	スクレイパー	U27	7	II	4.6	3.9	0.9	16.5	頁岩		図版62
図V-2-3-41	スクレイパー	P16	16	II	5.9	3.6	1.2	21.1	頁岩		図版62
図V-2-3-42	スクレイパー	L10	13	II	7.6	4.1	0.8	40.6	頁岩		図版62
図V-2-3-43	スクレイパー	K11	56	III	8.5	4.4	0.7	47.2	頁岩		図版62
図V-2-3-44	スクレイパー	J11	73	II	8.4	3.2	1.1	34.2	頁岩		図版62
図V-2-3-45	スクレイパー	T19	65	II	8.9	7.8	2.3	193.2	頁岩		図版62
図V-2-3-46	両面調整石器	S18	11	II	11.7	5.6	2.6	158.4	頁岩		図版62
図V-2-3-47	擦り切り残片	F19	1	II上	20.0	6.0	3.8	871.0	緑色泥岩		図版24・62
図V-2-4-48	石のみ	G18	13	II	6.7	2.3	0.9	16.8	凝灰岩		図版62
図V-2-4-49	たたき石	K15	10	II	17.0	6.6	3.6	357.9	凝灰岩		図版62
図V-2-4-50	すり石	G18	26	II	8.8	17.0	7.8	1533.0	砂岩	断面三角形	図版62
図V-2-4-51	すり石	U17	44	II	7.6	11.1	5.8	643.1	砂岩	断面三角形	図版63
図V-2-4-52	すり石	V18	13	II	7.2	12.0	5.9	637.0	砂岩	断面三角形	図版63
図V-2-4-53	すり石	U20	19	II	7.5	12.9	5.1	820.6	砂岩	断面三角形	図版63

図番号	名称	発掘区	遺物番号	層位	長さ(cm)	幅・径(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	石質	備考	図版番号
図V-2-5-54	すり石片	M10	112	II	9.5	(11.8)	4.1	767.0	安山岩	北海道式石冠	図版63
図V-2-5-55	扁平打製石器	J10	22	II	12.5	6.8	2.3	274.7	安山岩	被熱	図版63
図V-2-5-56	扁平打製石器	M10	57	II	8.0	6.9	1.6	118.6	安山岩		図版63
図V-2-5-57	石鋸片	Q25	8	II	(6.8)	(9.6)	0.4	42.7	粘板岩		図版63
図V-2-5-58	石皿	D21	17	II上	21.5	20.0	8.8	3256.0	流紋岩質 安山岩		図版24・63
図V-2-6-59	砥石	J17	4	II	(14.0)	19.3	2.8	1030.6	砂岩		図版63
図V-2-6-60	石錘	H29	2	II	5.3	6.4	1.7	87.8	安山岩		図版63
図V-2-6-61	石錘	H34	3	II	5.8	6.7	1.5	73.1	凝灰岩		図版63
図V-2-6-62	石錘	E34	2	II	8.3	9.8	1.9	221.3	砂岩		図版63
図V-2-7-63	土製品	K14	14	風倒木	(2.5)	1.2	1.2	3.4		管玉状	図版64
図V-2-7-64	石製品	V17	110	II	(3.5)	2.7	1.3	12.5	凝灰岩	垂飾	図版64
図V-2-7-65	石製品	I11	107	II下	6.0	2.6	1.2	41.4	蛇紋岩	垂飾	図版24・64
図V-2-7-66	石製品	V19	102	II	3.3	3.1	0.6	3.8	メノウ	異形石器	図版64
図V-2-7-67	石製品	U20	40	II	2.4	1.3	0.4	1.0	黒曜石	異形石器	図版64
図V-2-7-68	石製品	T19	66	II	4.5	3.0	1.1	14.8	チャート	異形石器	図版64
図V-2-7-69	石製品	I16	50	II	5.1	3.4	1.2	12.5	頁岩	異形石器	図版64
図V-2-7-70	石製品	K11	18	II	3.5	3.3	1.2	10.9	頁岩	三角形石製品	図版64
図V-2-7-71	石製品	I28	4	II	3.7	4.7	2.0	23.9	凝灰岩	三角形石製品	図版64
図V-2-7-72	石製品	L11	3	II	5.7	(4.5)	1.2	28.8	頁岩	三角形石製品	図版64
図V-2-7-73	石製品	L29	16	II	4.0	5.0	1.3	20.4	凝灰岩	三角形石製品	図版64
図V-2-7-74	石製品	I28	3	II	4.4	4.3	1.2	22.0	凝灰岩	三角形石製品	図版64
図V-2-7-75	石製品	F25	5	II	4.8	5.5	1.0	23.0	凝灰岩	三角形石製品	図版64
図V-2-7-76	石製品	K10	37	II下	4.8	7.7	3.9	168.4	凝灰岩	三角柱形石製品	図版24・64

表9 土壌フローテーション成果一覧

遺構名	処理番号	風乾土壌			炭化物重量(g)		残渣重量(g)	炭化クルミ	骨重量(g)	土器重量(g)	土器点数	土製品重量(g)	石器類重量(g)	頁岩重量(g)	剥片点数		その他重量(g)	備考
		重量(kg)	2.0mm	0.425mm	2.0mm	0.425mm									頁岩	その他		
F-1	09-001	0.75	1.5	0.6	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	年代測定 HEB12-11
一括土器2	09-002	2.25	0.3	0.1	0.0	なし	なし	19.6	84	なし	なし	なし	0.2	10	なし			
一括土器2	09-003	0.90	0.5	0.0	0.0	なし	なし	24.0	59	なし	なし	なし	0.4	8	なし			年代測定 HEB12-12
P-19	09-004	0.50	0.0	0.1	0.6	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.9	73	なし			
P-19	09-005	1.35	0.9	0.3	なし	56.7	なし	なし	なし	なし	なし	なし	1.5	51	なし			年代測定 HEB12-5
P-36	09-006	0.35	0.0	0.1	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.7	29	なし			
P-46	09-007	1.30	1.6	0.2	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	3.8	168	黒曜石 1	黒曜石 0.0		年代測定 HEB12-7
P-46	09-008	0.50	0.2	0.2	0.2	0.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.2	25	41	安山岩 2.7		
H-2 HF-1	09-009	2.15	0.4	0.4	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	3.4	1	なし			
H-2 HF-2	09-010	0.25	0.4	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし			
P-23	09-011	0.10	0.7	0.0	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし			年代測定 HEB12-6
P-83	09-012	1.70	0.6	0.3	なし	5.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	2.1	2.1	なし			年代測定 HEB12-8
P-83	09-013	500	0.2	0.2	0.2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	27.3	752	黒曜石 1	黒曜石 0.0		
															チャート 2	チャート 0.3		
															安山岩 28	安山岩 2.0		
P-83	09-014	2.80	0.2	0.2	0.0	3.3	なし	なし	なし	なし	なし	なし	4.1	108	なし			
P-83	09-015	2.65	0.1	0.1	0.0	4.9	なし	なし	なし	なし	なし	なし	6.5	70	なし			
P-83	09-016	3.50	0.5	0.4	0.0	7.0	なし	なし	なし	なし	なし	なし	4.2	80	黒曜石 1	黒曜石 0.0		
															チャート 2	チャート 0.1		
H-11	10-001	3.00	11.7	3.4	6.9	2.4	なし	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	7	片岩 2	片岩 0.0		年代測定 HEB12-4
H-11	10-002	2.50	15.0	3.5	2.6	1.1	0.0	なし	なし	なし	なし	なし	0.0	15	なし			年代測定 HEB12-3

引用参考文献

論文・書籍等

- 石岡憲雄 1986 「施文原体の変遷－円筒土器」『季刊考古学17』 雄山閣
大泰司統 2003 「渡島半島の縄文時代後期前葉」『東北・北海道の十腰内Ⅰ式再検討－資料集－』
海峡土器編年研究会
大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌66－4』
日本考古学会
大沼忠春 1984 「道南の縄文前期土器群の編年について」『北海道考古学20』 北海道考古学会
大沼忠春 1986a 「道南の縄文前期土器群の編年について（Ⅱ）」『北海道考古学22』 北海道考古学会
大沼忠春 1986b 「施文原体の変遷－東釧路式土器」『季刊考古学17』 雄山閣
大沼忠春 1989 「北筒式土器様式」『縄文土器大観1』 小学館
小笠原忠久 1996 「北海道円筒式土器」『日本土器事典』 雄山閣
小保内祐之 2008 「陸奥大木系土器（榎林式・最花式・大木10式併行土器）」『総覧縄文土器』
『総覧縄文土器』刊行委員会
葛西智義 1988 「縄文時代中期末葉から後期前葉の土器について」『文京台考古6』 札幌学院大学考古学研究会
加藤邦雄 1994 「縄文尖底土器」『縄文文化の研究3（第2版）』 雄山閣
茅野嘉雄 2008 「円筒下層式土器」『総覧縄文土器』 『総覧縄文土器』刊行委員会
児玉作左衛門・大場利夫 1954 「函館市春日町出土の遺物について」『北方文化研究報告9』 北海道大学
小山正忠・竹原秀雄 2007 『新版標準土色帖29版』 日本色研事業株式会社
鈴木克彦 1989 「最花式（中の平Ⅲ式）土器」『縄文土器大観1』 小学館
鈴木克彦 1999 「北海道渡島・桧山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学35』 北海道考古学会
高橋正勝 1994 「北海道南部の土器」『縄文文化の研究4（第2版）』 雄山閣
戸苅賢二・土屋 篁 2000 『北海道の石』 北海道大学図書刊行会
成田滋彦 2003 「最花式土器－在地土器群の様相－」『研究紀要8』 青森県埋蔵文化財センター
福田祐二 2005 「亀田半島における前期末葉～中期初頭の様相」『東北・北海道の縄文時代前期末葉～中期初
頭土器の課題－資料集－』 海峡土器編年研究会
三宅徹也 1989 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観2』 小学館
三宅徹也 1994 「円筒土器」『縄文文化の研究3（第2版）』 雄山閣
武藤康弘 2008 「表館式・早稲田6類土器」『総覧縄文土器』 『総覧縄文土器』刊行委員会
村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』 雄山閣
山田 央 2001 「北海道南西部における縄文時代中期末葉の土器について」『渡島半島の考古学』
南北海道考古学情報交換会20周年記念論集作成実行委員会

団体・組織刊行物

- 木古内町史編纂委員会 1982 『木古内町史』 木古内町
北海道火山灰命名委員会 1982 『北海道の火山灰』 北海道火山灰命名委員会
日本ペドロロジー学会 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』 博友社
南北海道考古学情報交換会編 1995 『円筒土器下層式図録集』 南北海道考古学情報交換会
南北海道考古学情報交換会編 1996 『円筒土器下層式図録集Ⅱ 遺構編』 南北海道考古学情報交換会

埋蔵文化財発掘調査報告書

- 青森県教育委員会 1975 『中の平遺跡発掘調査報告』
恵山町教育委員会 1986 『日ノ浜砂丘1遺跡』
乙部町教育委員会 1976 『元和』
木古内町教育委員会 1974 『札苺遺跡』
木古内町教育委員会 1991 『釜谷4遺跡』
木古内町教育委員会 1998a 『亀川2遺跡』
木古内町教育委員会 1998b 『泉沢3遺跡』
木古内町教育委員会 1999 『木古内町 釜谷遺跡』
木古内町教育委員会 2001 『新道2遺跡』
木古内町教育委員会 2003a 『大釜谷3遺跡』
木古内町教育委員会 2003b 『泉沢2遺跡A地点』

木古内町教育委員会 2003c 『泉沢 2 遺跡 B 地点』
 木古内町教育委員会 2004a 『泉沢 2 遺跡 C 地点』
 木古内町教育委員会 2004b 『蛇内遺跡』
 知内町教育委員会 1972 『涌元遺跡』
 知内町教育委員会 1979 『知内川中流域の縄文時代遺跡』
 戸井町教育委員会 1989 『蛭子川 2 遺跡』
 戸井町教育委員会 1992 『戸井貝塚 I』
 戸井町教育委員会 1993a 『戸井貝塚 II』
 戸井町教育委員会 1993b 『戸井貝塚 III』
 戸井町教育委員会 1994 『戸井貝塚 IV』
 戸井町教育委員会 1995 『蛭子川 2 遺跡 (2)』
 戸井町教育委員会 2001 『高屋敷川 1 遺跡』
 函館圏開発事業団 1974 『西桔梗』
 函館市教育委員会 2003 『豊原 4 遺跡』
 北海道開拓記念館 1976 『札苺』
 北海道第四紀研究会 1974 『西股』
 松前町教育委員会 1974 『松前町大津遺跡発掘報告書』
 松前町教育委員会 1988 『寺町貝塚』
 松前町教育委員会 1983 『白坂』
 南茅部町教育委員会 1996 『大船 C 遺跡』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1992 『八木 B 遺跡』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1993 『八木 A 遺跡 ハマナス野遺跡』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1995 『八木 A 遺跡 II ハマナス野遺跡』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1997 『八木 A 遺跡 III 八木 C 遺跡』
 森町教育委員会 1975 『鳥崎遺跡』
 八雲町教育委員会 1992 『コタン温泉遺跡』
 八雲町教育委員会 1995 『浜松 5 遺跡』
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1985 『湯の里遺跡群』 北埋調報18
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1986a 『湯の里 3 遺跡』 北埋調報32
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1986b 『木古内町建川 1・新道 4 遺跡』 北埋調報33
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1986c 『木古内町札苺遺跡』 北埋調報34
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1987a 『上磯町矢不來 2 遺跡』 北埋調報37
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1987b 『木古内町建川 2・新道 4 遺跡』 北埋調報43
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町新道 4 遺跡』 北埋調報52
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 1998 『上磯町茂別遺跡』 北埋調報121
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2004 『森町濁川左岸遺跡 - A 地区 -』 北埋調報208
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2005a 『北檜山町生淵 2 遺跡』 北埋調報214
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2005b 『共和町リヤムナイ 3 遺跡 (1)』 北埋調報218
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2006a 『共和町上リヤムナイ遺跡・リヤムナイ 3 遺跡 (2)』 北埋調報227
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2006b 『森町三次郎川右岸遺跡』 北埋調報233
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2006c 『森町森川 3 遺跡 (2)』 北埋調報234
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2007 『北斗市館野遺跡 (1)』 北埋調報237
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市梅川 4 遺跡 (1)』 北埋調報253
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2010a 『森町石倉 1 遺跡 (2)』 北埋調報266
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2010b 『千歳市梅川 4 遺跡 (2)』 北埋調報269
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2011a 『木古内町木古内 2 遺跡』 北埋調報278
 (財) 北海道埋蔵文化財センター 2011b 『木古内町大平遺跡・大平 4 遺跡』 北埋調報280

報告書抄録

ふりがな	きこないちょうへびない2いせき							
書名	木古内町 蛇内2遺跡							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	なし							
シリーズ名	財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第281集							
編著者名	立川トマス・菊池慈人・新家水奈・芝田直人・酒井秀治・佐藤和雄							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685-1 TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成23(西暦2011)年 8月31日							
ふりがな 収録遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 116K000m(J20)	東経 116K000m(J20)	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へびない2いせき 蛇内2遺跡	かみいぞぐん きこない 上磯郡木古内 ちょうあざさつかり 町字札苺508 ほか	01334	B-05-19	41度41分 48.90621秒	140度27分 17.07411秒	20090507 ~20091031	10,430㎡	北海道新幹 線建設に伴 う記録保存
						20100506 ~20100702	850㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
蛇内2遺跡	遺物包含地	縄文時代 早期後半・前期・ 中期後半・後期前葉		竪穴住居跡15軒 土坑96基(うちフラスコ状土坑8基)		土器 石器等 (石鏃、スクレイパー、剥片、礫等)		
要約		平成21・22年度の2か年の調査報告である。遺跡は、JR木古内駅から北西へ約2.8km、蛇内川左岸の海岸段丘上に立地している。地形はほぼ平坦で、標高は10~12mである。 遺跡からは、主に縄文時代早期後半・前期・中期後半・後期前葉の遺構・遺物が検出されている。竪穴住居跡15軒、土坑96基(うちフラスコ状土坑9基)が確認された。遺物は土器32,888点、石器等93,284点の合計126,172点が出土している。						

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周知資料登録番号、経緯度は世界測地系による。

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第281集

きこないちょう へびない
木古内町 蛇内2遺跡

— 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23年 8 月31日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地-1
TEL (011)386-3231 FAX (011)386-3238
[E-mail]mail@domaibun.or.jp
[URL]http://www.domaibun.or.jp

印刷 札幌大同印刷株式会社
〒004-0003 札幌市厚別区厚別東3条2丁目1番1号
TEL (011)897-9711 FAX (011)897-9715

